

にっしんしふくしぶふくしか
日進市福祉部福祉課

郵便番号 :470-0192
住 所: 愛知県日進市蟹甲町池下 268 番地
電 話: [0561-73-7111]
FAX : [0561-72-4554]
電子メール: [fukushi@city.nisshin.lg.jp]
Web: [http://www.city.nisshin.lg.jp]

にっしんししょうがいしゃきほんけいかく こうぎけいかく

日進市障害者基本計画（後期計画）のための

ちょうさほうこくしょ

アンケート調査報告書

にっしんし
日進市

へいせい25ねん3がつ
平成25年3月



はじめに

ひ 日ごろから、 にっしんし しょうがいしゃふくしぎょうせい りかい ぎょうりよく
日進市の障害者福祉行政にご理解、ご協力をい
ただき、ありがとうございます。

にっしんし へいせい ねん がつ さくてい にっしんししょうがいしゃきほん
日進市では、平成21年3月に策定しました日進市障害者基本
けいかくへいせい ねんど へいせい ねんど さくてい じぎょう
計画平成21年度から平成30年度を策定し、これにそった事業を
ゆうせんてき と く
優先的に取り組んでいます。

しょうがいしゃきほんけいかく しる きほんりねん きほんほうしん きほんしきく
障害者基本計画に記した基本理念、基本方針、基本施策を
ぐたいか たんいしきく ぜんき こうき げんとう
具体化していく単位施策について、前期と後期にわけて検討することとしてお
げんざい へいせい ねんど へいせい ねんど ねんかん ゆうせんてき
り、現在、平成26年度から平成30年度の5年間に優先的にとりくむ
たんいしきく こうきけいかく と さぎょう
単位施策を後期計画として取りまとめる作業をしています。

こんかみ しょうがいしゃてちよう も ひと たいしょう
今回のアンケートは、障害者手帳をお持ちの人を対象に、みなさ
せいかつ ようす きぼう うかが こうきけいかく つく さい さんこう
まの生活の様子や希望についてお伺いし、後期計画を作る際の参考
しりょう もくてき おこな
資料とすることを目的に行いました。

かいとう ないよう とうけいてき しより
みなさまから回答をいただきました内容については、統計的に処理し、
こじん とくてい はいりょ ほうこくしょ
個人が特定されることがないように配慮し報告書としてまとめさせていただ
きほんしきく ぐたいか しひょう ひと かつよう
きました。基本施策を具体化していく指標の一つとして活用してまいります。

ねんまつねんし たよう ちょうさ もくてき しゅし りかい
年末年始のご多用のところ、調査の目的や趣旨をご理解いただき、
ぎょうりよく しみん みな れい もう あ
ご協力くださいました市民の皆さんにお礼を申し上げます。

へいせい ねん がつ
平成25年3月

にっしんしふくしふふくしか
日進市福祉部福祉課



目 次

けいさい	じょうほう	
1. 掲載している情報について.....		5
ほんほうこくしょ	とくちょう	
2. 本報告書の特徴		7
ようご	ていぎ	
3. 用語の定義		7
ほうこく	ぞくせい	
報告1 属性		11
とい	かゐとう	かた
問1 このアンケートに回答していただく方は、どなたですか。.....		11
とい	ほんにん	せいべつ
問2 ご本人の性別をお答えください。.....		15
とい	ほんにん	ねんれい
問3 ご本人の年齢（平成24年1月1日現在）をお答えください。	へいせい	ねん
.....	がつ	にちげんざい
.....	こた	
.....		18
とい	ほんにん	さいいじょう
問4 ご本人が40歳以上の場合にうかがいます。ご本人は、介護保険の	ほんにん	かゐごほけん
認定を受けておられますか。.....		19
とい	ほんにん	も
問5 ご本人がお持ちの手帳の種類について、あてはまるものすべてに○をしてくだ	てちょう	しゅるい
さい。（ ）内の等級にも○をしてください。.....	ない	とうきゅう
.....		20
とい	てちょう	こうふ
問6 手帳をはじめて交付されたのはいつですか。.....		35
とい	ほんにん	く
問7 ご本人が暮らしているところはどこですか。.....		38
とい	ほんにん	いっしょ
問8 ご本人はどなたと一緒に暮らしていますか。.....	く	
.....		39
ほうこく	しかくしょうがい	も
報告2 視覚障害をお持ちの方にお尋ねします。.....	かた	たず
.....		41
とい	しやくしょ	じょうほう
問9 市役所からの情報をどのような形で受け取ると一番利用しやすいですか。	かたち	う
.....	いちばんりよう	
.....		41
とい	しかくしょうがい	かた
問10 視覚障害のある方を対象にしたパソコン講習会があれば参加し	たいしょう	こうしゅうかゐ
たいですか。.....	さんか	
.....		43
ほうこく	ちょうかくしょうがい	も
報告3 聴覚障害をお持ちの方にお尋ねします。.....	かた	たず
.....		44
とい	にちじょうせいかつ	ほうほう
問11 あなたは、日常生活のコミュニケーションの方法は何ですか。.....	なん	
.....		44
とい	ちょうかくしょうがいしやく	しゅわこうざ
問12 聴覚障害者向けの手話講座を開催したら参加したいですか。.....	かゐさい	さんか
.....		45
ほうこく	にっしん	しょうがいしやくふくしき
報告4 日進の障害者福祉施策についてお尋ねします	たず	



とい	にっしんし	しょうがいしゃふくし	せいど	しきく	まんぞく	
問 13	日進市の障害者福祉の制度や施策に、満足していますか。.....	48				
とい	じゅうじつ	しょうがいふくし	なん			
問 14	充実してほしい障害福祉サービスは、何ですか。.....	69				
とい	し	せいど	ちいきせいかつしえんじぎょう	じゅうじつ	なん	
問 15	市の制度である地域生活支援事業で充実してほしいサービスは、何 ですか.....	99				
ほうこく	しょうがいしゃきほんけいかく	こうもく	じゅん	たず		
報告 5 障害者基本計画の項目にそって、順にお尋ねします。.....						112
とい	そうだんしえんたいせい	じゅうじつ				
問 16-19	相談支援体制などの充実	112				
とい	しょうがい	こ	しえん	じゅうじつ		
問 20-21	障害のある子どもへの支援の充実	127				
とい	しょうがい	よぼう	そうきはっけん	じゅしんしえん		
問 22-23	障害の予防と早期発見、受診支援.....	138				
とい	こよう	しゅうろう	そくしん			
問 24-25	雇用・就労の促進	147				
とい	ぶんかかつどう	しえん				
問 26-27	スポーツ・文化活動の支援	155				
とい	とうじしゃだんたい	かつどうしえん				
問 28-29	当事者団体などの活動支援	163				
とい	いどう	がいしゅつ	けいざいてきじりつしえん			
問 30-31	移動・外出や経済的自立支援	167				
とい	しょうがい	たい	りかいそくしん	しせい	さんか	ほしょう
問 32-33	障害に対する理解促進とまちづくりや市政への参加の保障 ..	175				
とい	ふくしきょういく	すいしん				
問 34-35	福祉教育の推進	182				
とい	かつどう	すいしん				
問 36-37	ボランティア活動などの推進	188				
とい	ぼうさい	ぼうはんたいさく	すいしん			
問 38-39	防災・防犯対策の推進	195				
とい	すいしん					
問 40-41	バリアフリーの推進	201				
とい	けいかくぜんたい	かん	いけん	きにゆう		
問 42	計画全体に関して、ご意見などがありましたらご記入 ください。.....	209				
ほうこく	しょうがいふくし	こうきけいかく	なか	ゆうせんてき		
報告 6 障害福祉サービスにおいて後期計画の中でどれを優先的に じっし 実施するとよいのか						228

ほんほうこくしょ らん まえ

本報告書をご覧になる前に

1. 掲載している情報について

○本報告書に掲載している情報

ほんほうこくしょ けいさい じょうほう にっしんし すま しょうがいしゃ
 本報告書に掲載している情報は、日進市にお住いの障害者
 てちょう も めい たいしょう ゆうそうちょうきほう もち かいとう
 手帳をお持ちの2,455名を対象に、郵送調査法を用いて回答をお
 ねが ほうほう げっか しかく しょうがい ひと
 願いする方法でのアンケート結果です。ただし視覚に障害のある人につ
 し しょういん かいとう いこう かくにんご ちよくせつほうもん き と
 いては市の職員が回答の意向を確認後、直接訪問し、聞き取り
 ちょうき かたち きょうりよく
 調査の形でご協力いただいています。

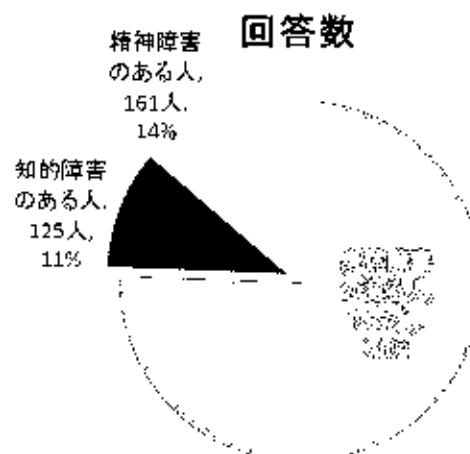
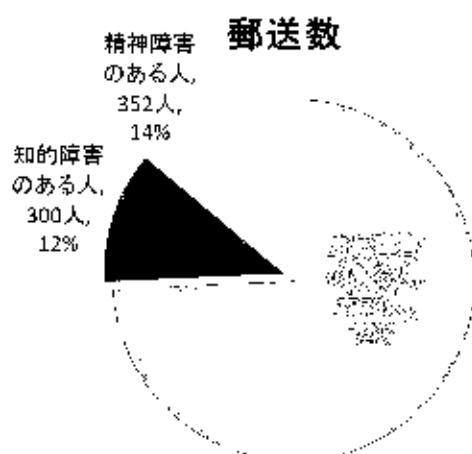
- 1) 複数の手帳を取得されている人におかれましては郵送を重複しな
 はいりよ
 い配慮をしました。
- 2) アンケートの実施期間は平成24年12月28日発送し、平成25年1月25
 にち かいしゅう
 日までの回収としました。

○アンケートの回収率

配布数	2,455件
回答数	1,180件
回答率	48.1%

しょうがいしゅべつ かいとうすう つぎ えん ゆうそうすう ひかく
 また障害種別の回答数は、次の円グラフに郵送数との比較ができるよ
 なら しょうがいしゅべつ かたよ かいとうわりあい
 うに並べてあります。障害種別で偏りのない回答割合でした。





すうち みかた いか てん さんこう
○ 数値の見方は以下の点を参考にしてください。

- 比率はすべて%で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため%の合計が100%にならないこともあります。また、障害者手帳を2種類取得している市民もいるため、すべてが手帳ごとの回収数と割合が一致しないものもあります。
- 表に使われている用語については、回答人数は「度数」として表示しています。また、「システム欠損値」または「欠損値」は、回答が無記入または不明な回答の件数のことです。「割合」は、欠損値を含めた全体割合を示し、「有効割合」は、欠損値を除いた全体割合となります。「累積割合」は、有効割合を積み上げた数値となります。
- 「総和の%」とは、全体の合計数値の中で、対象となる値の割合を示しています。
- 回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しています。
- 集計上の実数は、度数において有効または欠損値として掲載されています。割合の比率はこの件数を100%として算出しているものとグラフにおいてわかりやすくするため除いてあるものもあります。
- 本報告書の表の見だし及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

また、自由記述は個人や施設等が特定される内容を除き、回答いただきたい
 たままを表記してあります。

2. 本報告書の特徴

日進市障害者基本計画の理念、基本目標及び基本施策は平成
 21年度から平成30年度の10年間のものとして作成されています。今回のアン
 ケート報告に際して、知的障害及び視覚障害のある人には、障害
 特性に配慮すること、また限られた質問に限定される回答にならないよう
 に、記述の項目を用意する必要がある等、アンケートの内容は事前に
 日進市障害者自立支援協議会及び日進市障害者基本計画等
 策定・評価委員会でいただいたご意見を参考に作成しました。

それをもとに、後期計画の中でどれを優先的に実施するとよいのか、ある
 いは、別の施策の提案があるのかといった内容がわかる報告書になるよう
 努めました。

3. 用語の定義

【問14に関する用語の説明】

- 1) 居宅介護…ヘルパーが家に来て、身の回りの手伝いをしてくれます。
 着替えや入浴の手伝い、食事の用意、部屋の掃除や洗濯の手伝い
 など。
- 2) 重度訪問介護…ヘルパーが体に重い障害のある人の家に来て、
 日常生活や外出の手伝いをしてくれます。



- 3) 同行援護…視覚障 害により、移動に 著 しい困難を有する人
に、移動に必要な情 報の提 供（代筆・代読を含む）、移動
の援護等の外 出支援を行 います。
- 4) 行動援護…重い 障 害のある人のことをよく分かっているヘルパーがそ
ばにいて、安 心して外 出 活動できるよう支援をしてくれます。
- 5) 重度障 害者等包括支援…重い 障 害のある人が、生活する
ために必 要なサービスを組み合わせて使 用することができます。
- 6) 短期入 所（ショートステイ）…家族に用事があるときなどに、施設に
短 期間泊まることができます。
- 7) 療 養 介 護…重い 障 害のある人が、入 院して医 療を受けながら、
日 常 生活の手伝いを受けることができます。
- 8) 生活介護…施設で、日 中 活 動の支援を受けることができます。
入 浴、トイレ、食 事の手伝い、作 業など。
- 9) 施設入 所支援…日 常 生活の手伝いを受けながら、施設で暮らすこ
とができます。
- 10) 共 同 生活介護（ケアホーム）… 障 害のある人たちが、アパートや
家で一 緒に暮らします。世話人や生 活 支援員から、日 常 生活の
手 伝いを受けることができます。入 浴、トイレ、食 事の手伝い、
お 金の管理など。
- 11) 自立訓練（機能訓練・生活訓練）… 体 に 障 害のある人が、
体 をうまく動 かすことができるように訓 練を受けたり、 障 害のある
人 が、地域での生 活で困らないように、自分で身の回りのことをする
訓 練を受けることができます。
- 12) 就 労 移行支援…会 社に 就 職するための訓 練を、受けることが
できます。仕事 探しの相 談にものってもらえます。
- 13) 就 労 継続支援（A型・B型）…会 社以外の場所で、支援を受けな
がら 働 くことができます。
- 14) 共 同 生活援助（グループホーム）… 障 害のある人たちが、ア
パートや家で一 緒に暮らします。世話人から、日 常 生活の手伝い
を受けることができます。お 金の管理、食 事の用意など。



- 15) 児童発達支援…通所利用の障害児に対する支援を行う身近な療育の場
- 16) 放課後等デイサービス…学校就学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供します。
- 17) 保育所等訪問支援…保育所等を現在利用中の障害児、今後利用する予定の障害児に対して、訪問により、保育所等における集団生活の適応のための専門的な支援を提供し、保育所等の安定した利用を促進します。

【問 15に関する用語の説明】

- 1) 相談支援事業…困ったことがあるときや、新しくサービスを利用したときに、相談にのってくれます。
- 2) 成年後見制度利用支援事業…補助を受けなければ成年後見制度の利用が困難である者を対象に費用を助成します。
- 3) コミュニケーション支援事業…聴覚、言語機能、音声機能、視覚等の障害のため、意思疎通を図ることに支障がある人とその他の人の意思疎通を仲介するために、手話通訳や要約筆記、点訳等を行う者の派遣などを行います。
- 4) 日常生活用具給付等事業…重度障害のある人等に対し、自立生活支援用具等日常生活用具の給付又は貸与を行います。
- 5) 移動支援…ヘルパーが外出する手伝いをしてくれます。
- 6) 地域活動支援センター…障害のある人が、日中活動の支援をしてもらえます。生活上の相談、スポーツ、レクリエーション、焼き物、絵を描くなど。
- 7) 訪問入浴サービス事業…重度の身体障害の人に対し、訪問により居宅において入浴サービスを提供します。



- 8) 日中一時支援事業… 障害のある人の家族の就労支援や
 日常的に介護している家族の一時的な休息を目的に障害のある人の日中活動の場を確保します。

参考：厚生労働省『障害者自立支援法－使ってみよう新しい制度－』

【その他の用語の説明】

- 1) カイ2乗検定… 回答の内容が、もう一つの回答と関連があるかどうか統計的に調べる検査。
- 2) カイ2乗検定漸近有意確立… 「関係はない」という仮説が棄却される危険率の水準。
- 3) 対称性による類似度… 類似度と呼ばれるものの中には、距離の公理を満たさないものがたくさんあるので、距離でない関連係数。

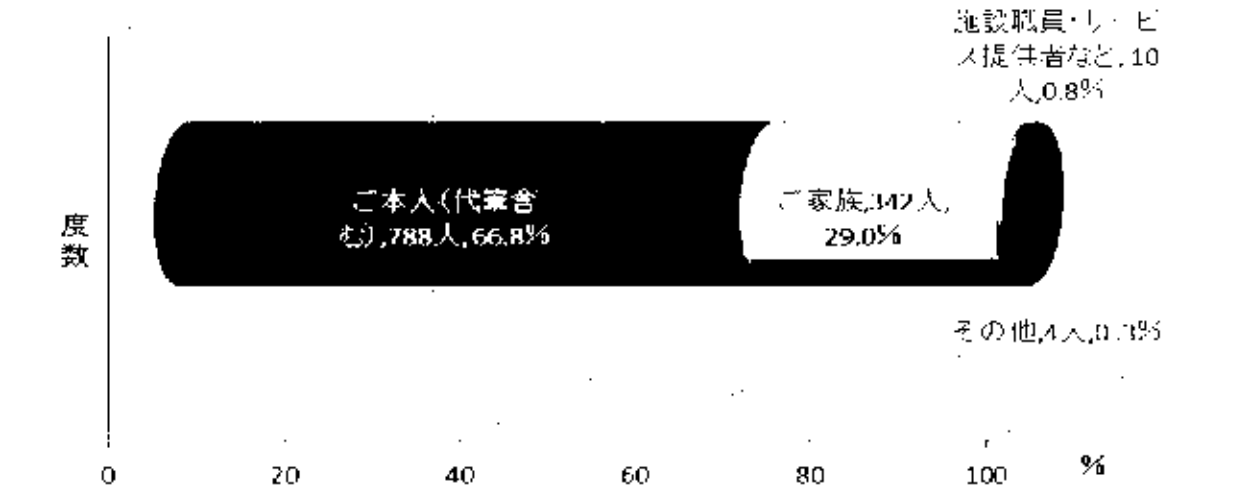


ほうこく ぞくせい
報告 1 属性

とい かいとう かた
問 1 このアンケートに回 答 していただく 方 は、どなたですか。

問 1 回答者					
		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	ご本人（代筆含む）	788	66.8	68.9	68.9
	ご家族	342	29.0	29.9	98.8
	施設職員・サービス提供者など	10	0.8	0.9	99.7
	その他	4	0.3	0.3	100.0
	合計	1,144	96.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	36	3.1		
合計		1,180	100.0		

問 1 回答者



かいとう ほんにん だいひつぷく かいとう しょうがい
回 答 の66.8%がご本人（代筆含む）に回 答 いただいています。障 害 の
しゅるい ねんだいべつ さんしょうひょう しょうがい ひと ねんれいべつほんにん
種 類 と年 代 別 でみると、（参 照 表 ：「障 害 のある人・年 齢 別 本 人
かいとうりつ しょうがい ひと ねんれいべつかいとうしゃひょう つぎ とくちゅう
回 答 率 」・「障 害 のある人・年 齢 別 回 答 者 表 」）次 のよう な 特



がうかがえます。

- ① 身体障害のある人では、10代以下ではご家族の回答が中心となり、また70代以上からもご家族の回答割合が増えています。アンケートを読み、そして回答することが困難な世代であるといえます。一方障害者手帳級別でみると60代からご家族の回答割合が1級・2級・3級で増加するものの、その他の年代層では障害者手帳等級と本人回答割合に差が出ないことから、障害者ご本人の回答が困難な状況ではなく、高齢化によるご家族の回答が増加することがうかがえます。

- ② 知的に障害のある人では、10代以下ではご家族の回答が中心となり、また障害者手帳等級別で見るとあきらかにA・B判定の人は50代以下から、ご本人の回答が少なくなることがうかがえます。

- ③ 精神障害のある人では、10代以下ではご家族の回答が中心となり、ここでは60代以上からご家族の回答割合が増えています。アンケートを読み、そして回答することが困難な世代であるといえます。しかし身体障害のある人の年代との違いは本人回答割合が急激に低くなるのではなく緩やかな減少をしています。さらに障害者手帳級別でみると60代からご家族の回答割合が1級・2級・3級で増加するものの、その他の年代層では障害者手帳等級に本人回答割合の差が出ないことから、ここでも障害者ご本人の回答が困難な状況ではなく、高齢化によるご家族の回答が増加することがうかがえます。



【表：障害のある人・年齢別本人回答率】

身体障害のある人の ご本人回答率			知的障害のある 人のご本人 回答率		精神障害のある 人のご本人 回答率	
80代以上	身体1級	53.3%			1級	50.0%
	身体2級	20.2%			2級	50.0%
	身体3級	72.7%			3級	00.0%
	身体4級	67.4%			合計	63.6%
	身体5級	70.0%				
	身体6級	44.4%				
	合計	59.0%				
70代	身体1級	75.0%	A判定	100.0%	1級	12.5%
	身体2級	60.0%	合計	100.0%	2級	50.0%
	身体3級	82.4%			3級	57.1%
	身体4級	80.1%			合計	40.7%
	身体5級	92.0%				
	身体6級	90.0%				
	合計	79.6%				
60代	身体1級	82.4%	A判定	0.0%	1級	0.0%
	身体2級	77.4%	合計	0.0%	2級	33.3%
	身体3級	99.2%			3級	03.3%
	身体4級	100.0%			合計	37.8%
	身体5級	83.3%				
	身体6級	100.0%				
	合計	90.5%				
50代	身体1級	87.6%	A判定	0.0%	1級	0.0%
	身体2級	70.0%	B判定	0.0%	2級	81.8%
	身体3級	95.7%	C判定	0.0%	3級	03.0%
	身体4級	100.0%	合計	0.0%	合計	73.7%
	身体5級	80.0%				
	身体6級	100.0%				
	合計	97.3%				
40代	身体1級	57.0%	A判定	0.1%	2級	07.0%
	身体2級	00.0%	B判定	16.7%	3級	100.0%
	身体3級	100.0%	(注)定	100.0%	合計	92.0%
	身体4級	66.7%	合計	25.0%		
	身体5級	100.0%				
	身体6級	100.0%				
	合計	76.7%				
30代	身体1級	70.0%	A判定	7.7%	2級	79.2%
	身体2級	63.3%	B判定	60.0%	3級	100.0%
	身体3級	80.0%	C判定	100.0%	合計	84.4%
	身体4級	100.0%	合計	33.3%		
	身体5級	100.0%				
	身体6級	100.0%				
	合計	79.3%				
20代	身体1級	80.0%	A判定	0.0%	2級	62.5%
	身体2級	50.0%	B判定	16.7%	3級	100.0%
	身体3級	70.0%	(注)定	00.0%	合計	76.9%
	身体4級	50.0%	合計	23.8%		
	身体5級	0.0%				
	身体6級	100.0%				
	合計	66.2%				
10代	身体1級	0.0%	A判定	0.0%	2級	50.0%
	身体2級	25.0%	B判定	0.0%	3級	0.0%
	身体3級	0.0%	(注)定	37.5%	合計	25.0%
	身体4級	0.0%	合計	14.0%		
	合計	10.0%				
10歳未満	身体1級	0.0%	A判定	0.0%		
	身体2級	14.3%	B判定	0.0%		
	身体3級	0.0%	C判定	10.0%		
	身体4級	0.0%	合計	3.7%		
	身体5級	0.0%				
	合計	7.1%				



【表：障害のある人・年齢別回答者表】

年代	身体障害のある人の回答者					知的障害のある人の回答者					精神障害のある人の回答者				
	区分	(代筆を含む) ご本人	ご家族	施設職員、 ボランティア等	合計	区分	(代筆を含む) ご本人	ご家族	ボランティア等 が、サービス提供 施設職員、	合計	区分	(代筆を含む) ご本人	ご家族	ボランティア等 が、サービス提供 施設職員、	合計
80代以上	身体1級	32	26	2	60						1級	2	2		4
	身体2級	7	16	1	24						2級	1	1		2
	身体3級	40	15	0	55						3級	4	1		5
	身体4級	31	15	0	46						合計	7	4		11
	身体5級	7	3	0	10										
	身体6級	4	5	0	9										
	合計	121	80	3	204										
70代	身体1級	63	20	1	84	A判定	1			1	1級	1	7		8
	身体2級	21	14	0	35	合計	1			1	2級	6	6		12
	身体3級	66	12	0	78						3級	4	3		7
	身体4級	57	7	0	64						合計	11	13		27
	身体5級	12	1	0	13										
	身体6級	9	1	0	10										
	合計	218	55	1	274										
60代	身体1級	42	9	0	51	A判定		1	1	2	1級	0	4		4
	身体2級	24	6	1	31	合計		1	1	2	2級	1	2		3
	身体3級	33	4	0	37						3級	10	2		12
	身体4級	52	0	0	52						合計	11	8		19
	身体5級	10	2	0	12										
	身体6級	8	0	0	8										
	合計	169	21	1	191										
50代	身体1級	14	2	0	16	A判定		2	1	3	1級	0	2		2
	身体2級	7	2	1	10	B判定		2	0	2	2級	9	2		11
	身体3級	12	2	0	14	C判定		0	1	1	3級	5	1		6
	身体4級	17	0	0	17	合計		4	2	6	合計	14	5		19
	身体5級	4	1	0	5										
	身体6級	1	0	0	1										
	合計	55	7	1	63										
40代	身体1級	11	7	1	19	A判定	1	10		11					
	身体2級	4	1	0	5	B判定	1	5		6	2級	14	2		16
	身体3級	13	0	0	13	C判定	3	0		3	3級	9	0		9
	身体4級	2	1	0	3	合計	5	15		20	合計	23	2		25
	身体5級	2	0	0	2										
	身体6級	1	0	0	1										
	合計	33	9	1	43										
30代	身体1級	7	3		10	A判定	1	12		13					
	身体2級	5	1		6	B判定	2	2		4	2級	19	4	1	24
	身体3級	8	2		10	C判定	3	0		3	3級	8	0	0	8
	身体4級	2	0		2	合計	6	14		20	合計	27	4	1	32
	身体5級	1	0		1										
	身体6級	1	0		1										
	合計	23	6		29										
20代	身体1級	4	1		5	A判定	0	10		10					
	身体2級	1	1		2	B判定	1	5		6	2級	5	3		8
	身体3級	7	3		10	C判定	4	1		5	3級	5	0		5
	身体4級	2	2		4	合計	5	16		21	合計	10	3		13
	身体5級	0	1		1										
	身体6級	1	0		1										
	合計	15	8		23										
10代	身体1級	0	2	1	3	A判定	0	9	1	10					
	身体2級	1	2	1	4	B判定	0	5	0	5	2級	1	1		2
	身体3級	0	2	0	2	C判定	3	5	0	8	3級	0	2		2
	身体4級	0	1	0	1	合計	3	19	1	23	合計	1	3		4
	合計	1	7	2	10										
10歳未満	身体1級	0	2		2	A判定	0	8		8					
	身体2級	1	6		7	B判定	0	9		9					
	身体3級	0	3		3	C判定	1	9		10	3級	1			1
	身体4級	0	1		1	合計	1	26		27	合計	1			1
	身体5級	0	1		1										
	合計	1	13		14										

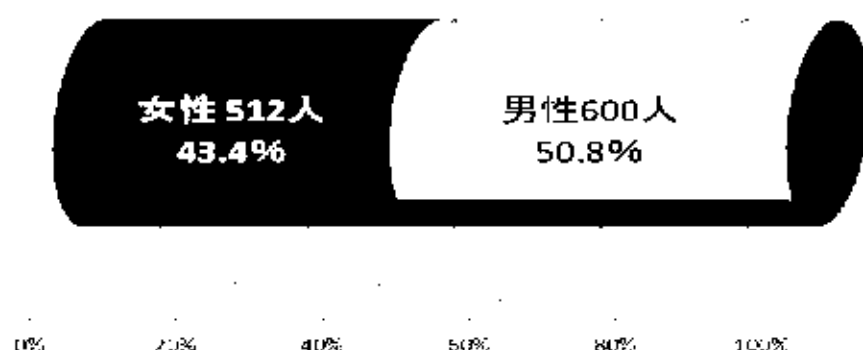


問 2 ご本人の性別をお答えください。

問2 性別

		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	女性	512	43.4	46.0	46.0
	男性	600	50.8	54.0	100.0
	合計	1,112	94.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	68	5.8		
合計		1,180	100.0		

回答者性別割合



問3 年齢区分 と 問2 性別 のクロス表

		問2 性別		合計
		女性	男性	
問3 年齢区分	10歳未満	10	25	35
	10代	20	14	34
	20代	17	31	48
	30代	37	36	73
	40代	29	57	86
	50代	36	46	82
	60代	85	123	208
	70代	144	160	304
	80歳以上	122	101	223
	欠損値	12	7	19
合計		512	600	1112

年齢による性別比では、20代・40代・60代において男性の

回答率が高い結果となりました。



身体障害のある人と性別 クロス表

			問 2 性別		合計
			女性	男性	
問 5-1 身体手帳等級	身体6級	度数	14	18	32
		身体手帳等級 の %	43.8%	56.3%	100.0%
		問 2 性別 の %	3.6%	4.0%	3.8%
		総和の %	1.7%	2.2%	3.8%
	身体5級	度数	21	22	43
		身体手帳等級 の %	48.8%	51.2%	100.0%
		問 2 性別 の %	5.4%	4.9%	5.1%
		総和の %	2.5%	2.6%	5.1%
	身体4級	度数	93	89	182
		身体手帳等級 の %	51.1%	48.9%	100.0%
		問 2 性別 の %	23.9%	19.9%	21.7%
		総和の %	11.1%	10.6%	21.7%
	身体3級	度数	97	110	207
		身体手帳等級 の %	46.9%	53.1%	100.0%
		問 2 性別 の %	24.9%	24.6%	24.7%
		総和の %	11.6%	13.1%	24.7%
	身体2級	度数	70	55	125
		身体手帳等級 の %	56.0%	44.0%	100.0%
		問 2 性別 の %	18.0%	12.3%	14.9%
		総和の %	8.4%	6.6%	14.9%
	身体1級	度数	■	■	248
		身体手帳等級 の %	■	■	100.0%
		問 2 性別 の %	24.2%	34.4%	29.6%
		総和の %	11.2%	18.4%	29.6%
合計	度数		389	448	837
	身体手帳等級 の %		46.5%	53.5%	100.0%
	問 2 性別 の %		100.0%	100.0%	100.0%

しょうがいべつ せいべつひ
障 害 別 で性別比をみます。

しんたいしょうがい ひと てちょう きゅう だんせいひりつ たか た とうきゅう
身 体 障 害 のある人では手帳1級で男性比率が高く、他の等級

おお き み
にはない大きな差が見られます。



知的障害のある人と性別 クロス表

			問 2 性別		合計
			女性	男性	
問5-2 療育手帳等級	C判定	度数	8	22	30
		療育手帳等級 の %	26.7%	73.3%	100.0%
		問 2 性別 の %	19.0%	29.3%	25.6%
		総和の %	6.8%	18.8%	25.6%
	B判定	度数	11	21	32
		療育手帳等級 の %	34.4%	65.6%	100.0%
		問 2 性別 の %	26.2%	28.0%	27.4%
		総和の %	9.4%	17.9%	27.4%
	A判定	度数	23	32	55
		療育手帳等級 の %	41.8%	58.2%	100.0%
		問 2 性別 の %	54.8%	42.7%	47.0%
		総和の %	19.7%	27.4%	47.0%
合計	度数		42	75	117
	療育手帳等級 の %		35.9%	64.1%	100.0%

精神障害のある人と性別 クロス表

			問 2 性別		合計
			女性	男性	
問 5-3 精神手帳等級	3 級	度数	26	28	54
		精神手帳等級 の %	48.1%	51.9%	100.0%
		問 2 性別 の %	33.8%	37.3%	35.5%
		総和の %	17.1%	18.4%	35.5%
	2 級	度数	42	38	80
		精神手帳等級 の %	52.5%	47.5%	100.0%
		問 2 性別 の %	54.5%	50.7%	52.6%
		総和の %	27.6%	25.0%	52.6%
	1 級	度数	9	9	18
		精神手帳等級 の %	50.0%	50.0%	100.0%
		問 2 性別 の %	11.7%	12.0%	11.8%
		総和の %	5.9%	5.9%	11.8%
合計	度数		77	75	152
	精神手帳等級 の %		50.7%	49.3%	100.0%

ちてきしょうがい ひと はんてい けいど はんてい ちゅうど だんせいひりつ
知的障害のある人ではC判定（軽度）・B判定（中度）で男性比率が

たか はんてい じゅうど おお き いっぽう せいしんしょうがい ひと
高く、A判定（重度）と大きな差がみられます。一方、精神障害のある人では

てちょうとうきゅう おお せいべつひ き
手帳等級に大きな性別比の差はありませんでした。



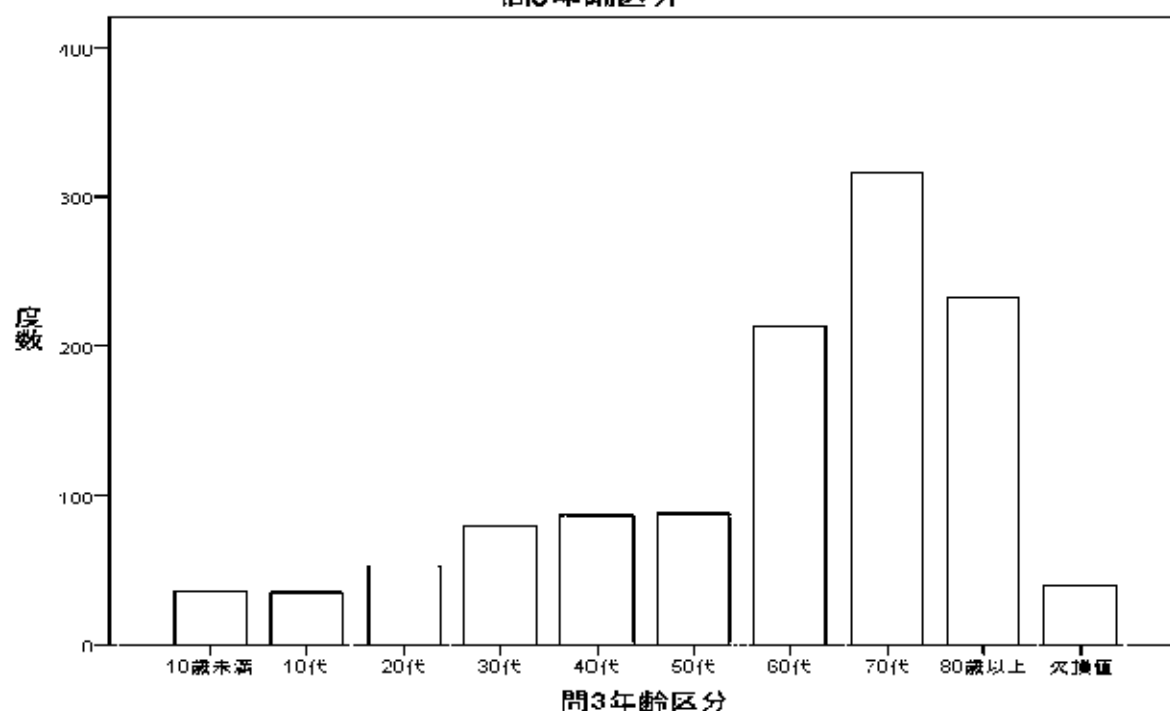
問3 ご本人の年齢（平成24年1月1日現在）をお答えください。

問3年齢区分

		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	10歳未満	36	3.1	3.1	3.1
	10代	35	3.0	3.0	6.0
	20代	53	4.5	4.5	10.5
	30代	79	6.7	6.7	17.2
	40代	87	7.4	7.4	24.6
	50代	88	7.5	7.5	32.0
	60代	214	18.1	18.1	50.2
	70代	316	26.8	26.8	76.9
	80歳以上	232	19.7	19.7	96.6
欠損値	システム欠損値	40	3.4	3.4	100.0
合計		1,180	100.0	100.0	

年齢による性別比では、20代・40代・60代において男性の回答率が高かったことに加え、60代・70代・80代で障害のある人の**64.6%**と高い結果でした。障害のある人の高齢化が明らかにみとれます。

問3年齢区分

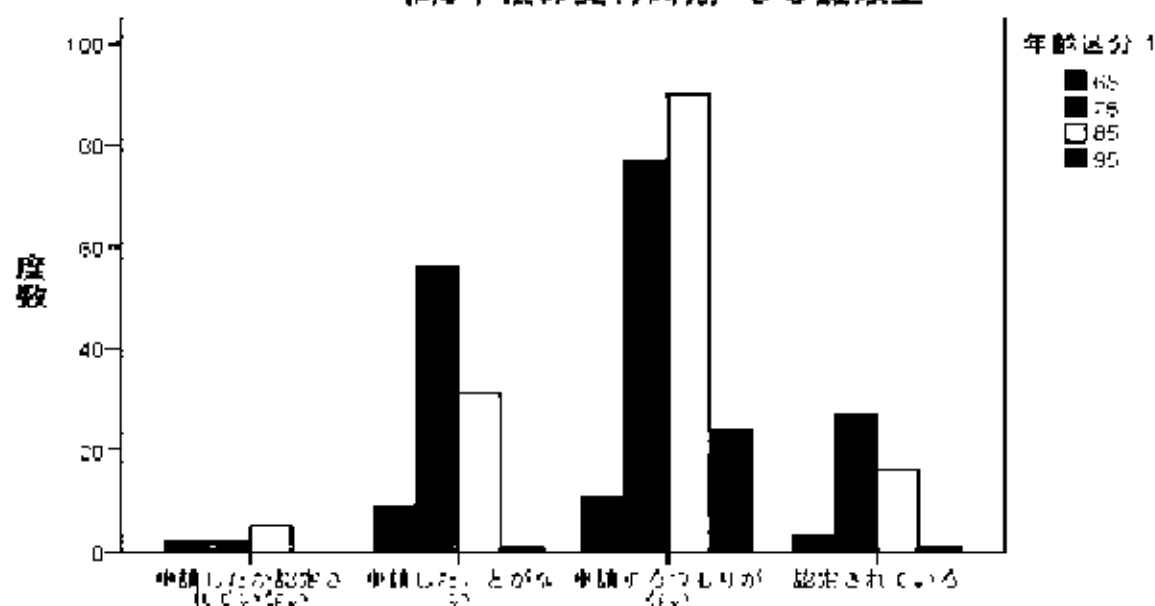


問4 ^{とい}ご本人が^{ほんにん}40歳^{さいいじょう}以上の^{ばあい}場合に^{ほんにん}うかがいます。ご本人は、^{かいごほけん}介護保険の^{にんてい}認定^うを受けておられますか。

問4 介護保険認定

		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	申請したが認定されていない	23	1.9	2.6	2.6
	申請したことがない	353	29.9	39.7	42.3
	申請するつもりがない	364	30.8	40.9	83.2
	認定されている	149	12.6	16.8	100.0
	合計	889	75.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	291	24.7		
合計		1,180	100.0		

問6年報の交付時期=65歳以上



問4 介護保険認定

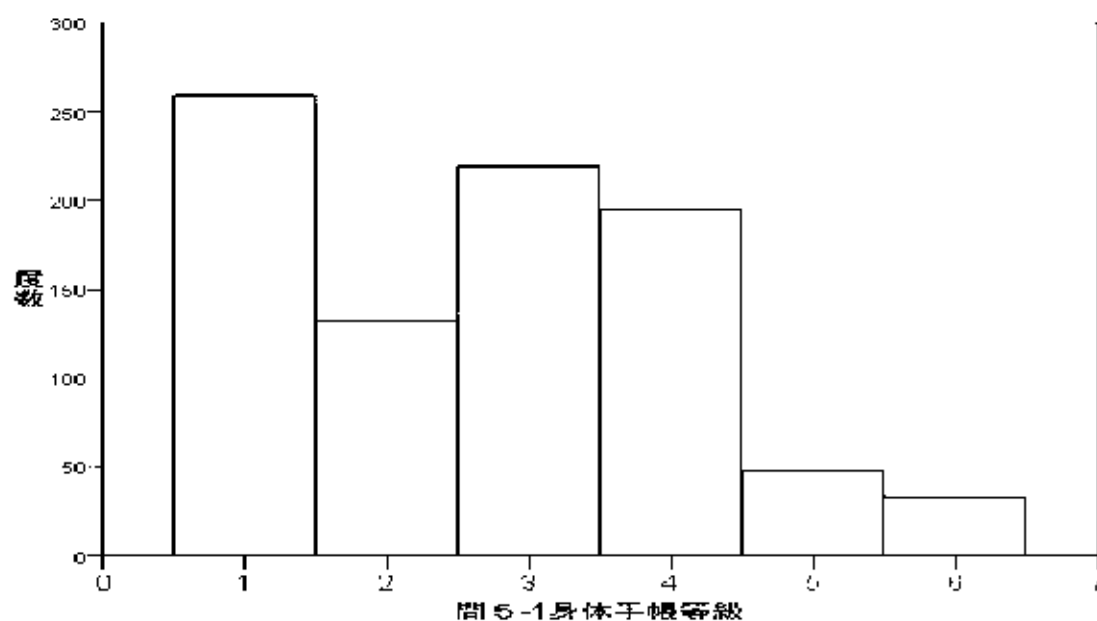
^{さいいじょう}65歳^{ひと}以上の^{かいごほけん}人の^{しんせい}介護保険の^{にんてい}申請や認定^{じょうきょう}状況では、「認定されて^{ひと}いる人」の^{わりあい}割合が16.8%と低い^{ひく}の^{たい}に対して、「申請したことがない」^{しんせい}「申請する^{わりあい}つもりはない」の^あ割合は合わせて80.6%と、^{たか}高い^{わりあい}割合となっています。



問 5 ご本人が^{ほんにん も てちょう しゅるい}お持ちの手帳の種類について、あてはまるものすべてに○をしてください。^{ない とungskyuu}()内の等級にも○をしてください。

問 5-1 身体手帳等級

		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	身体1級	259	21.9	29.2	29.2
	身体2級	133	11.2	14.9	44.1
	身体3級	219	18.6	24.7	68.8
	身体4級	195	16.5	22.0	90.9
	身体5級	48	4.1	5.4	96.3
	身体6級	33	2.8	3.7	100.0
	合計	887	75.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	293	24.9		
合計		1,180	100.0		



^{しんたいしょうがいしゃてちょう きゅう きゅう あ しんたいしょうがいしゃ}身体障害者手帳の1級と2級を合わせると身体障害者
^{てちょうしゅとくしゃ}手帳取得者の44.1%と^{わり こ}4割を超えています。



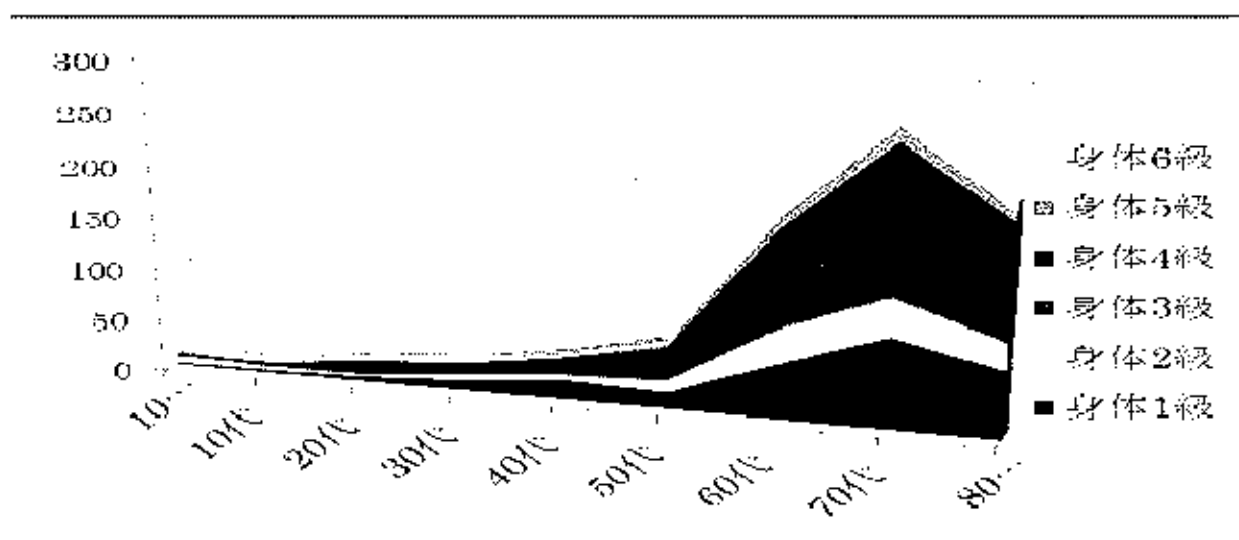
つぎ ねんだいべつ しんたいしょうがいしゃてちょうくぶん み
次に年代別で身体障害者手帳区分を見てみます。

問3 年齢区分 と 問5-1 身体手帳等級 のクロス表

問3 年齢区分		問5-1 身体手帳等級						合計
		身体1級	身体2級	身体3級	身体4級	身体5級	身体6級	
10歳未満	度数	4.1	2.1	3.5	3.1	.8	.5	14.0
	問3年齢区分の%	14.3%	50.0%	21.4%	7.1%	0.0%	7.1%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	0.8%	5.3%	1.4%	0.5%	0.0%	3.0%	1.6%
	総和の%	0.2%	0.8%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	1.6%
10代	度数	2.9	1.5	2.5	2.2	.5	.4	10.0
	問3年齢区分の%	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	1.2%	3.0%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%
	総和の%	0.3%	0.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	1.1%
20代	度数	6.7	3.4	5.7	5.1	1.2	.9	23.0
	問3年齢区分の%	21.7%	8.7%	43.5%	17.4%	4.3%	4.3%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	1.9%	1.5%	4.6%	2.1%	2.1%	3.0%	2.6%
	総和の%	0.6%	0.2%	1.1%	0.5%	0.1%	0.1%	2.6%
30代	度数	8.5	4.3	7.2	6.4	1.6	1.1	29.0
	問3年齢区分の%	34.5%	20.7%	34.5%	0.0%	6.9%	3.4%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	3.9%	4.5%	4.6%	0.0%	4.2%	3.0%	3.3%
	総和の%	1.1%	0.7%	1.1%	0.0%	0.2%	0.1%	3.3%
40代	度数	12.6	6.4	10.6	9.5	2.3	1.6	43.0
	問3年齢区分の%	44.2%	11.6%	30.2%	7.0%	4.7%	2.3%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	7.3%	3.8%	5.9%	1.5%	4.2%	3.0%	4.8%
	総和の%	2.1%	0.6%	1.5%	0.3%	0.2%	0.1%	4.8%
50代	度数	18.7	9.6	15.8	14.1	3.5	2.4	64.0
	問3年齢区分の%	25.0%	17.2%	21.9%	26.6%	7.8%	1.6%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	6.2%	8.3%	6.4%	8.7%	10.4%	3.0%	7.2%
	総和の%	1.8%	1.2%	1.6%	1.9%	0.6%	0.1%	7.2%
60代	度数	56.1	28.8	47.4	42.2	10.4	7.1	192.0
	問3年齢区分の%	26.6%	16.7%	19.3%	27.1%	6.3%	4.2%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	19.7%	24.1%	16.9%	26.7%	25.0%	24.2%	21.6%
	総和の%	5.7%	3.6%	4.2%	5.9%	1.4%	0.9%	21.6%
70代	度数	81.2	41.7	68.6	61.1	15.0	10.3	278.0
	問3年齢区分の%	30.2%	12.6%	24.5%	23.7%	5.4%	3.6%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	32.4%	26.3%	31.1%	33.8%	31.3%	30.3%	31.3%
	総和の%	9.5%	3.9%	7.7%	7.4%	1.7%	1.1%	31.3%
80歳以上	度数	61.0	31.3	51.6	45.9	11.3	7.8	209.0
	問3年齢区分の%	29.7%	12.0%	26.8%	22.5%	4.8%	4.3%	100.0%
	問5-1身体手帳等級の%	23.9%	18.8%	25.6%	24.1%	20.8%	27.3%	23.6%
	総和の%	7.0%	2.8%	6.3%	5.3%	1.1%	1.0%	23.6%



ねんれい きにゅう けっそんち ふく きゅう さいだいいじょう
 年齢が記入されていなかった欠損値を含めても、1級では60歳代以上で
 し せいど しきく かく そ けいかく
 76%を占めています。制度・施策において各ライフステージに沿った計画が
 みす
 見過ごされないようにすることが大切であるともいえます。分かりやすくグラフにしてみ
 しんたいしょうがいしゃてちょう しゅとく ひと おお さいだいいじょう ひと
 ると身体障害者手帳を取得された人の多くは60歳代以上の人というこ
 とがはっきりみてとれます。



つぎ しんたいしょうがいしゃてちょう しょうがいしゅるいべつ たじゅうかいとうしより おこな
 次に身体障害者手帳の障害種類別に多重回答処理を行い、
 にんずう したいふじゅうしょうがい じょうし かし たいかん
 それぞれの人数をまとめました。肢体不自由障害（上肢・下肢・体幹）で
 つぎ ないふしょうがい ぜんたい わり ちか
 46.6%、次に内部障害が20.9%と全体の67.5%と7割に近くなっています。

身体障害のある方の障害区分



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

問5-1-1 身体視覚

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	80	6.8	100.0
欠損値 システム欠損値	1100	93.2	
合計	1180	100.0	

問5-1-2 身体聴覚平衡感覚

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	53	4.5	100.0
欠損値 システム欠損値	1127	95.5	
合計	1180	100.0	

問5-1-3 身体音声言語そしゃく

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	40	3.4	100.0
欠損値 システム欠損値	1140	96.6	
合計	1180	100.0	

問5-1-4 身体肢体不自由上肢

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	136	11.5	100.0
欠損値 システム欠損値	1044	88.5	
合計	1180	100.0	

問5-1-5 身体肢体不自由下肢

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	300	25.4	100.0
欠損値 システム欠損値	880	74.6	
合計	1180	100.0	

問5-1-6 身体肢体不自由体幹

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	115	9.7	100.0
欠損値 システム欠損値	1065	90.3	
合計	1180	100.0	

問5-1-7 身体内部

	度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効 あり	247	20.9	100.0
欠損値 システム欠損値	933	79.1	
合計	1180	100.0	



5-1-1 身体視覚 * 問3年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4介護保険認定		問3年齢区分						合計
		40代	50代	60代	70代	80歳以上	欠損値	
認定されている	問5-1-1身体視覚 あり	有効	2	4	7	7		11
		総数の%	13.2%	29.4%	27.3%	11.2%		100.0%
	合計	有効	2	4	7	7		11
申請するつもりがない	問5-1-1身体視覚 あり	有効	2	3	5	2		12
		総数の%	13.2%	23.1%	27.3%	11.2%		100.0%
	合計	有効	2	3	5	2		12
申請したことがない	問5-1-1身体視覚 あり	有効	1	6	2	5	2	26
		総数の%	3.5%	23.1%	7.7%	24.6%	7.7%	100.0%
		合計	1	6	2	5	2	26
	問5-1-1身体視覚 あり	有効	1	6	2	5	2	26
		総数の%	3.5%	23.1%	7.7%	24.6%	7.7%	100.0%
		合計	1	6	2	5	2	26
申請したが認定されていない	問5-1-1身体視覚 あり	有効	1	1	1	1		4
		総数の%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%		100.0%
		合計	1	1	1	1		4
	問5-1-1身体視覚 あり	有効	3	6	10	21	2	42
		総数の%	4.7%	8.5%	14.1%	29.6%	4.7%	100.0%
		合計	3	6	10	21	2	42

対称性による類似度

問4介護保険認定		度数
認定されている	有効なケースの数	11
申請するつもりがない	有効なケースの数	32
申請したことがない	有効なケースの数	26
申請したが認定されていない	有効なケースの数	2
合計	有効なケースの数	71

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが60代1名と80代以上で1名、そして認定されている11名を合わせて13名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」17名、「申請するつもりがない」32名を加えると49名で視覚障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の8割を超えています。



問5-1-2 身体聴覚平衡感覚 * 問3 年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4介護保険認定				問3年齢区分					
				40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
認定されている	問5-1-2身体聴覚平衡感覚 あり	度数	7	1	2	3	-	-	7
		総和の%	14.3%	14.3%	23.3%	42.9%	-	-	100.0%
	合計	度数	7	1	2	3	-	-	7
		総和の%	14.3%	14.3%	23.3%	42.9%	-	-	100.0%
		度数	7	1	2	3	-	-	7
申請するつもりがない	問5-1-2身体聴覚平衡感覚 あり	度数	15	3	13	73	6	-	100
		総和の%	37.5%	7.3%	31.7%	73.3%	6.7%	-	100.0%
	合計	度数	15	3	13	73	6	-	100
		総和の%	37.5%	7.3%	31.7%	73.3%	6.7%	-	100.0%
		度数	15	3	13	73	6	-	100
申請したことがない	問5-1-2身体聴覚平衡感覚 あり	度数	17	4	3	3	3	-	26
		総和の%	17.6%	23.5%	17.3%	17.3%	17.6%	-	100.0%
	合計	度数	17	4	3	3	3	-	26
		総和の%	17.6%	23.5%	17.3%	17.3%	17.6%	-	100.0%
		度数	17	4	3	3	3	-	26
申請したが認定されていない	問5-1-2身体聴覚平衡感覚 あり	度数	2	-	1	-	-	-	3
		総和の%	50.0%	-	50.0%	-	-	-	100.0%
	合計	度数	2	-	1	-	-	-	3
		総和の%	50.0%	-	50.0%	-	-	-	100.0%
		度数	2	-	1	-	-	-	3
合計	問5-1-2身体聴覚平衡感覚 あり	度数	41	4	3	3	3	3	57
		総和の%	9.8%	9.8%	12.3%	19.1%	43.9%	4.9%	100.0%
	合計	度数	41	4	3	3	3	3	57
		総和の%	9.8%	9.8%	12.3%	19.1%	43.9%	4.9%	100.0%
		度数	41	4	3	3	3	3	57

対称性による類似度^a

問4介護保険認定		度数
認定されている	有効なケースの数	7
申請するつもりがない	有効なケースの数	15
申請したことがない	有効なケースの数	17
申請したが認定されていない	有効なケースの数	2
合計	有効なケースの数	41

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です

介護保険「申請したが認定されていない」ケースが70代1名と80代以上1名、
 そして認定されている7名を合わせて9名でした。50代以下で「申請したことがない」
 と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」9名、
 「申請するつもりがない」15名を加えると24名で身体聴覚平衡感覚障害
 全体（50代以下の人を除き）の6割近くとなっています。



問5-1-3 身体音声言語そしゃく * 問3年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4介護保険認定				問3年齢区分					欠損値	合計
				40代	50代	60代	70代	80歳以上		
申請するつもりがない	問5-1-1身体音声言語そしゃく	あり	度数	1	-	-	10	0	-	11
			総数の%	4.3%	4.3%	15.0%	43.0%	34.8%	-	100.0%
			有効	1	-	0	10	0	-	11
申請したことがない	問5-1-2身体音声言語そしゃく	あり	度数	1	-	2	2	1	-	6
			総数の%	14.3%	-	28.0%	28.6%	14.3%	-	100.0%
			有効	1	-	2	2	1	-	6
申請したが認定されていない	問5-1-3身体音声言語そしゃく	あり	度数	-	-	1	-	1	-	2
			総数の%	-	-	50.0%	-	50.0%	-	100.0%
			有効	-	-	1	-	1	-	2
合計	問5-1-4身体音声言語そしゃく	あり	度数	2	-	1	12	1	-	16
			総数の%	6.3%	3.1%	15.8%	37.5%	31.3%	-	100.0%
			有効	2	-	1	12	1	-	16
合計	問5-1-5身体音声言語そしゃく	あり	度数	4	-	3	12	1	-	20
			総数の%	12.5%	3.1%	15.0%	37.5%	31.3%	-	100.0%
			有効	4	-	3	12	1	-	20

対称性による類似度^a

問4介護保険認定	度数
申請するつもりがない 有効なケースの数	23
申請したことがない 有効なケースの数	7
申請したが認定されていない 有効なケースの数	2
合計 有効なケースの数	32

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが60代1名と80代以上で1名を合わせて2名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」5名、「申請するつもりがない」21名を加えると26名で音声言語そしゃく障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の9割を超えています。



問5-1-4 身体肢体不自由上肢 * 問3 年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4 介護保険認定				75年度区分						合計
				40代	50代	60代	70代	80歳以上	欠損値	
認定されている	問5-1-4身体肢体不自由上肢	あり	原状	4	2	0	2	2		16
			総和の%	21.1%	12.5%	31.3%	12.5%	18.8%		100.0%
			合計	4	2	0	2	2		10
申請するつもりがない	問5-1-4身体肢体不自由上肢	あり	原状	2	4	17	24	15	3	71
			総和の%	21.1%	56.3%	26.8%	33.8%	26.8%	4.2%	100.0%
			合計	2	4	17	24	15	3	71
申請したことがない	問5-1-4身体肢体不自由上肢	あり	原状	0	2	7	3	0		21
			総和の%	22.2%	9.6%	47.8%	14.3%	0.0%		100.0%
			合計	0	2	7	3	0		21
戸籍...などが変更されていない	問5-1-4身体肢体不自由上肢	あり	原状	0	0	2		1		4
			総和の%		25.0%	50.0%		25.0%		100.0%
			合計	0	0	2		1		4
合計	問5-1-4身体肢体不自由上肢	あり	原状	11	9	25	29	28	3	112
			総和の%	6.8%	8.0%	31.3%	29.9%	22.3%	2.7%	100.0%
			合計	11	9	25	29	28	3	112

対称性による類似度^{a)}

問4 介護保険認定	度数
認定されている 有効なケースの数	16
申請するつもりがない 有効なケースの数	71
申請したことがない 有効なケースの数	21
申請したが認定されていない 有効なケースの数	4
合計 有効なケースの数	112

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

かみごぼけん しんせい にんてい だい めい だい めい
 介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが50代1名、60代2名と80代以上で1名、そして認定されている16名を合わせて20名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」14名、「申請するつもりがない」62名を加えると76名で肢体不自由上肢障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の8割半ばを超えています。



問5-1-5 身体肢体不自由下肢 * 問3 年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4介護保険認定		問3年齢区分						合計
		40代	50代	60代	70代	80代以上	欠損値	
認定されている	問5-1-5身体肢体不自由下肢 あり	度数	5	4	11	10	0	30
		総数の%	13.2%	10.0%	23.8%	26.7%	21.1%	100.0%
		合計	5	4	11	10	8	38
申請するつもりがない	問5-1-5身体肢体不自由下肢 あり	度数	10	7	23	26	2	68
		総数の%	14.7%	10.0%	33.8%	37.8%	2.9%	100.0%
		合計	10	7	23	26	2	68
申請したことがない	問5-1-5身体肢体不自由下肢 あり	度数	6	7	27	29	12	82
		総数の%	7.3%	8.5%	37.9%	35.4%	14.6%	100.0%
		合計	6	7	27	29	12	82
申請したが認定されていない	問5-1-5身体肢体不自由下肢 あり	度数	0	0	0	0	0	0
		総数の%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計	0	0	0	0	0	0
合計	問5-1-5身体肢体不自由下肢 あり	度数	13	11	47	57	2	120
		総数の%	10.8%	9.2%	39.2%	47.5%	1.7%	100.0%
		合計	13	11	47	57	2	120

対称性による類似度^a

4 介護保険認定	度数
認定されている	有効なケースの数
申請するつもりがない	有効なケースの数
申請したことがない	有効なケースの数
申請したが認定されていない	有効なケースの数
合計	有効なケースの数

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが70代1名、そして認定されている38名を合わせて39名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」68名、「申請するつもりがない」127名を加えると195名で身体肢体不自由下肢障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の9割近くになっています。



問5-1-6 身体肢体不自由体幹 * 問3 年齢区分 * 問4介護保険認定

クロス表

問4介護保険認定			問3年齢区分					合計
			40代	50代	60代	70代	80歳以上	
認定されている	問5-1-6身体肢体不自由体幹 あり	度数	2		2	1		5
		総和の%	40.0%		40.0%	20.0%		100.0%
	合計	度数	2		2	1		5
		総和の%	40.0%		40.0%	20.0%		100.0%
申請するつもりがない	問5-1-6身体肢体不自由体幹 あり	度数	2	2	14	31	2	70
		総和の%	2.9%	2.9%	20.0%	44.3%	30.0%	100.0%
	合計	度数	2	2	14	31	2	70
		総和の%	2.9%	2.9%	20.0%	44.3%	30.0%	100.0%
申請したが認定されていない	問5-1-6身体肢体不自由体幹 あり	度数	3	2	3	1		13
		総和の%	23.1%	15.4%	43.2%	7.7%	7.7%	100.0%
	合計	度数	3	2	3	1		13
		総和の%	23.1%	15.4%	43.2%	7.7%	7.7%	100.0%
申請したことがない	問5-1-6身体肢体不自由体幹 あり	度数						1
		総和の%		100.0%				100.0%
	合計	度数						1
		総和の%		100.0%				100.0%
合計	問5-1-6身体肢体不自由体幹 あり	度数	7	9	22	32	22	89
		総和の%	7.9%	9.9%	24.7%	37.1%	24.7%	100.0%
	合計	度数	7	9	22	32	22	89
		総和の%	7.9%	9.9%	24.7%	37.1%	24.7%	100.0%

対称性による類似度^a

問4介護保険認定	度数
認定されている 有効なケースの数	5
申請するつもりがない 有効なケースの数	70
申請したことがない 有効なケースの数	13
申請したが認定されていない 有効なケースの数	1
合計 有効なケースの数	89

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが50代1名、そして認定されている5名を合わせて6名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」8名、「申請するつもりがない」66名を加えると74名で肢体不自由体幹障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の9割半ばを超えています。



問5-1-7 身体内部 * 問3 年齢区分 * 問4 介護保険認定

ク11人表

問4 介護保険認定				問3 年齢区分						合計
				40代	50代	60代	70代	80歳以上	欠損値	
認定されている	問5-1-7身体内部 あり	有効	31	3	8	14	5			31
		総数の%	3.2%	9.7%	20.0%	49.2%	12.1%			100.0%
申請するつもりがない	問5-1-7身体内部 あり	有効	55	3	5	15	11			55
		総数の%		10.0%	11.6%	34.5%	24.8%			100.0%
申請したことがない	問5-1-7身体内部 あり	有効	122	4	37	42	13	2		122
		総数の%	12.7%	11.6%	37.7%	34.4%	12.1%	1.6%		100.0%
申請したが認定されていない	問5-1-7身体内部 あり	有効	5		1	1	3			5
		総数の%			2.7%	20.0%	60.0%			100.0%
合計	問5-1-7身体内部 あり	有効	213	8	51	76	54	2		213
		総数の%	5.2%	8.5%	23.7%	35.7%	25.4%	0.9%		100.0%
合計	問5-1-7身体内部 あり	有効	213	8	51	76	54	2		213
		総数の%	5.2%	8.5%	23.7%	35.7%	25.4%	0.9%		100.0%

対称性による類似度^a

問4 介護保険認定	度数
認定されている 有効なケースの数	31
申請するつもりがない 有効なケースの数	55
申請したことがない 有効なケースの数	122
申請したが認定されていない 有効なケースの数	5
合計 有効なケースの数	213

a. 相関統計量は数値データにのみ使用可能です。

介護保険を「申請したが認定されていない」ケースが60代1名、70代1名、80代3名、そして認定されている31名を合わせて36名でした。50代以下で「申請したことがない」と回答されている点を考慮して、60代以上は「申請したことがない」95名、「申請するつもりがない」54名を加えると149名で身体内部障害全体（年齢不明の欠損値、50代以下の人を除く）の8割を超えています。

以上のように、どの身体障害種別においても介護保険制度利用意向が少なく、少ないという結果となりました。



問5-2 療育手帳等級

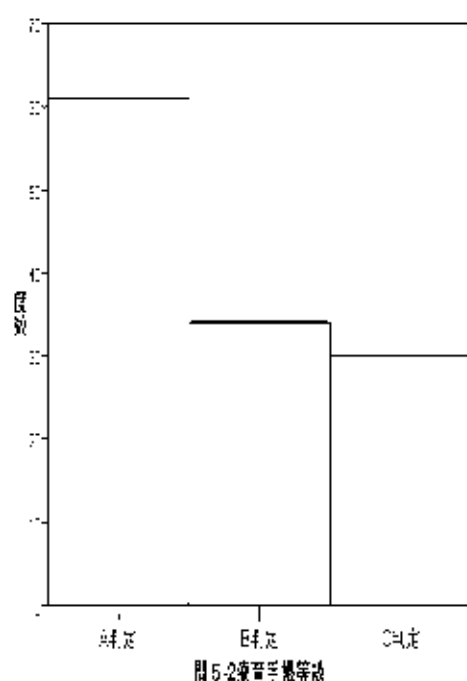
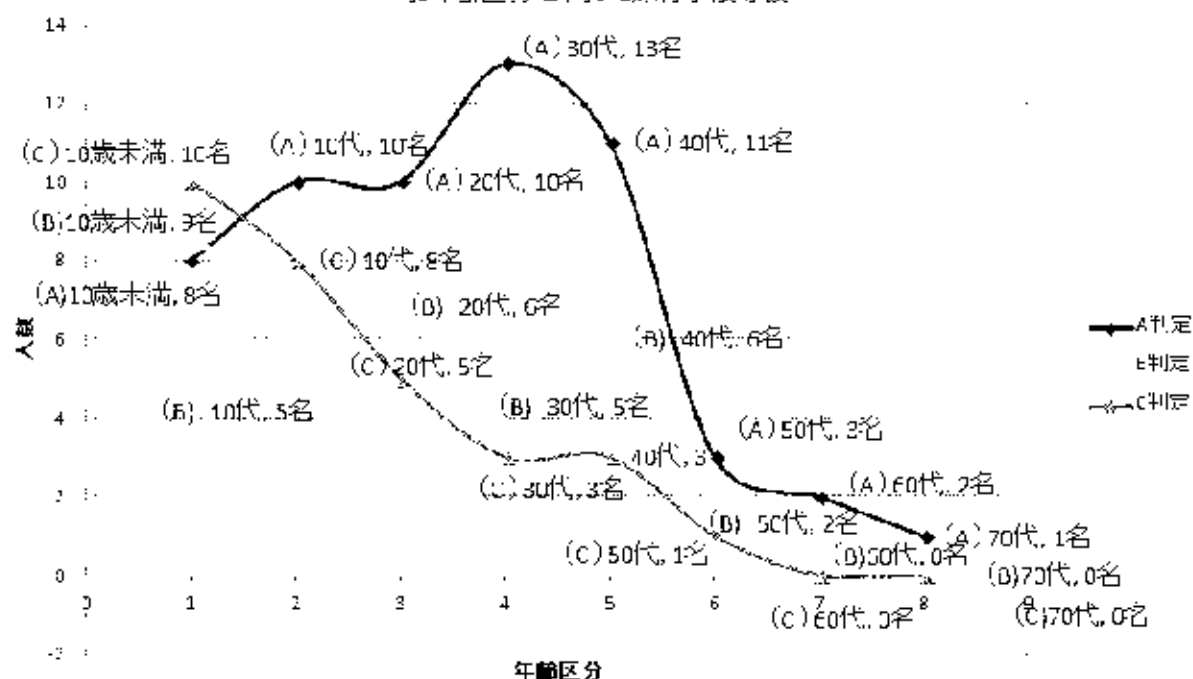
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	A判定	61	5.2	48.8	48.8
	B判定	34	2.9	27.2	76.0
	C判定	30	2.5	24.0	100.0
	合計	125	10.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,055	89.4		
合計		1,180	100.0		

問3 年齢区分 と 問5-2 療育手帳等級 のクロス表

			問5-2療育手帳等級			合計
			A判定	B判定	C判定	
問3年齢区分	10歳未満	度数	8	9	10	27
		総和の %	6.4%	7.2%	8.0%	21.6%
	10代	度数	10	5	8	23
		総和の %	8.0%	4.0%	6.4%	18.4%
	20代	度数	10	6	5	21
		総和の %	8.0%	4.8%	4.0%	16.8%
	30代	度数	13	5	3	21
		総和の %	10.4%	4.0%	2.4%	16.8%
	40代	度数	11	6	3	20
		総和の %	8.8%	4.8%	2.4%	16.0%
	50代	度数	3	2	1	6
		総和の %	2.4%	1.6%	.8%	4.8%
	60代	度数	2	0	0	2
		総和の %	1.6%	.0%	.0%	1.6%
	70代	度数	1	0	0	1
		総和の %	.8%	.0%	.0%	.8%
	欠損値	度数	3	1	0	4
		総和の %	2.4%	.8%	.0%	3.2%
	合計	度数	61	34	30	125
		総和の %	48.8%	27.2%	24.0%	100.0%



問3年齢区分と問6-2療育手帳等級



ぜんたい ちてきしょうがい ひと かいとうすう
 全体での知的障害のある人の回答数
 はんてい ひと もっと おお つぎ はんてい
 はA判定の人が最も多く、次にB判定の
 ひと ねんれいくぶん かいとう
 人でした。しかし年齢区分でみると回答し
 ていただいた年代に大きな差があることがわかり
 ました。10歳未満、10代の障害児では
 てちょうはんてい かんけい かいとう
 手帳判定に関係なく回答をいただいでい
 ます。しょうがいじりょういく かぞくしえん かんしん
 障害児療育や家族支援の関心の
 たか えいきょう おも
 高さが影響しているものと思われます。
 いっぱうしゅうがくき だい はんてい ひと
 一方就学期から40代ではA判定の人か
 らの回答比率が高くなります。地域での暮らし

しゅうろう にっちゅうかつどう くわ おやな あと ふあん かぞく
 や、就労、日中活動に加え、親亡き後の不安がご家族によるアンケート
 への回答に影響していることがうかがえます。

ちてきしょうがいしゃ ひと はんてい ひと ほんにん かいとう すく
 また知的障害者の人のA・B判定の人は、ご本人の回答が少ない
 傾向です。



問5-3 精神手帳等級

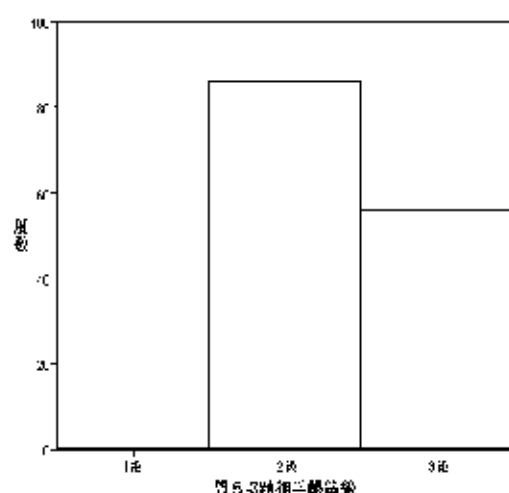
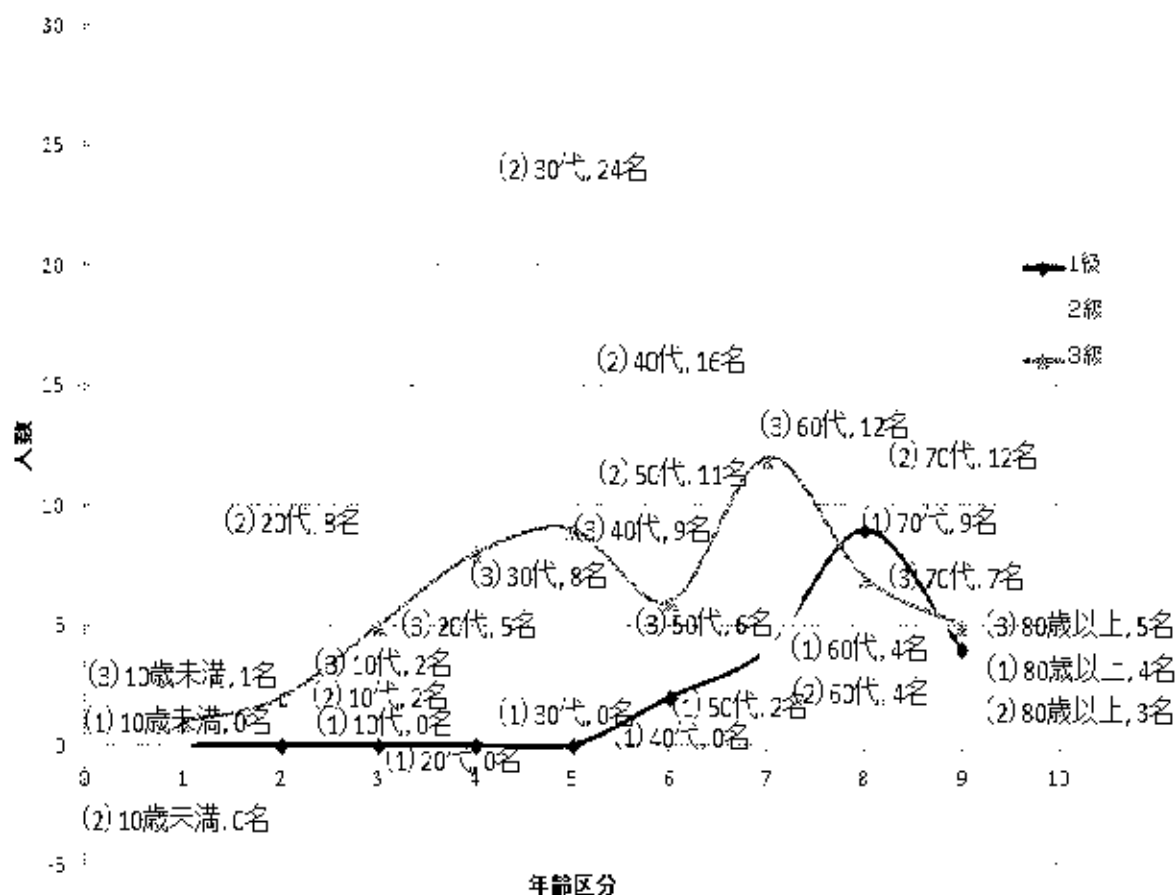
		度数	割合	有効割合	累積割合
有効	1級	19	1.6	11.8	11.8
	2級	86	7.3	53.4	65.2
	3級	56	4.7	34.8	100.0
	合計	161	13.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,019	86.4		
合計		1,180	100.0		

問3 年齢区分 と 問5-3 精神手帳等級 のクロス表

			問5-3精神手帳等級			合計
			1級	2級	3級	
問3年齢区分	10歳未満	度数	0	0	1	1
		総和の %	0%	0%	0.6%	0.6%
	10代	度数	0	2	2	4
		総和の %	0%	1.2%	1.2%	2.5%
	20代	度数	0	8	5	13
		総和の %	0%	5.0%	3.1%	8.1%
	30代	度数	0	24	8	32
		総和の %	0%	14.9%	5.0%	19.9%
	40代	度数	0	16	9	25
		総和の %	0%	9.9%	5.6%	15.5%
	50代	度数	2	11	6	19
		総和の %	1.2%	6.8%	3.7%	11.8%
	60代	度数	4	4	12	20
		総和の %	2.5%	2.5%	7.5%	12.4%
	70代	度数	9	12	7	28
		総和の %	5.6%	7.5%	4.3%	17.4%
	80歳以上	度数	4	3	5	12
		総和の %	2.5%	1.9%	3.1%	7.5%
	欠損値	度数	0	6	1	7
		総和の %	0%	3.7%	0.6%	4.3%
合計	度数	19	86	56	161	
	総和の %	11.8%	53.4%	34.8%	100.0%	



問3年齢区分問5-㉔精神手帳等級のクロス表



知的障害のある人の回答数が

重度の人ほどグラフ曲線が右肩

下がりになるのに対して、精神障害のあ

る人は山型で2級の人の回答が多く

寄せられました。世代別にみると20代、30

代で発症することが多いこともあり

初診の山がグラフから読み取ることができ

ます。

また1級の50代まで人数は少なく70代で急に増加します。2級と3級が

2こぶラケダの曲線を描くのは違っていることが、大きな特徴であることがわかります。



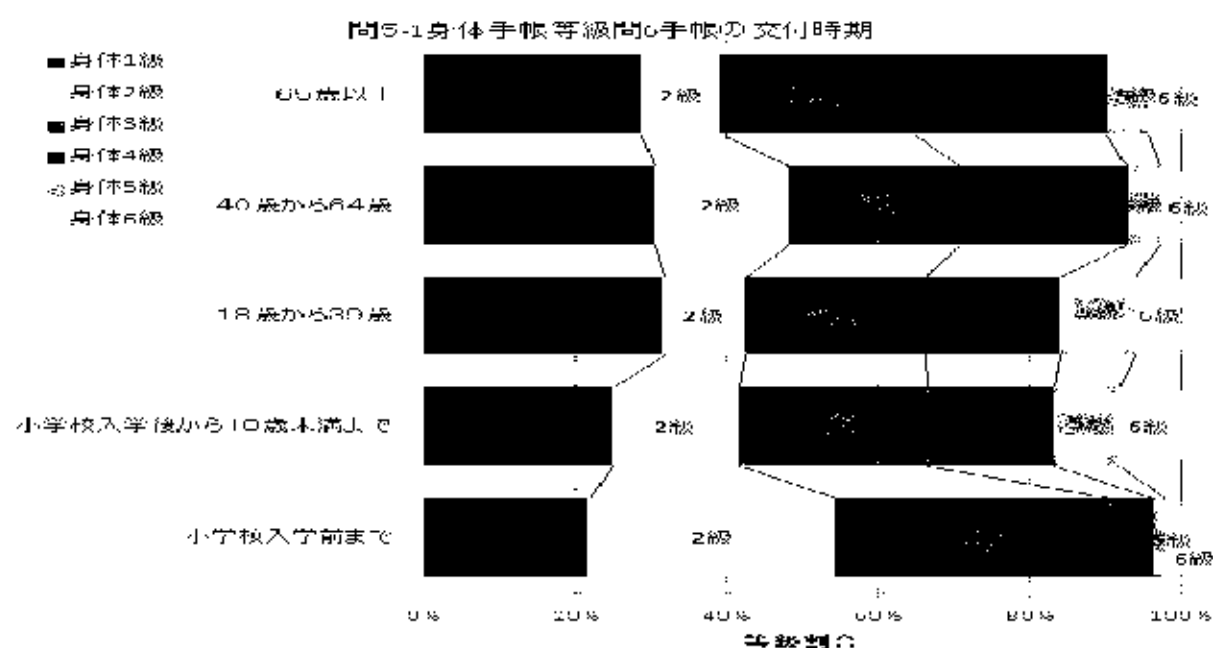
問6 手帳をはじめて交付されたのはいつですか。

問6 手帳の交付時期

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学前まで	110	9.3	9.5	9.5
	小学校入学後から18歳未満まで	60	5.1	5.2	14.7
	18歳から39歳	179	15.2	15.5	30.2
	40歳から64歳	410	34.7	35.4	65.6
	65歳以上	398	33.7	34.4	100.0
	合計	1,157	98.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	23	1.9		
合計		1,180	100.0		

問5-1 身体手帳等級と問6 手帳の交付時期のクロス表

身体手帳等級	小学校入学前まで	小学校入学後から18歳未満まで	18歳から39歳	40歳から64歳	65歳以上	合計
身体1級	12	6	32	105	102	257
身体2級	18	4	11	62	37	132
身体3級	20	6	24	78	90	218
身体4級	3	4	18	76	90	191
身体5級	1	2	10	15	19	47
身体6級	1	2	6	9	15	33



40歳以上の中途障害認定が重度障害認定の多くを占めている。

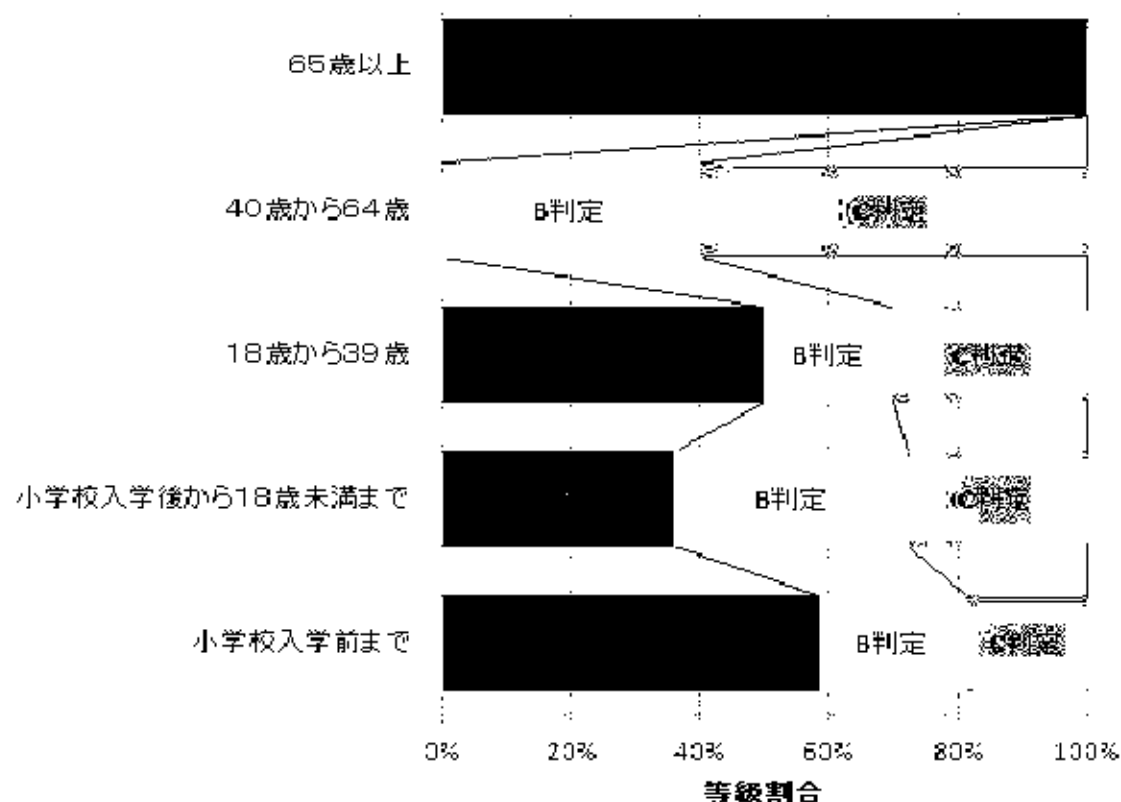
とがわかります。



問5-2 療育手帳等級 問6 手帳の交付時期クロス表

療育手帳級	小学校入学 前まで	小学校入学後か ら18歳未満まで	18歳から 39歳	40歳から 64歳	65歳以上	合計
A判定	41	13	5	0	1	60
B判定	16	13	2	2	0	33
C判定	13	10	3	3	0	29

問5-2療育手帳等級問6手帳の交付時期

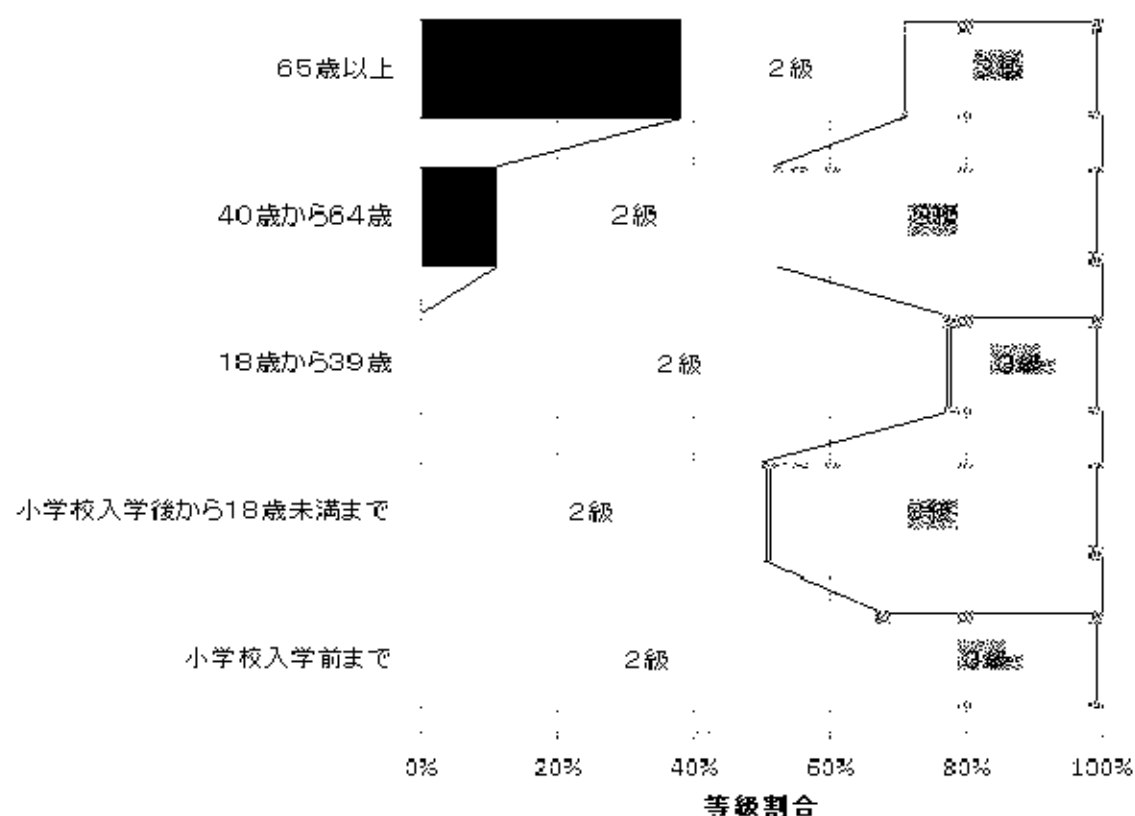


18歳までに療育手帳の取得に至らず、その後の取得を13%の人が必要としていたことがわかります。触法を繰り返す人、消費トラブルに巻き込まれる人、ホームレスにならざるを得なくなる人など把握することが難しいケースや、両親がすべて抱え込み、高齢になってまわりの親せきや兄弟が手続きを進めるケースなどが考えられます。

問5-3 精神手帳等級 問6 手帳の交付時期クロス表

精神手帳級	小学校入学 前まで	小学校入学後か ら18歳未満まで	18歳から 39歳	40歳から 64歳	65歳以上	合計
1級	0	0	0	6	13	19
2級	2	2	49	22	11	86
3級	1	2	15	26	10	54

問5-3精神手帳等級問6手帳の交付時期



しょうがっこうにゆうがく きいみまん せいしんしょうがいしやほけんふくしてちょう
小 学 校 入 学 ま で や 18 歳 未 満 で の 精 神 障 害 者 保 健 福 祉 手 帳 の

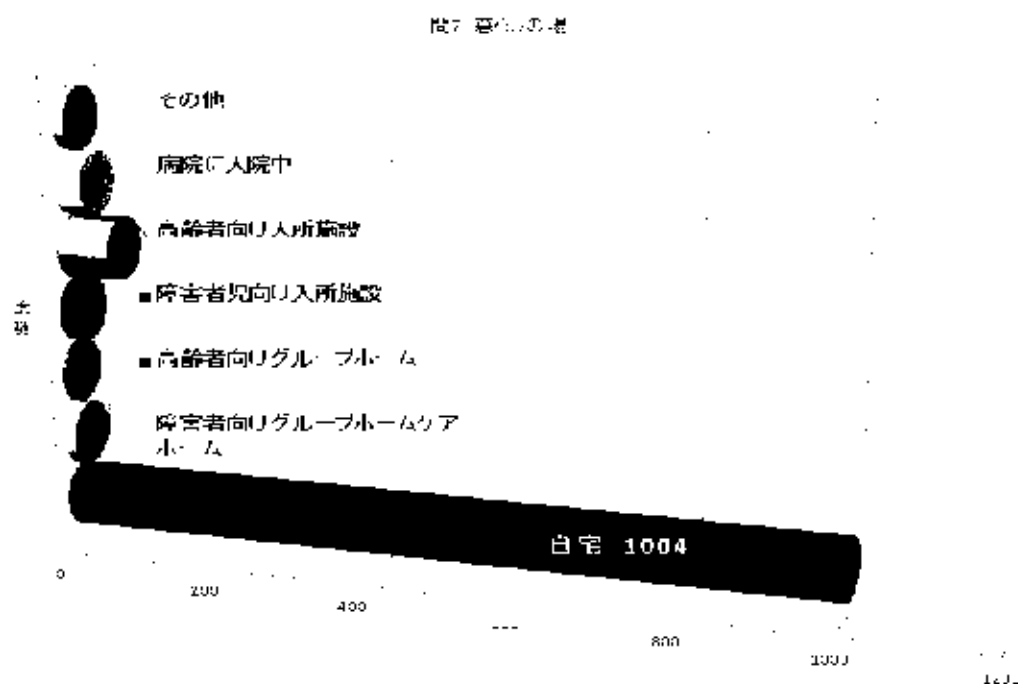
しゅとく おお はったつしょうがいじ しえん う しゅとく
取 得 の 多 く は , 「 発 達 障 害 児 」 で の 支 援 を 受 け る た め に 取 得 さ れ た も の と

すいさつ だいいこう どうごうしっちょうしょうとう はっしょうとう きゅう
推 察 で き ま す 。 30 代 以 降 は 統 合 失 調 症 等 の 発 症 等 で 1 級 や 2

きゅう しゅとく こと
級 を 取 得 さ れ て い る 事 が う か が え ま す 。



問7 ご本人が暮らしているところはどこですか。



問7 暮らしの場

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	自宅	1004	85.1	86.3	86.3
	障害者向けグループホームケアホーム	14	1.2	1.2	87.5
	高齢者向けグループホーム	6	0.5	0.5	88.0
	障害者向け入所施設	18	1.5	1.5	89.5
	高齢者向け入所施設	70	5.9	6.0	95.5
	病院に入院中	35	3.0	3.0	98.5
	その他	17	1.4	1.5	100.0
	合計	1,164	98.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	16	1.4		
合計		1,180	100.0		

自宅^{じたく}で暮らす^{くらす}人が^{ひと}86.3%と^{もっと}最も多く、次に^{おお}高齢者向け入所施設^{つぎ こうれいしゃむ にゅうしょせつ}6%となっています。障害者^{しょうがいしゃ}グループホーム^{めい}は14名(1.2%)でした。地域移行^{ちいきいこう}の推進^{すいしん}が在^{ざいたく}宅^{けっか}という結果であるかどうかはこの調査^{ちょうさ}では判断^{はんだん}できませんが、今後の大きな課題^{こんご おお}の一つであることがうかがえます。

問 8 ^{とい}ご ^{ほんにん}本人はどなたと ^{いっしょく}一緒に暮らしていますか。

問8-1 一人暮らし

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)
有効	該当	106	9.0	100.0
欠損値	システム欠損値	1,074	91.0	
合計		1,180	100.0	

問8-2 配偶者

有効	該当	584	49.5	100.0
欠損値	システム欠損値	596	50.5	
合計		1,180	100.0	

問8-3 親祖父母

有効	該当	237	20.1	100.0
欠損値	システム欠損値	943	79.9	
合計		1,180	100.0	

問8-4 兄弟姉妹

有効	該当	105	8.9	100.0
欠損値	システム欠損値	1,075	91.1	
合計		1,180	100.0	

問8-5 子どもや孫

有効	該当	360	30.5	100.0
欠損値	システム欠損値	820	69.5	
合計		1,180	100.0	

問8-6 その他親族

有効	該当	1	.1	100.0
欠損値	システム欠損値	1,179	99.9	
合計		1,180	100.0	

問8-7 友人知人

有効	該当	3	.3	100.0
欠損値	システム欠損値	1,177	99.7	
合計		1,180	100.0	

問8-8 グループホーム施設の仲間

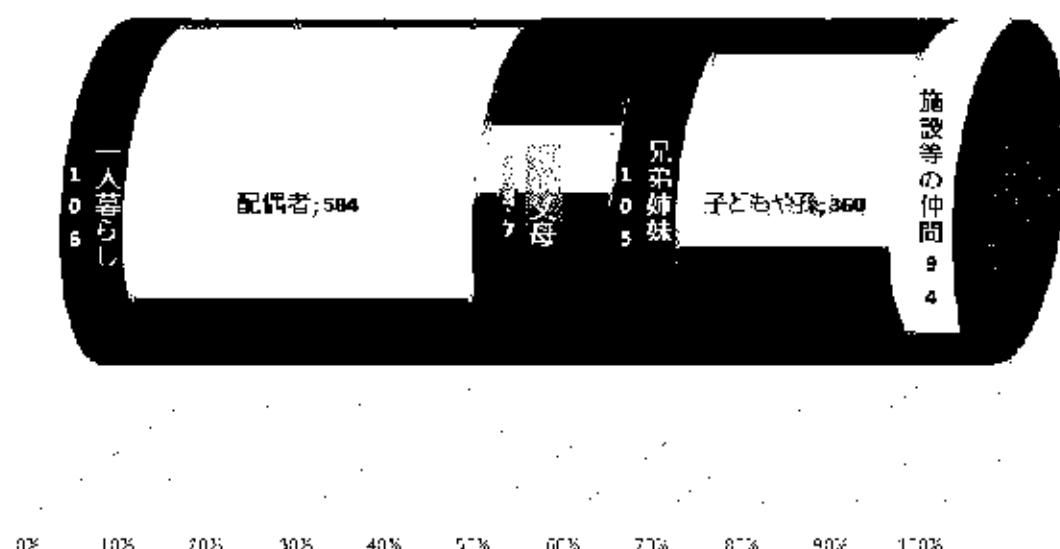
有効	該当	94	8.0	100.0
欠損値	システム欠損値	1,086	92.0	
合計		1,180	100.0	

問8-9 その他

有効	該当	6	.5	100.0
欠損値	システム欠損値	1,174	99.5	
合計		1,180	100.0	



問8 どなたと一緒に暮らしているか



じたく く ひと ひとり く ひと
 自宅で暮らす人は1004名の86.3%でした。そのうち一人で暮らしている人は106人（約10%）で、配 偶 者や祖父母、兄 弟、子どもや孫といった家族で暮らす人はご夫婦で介護施設に入 居 されているケースも 考 えられますが、1,286件の約86%の人がご家族で暮らしていることがわかりました。ここでは多 重 回 答 であることを踏まえ、母数が家族にかかわる項 目 が増える傾 向 があるにしても、在 宅 者における同 居 者および配 偶 者等の有無は平成24年度障 害 者 白 書による数値で身 体 障 害のある人で84.7%、知 的 障 害のある人で94.7%、精 神障 害のある人で81.2%から比較すると平 均 86.8%と全 国 平 均 に近いことがわかりました。ただし国 のデータは身 体 障 害で7年前、知 的 障 害で8年前、精 神 障 害で10年前であることを考 慮 すれば約10年前の全 国 平 均 に近い地域形 態 ともいえるかもしれません。



ほうこく しょうがい も かた たず
報告 2 視覚障害をお持ちの方にお尋ねします。

とい しやくしょ じょうほう かたち う と いちばんりよう
 問 9 市役所からの情報をどのような形で受け取ると一番利用しやすいですか。

問9 視覚障害情報保障

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	点字	4	0.3	3.7	3.7
	音声情報	28	2.4	25.7	29.4
	パソコンテキストデータ	9	0.8	8.3	37.6
	墨字	10	0.8	9.2	46.8
	代読	25	2.1	22.9	69.7
	その他	33	2.8	30.3	100.0
	合計	109	9.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,071	90.8		
合計		1,180	100.0		

問9 視覚障害情報保障 と 問3 年齢区分 のクロス表

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	欠損値	合計
点字	度数	1	0	0	1	0	0	1	1	0	4
	総和%	0.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	0.0%	3.7%
音声情報	度数	1	1	1	1	1	5	9	8	1	28
	総和%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	4.6%	8.3%	7.3%	0.9%	25.7%
パソコン テキストデータ	度数	0	0	2	2	2	0	2	1	0	9
	総和%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%	1.8%	0.9%	0.0%	8.3%
墨字	度数	0	1	0	0	0	2	6	1	0	10
	総和%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	5.5%	0.9%	0.0%	9.2%
代読	度数	0	0	0	1	1	3	9	10	1	25
	総和%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	2.8%	8.3%	9.2%	0.9%	22.9%
その他	度数	0	0	1	0	5	4	6	15	2	33
	総和%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	4.6%	3.7%	5.5%	13.8%	1.8%	30.3%
合計	度数	2	2	4	5	9	14	33	36	4	109
	総和%	1.8%	1.8%	3.7%	4.6%	8.3%	12.8%	30.3%	33.0%	3.7%	100

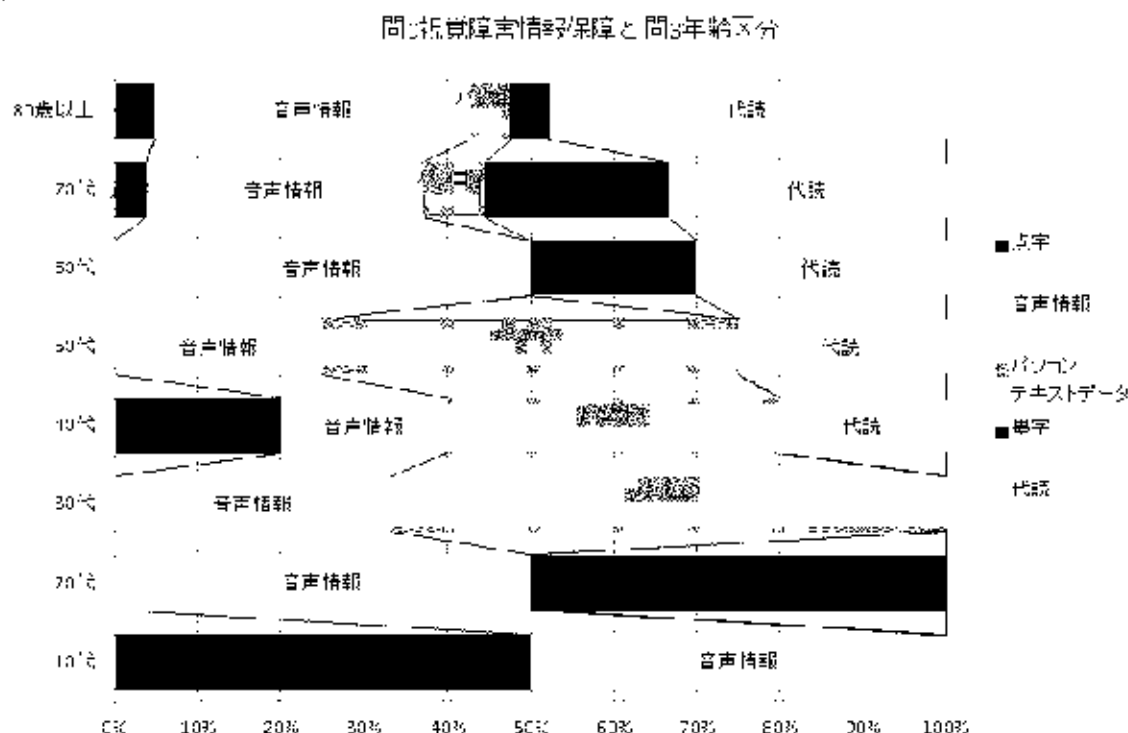
おんせいじょうほう もっと たか つぎ だいどく てんじ
 音声情報が25.7%と最も高く、次に代読が22.9%で、点字・パソコン

テキストデータ・墨字は3%から9%と大きく差がでる結果となりました。次に

ねんだいべつ
 年代別にみていきます。



わかりやすくグラフにしてみます。



おんせいじょうほう せだい りよう だいどく
音 声 情 報 は、どの世代にも利用しやすいことがわかりました。また代 読

ねんだい たか りよう いっぽう わか
は 年 代が高くなるほど利用がしやすく、一 方パソコンテキストデータは若い

せだい りよう だい だい かいとうぼすう めい
世代になると利用しやすいようです。20代・10代の回 答 母 数 が 2 名 と

すく こんがい ちょうき どうげいてき よ と
少なかったため今 回 の 調 査 では 統 計 的 に読み取ることはできませんでした。

た かいとう わり もっと せんたく こうもく た
また「その他」での回 答 が 3 割 と 最 も 選 択 された 項 目 でしたので、その他

きじゅつ いか とお
での記 述 をまとめると、以下の通りです。

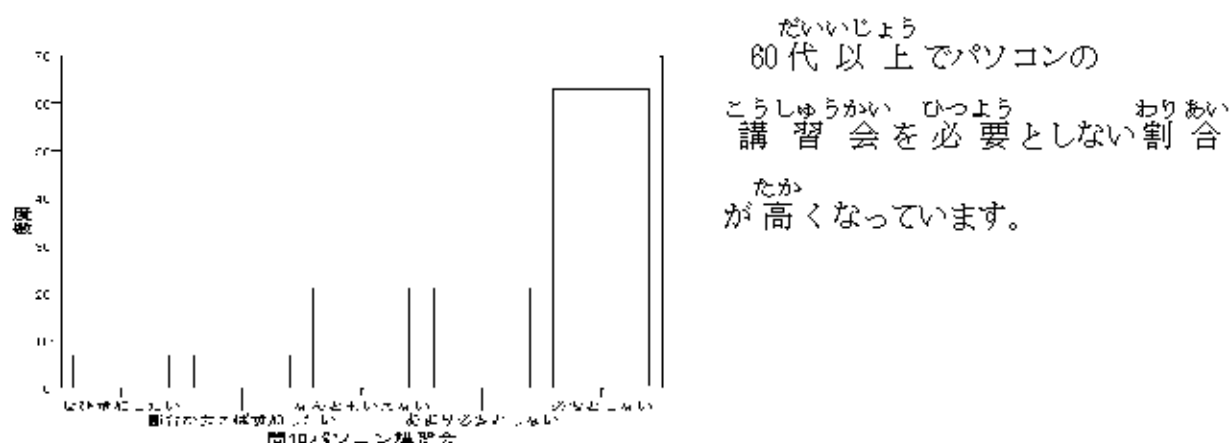
その他(自由記述)

今のままで良い	3
市役所から情報 came 来たことがよい	1
太く大きい字	2
認知症等で理解できない	3
文書・手紙等	9
Eメール	1
無回答	14
計	33

とい しかくしょうがい かた たいしょう こうしゅうかい さんか
 問10 視覚障害のある方を対象にしたパソコン講習会があれば参加したい
 ですか。

問10 パソコン講習会

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	ぜひ参加したい	7	0.6	5.9	5.9
	都合が会えば参加したい	7	0.6	5.9	11.8
	なんともいえない	21	1.8	17.6	29.4
	あまり必要としない	21	1.8	17.6	47.1
	必要としない	63	5.3	52.9	100.0
	合計	119	10.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,061	89.9		
合計		1,180	100.0		



問3 年齢区分と問10 パソコン講習会のクロス表

			問10 パソコン講習会					合計
			ぜひ参加した い	都合があえば 参加したい	なんともいえ ない	あまり必要とし ない	必要としない	
問3 年齢区分	10代	度数	1	0	1	0	0	2
		総和の%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%		1.6%
	20代	度数	1	0	0	1	1	3
		総和の%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	2.4%
	30代	度数	0	1	0	2	1	4
		総和の%	0.0%	0.8%	0.0%	1.7%	0.8%	3.3%
	40代	度数	1	0	0	1	4	6
		総和の%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	3.3%	4.9%
	50代	度数	1	1	3	0	2	7
		総和の%	0.8%	0.8%	2.5%	0.0%	1.7%	5.8%
	60代	度数	0	1	5	4	8	18
		総和の%	0.0%	0.8%	4.2%	3.3%	6.7%	15.0%
	70代	度数	2	2	6	4	24	38
		総和の%	1.7%	1.7%	5.0%	3.3%	20.0%	31.7%
	80代以上	度数	1	0	4	9	23	37
		総和の%	0.8%	0.0%	3.3%	7.5%	19.2%	30.8%
欠損値	度数	0	2	2	0	1	5	
	総和の%	0.0%	1.7%	1.7%	0.0%	0.8%	4.2%	
合計	度数	7	7	21	21	64	120	
	総和の%	5.8%	5.8%	17.5%	17.5%	53.3%	100.0%	



ほうこく ちょうかくしょうがい も かた たず
報告3 聴覚障害をお持ちの方にお尋ねします。

とい 11 あなたは、にちじょうせいかつ ほうほう なん
 問 11 あなたは、日常生活のコミュニケーションの方法は何ですか。

問11 聴覚障害コミュニケーション

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	手話	1	0.1	2.3	2.3
	手話と口話	4	0.3	9.3	11.6
	口話	33	2.8	76.7	88.4
	筆記と片言の手話	3	0.3	7.0	95.3
	筆記	2	0.2	4.7	100.0
	合計	43	3.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,137	96.4		
合計		1,180	100.0		

こうわ
 口話でのコミュニケーションが76.7%と圧倒的に高く、次に「手話と口話」が
 9.3%、手話は2.3%でした。年代別で見えてみると20代から40代までは「口話」よ
 り「手話と口話」の割合が多く回答されている一方、50代以上から特に80
 歳以上では手話を選んだ人はなくなり「口話」を中心に「筆記」を含むコ
 ミュニケーションの回答が増える結果となりました。



とい ちょうかくしょうがいしゃむ しゅわこうざ かいさい さんか
 問 1 2 聴 覚 障 害 者 向 け の 手 話 講 座 を 開 催 し た ら 参 加 し た い で す か 。

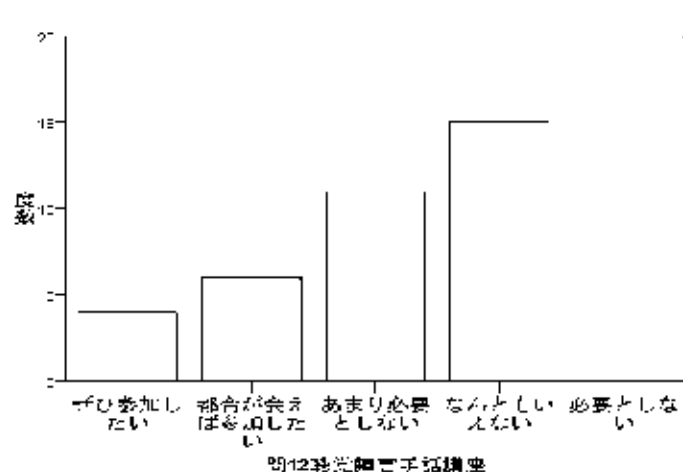
問12 聴覚障害手話講座

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	ぜひ参加したい	4	0.3	7.5	7.5
	都合が会えば参加したい	6	0.5	11.3	18.9
	なんともいえない	15	1.3	28.3	47.2
	あまり必要としない	11	0.9	20.8	67.9
	必要としない	17	1.4	32.1	100.0
	合計	53	4.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	1,127	95.5		
合計		1,180	100.0		

問3 年齢区分と問1 1 聴覚障害コミュニケーションのクロス表

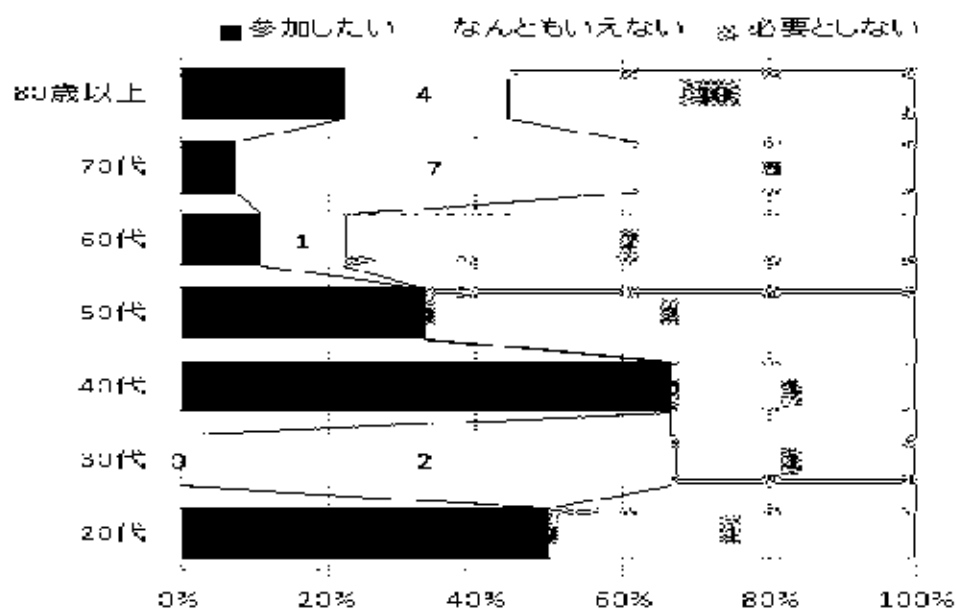
			問11 聴覚障害コミュニケーション					合計
			手話	手話と口話	口話	筆記と方言の手話	筆記	
問3 年齢区分	20代	度数	0	2	0	0	0	2
		総和の%	0.0%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%
	30代	度数	0	1	1	1	0	3
		総和の%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%	0.0%	7.0%
	40代	度数	1	1	0	0	0	2
		総和の%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%
	50代	度数	0	0	3	0	0	3
		総和の%	0.0%	0.0%	7.0%	0.0%	0.0%	7.0%
	60代	度数	0	0	4	1	0	5
		総和の%	0.0%	0.0%	9.3%	2.3%	0.0%	11.6%
	70代	度数	0	0	8	0	0	8
		総和の%	0.0%	0.0%	18.6%	0.0%	0.0%	18.6%
	80代以上	度数	0	0	15	1	2	18
		総和の%	0.0%	0.0%	34.9%	2.3%	4.7%	41.9%
	欠損値	度数	0	0	2	0	0	2
		総和の%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	0.0%	4.7%
合計	度数	1	4	33	3	2	43	
	総和の%	2.3%	9.3%	76.7%	7.0%	4.7%	100.0%	





かいとうすう ばさう すく
回答数の母数が少ないため
とうけいてき あき
統計的には明らかになりませんが、
ひつよう はんたん
「必要ない」という判断
かいとう おおよ
の回答が多く寄せられました。

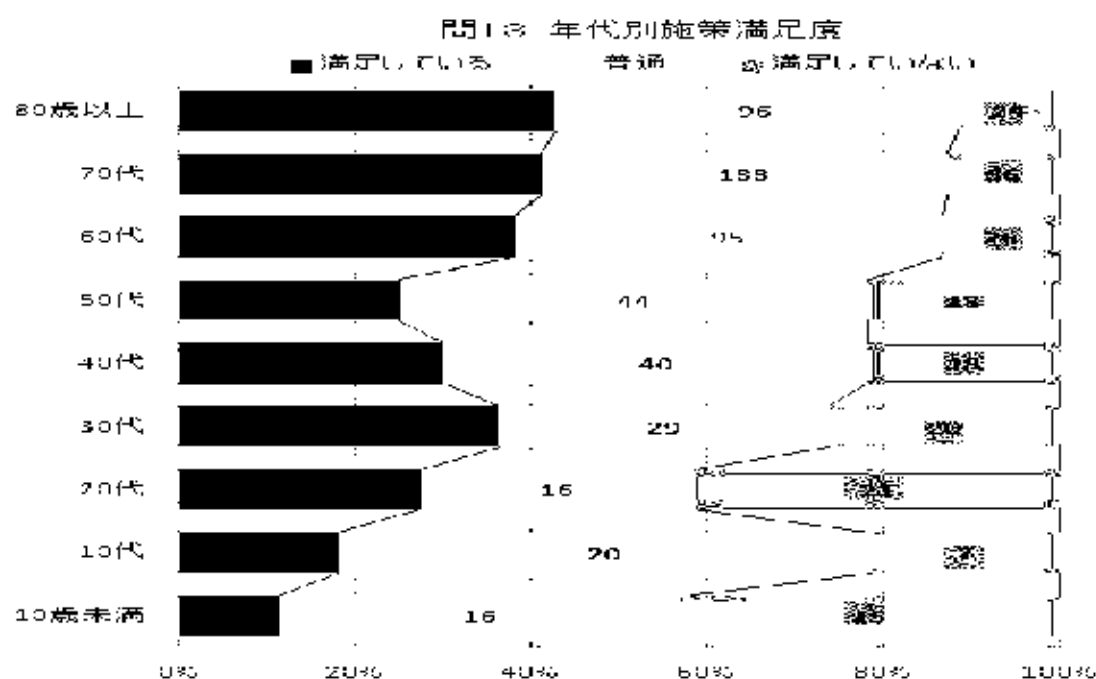
問12 手話講座の参加



ほうこく にっしん しょうがいしゃふくししき たす
報告 4 日進の障害者福祉施策についてお尋ねします

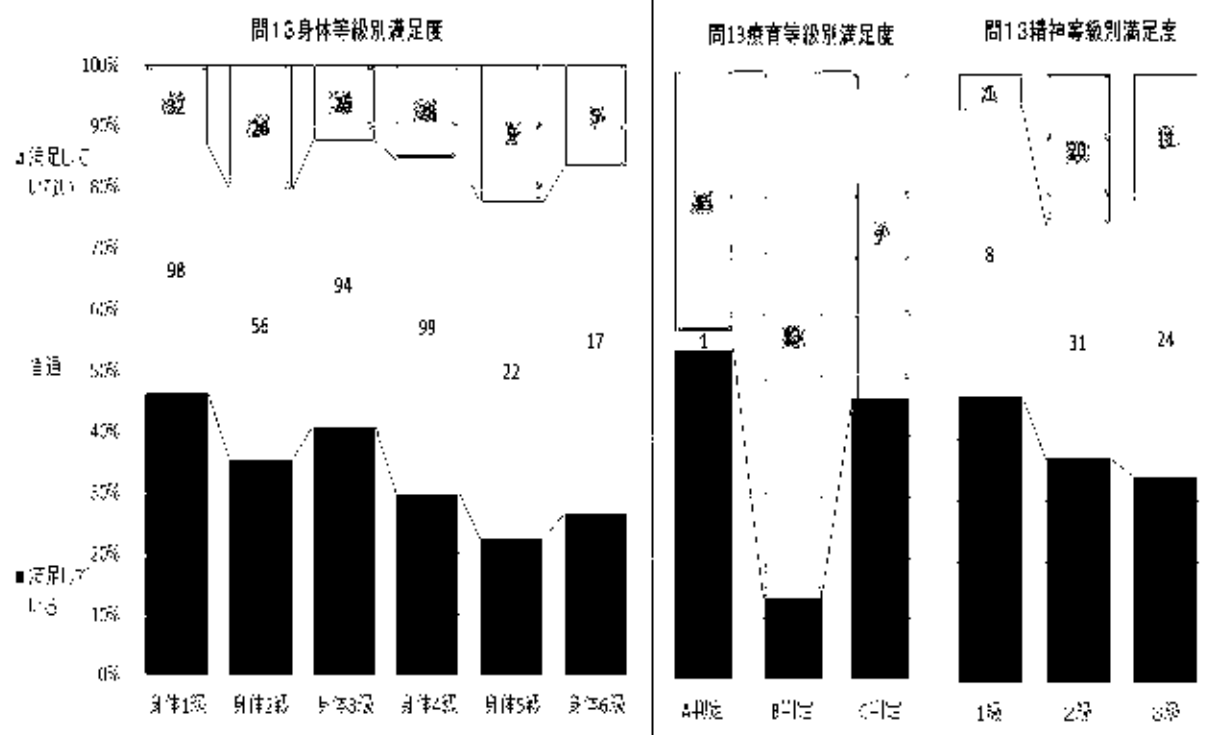
問13 施策満足度

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	大変満足している	73	6.2	6.7	6.7
	満足している	321	27.2	29.5	36.2
	普通	505	42.8	46.4	82.6
	あまり満足していない	146	12.4	13.4	96.0
	全く満足していない	44	3.7	4.0	100.0
	合計	1,089	92.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	91	7.7		
合計		1,180	100.0		



とい につしんし しょうがいしゃふくし せいど しさく まんぞく
 問 13 日進市の障 害 福祉の制度や施策に、満 足 していますか。

ねんだいべつ につしんし しょうがいふくしせいど しさく まんぞくど こそだ
年 代 別に日進市の障 害 福祉制度や施策の満 足 度をまとめると、子育て
 せだい さいみまん だい まんぞく わりあい まんぞく
 世代である10歳未満から20代までは満 足 している割 合より満 足 していない
 わりあい おお いっぽう さいいじょう ねんだい まんぞく わりあい
 割 合が多くなっています。一方40歳 以上の年代では満 足 していない割 合よ
 まんぞく わりあい おお にきよくか りゆう いこう
 り満 足 している割 合が多くなっています。この二極化の理由を、これ以降の
 しょうがいしゃきほんけいかく こうもく せんたくかいとう じゅうきじゅつ み
 「障 害 者 基 本 計 画 の 項 目」の選 択 回 答 や自由記 述から見ていきます。



しんたいしょうがい ひと しょうがいとうきゅう まんぞく かいとう
身 体 障 害のある人は、すべての障 害 等級で満 足 していない回 答よ
 まんぞく かいとう うわまわ しょうがい おも きゅう
 り、満 足 している回 答が上 回っています。さらに障 害が重い1 級 においては
 まんぞく かいとう もっと おお よ
 満 足 しているとの回 答が 最 も多く寄せられています。

ちてきしょうがい ひと とく はんてい ひと まんぞく かいとう きょくたん
知 的 障 害のある人の特にB判 定の人の満 足 している回 答が 極 端に
 すく はんたい まんぞく こた ひと ひりつ たか てちょう
 少なく、反 対に満 足 していないと答えた人の比率が高くなっています。手 帳の
 はんてい しえんほう きゅうふけってい しょうがいきそねんきんとう いっかんせい
 判 定と支 援 法 の給 付 決 定ならびに障 害基礎年金等の一 貫性は



せいどじょう せいど しきく そんざい
 制度上ないものの、何らかのB判定の人の満足に至らない制度や施策の存在
 かんが
 が考えられます。

せいしんしょうがい ひと とうきゅう まんぞく かいとう
精神障害のある人は、どの等級においても満足していない回答より
 まんぞく かいとう うわまわ ちてきしょうがい ひと ばあい
 満足している回答が上回っています。知的障害のある人の場合にもみられた
 きゅう はんてい じゅうど ひと たい きゅう はんてい ひと まんぞくど ひく
 1級（A判定）の重度の人に対し、2級（B判定）の人の満足度が低くなる
 けいこう どうよう
 傾向が同様にうかがえます。



とい にっしんし しょうがいふくし せいど しさく かん じゅう きじゅつ
問13 日進市の障害福祉の制度や施策に関して自由に記述してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問13制度施策意見
家族	男	10歳未満	2			当事者の声がなかなか通らない。本当に困っていることが伝わらない。
家族	男	10歳未満			3	扶助料現金給付(振込)は不要だと思う。
家族	男	10歳未満		A		〇〇〇〇を利用させていただいております。少しずつ、自身でやれることが増え、感謝しております。
家族	男	10歳未満		A		特別支援学級の予算がどんどん削減されていることに不満を感じます。その代りにどんなことに予算がまわされているのかを知りたい。
家族	男	10歳未満		B		保育園の障害児枠がない。〇〇〇〇以外の選択がない。
家族	男	10歳未満		B		〇〇〇〇の閉鎖がショック。代替えとなる策をこうじてください。
家族	男	10歳未満		B		放課後デイサービス利用日数の話し合いがスムーズに進まなかったことで、働いている親の大変さが理解されていないことを実感した。普通の子供に比べて苦勞が多いことをもっと理解してほしい。勤務日以外のサービス利用日数があってもいいと思います。
家族	女	10歳未満		B		対象者にとってよい制度もあるなか、こちらから申請しないとやってくれない不親切さ。
家族	女	10歳未満		B		冊子だけではわかりにくいのもっとアピールしてほしい。
家族	女	10歳未満		C		〇〇〇〇に入園しているが市に対する不満が多い。園の活動はとても満足していますが、日進市の障害児への対応がひどい。家族への対応もひどい。できる前と後の話の食い違いが大きすぎる。保育園の障害児枠をいい加減に徹底して下さい。不安で仕方ありません。
家族	男	10歳未満		C		すすく園が新しくなって、より細かに療育してもらえるようになった。
家族	男	10歳未満	1			前期計画の経過報告もアンケートと一緒に送ってほしい。ホームページはみづらかった。
家族		10歳未満	2			利用したい制度がない。



家族	男	10歳未満	2	A		〇〇〇〇に通っているが、9時～14時の療育時間前後の託児サービスをしてほしい。兄弟姉妹の学校行事などで朝8時半までに連れて行けたらと思うことがよくある。
家族	女	10歳未満	2	A		障害者支援センターと保健所の連携ができていない。
家族	女	10歳未満	6			市役所に相談に行った際に他人事ような対応で冷たく感じ、あまり相談したいと思わなかった。
家族	女	10代				立派な施設ができたり、こういったアンケートなどいろいろとある施策が全くと言っていいほど役に立っていない。講演会に出向いても形だけという感じで、それが施策に生かされていると感じられない。瀬戸市や長久手の方がよほど一つ一つ障害者のことを考えたことを進めていると思われる。そのためだけに長久手に引っ越したいと強く願っているほどである。
家族	女	10代		A		本人・関係者の意見や要望を聞き取り、改善していこうという意欲が感じられる。学校教育制度や就労支援等具体性に欠けるので、形だけではなく中身を充実させてほしい。
家族		10代		A		制度がころころ変わってわかりにくい。
家族	女	10代		A		利用できるサービスが市内に少ないので困っている。例: 知的のショートステイ
家族	女	10代		B		減額される扶助料が実際にどのように使われたのか公表してほしい。
家族	男	10代		C		情報を集めようとしないと知ることができない。情報収集しないと入ってこない制度や施策は意味がない。意味もわからずに扶助料を切られた。説明はどこにいつあったかもわからない。子供が生まれてから異常に気付いたのは親たちであり、それから何の助けもなかった。今も親亡き後の不安で心配。
本人	男	10代		C	2	市民が全然理解していない。市民が障害のある人のことを理解していないので知してほしい。



家族	男	10代		C	3	就労移行支援やA型が市内に無く、たとえば名古屋市内の施設を利用すると交通費の負担が大きい。名古屋市民であれば市営の交通費が免除されるそうです。日進市でも市内の施設を作るか交通費などの補助を検討してください。
本人	女	20代				くるりんバスの本数が少ない。
家族	男	20代			2	ある部分に障害があってもどこかに他の人にはない良いところがあるので、いろいろな障害を一緒にして考えるのではなく、個々のもつ良い所を伸ばせる社会がほしい。社会の宝を大切にしてほしい。
本人	男	20代			2	福祉特別乗車券がないのが残念。
本人	男	20代			3	巡回バスと交付金しかない。広報等紹介コーナーがあってもよいと思う。
本人	女	20代			3	何の制度があるのか何の施策があるのかよくわからない。
本人	女	20代			3	生活が苦しい。援助が少ない。働くところもない。
家族	男	20代		A		ホーム設立の補助金制度の早急な充実。
家族	男	20代		A		本人が利用できるサービスがどれくらいあるのかわかりづらい。わかりやすくしてほしい。どのような制度があるのかわからない。
家族	男	20代		A		日進市独自の制度などを生かし、障害者の住みやすい市にしてください。
家族	男	20代		B		他市町村との比較ができないためわからない。
本人	男	20代		C		療育Oの判定に関してほとんど支援がなく、普通の人と障害者とのはざまにあり助けてほしい。
家族	女	20代	1	A		制度に甘えてよいのかと申し訳なく思う。



本人	男	20代	1	C	本人・家族に対してわかりやすくしてほしい。利用したい制度があるのか ないのかよくわからないので、聞いた時も含めわかりやすく説明できるよ うにしてほしい。制度と施策にどのようなことがあるのかわからない。
家族	女	20代	2		手続きが非常に遅い。
本人	男	20代	3		タクシーのチケットが820円では行ける場所が限られてしまい、結局使え ない。補助金が減ったことが不満。2012年に自動車普通免許を取得した のですが、左アクセルに改造する必要がある、補助金を受領してから改造 し終わるまでの期間2か月の間に、運転の仕方を忘れて危うく交通事故に 遭いそうになりました。現に一度違反切符を切られました。免許取得中に 補助金を受け取れる仕組みづくりを要望します。補助金の申請は事後でも よいと思います。障害者「運転免許を取得したいので、補助金の申請を予 約します。教習所の明細のコピーはこれです」役所「受理しました。○日ま でに補助金の本申請をしてください」障害者「免許取得しましたので、補助 金の本申請します。自動車の改造は済ませてあります」役所「受理しまし た。○日までに振り込みます」ではだめでしょうか。
家族		20代	3	A	高齢者中心に動いているように思う。障害者はどんなに重たくても自立に 向かって生きてますから、ホームなどの支援をお願いします。



本人	男	20代	4			障害者がもっとしっかりとした所で就職できるように考えてほしい。視覚障害なのに3級からじゃないとタクシーチケットがでないのはおかしいと思う。
家族	女	20代	4	B		本当に本人が必要としている援助が受けられない。制約が多く、支援が思うように受けられないことが多い。
本人	女	30代				詳しく知らないので説明してほしい。
家族	女	30代				補装具の申請に行ったときに店の人と相談して行っているのに、古いものがまだ使えるとってみじめな思いをした。行政の担当者は女性でした。補装具の実状を知らない担当者は困る。
本人	女	30代			2	タクシーチケットを使ったら、タクシーの運転手にいやなことを言われて、今後タクシーチケットを使えない。どうしたらいいのかわかならない。持っている意味がない。



家族	男	30代		2	昨年4月に日進市議会で障害者扶助料(1か月1000円、1年12000円)削減可決されましたが私は不満です。なぜなら市議会で決定するまでに市民の意見アンケート、又障害者家族全員にアンケートを取るべきです。本市においてはH23.8現在で障害者2395人です(わたしの息子もその一人です)。家族同士でも意見は100%一致するとは限りません、年収1000万円以上の方が身体障害者の方で57人も居られると聞いてびっくりしました。半数以上の1329人の方が年収0です(私の息子もその一人です)。1000万円以上から又1000万円が9人、900万が8人、800万が10人、700万が22人で、600万が35人、そのような方々から扶助料削減するべきです。年収0の人からは1円も取るべきではないと思います。憲法25条の①はだれでも知っていますが、②は国はすべての生活部門において社会福祉および社会保障及び公衆衛生の増進に努めなければならないとのことです。このようにハンデを持っている弱者に対しての原点に反しています。今後はこのようなことがないように障害者の一家族として強く求めます。



本人	女	30代			2	医療費が無料でとても助かっている。
本人	女	30代			2	ヘルパーさんお願いするとお喋りだけでは、駄目なのであとぬい物やって頂くのも駄目なのでいやです。
本人	男	30代			2	扶助料の千円カットは納得できない。障害者の千円は健常者と同じにしないでほしい。
本人	男	30代			2	金額も多いと助かる。
本人	女	30代			2	障害者補助金を減らさないでほしかった。精神障害者が利用できる制度が少ないように思う。
本人	女	30代			2	精神障害者のデイケアや作業所がほしい。
本人	女	30代			3	子供を出産するにあたって保健センター・児童課の方にサポートしていただいた。保育園にも入園させていただいた。
本人	女	30代			3	くるりんバスの運行を増やしてほしい。
家族	男	30代		A		入所している息子の親亡き後の生活、入院中の施設への補助の減額、退院後の生活の場、知的・身体の高齢が進んでからの生活の場、先の見えない現実が解消されない。
家族	男	30代		A		周辺の市町村の様子をみながら施策をしていると思う。法人を育てようとするところがみられない。法人を作ってあとは任せただけでは、法人は成り立たない。法人から人をひっぱり抜いていくのはやめてほしい。日進市が職員をそだてなければいけない。
家族	男	30代		A		タクシー助成は存続させてほしい。
本人	男	30代		B		利用していることはわかるがその他はわからない。ホームページの閲覧は難しい。
本人	男	30代		C		低所得障害者が安心して生活できるとうれしい。

本人	女	30代	1		以前福祉課で女性の方に、障害者手帳の写真が古くなり本人確認ができないほどになってきたので作り直したい旨を伝えたら、写真が古くなったことくらいでは作り直せないし、そんな事例はないといわれて驚いた。こんな非常識な方が窓口で大丈夫なのだろうかと思う。
家族	女	30代	1		医療費の全額を市に負担していただいて助かっている。
本人	女	30代	3		制度や施策が具体的にどういったものか。良く理解できていない。通知やお知らせみたいなものがあるとわかりやすい。
本人	男	40代		2	プログラミング技術をいかして自宅で仕事ができるようにしてほしい。(社会復帰の支援)
本人	男	40代		2	仕事の紹介をお願いしたい。
本人	女	40代		2	くるりんバスの本数や路線を増やしてほしい。
本人	男	40代		2	障害者に対する制度・施策について障害者側から情報を得るのには限界があるので、できるだけ市のほうからもなるべく詳しく具体的な形で定期的に役立つ情報を発信してほしい。特に郵便物で知らせてほしい。
本人	男	40代		2	もう少し体の不自由な人の立場に立ってかんがえてもらいたい。
本人	男	40代		3	精神科の病院に通院していますが、今の病院にはカウンセリングがありません。すべての精神病院にカウンセリングの義務付けができればと思います。薬をもらうために通院しているようなものです。
家族	女	40代		A	福祉制度の施策に対して、すべての点で親切丁寧に指導していただき、本当に助かっています。
家族	男	40代		A	制度や施策が理解しにくいので、どのように利用させていただいたらよいのかよくわかりません。
家族	男	40代		B	親の死後、生活場所の確保が必要。
本人	男	40代	1		生活費がたりない。
本人	男	40代	1		障害手帳手当の減額に不満。
本人	男	40代	2		障害者の意見は無視されている。要望さえも聞かれたことがない。



[illegible]

本人	男	60代	1		名古屋市の友人たちと比べると当市の 制度施策には満足していない。
本人	男	60代	1		介助している者が自家用車で移動することがほとんどなので、タクシー券の代わりに一定のガソリン代などにかえてほしい。他県ではあることを聞いている。
本人	男	60代	1		内容についてあまり理解していないので無記入にした。
家族	男	60代	1		老健生活中ですので、手帳・タクシー助成・車税免除、市からの 扶助料ありがたく享受させていただいている。いずれ自宅への道を考えていますが、その過渡期を援助していただける施策を期待します。
本人	男	60代	1		日進市の障害者福祉の制度や施策をもっとわかりやすい方法で知らせてほしい。インターネットで調べてもよくわからなかった。
本人	男	60代	1		正直言って詳しく存じません。歌や言葉を楽しむ機会をふやしてほしい。
家族	男	60代	2		入所が困難。希望すればいつでも入所可能にしてほしい。入所金額が高い。年金だけでは支払えない。
本人	男	60代	2		パソコンを知らないからホームページとかわからない。
家族	女	60代	2		選挙のとき送られてくるカセットテープは、今はほとんどCDのため不要です。
本人	女	60代	3		大変ありがたく思っている。
本人	男	60代	3		パソコン教室をひらいてください。
本人	男	60代	3		給付金がさがったこと。
本人	男	60代	3		障害者の子を持つ親の側に立った施策を実施してほしい。親なき後の子供を心配されている方が多勢います。
本人	男	60代	3		他市町村の比較でしか判断できないが、人口規模からすればもう少し充実していても良い。納税に見合う内容を要望する。



本人	女	60代	4		市営の福祉具販売店を開店してください。私の場合、靴屋のマイスターに依頼せざるを得ず、高価な靴を購入している。専門のアドバイザー付きで市の援助が受けられるお店が必要だと思う。リハビリ施設での知人の多くがハーフメイドで高価な靴を利用しているのが現状。
本人	男	60代	4		うける人の級を上げてほしいと思います。
本人	女	60代	4		私はまだ今のところ自分で自分の事が出来るのですが病状がかわった場合はどこに相談するのかよくわからない。もう少し詳しい事が文書でもいいので送ってほしい。
本人	男	60代	4		ストマ管理(災害時)を取り入れてみようと検討している点、もう一歩前進する事を希望します。
本人	女	60代	4		施設が不十分。
本人	男	60代	4		犬猫の管理が不満。道を歩いていると急に犬が吠えるため、道に飛び出してしまうことがある。
本人	女	60代	4		8年前に他市から転入してきて、制度・手続きなどわからないことがある。
本人	女	60代	4		義足があわなくなり、新しいものを作りたいが、4月にならないと作れないといわれ困っている。障害必要なので、困っている。
本人	男	60代	5		扶助料の減額について大変不満に思います。
本人	女	60代	5		扶助料の減額とその決定方法について不満。
本人	女	60代	5		他市より引っ越してきてまだ日進のことがわかっていません。お世話になります。
本人	女	70代			一人暮らしになってからの生活が不安。
本人		70代			今迄の制度の継続。
家族	女	70代			全く分からないため。
家族	男	70代			安心して知事ができ、助かってます。
本人	男	70代		3	障害者福祉協議会は不要。現状通りできれば良好。

家族	男	70代			3	包括支援センターにお世話になっている。
本人	女	70代	1			特別養護老人ホームを作ってほしい。あると安心できる。
本人	男	70代	1			病院・通院などタクシー代金補助を少しでも良いからしてほしい。くるりんバスまで歩行困難。
本人	女	70代	1			心臓病を患っているのみで、他の身体に異常がないので制度の利用を受けている。
家族	男	70代	1			ケアマネが親身に相談にのってくれている。
家族	男	70代	1			移動手段の車。(車いすが大きすぎて今では乗れない)
本人	男	70代	1			タクシー券をもっとふやしてほしい。
家族		70代	1			日進市に来てから半年ですのであまりわからない。
本人	女	70代	1			制度毎年変化しているようですが、個人に変わった事の通知がほしい。公報を見落としているかも。
家族	男	70代	1			障害者を介護している家族の輪があればと年2回のバス旅行は時間が長くて行けなくて、せめてお茶会 ランチ会など(実費で)あればいいと思う。
家族	男	70代	1			福祉施策については大変なすかる。
本人	男	70代	1			広報にある程度の政策展開は理解できるが、外から見ると会議偏重にも見える。もっと実践的に。
家族	男	70代	1			いろいろお世話になっています。
本人	女	70代	1			制度施策がよくわからない。
本人	男	70代	1			どのような施策を行っているのか知らない。
本人	女	70代	1			制度を理解していなく、なにがつかえるかわからない。
本人	女	70代	1	A		皆様の税金をいただいているので心から感謝するのみです。



家族	男	70代	2			障害者手帳や介護認定やおむつ助成やその他制度も、あまり情報として広がっていない。自分たちが調べないとどんな制度があてはまるのかわからない。お年寄りは特に市役所にも行くことは大変で、もちろんHPなどはない。広報も字が小さいしわからないと思う。お年寄りに制度など、少しでも、わかりやすくなる手段を考えてほしい。
本人	女	70代	2			お金をもらえばよいのではなく、気力、知る気力を持ちたい。
本人	男	70代	2			障害者への就職・斡旋や希望転職等人の研修・指導等は聞かないが、ハローワークとのすみわけができていのでしょうか。くるりんバスの運転手や宅給食の配慮など感謝します。宅給食の女性担当は必ずインターホンを押して安否を確認してくれているようです。安心して行政サービスを享受しています。先日は、緊急連絡のNTTセットの点検も受けました。感謝しています。
家族	女	70代	2			ハイウェイの割引をうけたい。
本人	男	70代	2			言語聴覚士のいるデイケアがすくない。
家族	女	70代	2		2	項目によって○の数を増やしてもよいと思う。
家族	男	70代	3			市の障害福祉施設があることは知っていますが、利用はしていません。一人では立つこともできません。ヘルパーの介助と介護タクシーを利用して車いすで通院しています。
本人	男	70代	3			障害者自身集団検診が市から通知がきますが、検査する場合レントゲンバスで検査するので不自由です。検討を願います。
本人	女	70代	3			私にとっては、タクシー券が不要。(差額が高額になる)くるりんバスで運動のために頑張っている。



本人	男	70代	3		制度や施策についてもっと詳しいパンフレットがほしい。手帳発行時には各福祉協会に加入する事、強力に助言してほしい。現在では身障協会の方も年を重ねて人数も減少気味の状況ですから一人でも多く加入されることを願っています。
家族	男	70代	3		24年2月より介護度が増して介護についてあまり良くわからない。
本人	女	70代	3		受けられるサービスの説明対応をここにしてほしい。聞きにくいといわれない。
本人	男	70代	3		今のところ満足しているため現在の制度を続けてください。年金生活のため、この制度がないと生活できません。
本人	男	70代	4		日進市の障害福祉制度の施策に関してあまり知らない。
本人	男	70代	4		今のところ不自由の点がありますが、なんとか自活できるため、制度計画についてはわからない。
本人	女	70代	4		市外の障害者の人たちと話すと、満足している。
本人	女	70代	4		一か月に2000円頂るのがとても助かっています。
家族	女	70代	4		自分から聞いたたりしなければどのような制度があるかわからない。障害者に定期的な確認が必要。
		70代	4		いずれも世話になるやも自動車も活用して図書館もりようさせてもらっている。
本人	男	70代	4		良く配慮されている。
本人		70代	5		何をやっているのかすら不明。
		70代	5		リハビリに通ってますが、家族も大変なのでなんか方法を考えてほしい。
本人	男	70代	6		左半身と腰に障害あれど一人で歩くことができるし自分の事はできるので満足。
本人	男	70代	6		障害者の給付金が少なすぎる。



家族	男	80歳以上				基準がどうか知らないので回答できない。
家族	男	80歳以上				年とると、バス・タクシーはほとんどのらずく歩くのが疲れやすい割には いない。私達が負担している方が多い！内部障害(4級)で85歳で家族 が病院へ(買い物も)連れていくのに車が対象にならず残念です。高齢に なれば病院の回数も多いので、4級で高齢の障害者の時は車の対象もつ けてほしいです。
本人	男	80歳以上				自立しているので具体的なことはわかりません。
本人	男	80歳以上				制度の運用について、年内に適用を受けても年度内に利用できないのは おかしい。後期高齢者保険も特別徴収も申し込みからながくかかりすぎ。
家族	女	80歳以上	1			リハビリを6か月で打ち切るのは早い。その頃は少し声をでていたり、呑 み込めていて車いすに乗り自分の力で動いていた。リハビリをやめてか ら、半年以上たつと呑み込みをしなくなり、寝たきりになった。
本人	女	80歳以上	1			元気なうちは自宅で生活したい。
本人	女	80歳以上	1			くるりんバスを利用したくても不自由。時間帯もルートも不自由。病院も日 進だけでないので、市役所中心ではなく、日進駅とか古戦場につなげてほ しい。



本人	男	80歳以上	1			85歳障害1級の男と82歳リウマチで通院中の妻の二人の生活であるが、若い時から計画的に老齢を考え収入もあるようにしたから生活に不自由はない。ただし行政側からただの一度たりとも「お変わりありませんか」「お元気ですか」の電話なり訪問がない。しかもほかの市町村などでは高齢者向けに祝物が出るところもあるようです。ものがほしいというわけではありませんが、世の中から放置され税金だけではとられているような気持ちです。もっときめの細かいやり方があるのではないのでしょうか。
家族	男	80歳以上	1			見たことがないからわからない。
家族	男	80歳以上	1			現在〇〇老人保健施設に入所しています。
本人	男	80歳以上	1			情報が入ってこない。福祉用具の情報が新製品などに出了ときに知らせしてほしい。
本人	男	80歳以上	1			制度や施策について知らないのでアンケートを見て満足した。
本人	男	80歳以上	1			施策が何をしているのかわからない。



本人	男	80歳以上	1			時計を買いいたいと思い、音声時計を買いおうと思ったが補助対象になっていない。使え本人が便利なものを対象してほしい。
家族	男	80歳以上	1			あまりよくわからない。視覚障害のため一人では動いたり、食事もできないが、介護保険で費用がかかるし介護認定も手足が動く為低いにんていしかもらえない。医療だけでなく介護でも障害者福祉制度を考えてもらいたい。
本人	男	80歳以上	1			他市と共調。
家族	女	80歳以上	1			大変満足して利用させていただき、感謝しております。ヘルパーさん、マネージャーさんにも良くお話を聞いていただき感謝満足です。
本人	男	80歳以上	1			大変配慮されている。
本人	女	80歳以上	1			障害者手当等で何とか生き延びている。なくさないでください。
家族	女	80歳以上	1			使いたいサービスがどの制度であるのかわかりづらい。
本人	女	80歳以上	1			くるりんバスの無料。
家族	女	80歳以上	2			本当に不自由な人に協力を。軽度でも。
	女	80歳以上	3			家族に気を使っている。障害者入所施設に入りたい。
本人	男	80歳以上	3			くるりんバスの逆方向。
家族	男	80歳以上	3			〇〇ホームの施設に入所してますのでアンケートにあてはまらないのでアンケート書きにくいです。
本人	女	80歳以上	3			買い物に車を出して連れて行ってくれる、庭の草取り、等のボランティアがいれば助かります。
本人	女	80歳以上	3			まだ半年しか経過していないので詳しくわかりませんが、現状では大変満足している。
本人	男	80歳以上	3			障害証明、発行など市役所に行かなくてはならない。その所のよい方法をお願いしたい。
本人	女	80歳以上	3			現在は障害サービスの利用ない為不明。
本人	女	80歳以上	3		3	私は今のままで良い。
家族	男	80歳以上	4			認知症も障害と認めてほしい。



家族	男	80歳以上	4		4級だとタクシーチケットがもらえない為、手帳をもらっても意味がない。下級の障害の場合、チケットを出してもらえば大変助かると思います。その方々の障害に対して、各自と対応したシステムになることを願います。何級だからここまでの補助というのではなく、臨機応変に素早く判断し、対応していただければと思います。このアンケートで数字を出したシステムではなく、窓口にも来たり、電話での要求を生で聞いて、そのつど応じてほしいです。級の決定も線引きしてることでギモンがあります。
本人	男	80歳以上	4		障害の認定されなくても日常生活に不自由をきたしている者は多い。形式的な規則にとられない施策を。
本人	男	80歳以上	4		障害に対して補助金がでる。制度があるとの説明がなく、6年間装具を自費で購入した。なぜこういう補助制度があることを市役所の福祉課の人間は教えてくれなかったのか。おかしい制度だと今も思っている。
本人	男	80歳以上	4		以前日進市の障害者のメンバーで活動していましたが、年間予算を少しでも活動手帳を持っている方には障害者の補助金を年の最初に支給時に1000円を障害者の団体の活動費に回すようにしていただくといいいろいろな事業などができます。市役所支出する予算を少なくしてすむと思いますが。
本人	女	80歳以上	5		夜になると全然見えませんのでひとり暮らしをしているものにとって不安です。もし何かあった時のためにブザー等連絡できるところに通じるとありがたい。
		欠損値			家族が留守の時の居場所を増設してほしい。



		欠損値		2	精神障害者の就労支援を早急にしてほしい。
		欠損値		2	親の死後の生活が不安。本人の命である障害者年金・補助金など提出しなければならぬ更新の事が一番心配。ポストに入れられても大切な書類を確認して提出するには前もって本人に知らせて手続きができるサポーターがいます。
家族	女	欠損値		A	家族がいなくなった時の入所施設。
本人	男	欠損値		B	理解が難しい。
		欠損値	1		他を知らないから。
本人	女	欠損値	1		視覚障害だけの施設がほしい。
		欠損値	1		年金生活者のため、税金をあまりとらないでもらいたい。
		欠損値	2	2	障害者の社会参加とは普通の人のようにふるまってゆくことが開かれた空間の中に心の安らぎ求め、見守られてあたたかなまなざしでいつもきあってくれる空間が必要だと思う。問題はよく話し合われて納得した結論に導かれるが、やはりすべてでは、、、。
		欠損値	3		月に一度くらい地下鉄に乗ってデパートに行きたいが、家の者が心配だからダメだといわれるので、できたら付き合ってくださいの方がいればよいと思っている。
本人	男	欠損値	3		市で行っている施策の内容自体が良くわからない。もっとPRすべき。
本人	女	欠損値	3		手当の半額はつらい。



問 14 ^{じゅうじつ}充 実 してほしい ^{しょうがいふくし}障 害 福祉サービスは、^{なん}何 ですか。

^{こうもく}17 項 目 にわたり ^{しょうがいふくし}障 害 福祉サービスに関する5 段 階 による満 足 度 の回 答 は
^{いか}以下のとおりです。

^{だんかいしやくど}5 段 階 尺 度 は

「1 段 階：^{だんかい}早 急 に充 実 してほしい」・「2 段 階：^{だんかい}充 実 してほしい」

「3 段 階：^{だんかい}現 状 のままだよい」・「4 段 階：^{だんかい}あ ま り 必 要 でない」

「5 段 階：^{だんかい}必 要 ない」としました。

問14-1 居宅介護

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 早急に充実してほしい	74	6.3	9.9	9.9
充実してほしい	294	24.9	39.3	49.2
現状のままでよい	268	22.7	35.8	85.0
あまり必要ない	38	3.2	5.1	90.1
必要ない	74	6.3	9.9	100.0
合計	748	63.4	100.0	
欠損値 システム欠損値	432	36.6		
合計	1,180	100.0		

問14-2 重度訪問介護

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 早急に充実してほしい	6	5.2	8.9	8.9
1	1			
充実してほしい	261	22.1	38.2	47.1
現状のままでよい	238	20.2	34.8	81.9
あまり必要ない	31	2.6	4.5	86.4
必要ない	93	7.9	13.6	100.0
合計	684	58.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	496	42.0		
合計	1,180	100.0		



問14-3 同行援護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	54	4.6	8.0	8.0
	充実してほしい	230	19.5	34.3	42.3
	現状のままでよい	269	22.8	40.1	82.4
	あまり必要ない	34	2.9	5.1	87.5
	必要ない	84	7.1	12.5	100.0
	合計	671	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	509	43.1		
合計		1,180	100.0		

問14-4 行動援護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	68	5.8	10.0	10.0
	充実してほしい	228	19.3	33.4	43.3
	現状のままでよい	269	22.8	39.4	82.7
	あまり必要ない	43	3.6	6.3	89.0
	必要ない	75	6.4	11.0	100.0
	合計	683	57.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	497	42.1		
合計		1,180	100.0		

問14-5 重度障害者等包括支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	65	5.5	9.6	9.6
	充実してほしい	255	21.6	37.5	47.1
	現状のままでよい	245	20.8	36.0	83.1
	あまり必要ない	30	2.5	4.4	87.5
	必要ない	85	7.2	12.5	100.0
	合計	680	57.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	500	42.4		
合計		1,180	100.0		

問14-6 短期入所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	106	9.0	15.1	15.1
	充実してほしい	261	22.1	37.2	52.4
	現状のままでよい	221	18.7	31.5	83.9
	あまり必要ない	32	2.7	4.6	88.4
	必要ない	81	6.9	11.6	100.0
	合計	701	59.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	479	40.6		

問14-3 同行援護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	54	4.6	8.0	8.0
	充実してほしい	230	19.5	34.3	42.3
	現状のままでよい	269	22.8	40.1	82.4
	あまり必要ない	34	2.9	5.1	87.5
	必要ない	84	7.1	12.5	100.0
	合計	671	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	509	43.1		
合計		1,180	100.0		

問14-7 実療養介護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	66	5.6	9.6	9.6
	充実してほしい	266	22.5	38.9	48.5
	現状のままでよい	236	20.0	34.5	83.0
	あまり必要ない	31	2.6	4.5	87.6
	必要ない	85	7.2	12.4	100.0
	合計	684	58.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	496	42.0		
合計		1,180	100.0		

問14-8 生活介護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	83	7.0	12.0	12.0
	充実してほしい	251	21.3	36.2	48.1
	現状のままでよい	249	21.1	35.9	84.0
	あまり必要ない	34	2.9	4.9	88.9
	必要ない	77	6.5	11.1	100.0
	合計	694	58.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	486	41.2		
合計		1,180	100.0		

問14-9 施設入所支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	102	8.6	14.6	14.6
	充実してほしい	263	22.3	37.7	52.3
	現状のままでよい	228	19.3	32.7	85.0
	あまり必要ない	21	1.8	3.0	88.0
	必要ない	84	7.1	12.0	100.0
	合計	698	59.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	482	40.8		
合計		1,180	100.0		

問14-10 ケアホーム

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	82	6.9	12.1	12.1
	充実してほしい	209	17.7	30.7	42.8
	現状のままでよい	257	21.8	37.8	80.6
	あまり必要ない	40	3.4	5.9	86.5
	必要ない	92	7.8	13.5	100.0
	合計	680	57.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	500	42.4		
合計		1,180	100.0		

問14-11 自立訓練

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	99	8.4	14.4	14.4
	充実してほしい	247	20.9	36.0	50.4
	現状のままでよい	224	19.0	32.6	83.0
	あまり必要ない	32	2.7	4.7	87.6
	必要ない	85	7.2	12.4	100.0
	合計	687	58.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	493	41.8		
合計		1,180	100.0		

問14-12 就労移行支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	111	9.4	16.5	16.5
	充実してほしい	204	17.3	30.4	46.9
	現状のままでよい	215	18.2	32.0	79.0
	あまり必要ない	36	3.1	5.4	84.4
	必要ない	105	8.9	15.6	100.0
	合計	671	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	509	43.1		
合計		1,180	100.0		

問14-13 就労継続支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	100	8.5	15.2	15.2
	充実してほしい	194	16.4	29.4	44.6
	現状のままでよい	219	18.6	33.2	77.8
	あまり必要ない	38	3.2	5.8	83.6
	必要ない	108	9.2	16.4	100.0
	合計	659	55.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	521	44.2		

問14-3 同行援護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	54	4.6	8.0	8.0
	充実してほしい	230	19.5	34.3	42.3
	現状のままでよい	269	22.8	40.1	82.4
	あまり必要ない	34	2.9	5.1	87.5
	必要ない	84	7.1	12.5	100.0
	合計	671	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	509	43.1		
合計		1,180	100.0		

問14-14 グループホーム

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	84	7.1	12.7	12.7
	充実してほしい	194	16.4	29.2	41.9
	現状のままでよい	251	21.3	37.8	79.7
	あまり必要ない	37	3.1	5.6	85.2
	必要ない	98	8.3	14.8	100.0
	合計	664	56.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	516	43.7		
合計		1,180	100.0		

問14-15 児童発達支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	68	5.8	10.7	10.7
	充実してほしい	200	16.9	31.3	42.0
	現状のままでよい	232	19.7	36.4	78.4
	あまり必要ない	22	1.9	3.4	81.8
	必要ない	116	9.8	18.2	100.0
	合計	638	54.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	542	45.9		
合計		1,180	100.0		

問14-16 放課後等デイサービス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	73	6.2	11.4	11.4
	充実してほしい	185	15.7	28.9	40.3
	現状のままでよい	239	20.3	37.3	77.7
	あまり必要ない	25	2.1	3.9	81.6
	必要ない	118	10.0	18.4	100.0
	合計	640	54.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	540	45.8		

問14-3 同行援護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	54	4.6	8.0	8.0
	充実してほしい	230	19.5	34.3	42.3
	現状のままでよい	269	22.8	40.1	82.4
	あまり必要ない	34	2.9	5.1	87.5
	必要ない	84	7.1	12.5	100.0
	合計	671	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	509	43.1		
合計		1,180	100.0		

問14-17 保育所等訪問支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	72	6.1	11.3	11.3
	充実してほしい	178	15.1	27.9	39.1
	現状のままでよい	245	20.8	38.3	77.5
	あまり必要ない	26	2.2	4.1	81.5
	必要ない	118	10.0	18.5	100.0
	合計	639	54.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	541	45.8		
合計		1,180	100.0		

わりいじょう ひと ひつよう かいとう こうもく じりつくんれん しせつ
 5割以上の方が必要と回答している項目は「11自立訓練」・「9施設

にゅうしよしえん たんきにゅうしょ みつ こうもく たか ひつようわりあい
 入所支援」・「6短期入所」でした。この三つの項目が高い必要割合を

しめよういん ひと こんがみ ちょうさ だい だい だい
 示す要因の一つとして、今回の調査では64.6%が60代・70代・80代であることか

しせつにゅうしよしえん とくべつようごろうじん かみごほげん たんきにゅうしょとう
 ら「9施設入所支援」を特別養護老人ホームや介護保険の短期入所等と

くべつ かいとう かんが くわ いこう
 区別なく回答されているのではと考えられます。さらに詳しく、以降それぞれの

こうもく ねんれいべつ しょうがいべつ とくちょう
 項目について「年齢別」「障害別」で特徴をみていきます。わかりやすくす

だんかみしゃくど さっきゅう じゅうじつ じゅうじつ
 るためにグラフでは、5段階尺度を「1早急に充実」と「2充実してほし

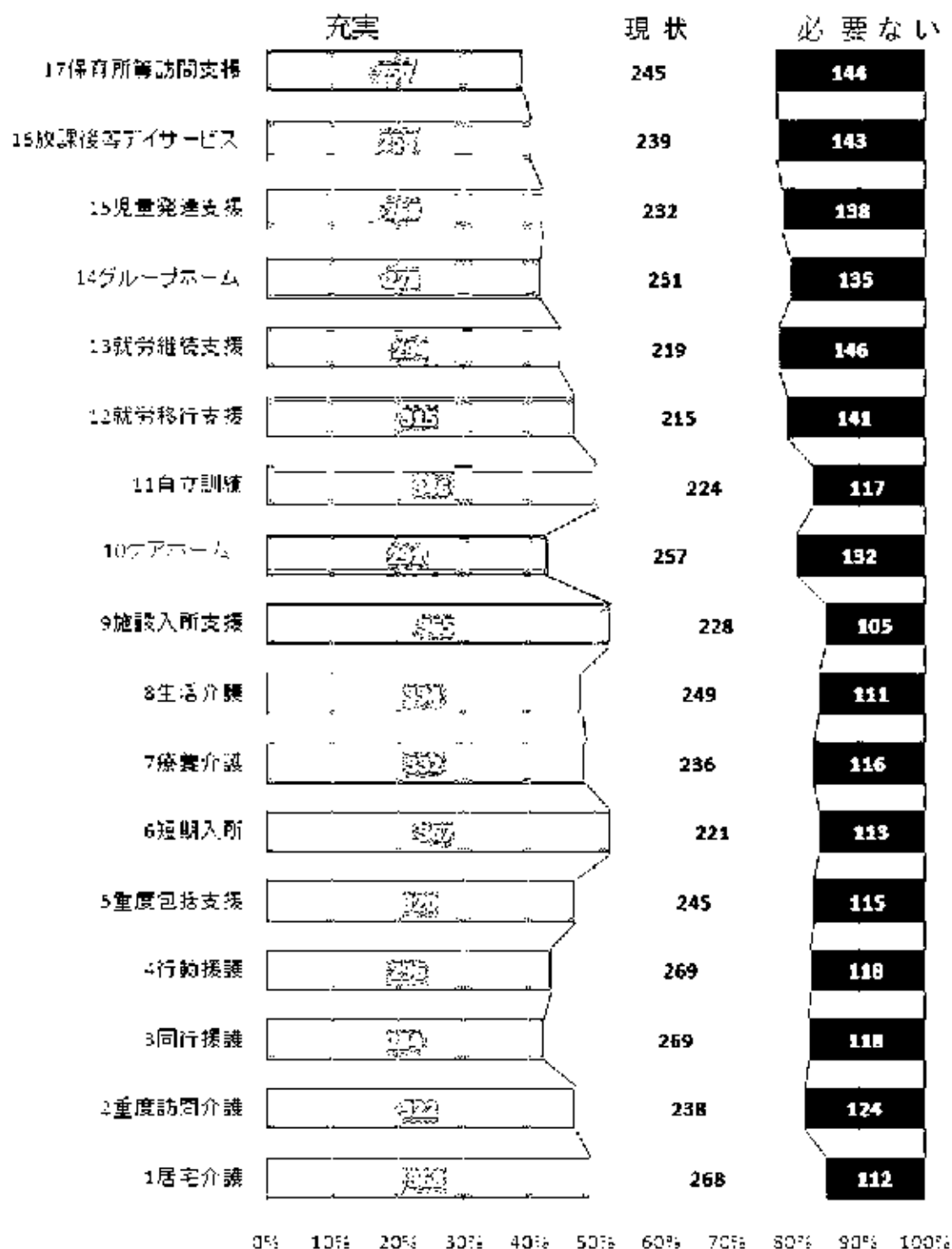
こうもくすうち あ じゅうじつ
 い」の項目数値を合わせ「充実」とあらわしてあります。

ひつよう ひつよう こうもくすうち あ ひつよう
 また「4あまり必要でない」と「5必要ない」の項目数値を合わせ「必要な

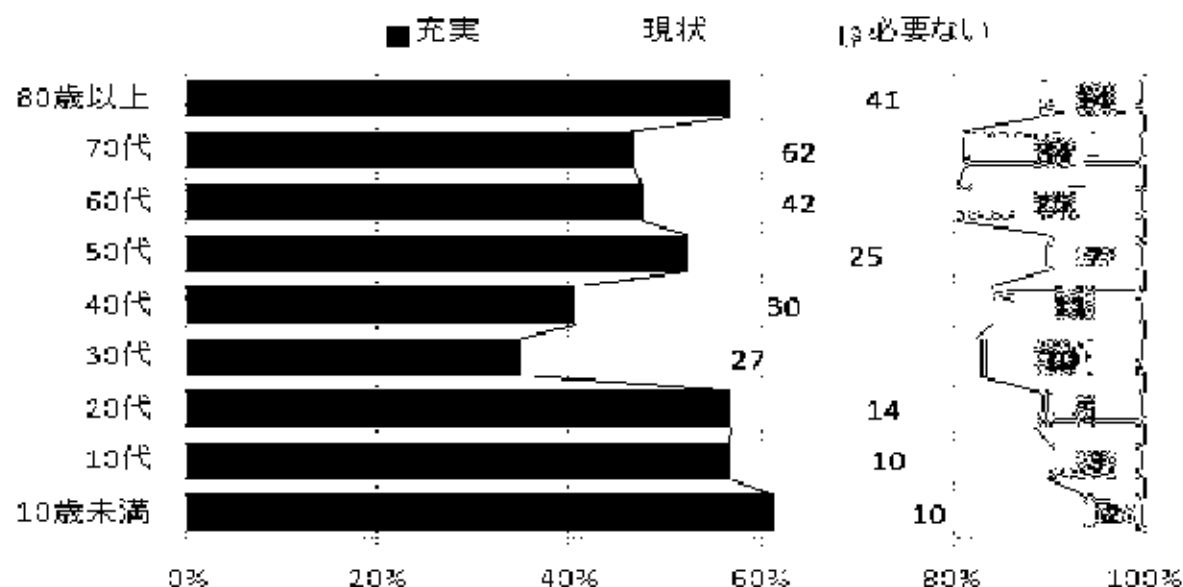
し」とあらわしてあります。



問14 充実の必要 全体

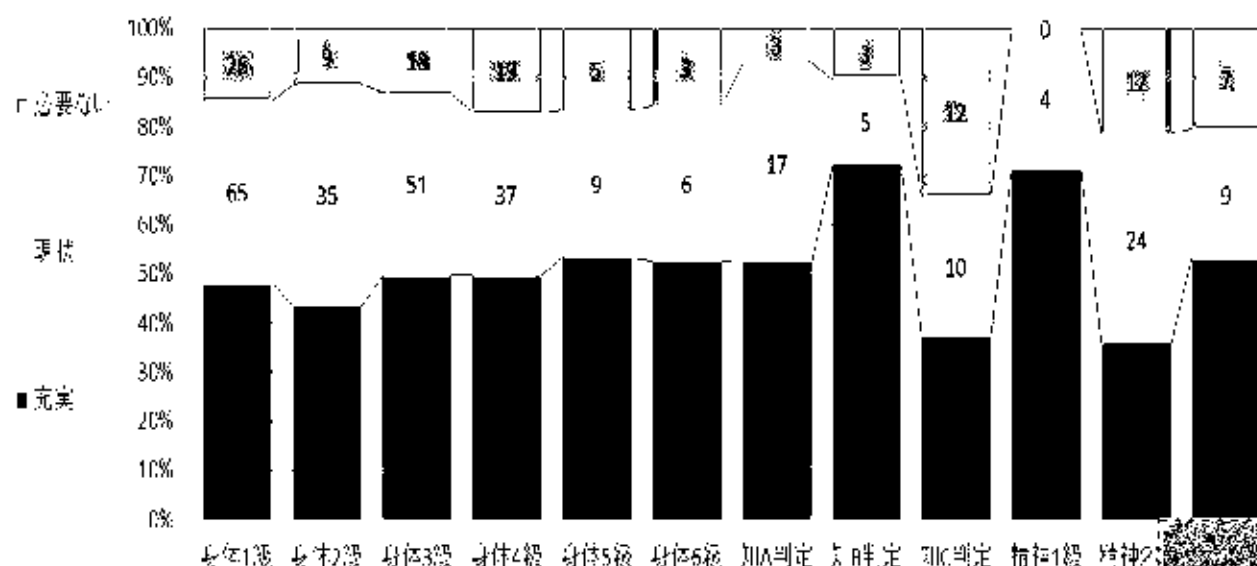


問14-1 居宅介護と年齢区分



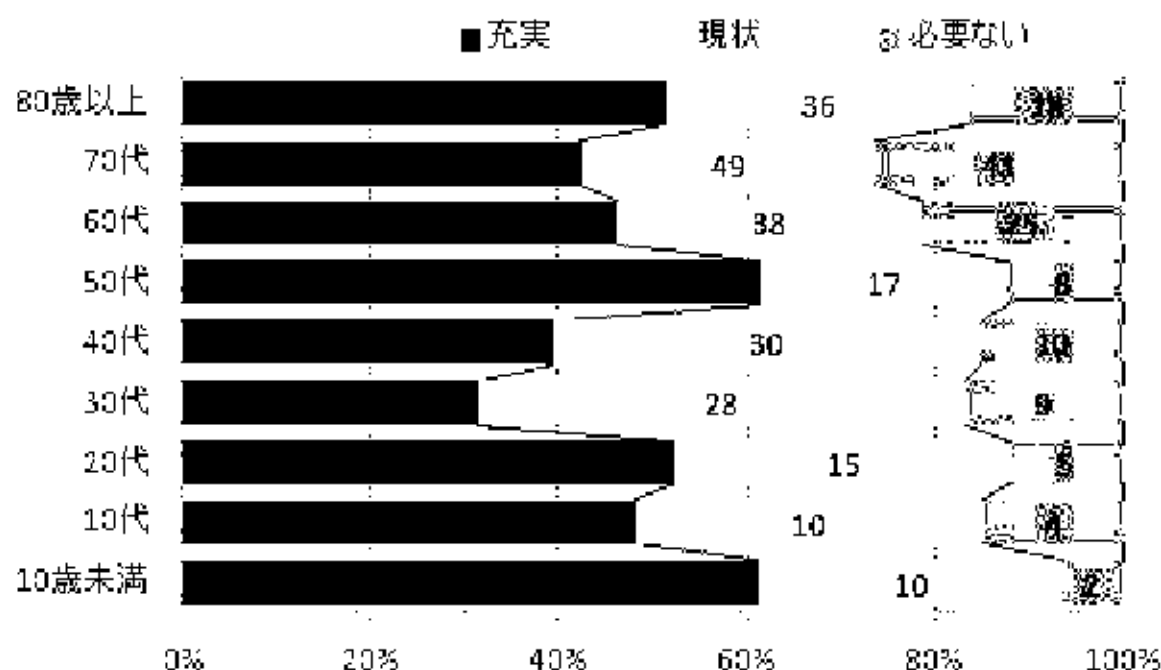
居宅介護と年齢別では20歳代以下の世代と50歳以上の世代で充実希望が高くなっています。また60代と70代世代は充実希望が高いのに対して「必要ない」との割合も高い傾向になっています。他人の世話になりたくない、いまのところ一人暮らしではないから、家族が看てくれているから必要ないと思っている回答も一定数あるのではと推察されます。そして30代の「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。

問14-1居宅介護と介護等級



しょうがいべつ 障害別では、とく りょういくてちょう はんてい ひと せいしんしょうがいしゃほけんふくし
 療育手帳B判定の人と精神障害者保健福祉
 てちょう きゅう ひと じゅうじつ きぼう たか
 手帳1級の人の「充実」希望の低いことがわかります。

問14-2 重度訪問介護と年齢区分

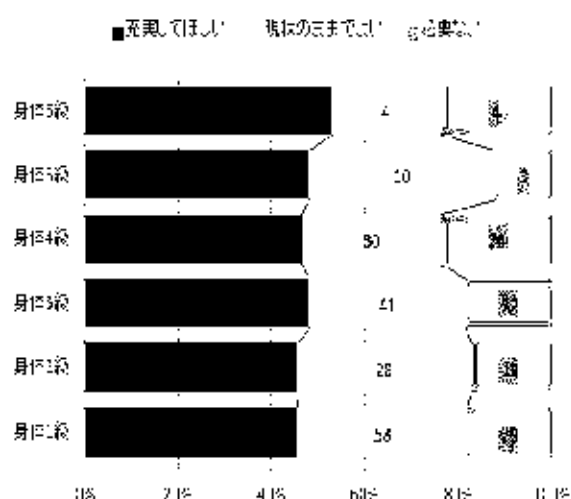


じゅうどほうもんかいご ねんれいべつ
 重度訪問介護と年齢別では、ここでも30代の「現状」の回答割合
 たか とくちょうてき あらわ
 が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要ない」との回答
 わりあい おお
 の割合も多くなっています。

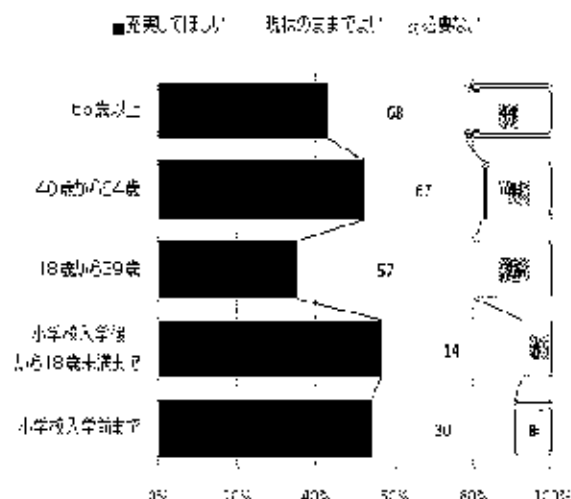
じゅうどほうもんかいご ねんれいべつ きいみまん せだい だいせだい じゅうじつきぼう
 重度訪問介護と年齢別では10歳未満の世代と50代世代で充実希望が
 たか
 高くなっています。



身体手帳と重度訪問



手帳取得時期と重度訪問



けいこう よういん てちょうしゅとくじき しんたいしょうがいしゃてちょうくぶんべつ ひかく
その傾向の要因を手帳取得時期と身体障害者手帳区分別で比較

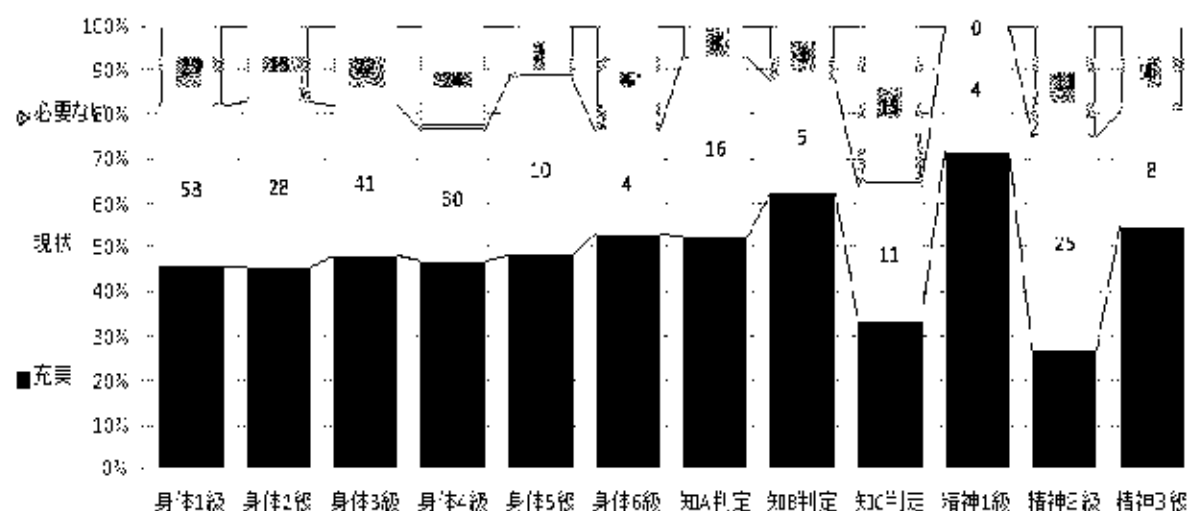
てちょうくぶん さ てちょうしゅとくじき さい
してみると、手帳区分ではさほど差はでないものの、手帳取得時期からは18歳ま

じどうき しゅとく さい さい ちゅうとしょうがい しゅとく じゅうじつ ひつよう
での児童期の取得と40歳から64歳の中途障害の取得で充実の必要

わりあい たか じゅうどほうもんかいご しょうがい くぶん しゅとくじき なん
割合が高くなっています。重度訪問介護は障害の区分より取得時期に何ら

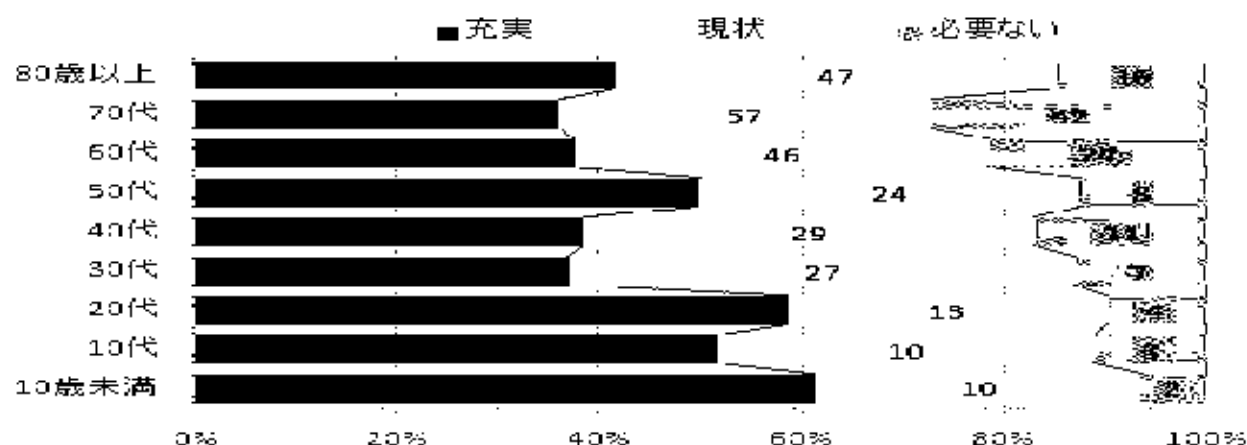
しえん ひつよう うかが
かの支援が必要であることが伺えます。

問4-2重度訪問介護と手帳等級



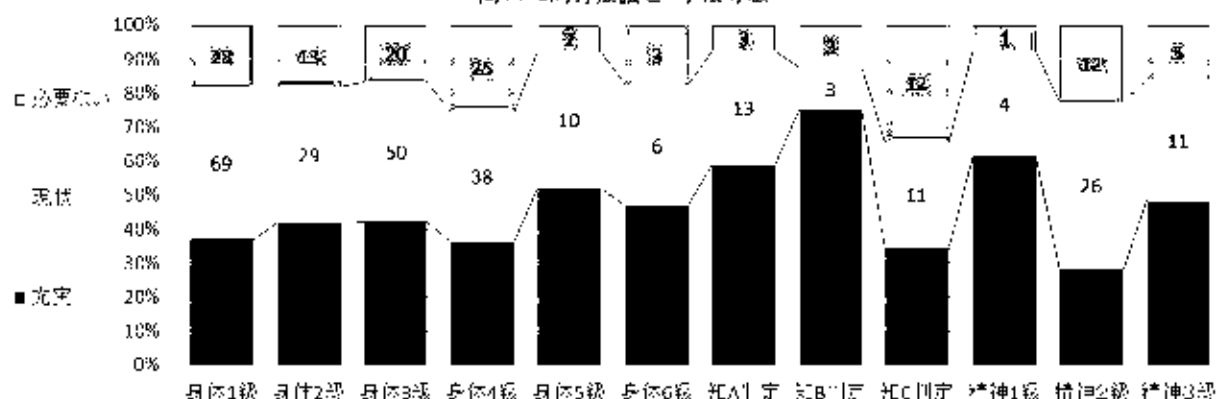
しょうがいべつ とく りょういくてちょう はんてい ひと せいしんしょうがいしゃほけんふくし
障 害 別では、特に療 育 手 帳B判定の人と精神 障 害 者 保 健 福 祉
てちょう きゅう ひと じゅうじつ きぼう たか
手 帳1 級 の人の「充 実」希望の高いことがわかります。

問14-3同行援護と年齢区分

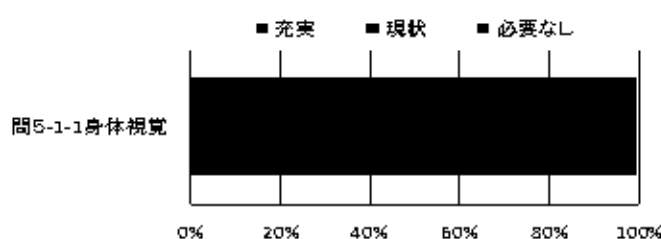


どうこうえんご ねんだいべつ ひつよう かいとう ねんれいくふん たか
同 行 援 護 の 年 代 別 では 必 要 な い と の 回 答 は、年 齢 区 分 が 高 く な る に つ れ て
お お けいこう だい げんじょう かいとうわりあい
多 くな っ て い る 傾 向 が あ り ま す。そ し て こ こ で も 30代 の「現 状」の 回 答 割 合
た か とくちょうてき あらわ だい ひつよう かいとう
が 高 い の が 特 徴 的 に 現 れ て い ま す。あ わ せ て 70代 の「必 要 な い」と の 回 答 の
わりあい おお
割 合 も 多 く な っ て い ま す。

問14-3同行援護と手帳等級



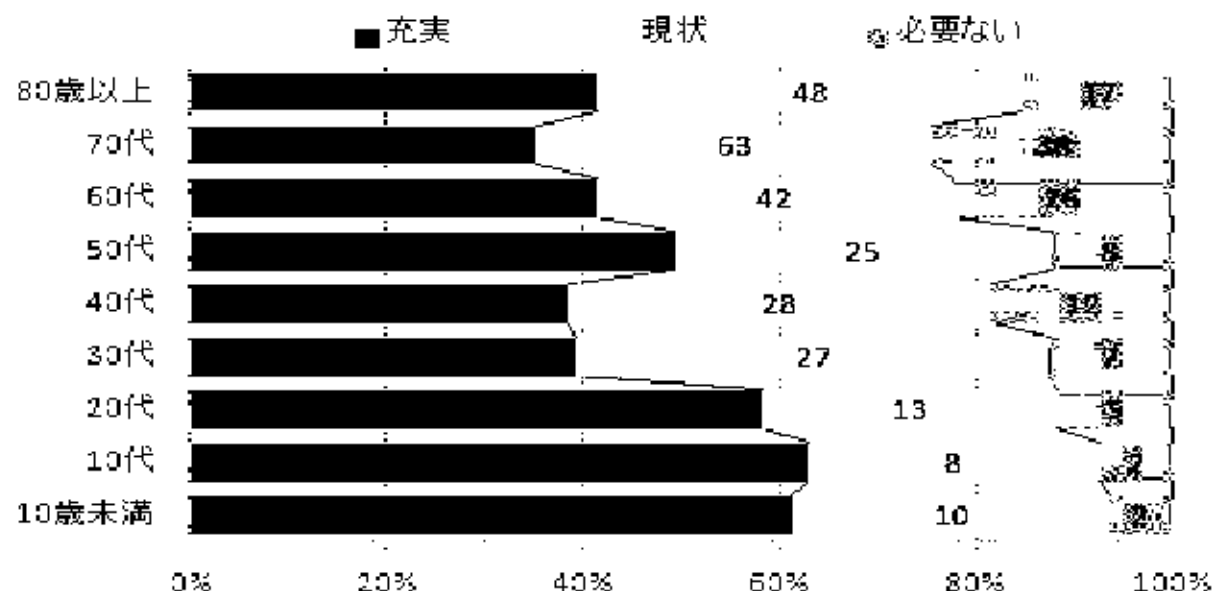
問5-1-1身体視覚と問14-3同行援護



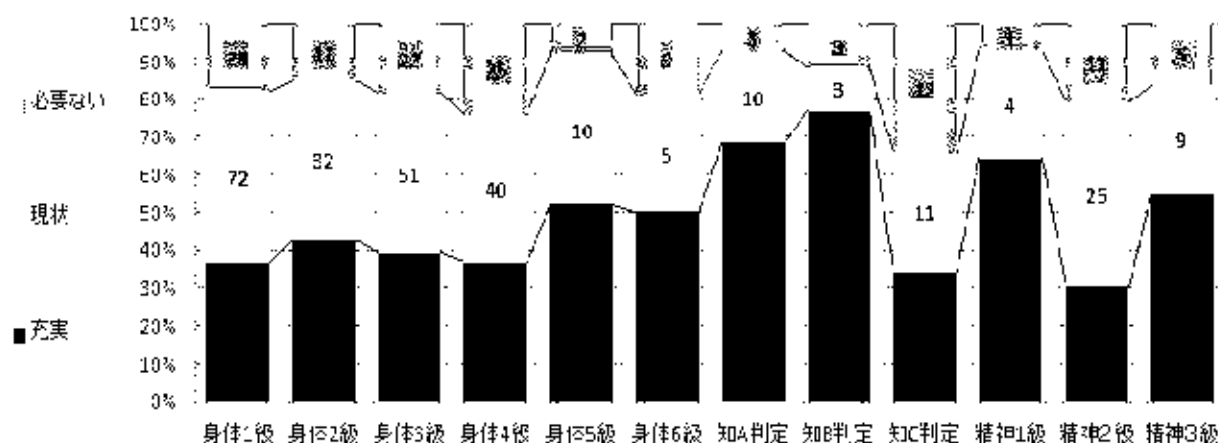
7yours

しょうがいべつ とく りょういくてちょう はんてい ひと せいしんしょうがいしゃほけん
 障 害 別では、特に療 育 手 帳B判 定の人と精 神 障 害 者 保 健
 ふくしてちょう きゅう ひと じゅうじつ きぼう たか ぜんこう
 福 祉 手 帳1 級 の人の「充 実」希 望の 高 いことが わか ります。し かし 前 項 の
 じゅうどほうもんかいご しんたいしょうがい ひと おも りょう
 重 度 訪 問 介 護 は身 体 障 害 のある 人 が主 に利 用 するサ ービ スで あり、また
 どうこうえんご しかくしょうがい ひと かんが りょういく
 同 行 援 護 は視 覚 障 害 のある 人 へ のサ ービ スで あるこ とを 考 え ると、療 育
 てちょう はんてい ひと せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう きゅう ひと ぜんばん
 手 帳B判 定の人と精 神 障 害 者 保 健福 祉 手 帳1 級 の人はサ ービ ス全 般
 じゅうじつ きぼう けいこう おも けいこう こうもく
 に 充 実 を希 望 して いる 傾 向 がある ように 思 わ れます。この 傾 向 はすべ ての 項 目
 にあて はまるこ とがうかがえ ます。

問14-4行動援護と年齢区分



問4-4行動援護と手帳等級



こうどうえんご ねんれいくぶん せっきよくてき りよう だいいか
 行動援護と年齢区分では、積極的に利用する20代以下でさらなる

じゅうじつ きぼう かいとう おおよ だい げんじょう
 充実に希望する回答が多く寄せられました。そしてここでも30代の「現状」

かいとうわりあい たか とくちょうてき あらわ だい ひつよう
 の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要な

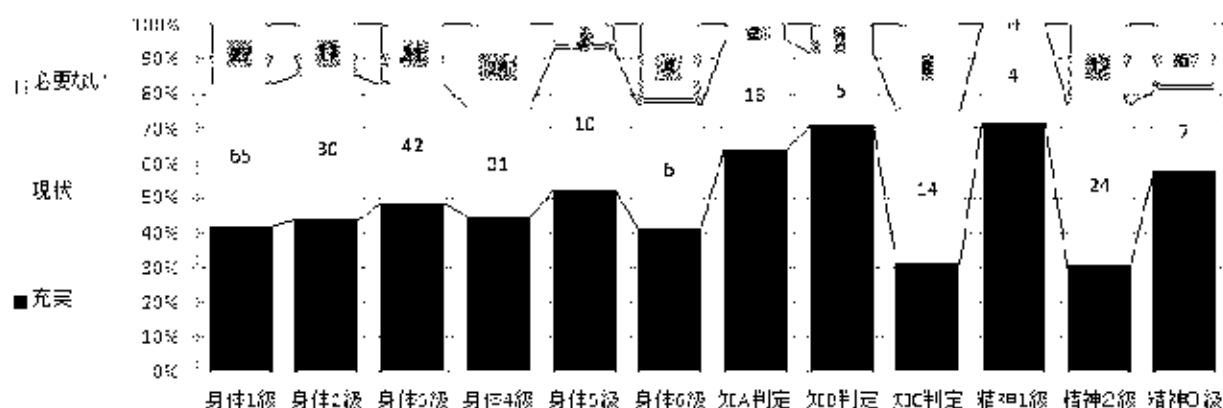
かいとう わりあい おお しょうがいべつ とく りよういくてちょう はんてい
 い」との回答の割合も多くなっています。障害別では、特に療育手帳B判定の

ひと せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう きゅう ひと じゅうじつ きぼう たか
 人と精神障害者保健福祉手帳1級の人の「充実」希望の高いことがわかりま

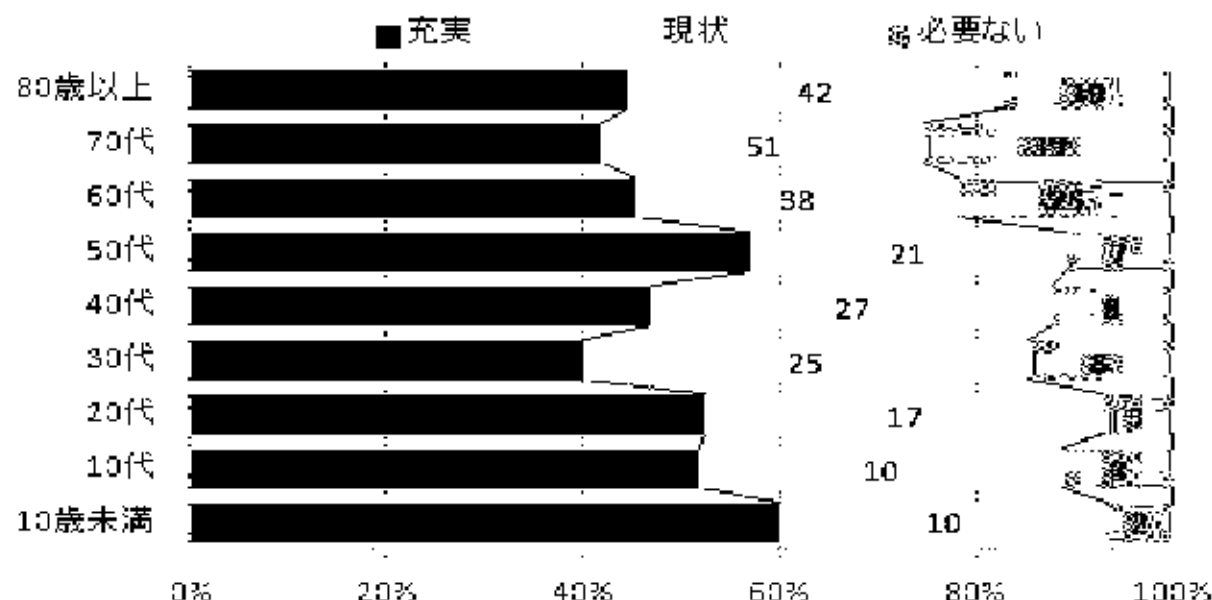
す。しかし療育手帳区分A判定の人の割合が高くなる点でA判定の人の

りよう ちゅうしん
 利用が中心であるサービスであることがうかがえます。

問4-5重度障害者等包括支援と手帳等級



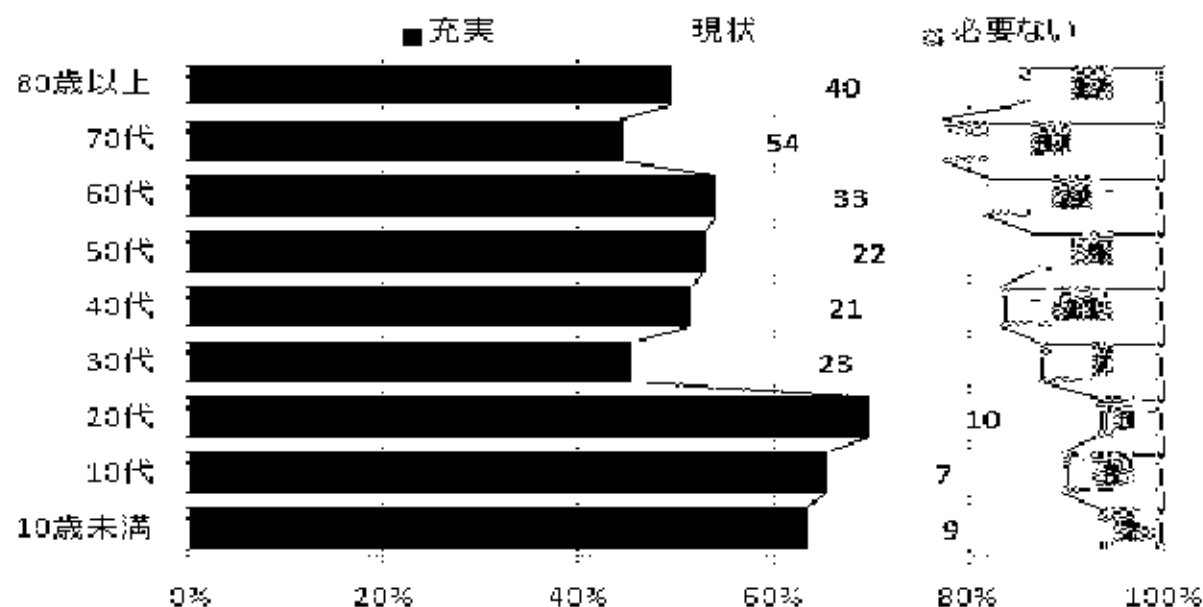
問14-5 重度障害者等包括支援と年齢区分



じゅうどうしょうがいしゃとうほうかつしえん ねんれいくぶん だい げんじょう
 重度障害者等包括支援と年齢区分では、ここでも30代の「現状」
 かいとうわりあい たか とくちょうてき あらわ だい ひつよう
 の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要
 かいとう わりあい おお
 い」との回答の割合も多くなっています。

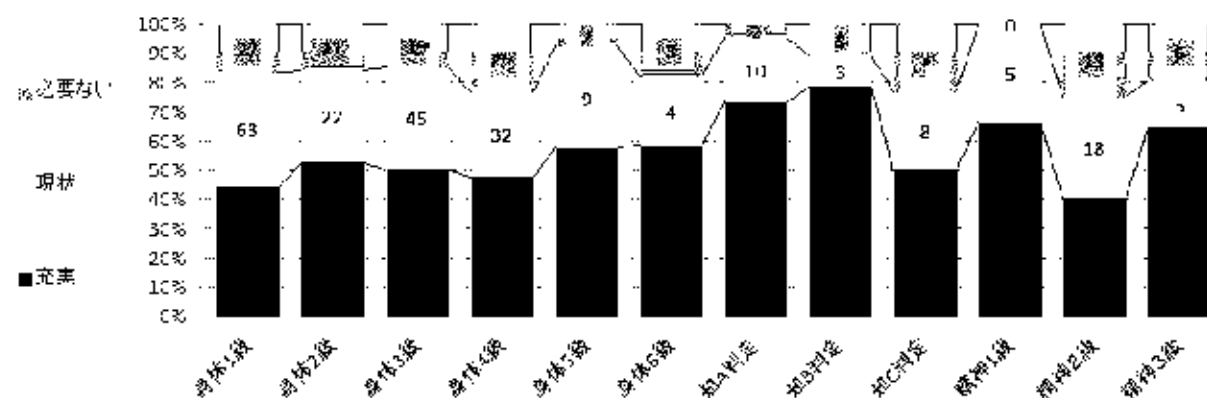
しょうがいべつ とく りょういくてちょう はんてい ひと せいしんしょうがいしゃほけんふくし
 障害別では、特に療育手帳B判定の人と精神障害者保健福祉
 てちょう きゅう ひと じゅうじつ きぼう たか りょういく
 手帳1級の人「充実」希望の高いことがわかります。ここでも療育
 てちょうくぶん はんてい ひと わりあい たか かいとうしゃわりあい かぞく
 手帳区分A判定の人の割合が高くなっています。回答者割合がご家族であ
 けいこう しょうらい こうれいか む ふあん
 る傾向があることから将来の高齢化に向けても不安があるのではないかと
 すいさつ
 推察できます。

問14-6短期入所と年齢区分



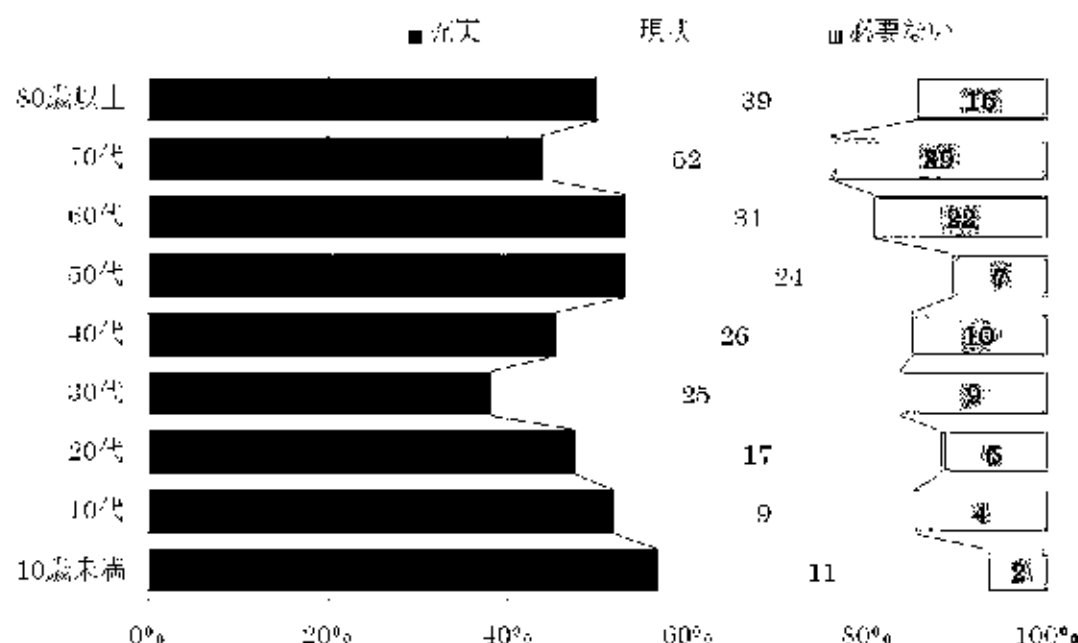
短期入所と年齢区分では、すべての年代で充実を希望された割合が4割以上となっています。すべての人に充実ニーズの高いサービスであることがうかがえます。

問14-5短期入所と手帳等級



すべての障害や等級においても充実を希望された割合がすべて4割以上となっています。すべての障害のある人に充実ニーズの高いサービスであることがうかがえます。

問14-7療養介護と年齢区分

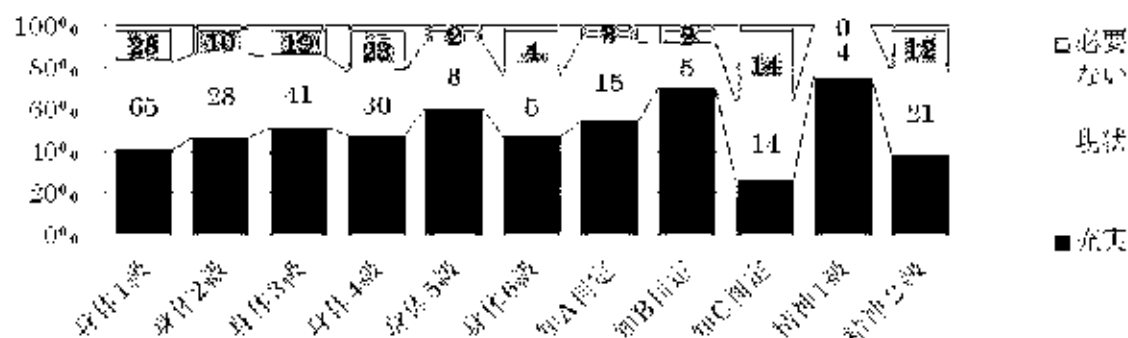


療養介護と年齢別では、10歳代以下の世代と50歳～60歳世代で充実希望が高くなっています。また60代と70代世代は充実希望が高いのにあわせ「必要ない」との割合も高くなっており、10歳未満世代との違いが読み取れます。問14-1居宅介護とは「必要ない」の回答に意識の違いがあることがうかがえます。

ここでも30代の「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。



問14-7療養介護と手帳等級

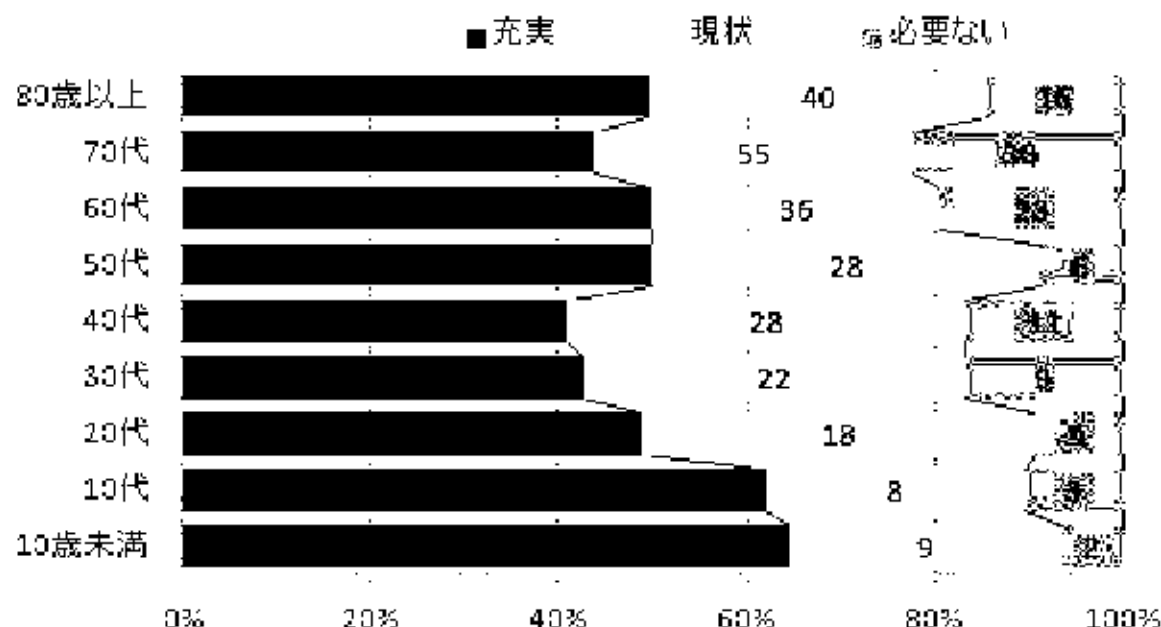


身体1級の人の暮らしの場	
年齢区分	病院に入院中
0歳代	0
10歳代	0
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	1
50歳代	0
60歳代	1
70歳代	1
80歳代	3
90歳代	1
合計	10

しょうがいべつ りょうようかいど こんかい
障 害 別 では、療 養 介 護 は 今 回 の アン
ケートではおおよそ身 体 障 害 者 1 級 の 30
さいだい めい さいだい めい けい めい かいとう
歳 代 2 名 と 40 歳 代 2 名 の 計 4 名 の 回 答 と
すいきつ たいしょうしゃ すく りょうようかいど
推 察 できま す。対 象 者 が 少 な く 療 養 介 護
ぐたいてき むずか
の 具 体 的 サービスを イメー ジ す る こ と が 難 し い た
しんたいしょうがいしゃてちょう とうきゅうべつ
め か、身 体 障 害 者 手 帳 の 等 級 別 で は
おお き ねんれいくぶん
大 き な 差 は あ り ま せ ん で し た。年 齢 区 分 で の
じゅうじつ わりあい き とく りょう ひと
充 実 の 割 合 の 差 は、特 に 利 用 す る 人 が
かぎ こべつ ないよう
限 ら れ て い る こ と で、個 別 の サービス 内 容 イメー ジ
かいとう こと すいきつ
で の 回 答 と な っ て い る 事 が 推 察 できま す。

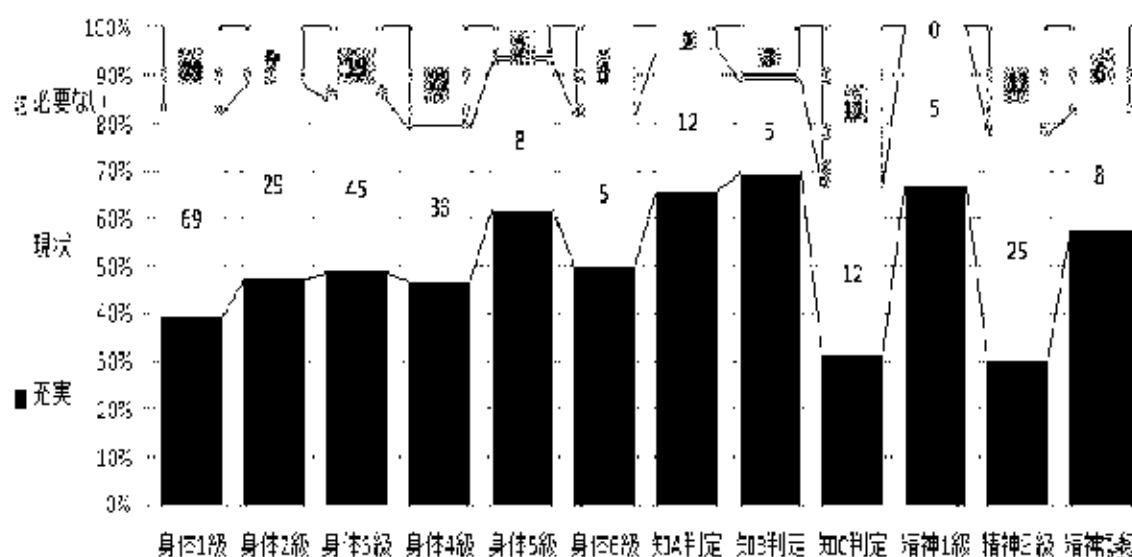


問14-8生活介護と年齢区分



せいかつかいご ねんれいくぶん ねんだい じゅうじつ きぼう わりあい
生活介護と年齢区分では、すべての年代で充実を希望された割合が4割以上となっています。すべての人に充実ニーズの高いサービスであることがうかがえます。ここでも30代の「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要ない」との回答の割合も高くなっています。

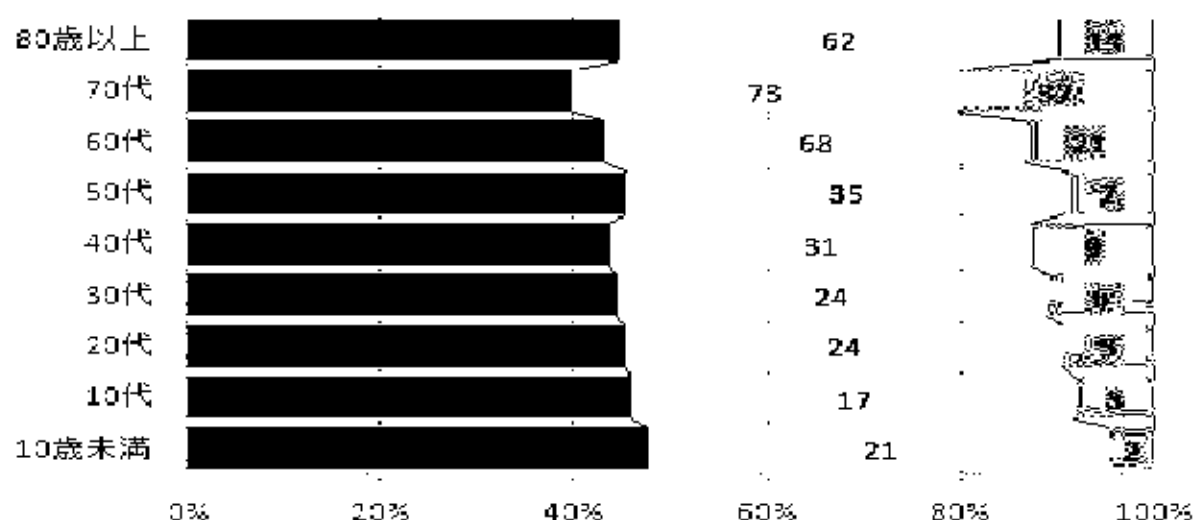
問14-8生活介護と手帳等級



しょうがいべつ りょういくてちょう はんてい けいど せいしんしょうがいしゃほけんふくし
 障害別では療育手帳C判定(軽度)と、精神障害者保健福祉
 てちょう きゅう ひと じゅうじつきぼう ひく ひつよう かいとうわりあい
 手帳2級の人(充実)希望が低く、「必要ない」との回答割合が
 ひかてきたか たんきにゅうしょ こうもく しょうがい
 比較的高くなっています。問14-6短期入所の項目ではすべての障害で
 じゅうじつ きぼう わりあい わりいじょう たい りょういく
 「充実」を希望された割合が4割以上となっているのに対して、療育
 てちょう はんてい けいど せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう きゅう ひと
 手帳C判定(軽度)と、精神障害者保健福祉手帳2級の人では
 ひつよう かいとう いしき ちが
 「必要ない」の回答に意識の違いがあることがうかがえます。

問14-9施設入所支援と年齢区分

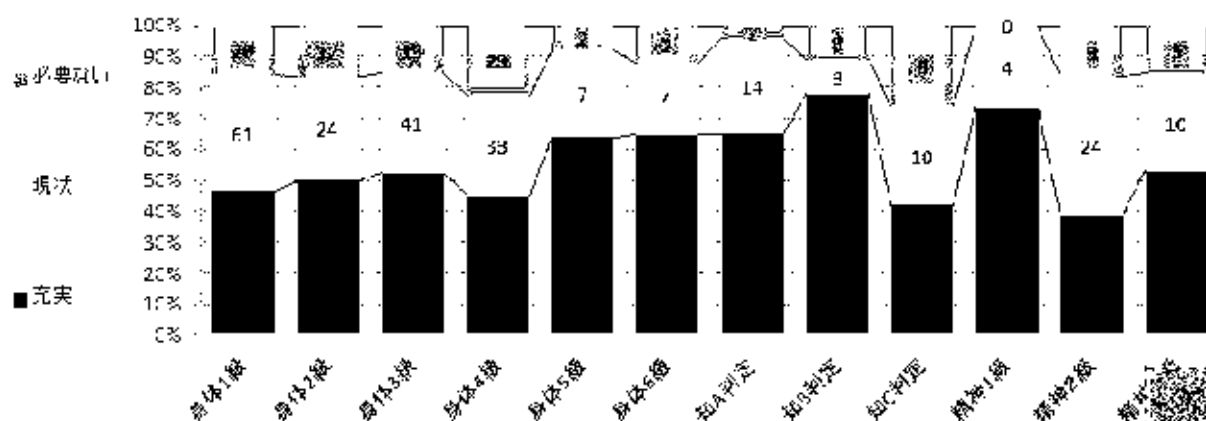
■充実 現状 必要ない



しせつにゅうしょしえん ねんれいくぶん ねんだい じゅうじつ きぼう
 施設入所支援と年齢区分では、すべての年代で充実を希望された

わりあい おお き わりいじょう げんじょう かいとう ひと
 割合に大きな差がなく4割以上となっています。「現状」と回答された人を
 くわ へいきん わり たか かいとう
 加えると平均9割の高い回答となりました。

問14-9施設入所支援と手帳等級



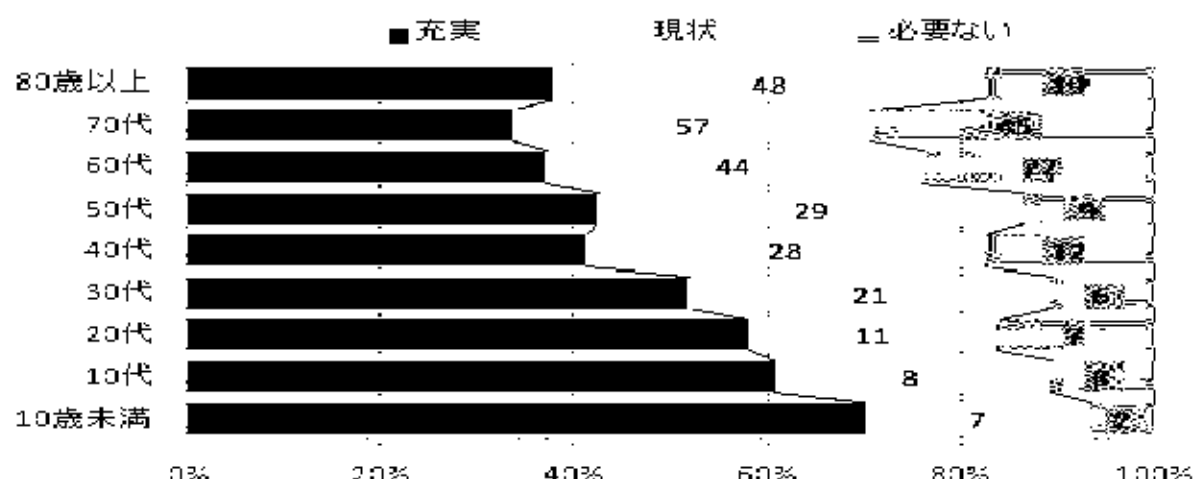
しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと はんてい せいしんしょうがい ひと きゅう
障害別では、知的障害のある人のAとB判定と精神障害のある人の1級

たか わりあい しんたいしょうがいしやてちょう きゅう さいいじょう
で高い割合となっています。身体障害者手帳5級では60歳以上が77.

1%、さらに60歳以上の6級に関しては81.8%と高いことから、充実の回答

わりあい かいごほけんじぎょう きぼう かさ かんが
割合が介護保険事業との希望と重なっていることが考えられます。

問14-10ケアホームと年齢区分



ケアホームと年齢区分では、問14-9施設入所支援の充実と現状の

項目割合が9割とどの世代も平均的に高いのに対して、矛盾するかのように

み 見えますが、同様にケアホームの充実割合が高い結果となっています。我が国

が施設も増やし在宅も充実するといった施策を同時に対応してきた特徴が

この調査でも明らかとなりました。特に30代以下の世代では充実の回答が5

割を超え、10歳未満では約7割の充実希望回答となっています。若い世代に

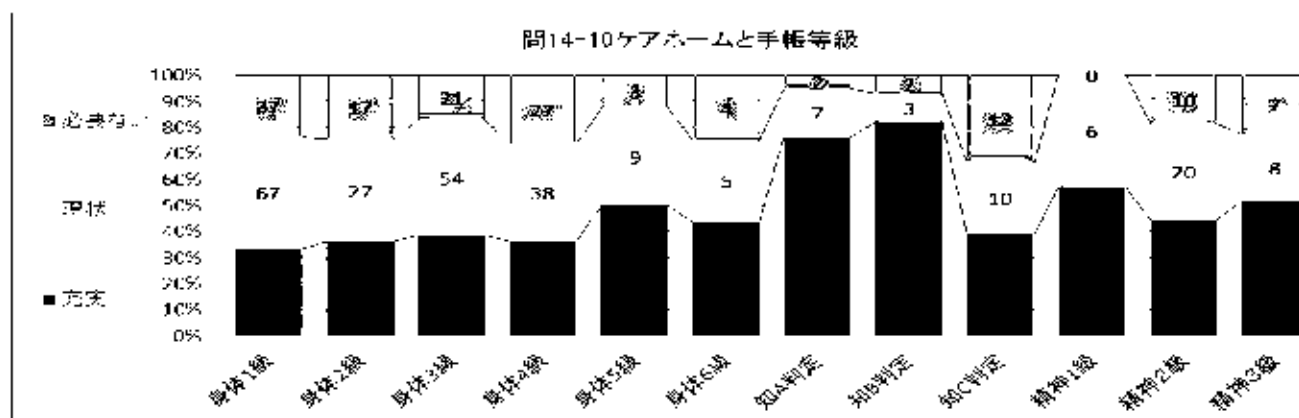
なるほど地域での暮らしを自宅ではない在宅を望んでいる傾向になっていることが

うかがえます。



しょうがいべつ とく りょういくてちょう はんてい ちてきしょうがい ひと たか
障 害 別では特に、療 育 手 帳 A と B 判 定 の知的 障 害 のある人で高い

わりあい
割 合 となっています。



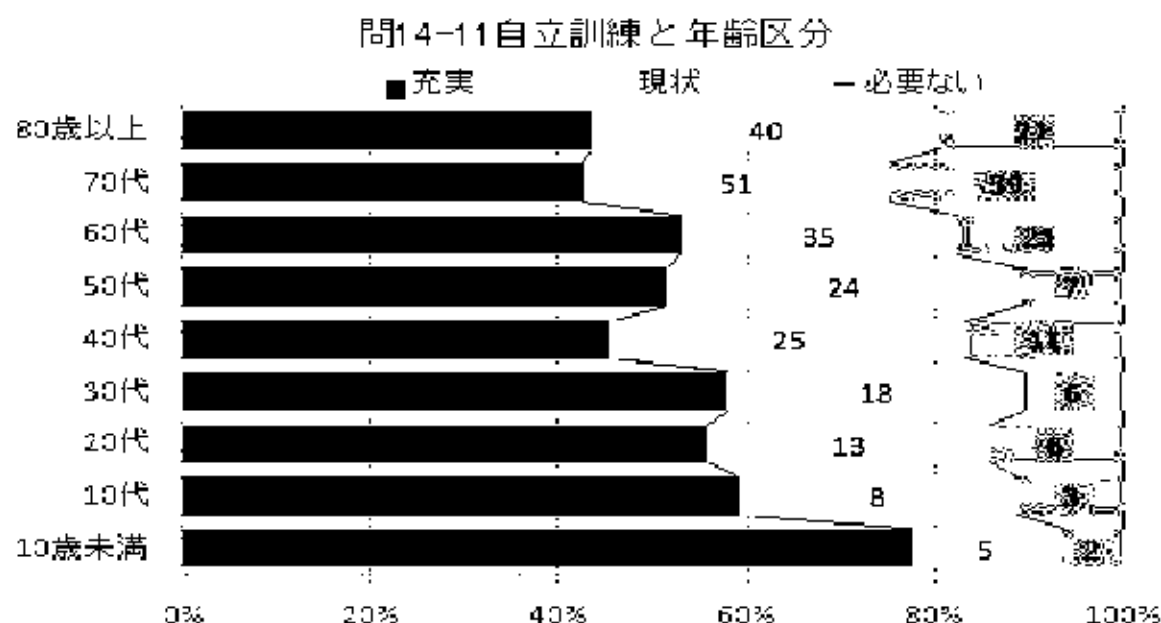
じりつくんれん ねんれいくぶん さいみまん じゅうじつ かいとうわりあい たか
自 立 訓 練 と 年 齢 区 分 では、10 歳 未 満 で「充 実」の回 答 割 合 が 高 く

なっています。しかし年 代 や 手 帳 取 得 時 期 に よ っ て 充 実 度 に 差 が あ る こ と も

かんが じゅうじつ ひつよう かいとう さ てちょうしゅとく
考 え ら れ ま す。そ こ で「充 実」と「必 要 な い」と回 答 の 差 が 手 帳 取 得

じき かんけい ねんれい かんけい かくにん
時 期 に 関 係 し て い る の か、ま た 年 齢 に 関 係 し て い る の か を 確 認 す る た め に

とうけいてきげんてい じっし
統 計 的 検 定 を 実 施 し ま す。



問6 手帳の交付時期 * 問14-11 自立訓練

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	29.578 ^a	16	.020
尤度比	30.415	16	.016
線型と線型による連関	15.755	1	.000
有効なケースの数	675		

a. 3 セル (12.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数
は 1.90 です。

問3年齢 * 問14-11自立訓練

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	420.544 ^a	376	.056
尤度比	439.257	376	.013
線型と線型による連関	21.742	1	.000
有効なケースの数	673		

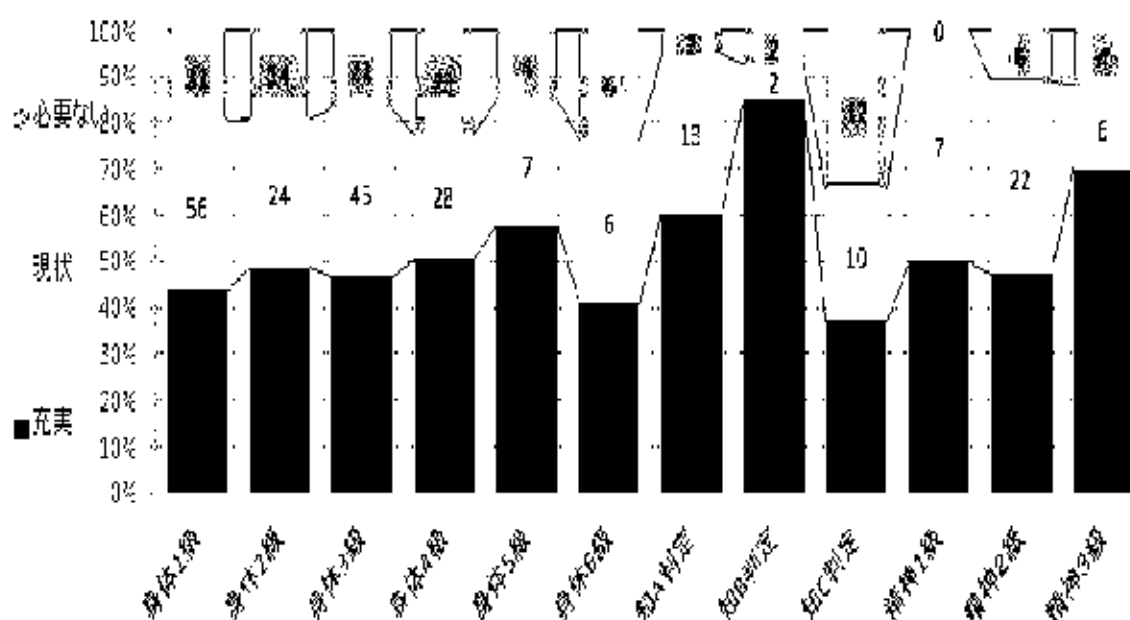
a. 457 セル (96.2%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度
数は .05 です。

てちょう こうふじき とい てちょう こうふじき とい じりつくんれん ねんれい とい
手 帳 の交付時期 (問6 手 帳 の交付時期 * 問14-11自立訓 練) と 年 齢 (問 3
ねんれい とい じりつくんれん にじょうけんていぜんきんゆういかくりつ りょうがわ
年 齢 * 問14-11自立訓 練) の「カイ二 乗 検 定 漸 近 有 意 確 率 (両 側)」

ちやくもく いか かんげい てちょう
に 着 目 していきます。ここでは5%以下で 関 係 があるということにします。手 帳
しゅとくじき ちい てちょう こうふじき じりつくんれん じゅうじつ
取 得 時期では2%と5%より小さいため手 帳 の交付時期と自立訓 練 の 充 実 が
ひつよう とうけいてき かんげい はんたん
必 要 かどうかは統 計 的 に 関 係 があると 判 断 できます。



問4-11自立訓練手帳等級



かゝとう どうさうわりあい しょうがいべつ とく りょういくてちょう はんてい
 回答の度数割合のグラフから、障害別では特に、療育手帳B判定
 ちてきしょうがい ひと たか わりあい いか ちてき しょうがい
 の知的障害のある人で高い割合となっています。以下、知的に障害のある
 りょういくてちょうはんてい ちゃくもく わりあい たか てちょうしゅとくじき かんけい
 療育手帳判定に着目し、この割合の高さが手帳取得時期に関係し
 ねんれい かんけい かくにん とうけいてきげんてい
 ているのか、また年齢に関係しているのかを確認するために統計的検定を
 じっし どうよう にじょうけんていぜんきんゆういかくりつ りょうがわ いか
 実施します。同様に「カイ二乗検定漸近有意確率（両側）」が5%以下
 かんけい はんたん
 で関係があると判断することになります。



問5-2療育手帳等級 * 問14-11自立訓練 * 問6手帳の交付時期

カイ2乗検定

問6手帳の交付時期		値	自由度	漸近有意確率 (両側)
小学校入学前まで	Pearson のカイ 2 乗	0.590 ^a	8	.294
	尤度比	11.816	8	.160
	線型と線型による連関	.723	1	.395
	有効なケースの数	58		
小学校入学後から18歳未満まで	Pearson のカイ 2 乗	5.634 ^b	6	.465
	尤度比	6.307	6	.390
	線型と線型による連関	.582	1	.446
	有効なケースの数	22		
18歳から39歳	Pearson のカイ 2 乗	7.889 ^c	6	.246
	尤度比	8.997	6	.174
	線型と線型による連関	.291	1	.590
	有効なケースの数	8		
40歳から64歳	Pearson のカイ 2 乗	4.000 ^d	3	.261
	尤度比	4.499	3	.212
	線型と線型による連関	1.800	1	.180
	有効なケースの数	4		
65歳以上	Pearson のカイ 2 乗	. ^e		
	有効なケースの数	1		
合計	Pearson のカイ 2 乗	13.757 ^f	8	.088
	尤度比	17.633	8	.024
	線型と線型による連関	.849	1	.357
	有効なケースの数	93		

a. 11 セル (73.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .67 です。

b. 12 セル (100.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .45 です。

c. 12 セル (100.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .13 です。

d. 8 セル (100.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .25 です。

e. 問5-2療育手帳等級および問14-11自立訓練が一定のため統計量は計算されません。

f. 6 セル (40.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.29 です。

ゆういりつ もっと たか しょうがっこうにゅうがく さいみまん
優位率が最も高い小学校入学から18歳未満までで46.5%、また

もっと ひく さい さい こ こうふ
最も低い18歳から39歳までで24.6%です。5%をはるかに超えていますので交付

じき じりつくんれん かいとう たい つよ かんけい ちてき
時期による「自立訓練」への回答に対する強い関係はないといえます。知的

しょうがい ていぎ さい はったつとう あき おく ていぎ
障害の定義が18歳までの発達等の明らかな遅れを定義にしていることから、

ちゅうとしょうがい ていぎ てちようしゅとくじき かんけい つよ
中途障害の定義がないことから手帳取得時期との関係は強くないことが

りゆう すいさつ
理由と推察できます。



問5-2 療育手帳等級 * 問14-11 自立訓練 * 問3 年齢区分

カイ 2 乗検定

問14年齢区分		値	自由度	漸近有意確率 (両側)
10歳未満	Pearson のカイ 2 乗	9.086 ^a	6	.169
	尤度比	11.664	6	.099
	線型と線型による連関	1.985	1	.159
	有効なケースの数	25		
11代	Pearson のカイ 2 乗	31.225 ^b	4	.500
	尤度比	3.063	4	.547
	線型と線型による連関	.910	1	.340
	有効なケースの数	17		
20代	Pearson のカイ 2 乗	6.187 ^c	8	.626
	尤度比	6.994	8	.537
	線型と線型による連関	.417	1	.511
	有効なケースの数	18		
30代	Pearson のカイ 2 乗	6.482 ^d	8	.593
	尤度比	7.959	8	.437
	線型と線型による連関	1.625	1	.202
	有効なケースの数	11		
40代	Pearson のカイ 2 乗	13.619 ^e	6	.034
	尤度比	14.805	6	.022
	線型と線型による連関	.021	1	.885
	有効なケースの数	13		
50代	Pearson のカイ 2 乗	2.400 ^f	2	.301
	尤度比	2.614	2	.261
	線型と線型による連関	.200	1	.655
	有効なケースの数	6		
60代	Pearson のカイ 2 乗	. ^g		
	有効なケースの数	1		
70代	Pearson のカイ 2 乗	. ^g		
	有効なケースの数	1		
欠損値	Pearson のカイ 2 乗	. ^h		
	有効なケースの数	2		
合計	Pearson のカイ 2 乗	15.089 ⁱ	8	.057
	尤度比	19.243	8	.014
	線型と線型による連関	1.710	1	.190
	有効なケースの数	96		

a. 12 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .24 です。

b. 9 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.18 です。

c. 15 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .22 です。

d. 15 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .16 です。

e. 12 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .23 です。

f. 6 ケル (100.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .17 です。

g. 問5-2療育手帳等級および問14-11自立訓練が一定のため統計母は計算されません。

h. 問5-2療育手帳等級が一定のため統計母は計算されません。

i. 6 ケル (40.0%) 1 は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.56 です。

つき りょういくてちょう ひと ねんれいくぶん

さいだい ゆういかくりつ

次に療育手帳の人の年齢区分でみていくと40歳代で優位確率が3.

てちょう しゅとく

だい ちてきしょうがい

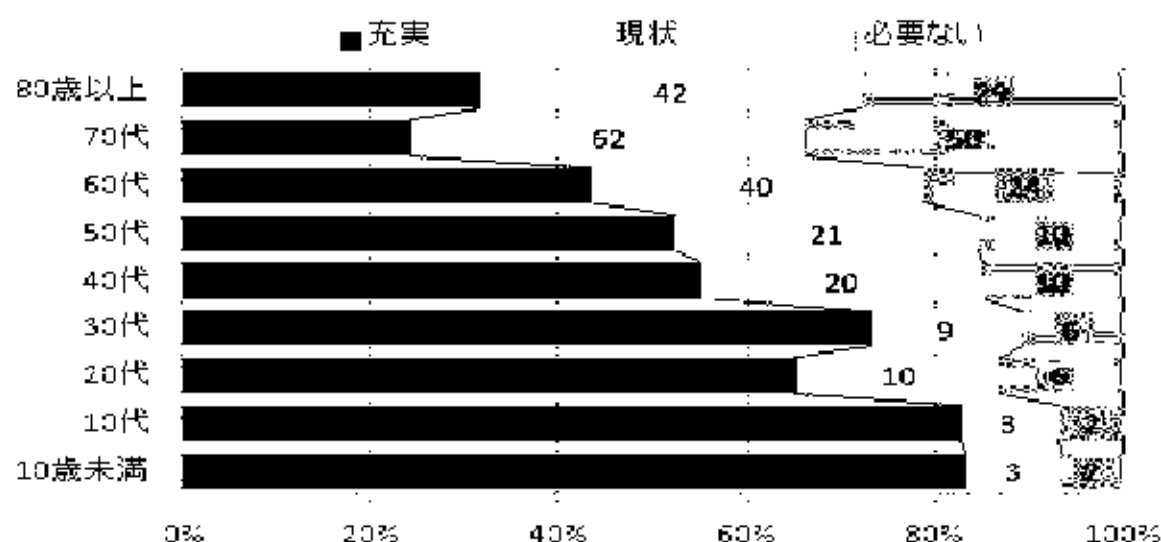
4%となっています。いつ手帳を取得したかではなく、40代の知的障害のある

ひと とく じりつくんれん たい けんとう ひつよう

人にとって特に「自立訓練」に対する検討が必要であることがうかがえます。



問14-12就労移行支援と年齢区分



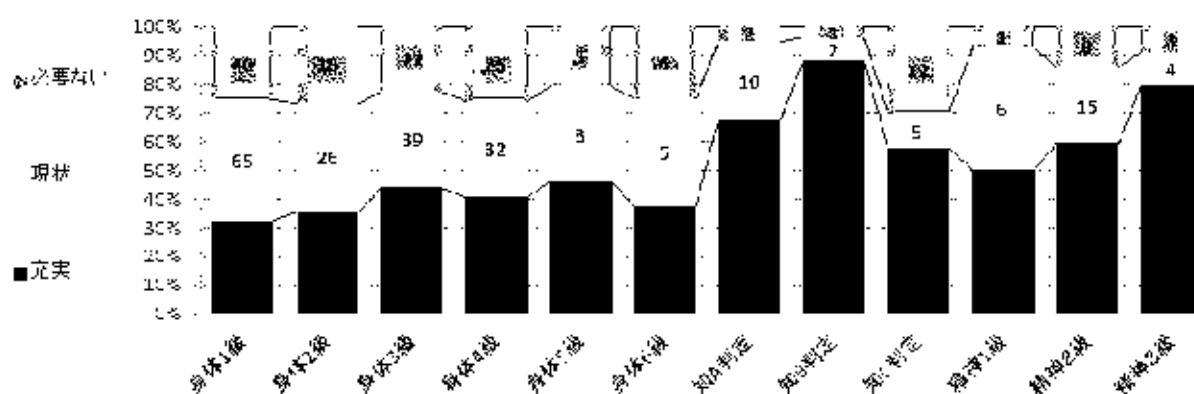
就労移行支援と年齢区分では、原則利用期限の定まったサービスである

就労移行支援の支援内容が、一般就労であることから年代が若くな

るにつれ「充実」が特に高くなっています。特別支援学校卒業後の進路と

して10代以下の充実希望が特に高いことがわかります。

問14-12就労移行支援と手帳等級



障害別では、福祉サービスと企業との連携が求められる事業であり、

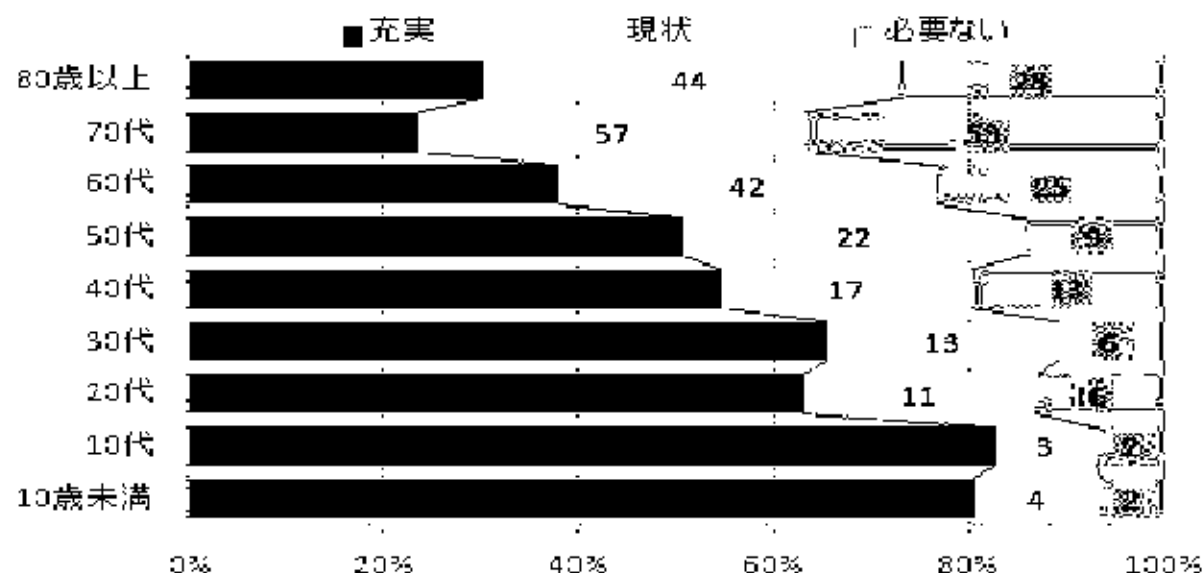
平成24年12月時点で全国利用者数が約2万6千人、愛知県は1356人の

利用数がある中で、知的障害のある人が利用の多くを占めていることから

充実の希望が知的障害のある人に多いことが見て取れます。



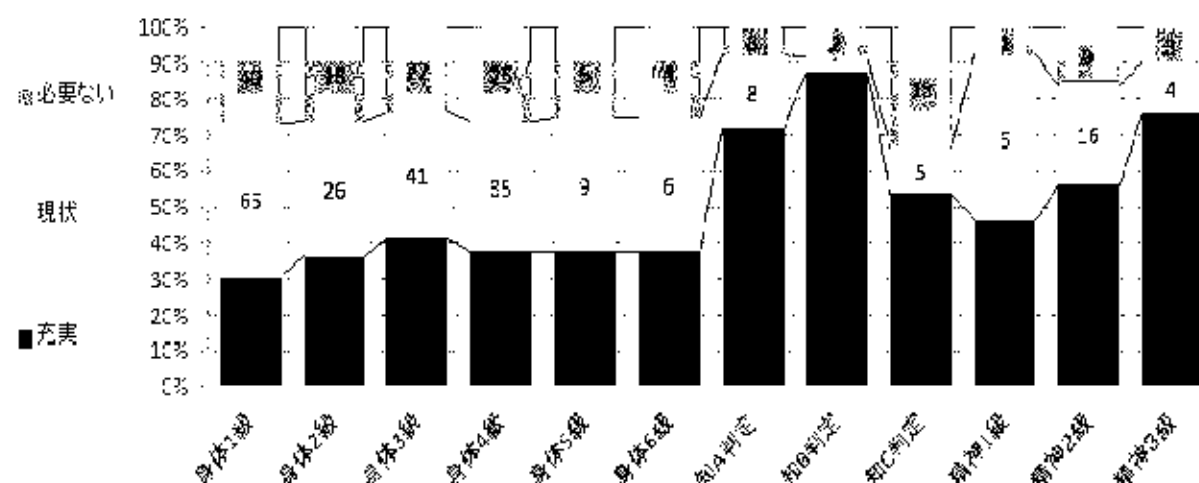
問14-13就労継続支援と年齢区分



就労継続支援と年齢区分では、後の受け皿として福祉的就労の

「充実」も就労支援同様、年代が若くなるにつれ「充実」が高くなっています。

問14-13就労継続支援と手帳等級



障害別では、一般企業において職場環境整備だけでは受け入れが

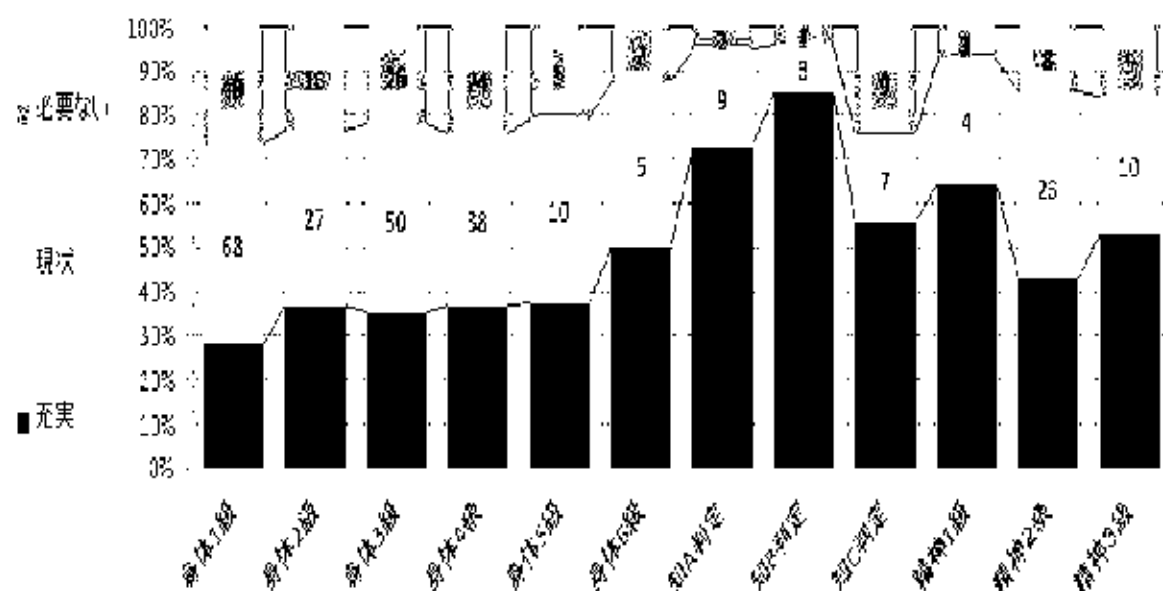
困難とされる、知的障害のある人や、精神障害のある人の福祉的

就労の整備の充実を希望する回答が多くなっています。

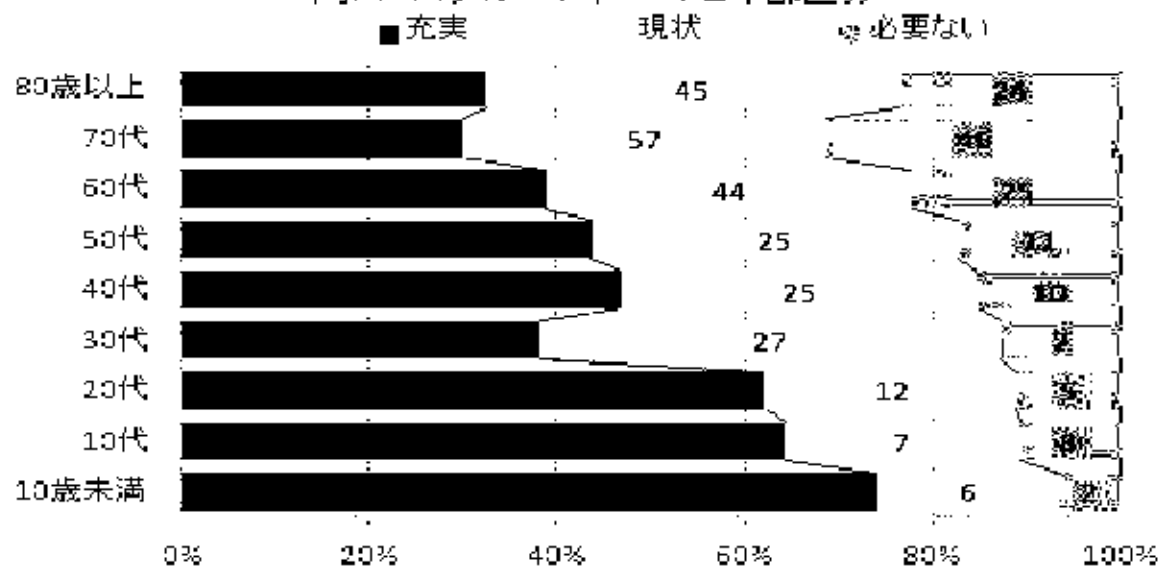


グループホームと年齢区分では、30代の「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要ない」との回答の割合も高くなっています。

問4-14グループホームと手帳等級

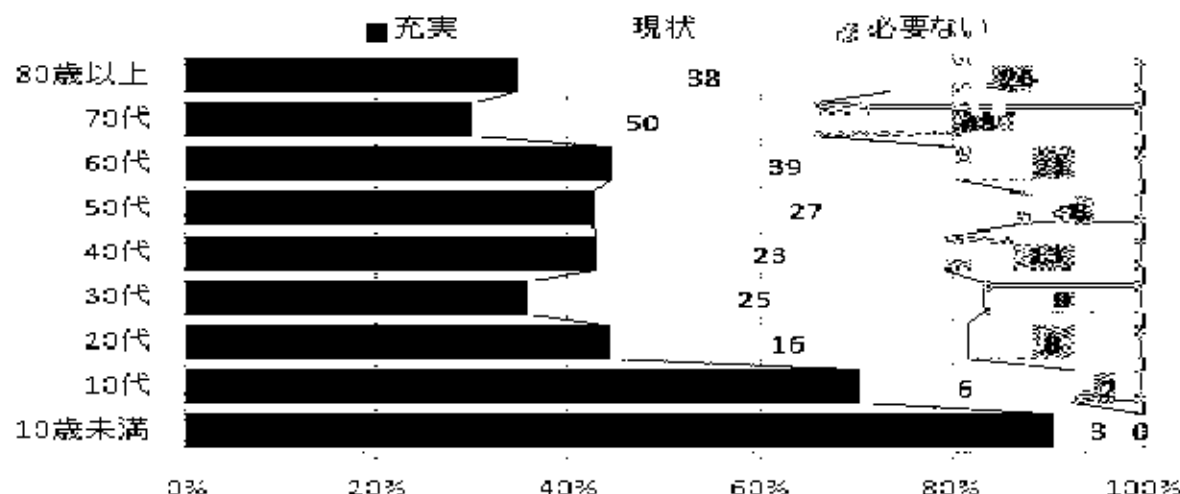


問4-14グループホームと年齢区分



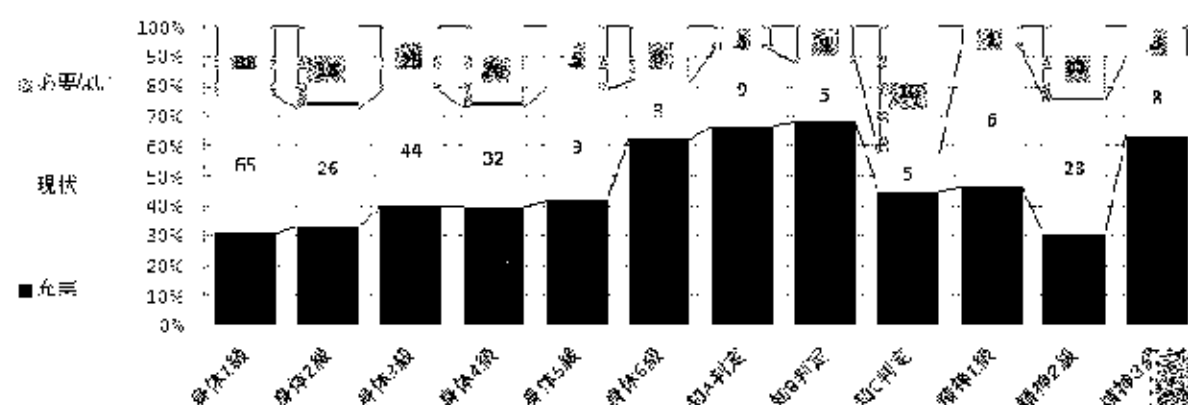
しょうがいべつ しんたいしょうがい ひと じゅうじつ かいとうわりあい たい ちてき
 障害別では身体障害のある人の充実の回答割合に対して知的
 しょうがい ひと せいしんしょうがい ひと く ぱ じゅうじつ もと
 障害のある人と精神障害のある人から暮らしの場として充実を求める
 かいとう おお よ
 回答が多く寄せられました。

問14-15児童発達支援と年齢区分

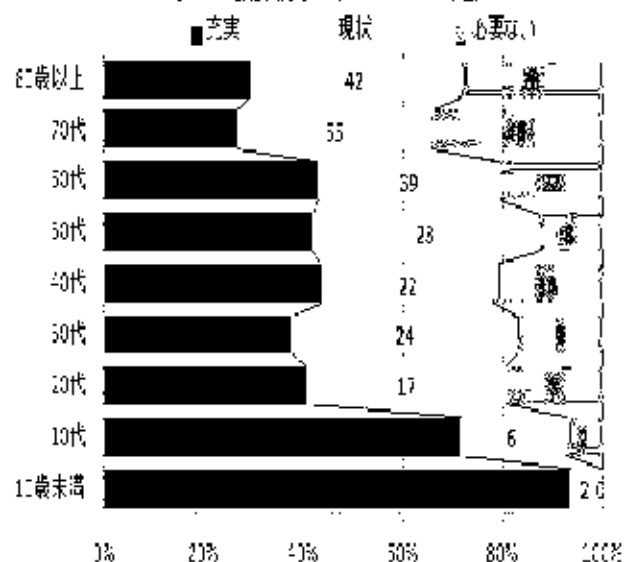


じどうはったつしえん ねんれいくぶん とい ほうかごとう とい
 児童発達支援と年齢区分では、問14-16放課後等デイサービスと問14-17
 ほいくじょうほうもんしえん どうよう わりあい しょうがいじ
 保育所等訪問支援においても同様な割合となっています。障害児サービス
 じゅうじつ こうもく ゆうせんじゅんい いったいてきそこあ もと
 の充実の項目の優先順位をみるのではなく、一体的底上げが求められてい
 とく がいとうねんれい かいとう あらわ だい
 ることが特に該当年齢の回答からはっきりと現れています。ここでも30代の
 げんじょう かいとうわりあい たか とくちょうてき あらわ だい
 「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の
 ひつよう かいとう わりあい たか
 「必要ない」との回答の割合も高くなっています。

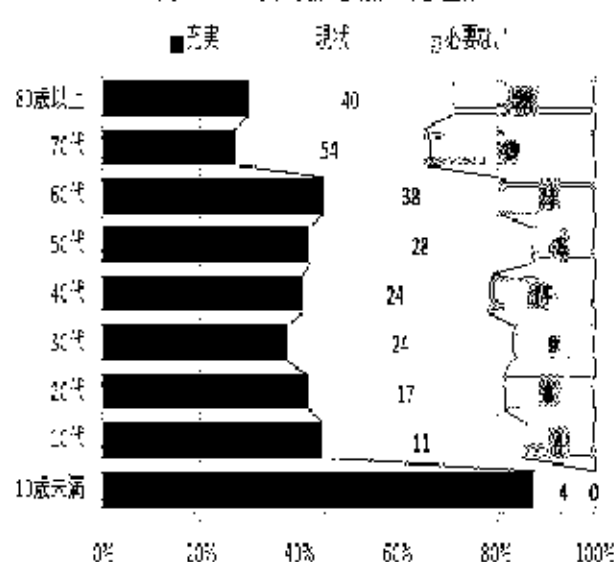
問14-15児童発達支援と手帳等級



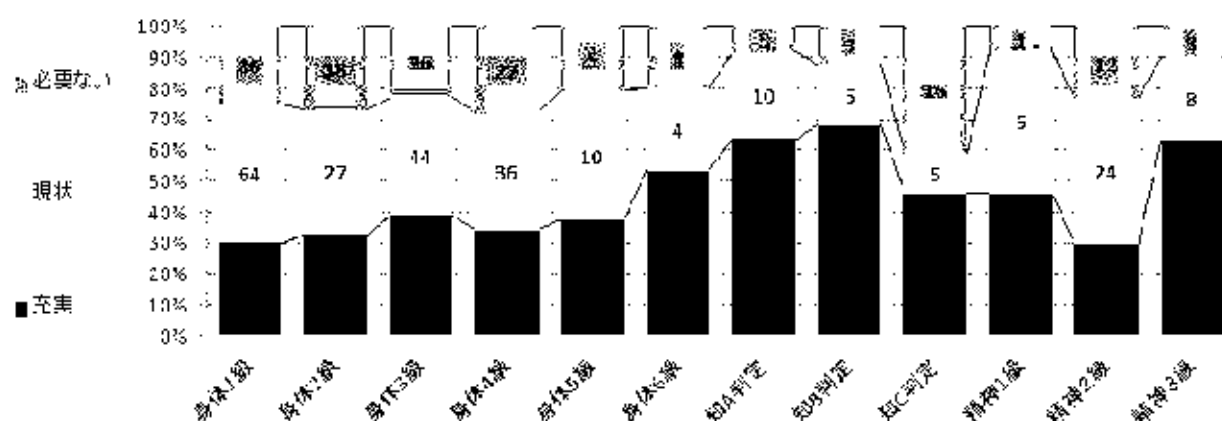
問14-16放課後等サービスと年齢



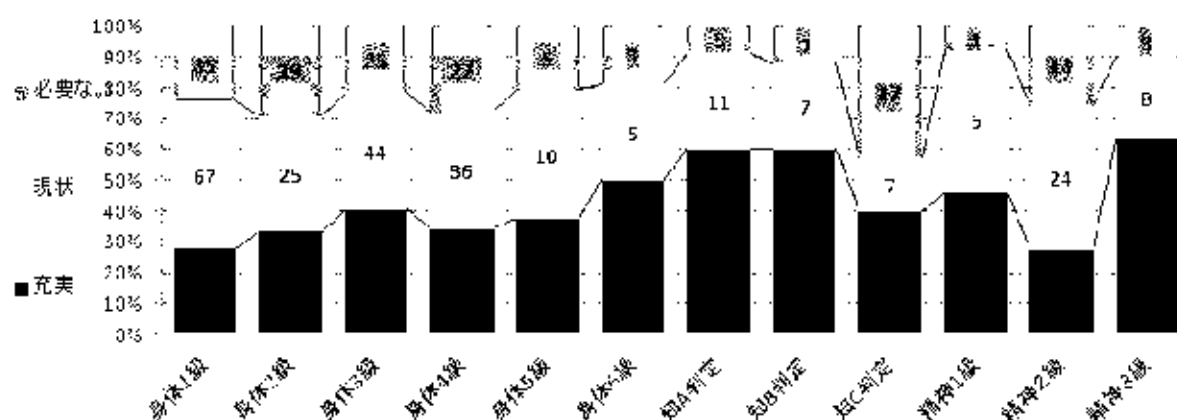
問14-17保育所等訪問支援と年齢区分



問14-16放課後等サービスと手帳等級



問14-17保育所等訪問支援 手帳等級



しょうがいについて ほうかがごとう とい ほういくじょうほうもんしえん
障 害 別 でも 問 14-16放 課 後 等 デイ サービス と 問 14-17保 育 所 等 訪 問 支 援

どうよう わりあい とく しんたいしょうがいじ たい ちてき
においても 同 様 な 割 合 となっ て い ます。特 に 身 体 障 害 児 対 し て 知 的

しょうがいじ しえん じゅうじつ もと
障 害 児 の 支 援 サービス の 充 実 が 求 め ら れ て い る こ と が う か が え ます。



問 15 市の制度である地域生活支援事業で充実してほしいサービスは、何ですか。

8項目にわたり障害福祉サービスに関する5段階による満足度の回答は以下のとおりです。5段階尺度は「1段階：早急に充実してほしい」・「2段階：充実してほしい」・「3段階：現状のままで良い」・「4段階：あまり必要でない」・「5段階：必要ない」としました。

問15-1地域相談支援事業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	103	8.7	13.9	13.9
	充実してほしい	335	28.4	45.3	59.2
	現状のままでよい	232	19.7	31.4	90.5
	あまり必要ない	34	2.9	4.6	95.1
	必要ない	36	3.1	4.9	100.0
	合計	740	62.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	440	37.3		
合計		1,180	100.0		

問15-2地域成年後見制度利用支援事業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	81	6.9	11.9	11.9
	充実してほしい	236	20.0	34.6	46.5
	現状のままでよい	249	21.1	36.5	83.0
	あまり必要ない	37	3.1	5.4	88.4
	必要ない	79	6.7	11.6	100.0
	合計	682	57.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	498	42.2		
合計		1,180	100.0		

問15-3地域コミュニケーション支援事業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	53	4.5	7.8	7.8
	充実してほしい	206	17.5	30.4	38.2
	現状のままでよい	285	24.2	42.0	80.2
	あまり必要ない	42	3.6	6.2	86.4
	必要ない	92	7.8	13.6	100.0
	合計	678	57.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	502	42.5		
合計		1,180	100.0		



問15-4地域日常生活用具給付等事業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	80	6.8	11.4	11.4
	充実してほしい	255	21.6	36.5	47.9
	現状のままでよい	260	22.0	37.2	85.1
	あまり必要ない	31	2.6	4.4	89.6
	必要ない	73	6.2	10.4	100.0
	合計	699	59.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	481	40.8		
合計		1,180	100.0		

問15-5地域移動支援事業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	97	8.2	14.0	14.0
	充実してほしい	250	21.2	36.2	50.2
	現状のままでよい	250	21.2	36.2	86.4
	あまり必要ない	31	2.6	4.5	90.9
	必要ない	63	5.3	9.1	100.0
	合計	691	58.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	489	41.4		
合計		1,180	100.0		

問15-6地域活動支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	88	7.5	12.8	12.8
	充実してほしい	224	19.0	32.5	45.3
	現状のままでよい	280	23.7	40.6	85.9
	あまり必要ない	31	2.6	4.5	90.4
	必要ない	66	5.6	9.6	100.0
	合計	689	58.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	491	41.6		
合計		1,180	100.0		

問15-7地域訪問入浴サービス事業

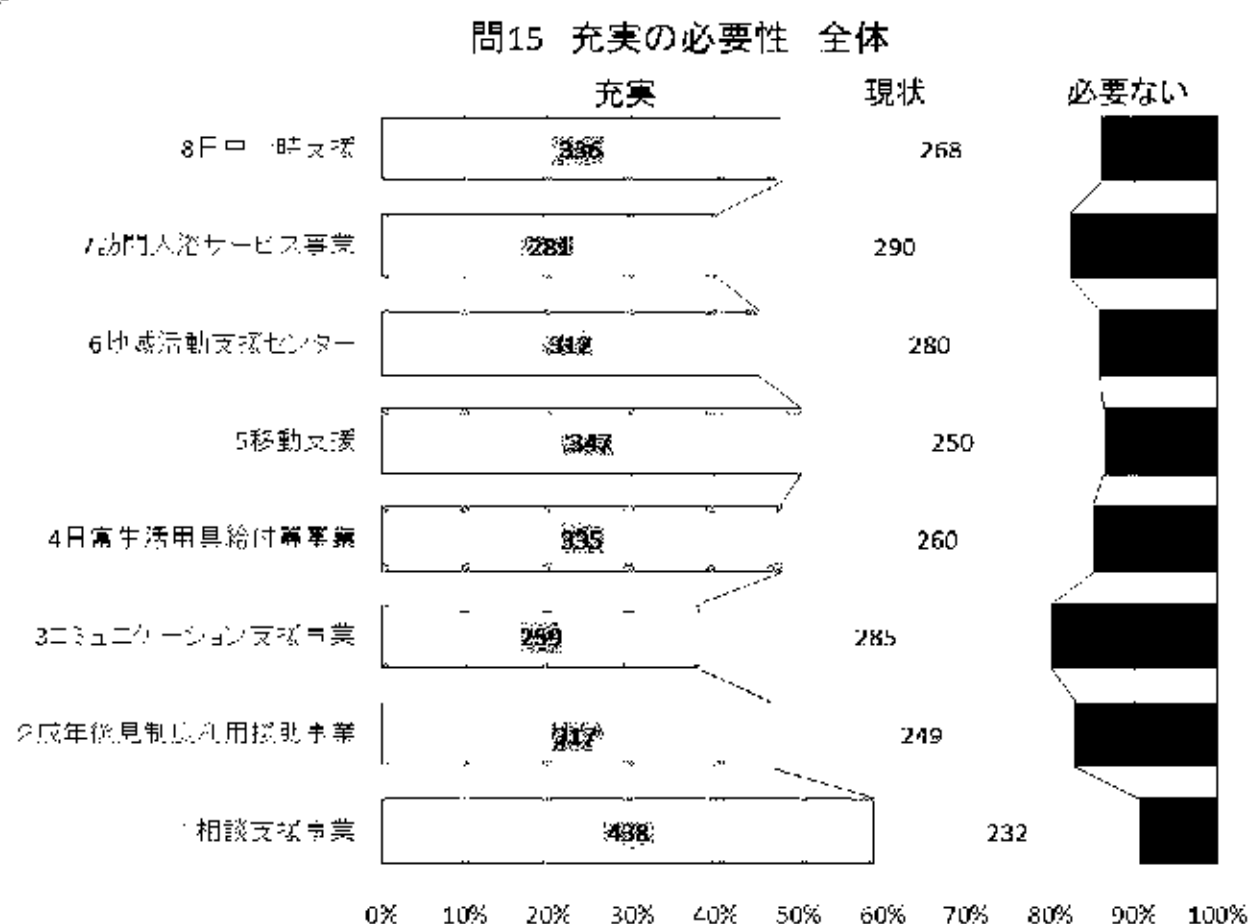
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	56	4.7	8.1	8.1
	充実してほしい	225	19.1	32.5	40.5
	現状のままでよい	290	24.6	41.8	82.4
	あまり必要ない	35	3.0	5.1	87.4
	必要ない	87	7.4	12.6	100.0
	合計	693	58.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	487	41.3		
合計		1,180	100.0		

問15-8地域日中一時支援事業

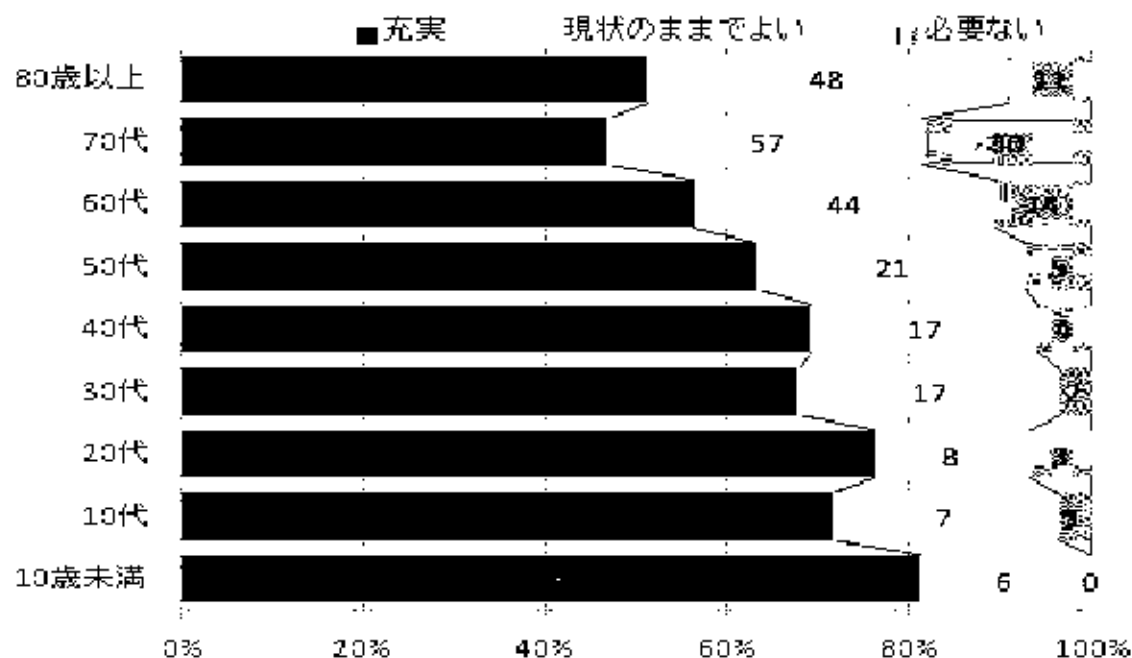
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	早急に充実してほしい	102	8.6	14.5	14.5
	充実してほしい	234	19.8	33.3	47.9
	現状のままでよい	268	22.7	38.2	86.0
	あまり必要ない	28	2.4	4.0	90.0
	必要ない	70	5.9	10.0	100.0
	合計	702	59.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	478	40.5		
合計		1,180	100.0		

わかりやすくするためにグラフでは、5段階尺度を1「^{だんかゐしやくど}早急に充実^{そうきゅう じゅうじつ}」と
2「^{じゅうじつ}充実してほしい^{こうもくすうち あ}」の項目数値を合わせ「^{じゅうじつ}充実^{じゅうじつ}」とあらわしてあります。

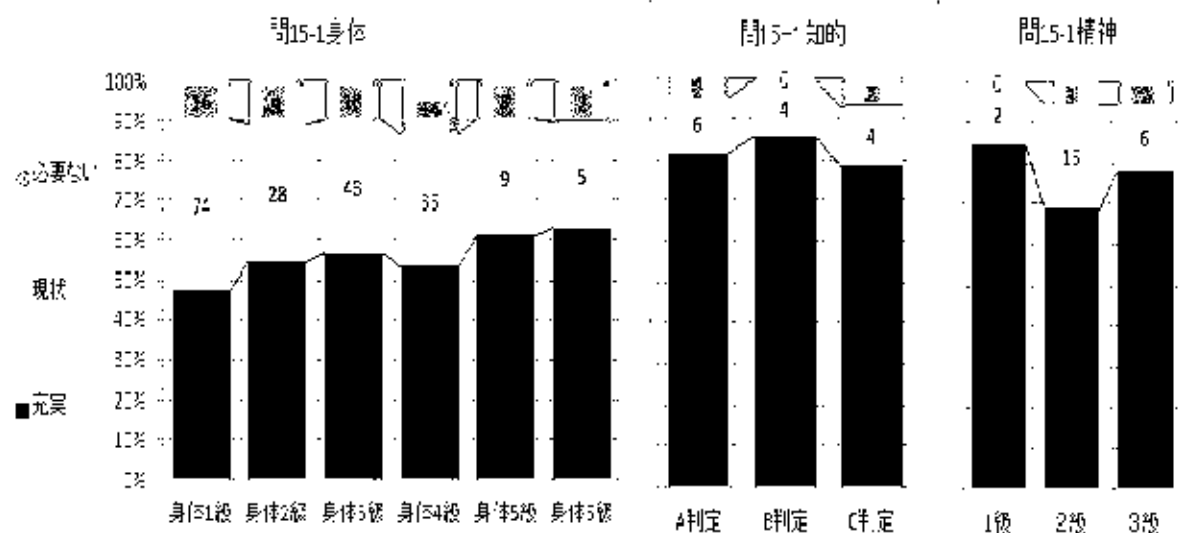
また4「^{ひつよう}あまり必要でない^{ひつよう}」と5「^{ひつよう}必要ない^{こうもくすうち あ}」の項目数値を合わせ「^{ひつよう}必要なし^{ひつよう}」とあらわしてあります。



15-1充実相談支援事業と問3年齢区分



問15-1 相談支援事業と手帳等級

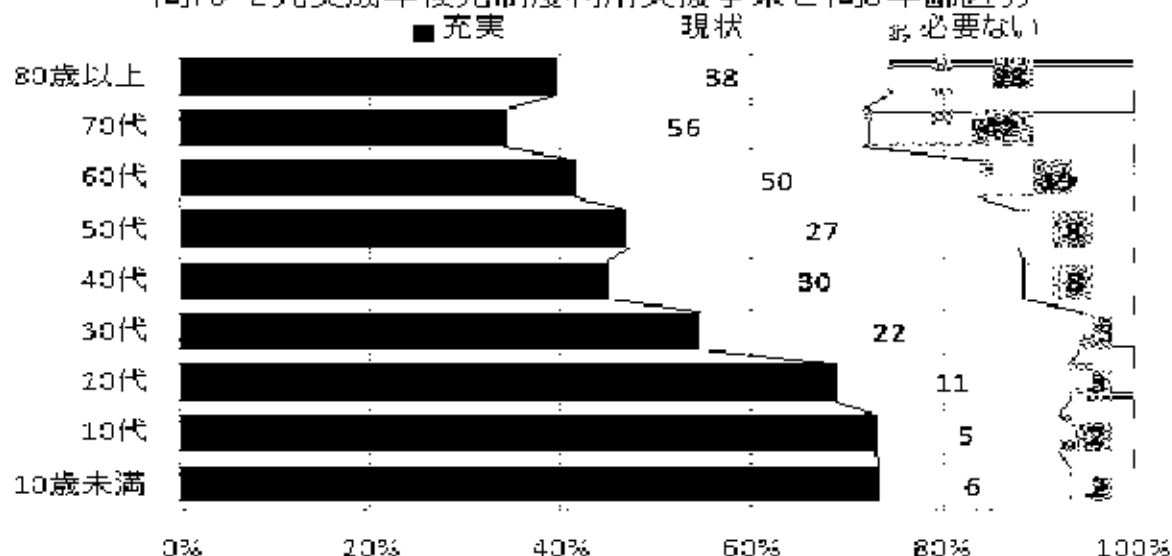


そうだしえんじぎょう ねんれいくぶん わか せだい そうだしえんじぎょう
 相談支援事業と年齢区分では、若い世代になるほど相談支援事業の
 充実を求めていることがわかります。

しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと せいしんしょうがい ひと じゅうじつ
 障害別では知的障害のある人と精神障害のある人の充実を
 求める割合が高くなっています。

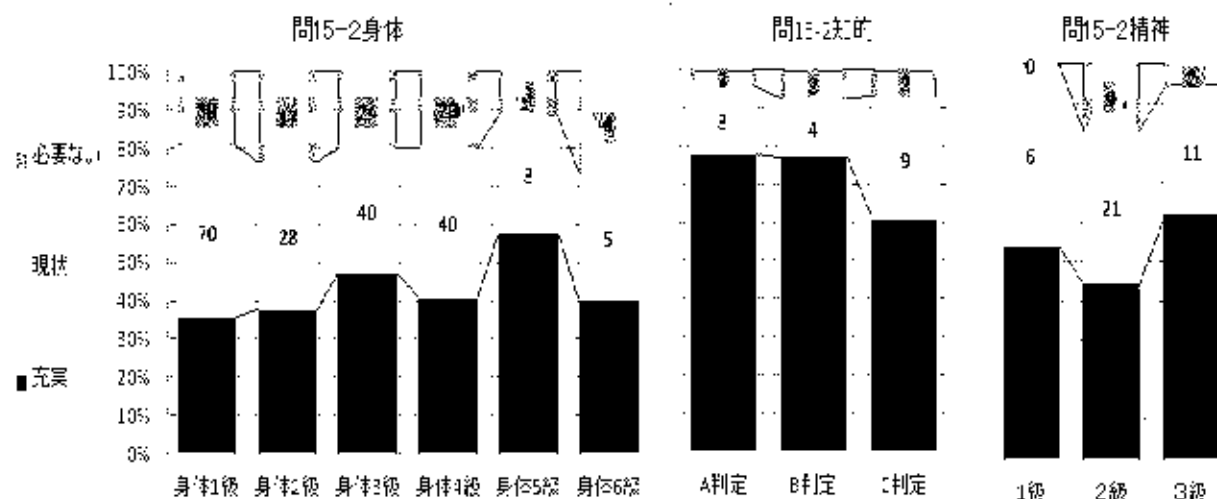


問15-2 充実成年後見制度利用支援事業と問3 年齢区分



成年後見制度事業と年齢区分では、問15-1相談支援事業と同様な割合傾向になっていますが、この後の報告5 障害者基本計画の項目制度の所でも明らかになるように「成年後見センターがあることを知らなかった」「成年後見制度を知らない」と回答した人が68.7%と高い割合で占めることから、「現状」との回答が増えている理由であると推察できます。

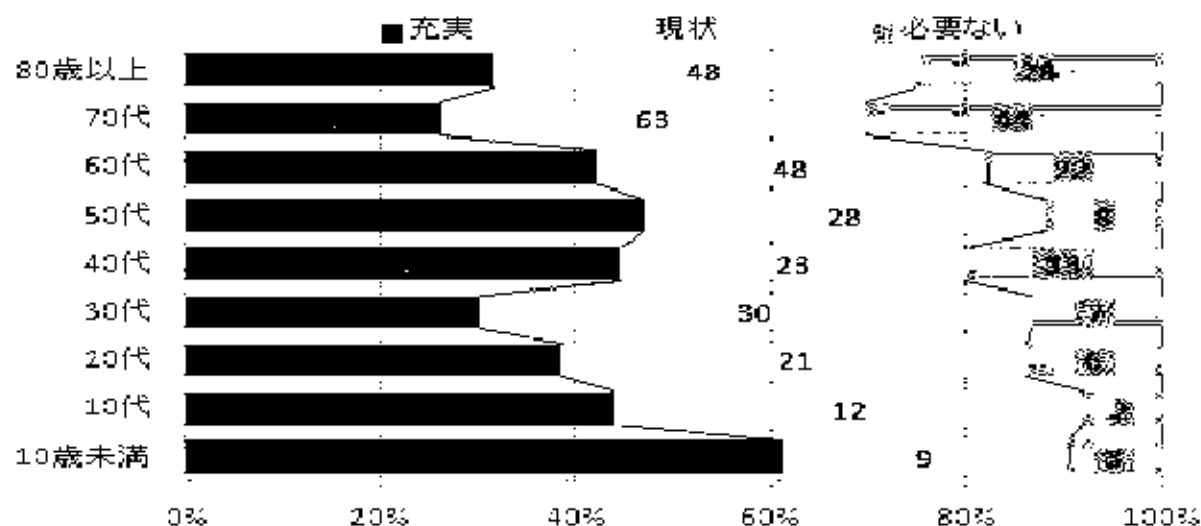
問15-2 成年後見制度利用支援事業と手帳等級



成年後見制度の対象となっていない身体障害のある人の「必要ない」「現状」の割合が半数を占めています。



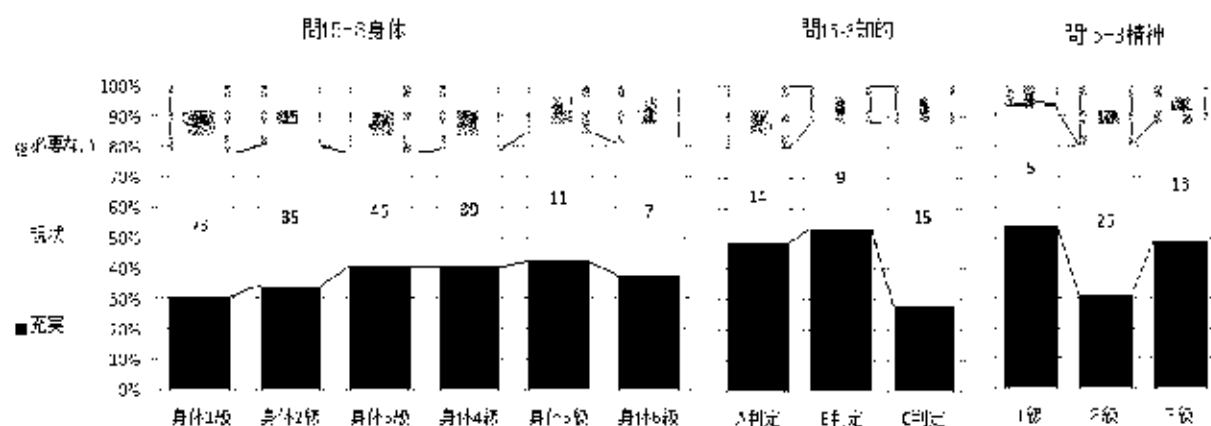
問15-3地域コミュニケーション支援事業と問3年齢区分



コミュニケーション支援事業と年齢区分では、30代の「現状」の回答

割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要ない」との回答の割合も高くなっています。ここでは手帳取得時期との関係を見てみます。

問15-3 コミュニケーション支援事業と手帳等級



問6 手帳の交付時期と問15-3地域コミュニケーション支援事業のクロス表

			問15-3 地域コミュニケーション支援事業のクロス表					合計
			早急に充実 してほしい	充実してほ しい	現状のま までよい	あまり必要 ない	必要ない	
問6 手帳の 交付時期	小学校入学前まで	度数	6	35	33	3	6	83
		総和の%	0.9%	5.2%	4.9%	0.4%	0.9%	12.4%
	小学校入学後から 18歳未満まで	度数	3	14	14	1	5	37
		総和の%	0.4%	2.1%	2.1%	0.1%	0.7%	5.5%
	18歳から39歳	度数	12	32	67	5	9	125
		総和の%	1.8%	4.8%	87.0%	0.7%	1.3%	18.7%
	40歳から64歳	度数	22	75	87	17	28	229
		総和の%	3.3%	11.2%	13.0%	2.5%	4.2%	34.3%
	65歳以上	度数	9	48	81	15	41	194
		総和の%	1.3%	7.2%	12.1%	2.2%	6.1%	29.0%
合計		度数	52	204	282	41	89	668
		総和の%	7.8%	30.5%	42.2%	6.1%	13.3%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	35.779 ^a	16	.003
尤度比	35.793	16	.003
線型と線型による連関	15.562	1	.000
有効なケースの数	668		

a. 3セル (12.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.27 です。

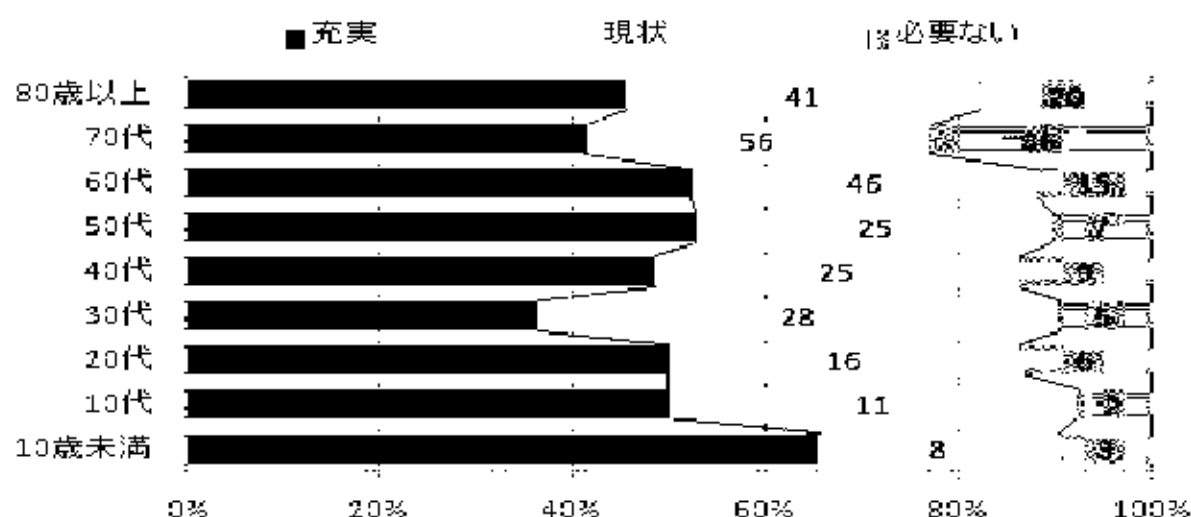
しょうがいしゃてちょうしゅとくじき さいいいじょう しゅとくくぶん
障害者手帳取得時期からみると40歳以上の取得区分で63.3%を占めています。

てちょうしゅとくじき ちい てちょう こうふじき ちいき
手帳取得時期では3%と5%より小さいため手帳の交付時期と地域コミュニケーション支援事業の充実が必要かどうかは統計的に強い関係があると判断できます。

しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと じゅうじつかいとう わりあい たしょうたか
障害別でみると知的障害のある人の充実回答の割合が多少高くなっています。中途障害の方のサービスと知的障害のある人のコミュニケーション支援は障害特性を配慮する必要があるといえます。

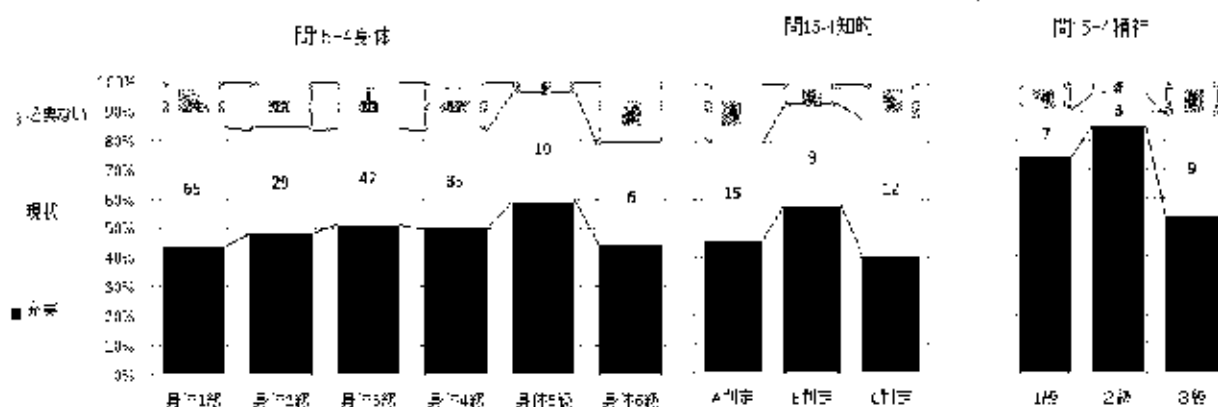


問15-4 地域日常生活用具給付等事業と問3 年齢区分



日常生活用具給付等事業と年齢区分では、30代の「現状」の回答割合が高いのが特徴的に現れています。あわせて70代の「必要ない」との回答の割合も高くなっています。

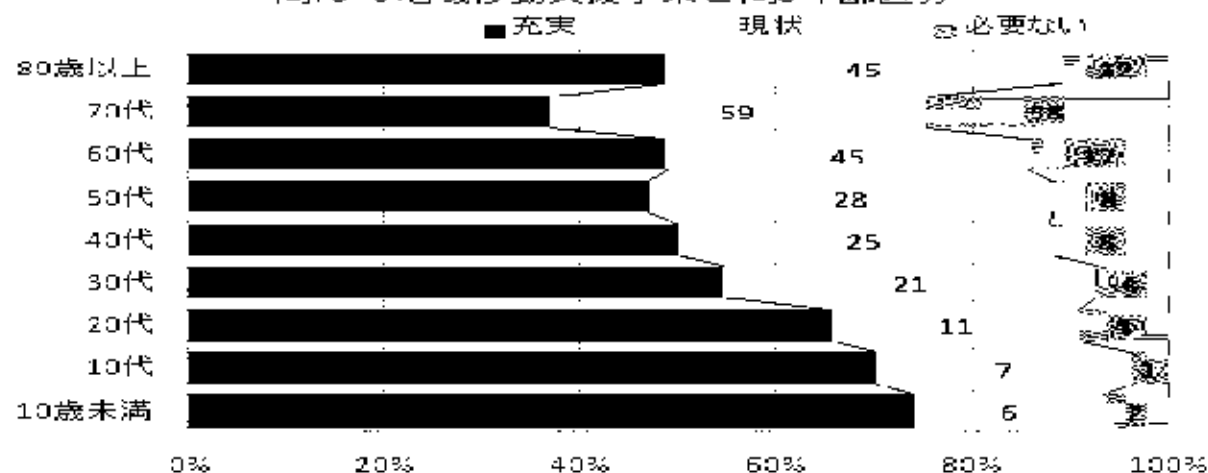
問15-4 日常生活用具給付等事業と手帳等級



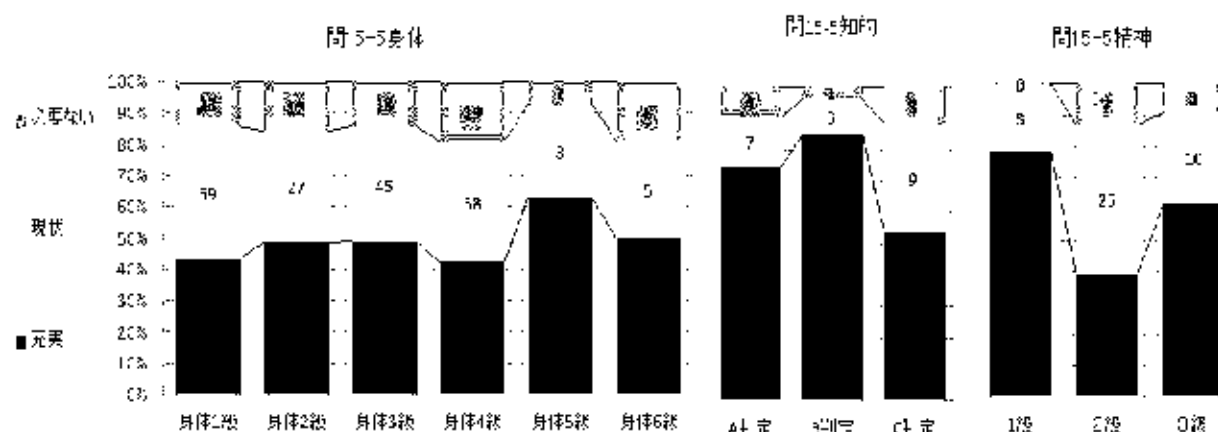
障害別でみると精神障害のある人の充実割合が高くなっています。精神障害のある人が必要としているニーズが別にあるのではないかと推察できます。



問15-5地域移動支援事業と問3年齢区分



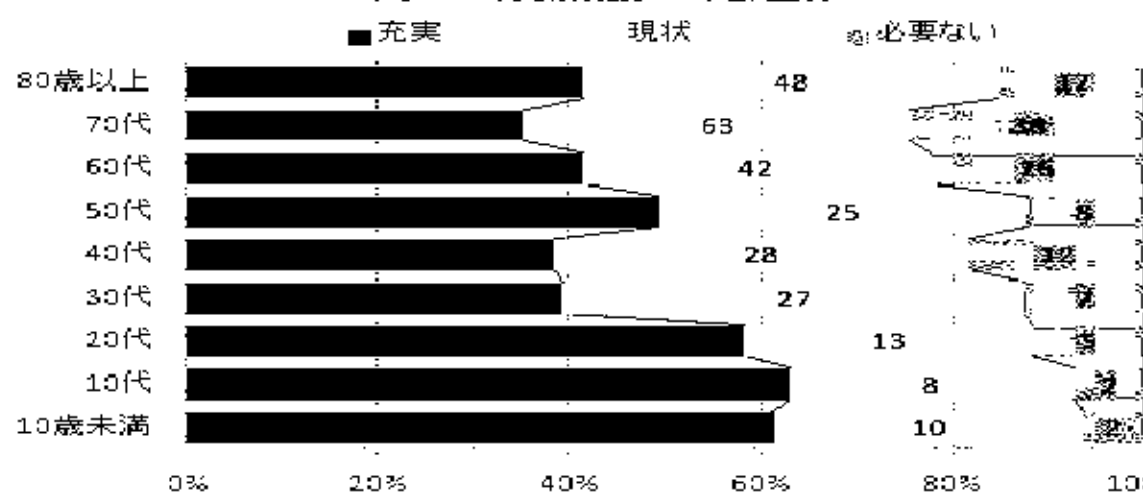
問15-5 移動支援事業と手帳等級



介護給付の問14-4行動援護年齢区分と移動支援事業の年齢区分別

ひかく
との比較をしてみます。

問14-4行動援護と年齢区分



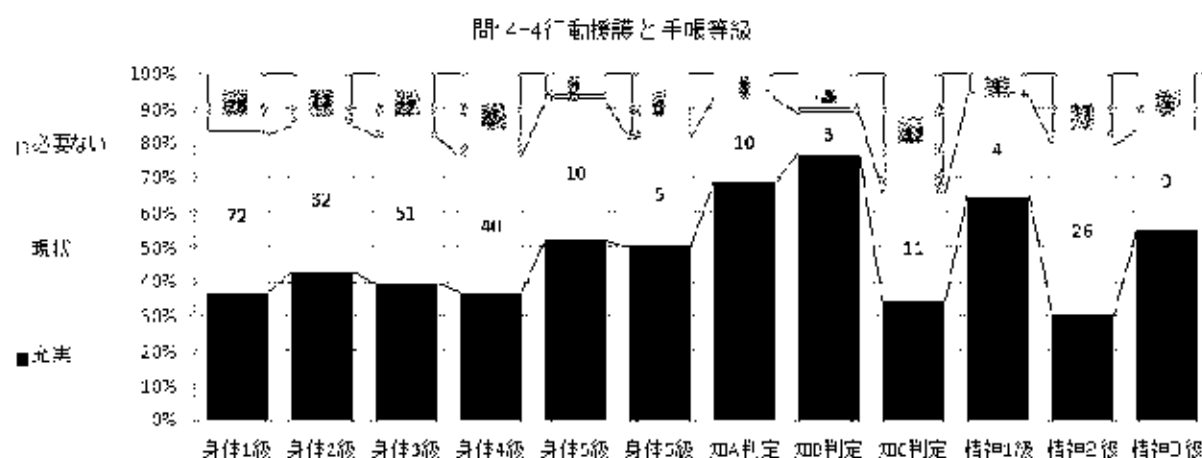
こうどうえんご だい だい じゅうじつ げんじょう かいとうわりあい おお
行動援護が30代と40代に「充実」より「現状」の回答割合が多いの

たい ちいきせいかつしえんじぎょう いどうしえんじぎょう だい だい
に対して、地域生活支援事業である「移動支援事業」では30代と40代は

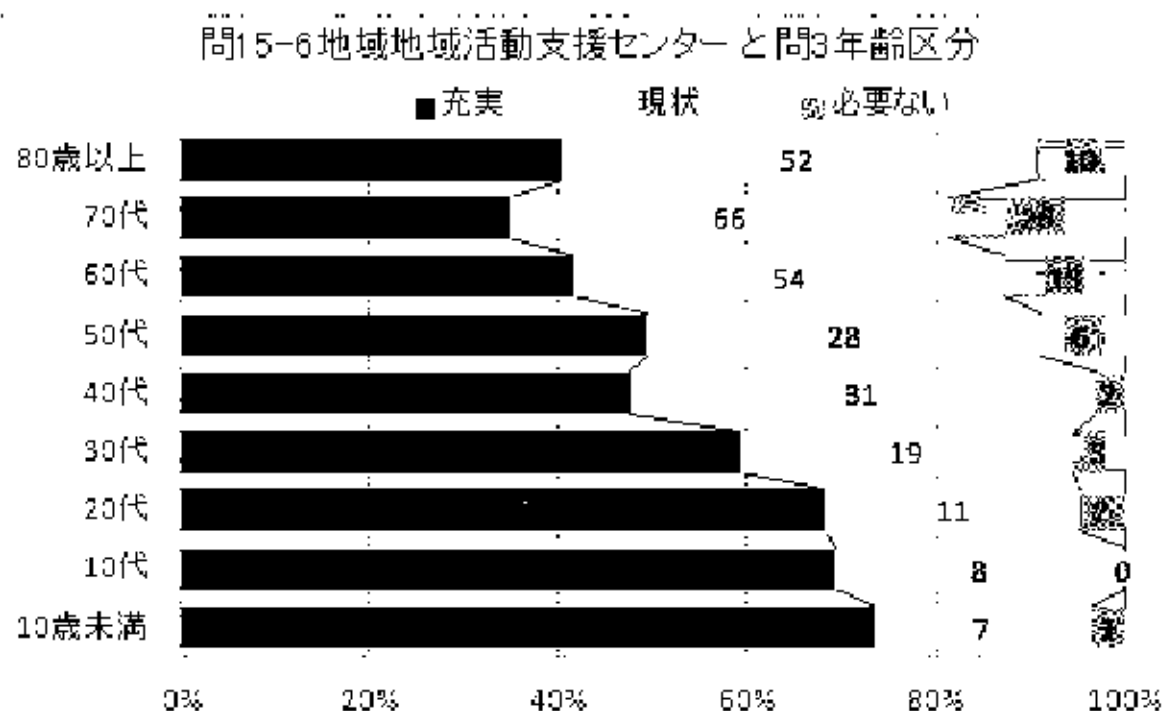
げんじょう じゅうじつ きぼう なん てつづ つか がって りょう
「現状」より「充実」を希望しています。何らかの手続きや使い勝手など利用

じょうげん すいきつ
しやすい条件があると推察できます。

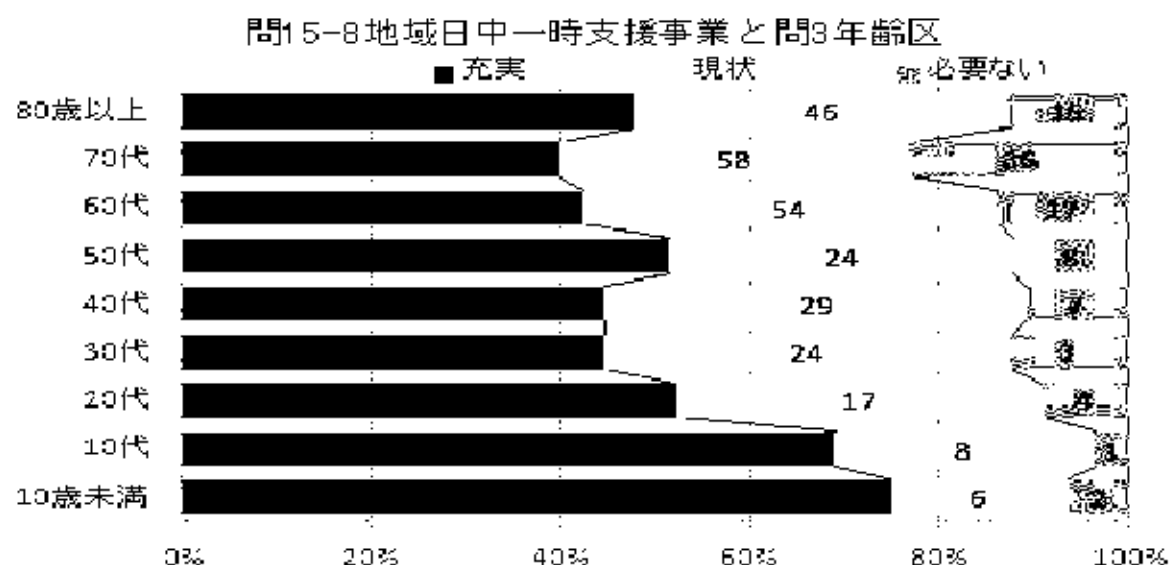
しょうがいべつ かいごきゅうふ とい こうどうえんご ひかく
障害別でも介護給付の問14-4行動援護と比較してみます。



いっぽうねんだいべつ あらわ わりあい き しょうがいべつ
一方年代別では現れた割合の差が、障害別ではほとんどみられません。

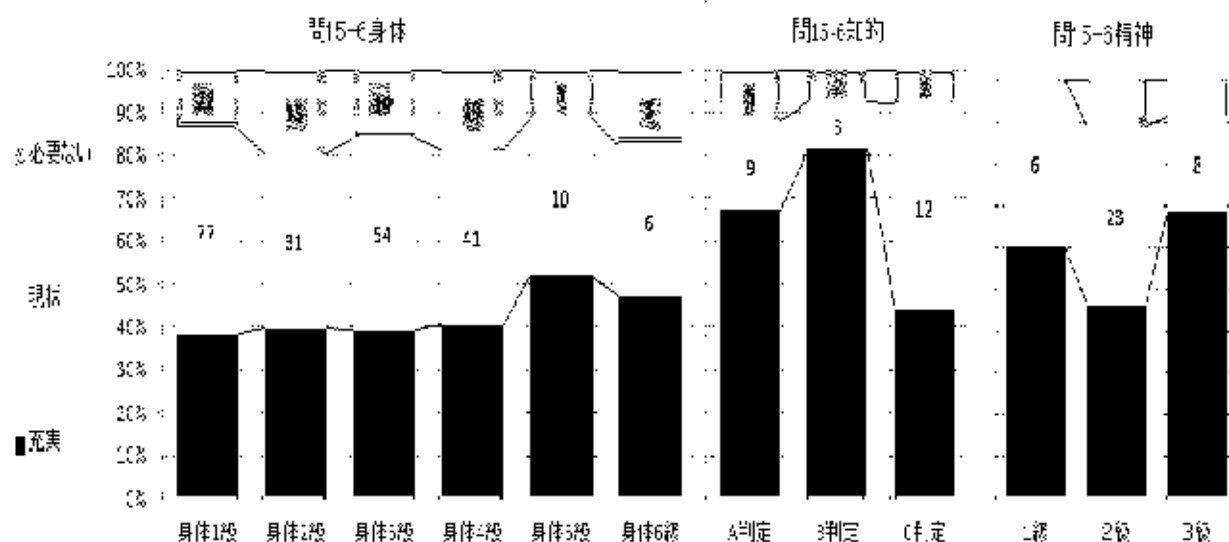


とい ちいきかつどうしえん とい にちじゅういちじしえん ねんれいくぶん
 問15-6と地域活動支援センターと問15-8 日中一時支援の年齢区分と
 ひかく
 を比較してみます。



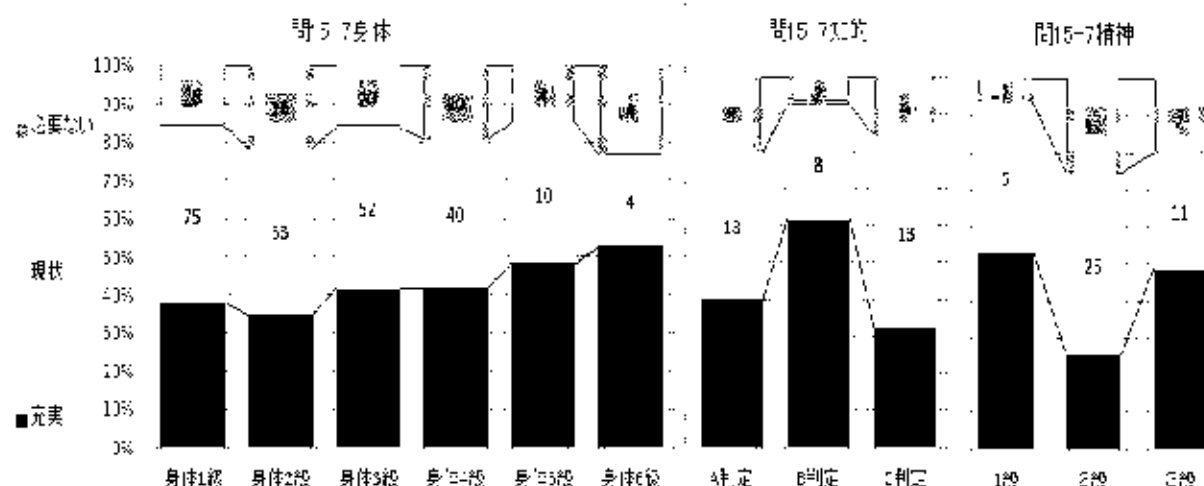
にっちゅういちじしえん だい だい じゅうじつ かいとうわりあい じゃっかんすく
 日中一時支援では30代・40代の「充実」回答割合が若干少く
 なり、「必要ない」に関しては30代で母数は少ないものの倍以上増えています。
 ひつよう かん だい ぼすう すく ばいいじょうふ
 30代と40代の何らかの手続きや使い勝手など利用に関係する要因がある程度
 推察できます。

問15-6 地域活動支援センター事業と手帳等級

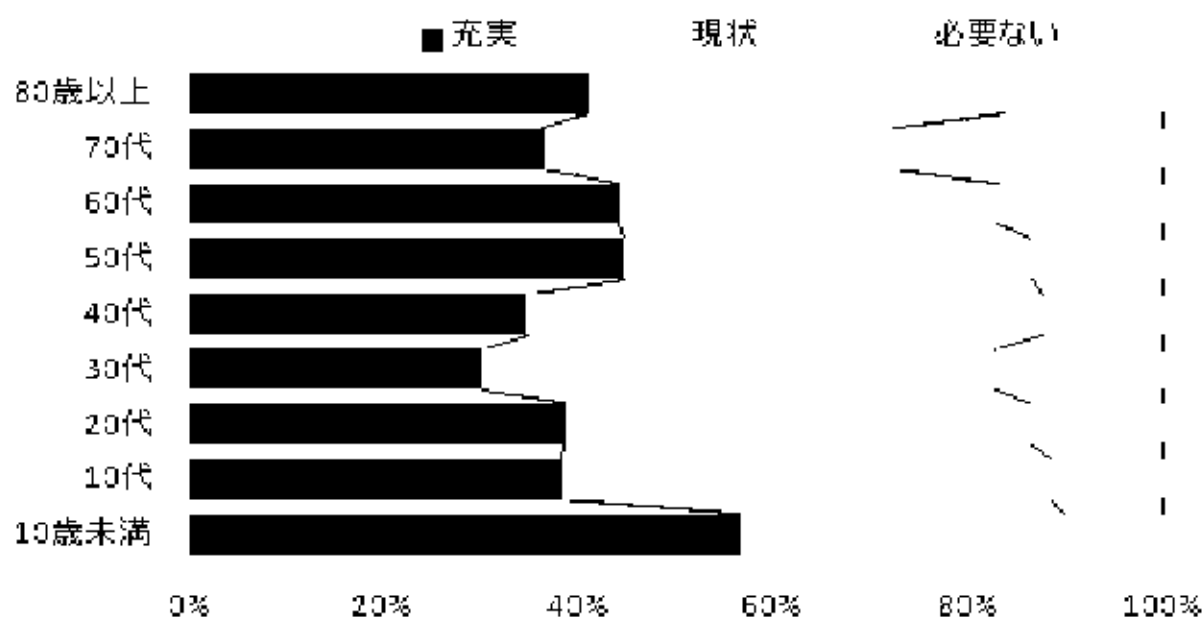


しょうがいべつ とい ちいきかつどうしえん とい にっちゅう
 障 害 別 においても問15-6と地域活 動 支援センターと問15- 8 日 中
 いちじしえん ひかく ちてきしょうがい ひと はんてい はんてい
 一時支援を比較してみます。知的 障 害 のある人のA判 定 とB判 定 では、
 にっちゅういちじしえん ちいきかつどうしえん じゅうじつ きわ たか
 日 中 一時支援と地域活 動 支援センターの「充 実」が両方とも際だって高く
 なっています。

問15-7 訪問入浴サービス事業と手帳等級

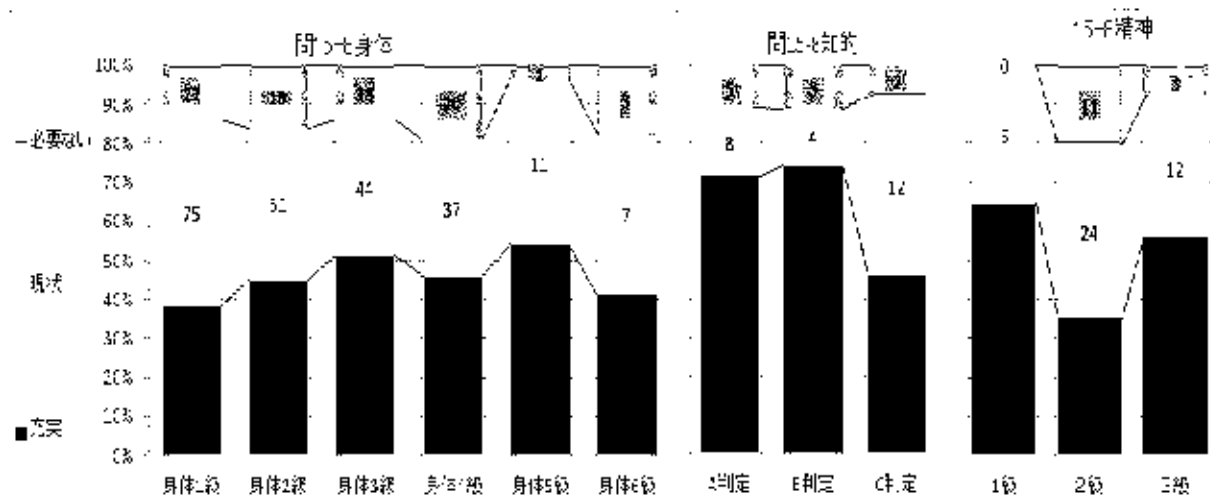


問15-7地域訪問入浴サービス事業と問3年齢区分



にゅうよく ねんれいくぶん だい げんじょう かいとうわりあい たか
 入浴サービスと年齢区分では、30代の「現状」の回答割合が高いのが
 とくちょうてき あらわ だい かた ひつよう かいとう
 特徴的に現れています。あわせて70代の方の「必要ない」との回答の
 わりあい おお
 割合も多くなっています。

問15-8 日中一時支援事業と手帳等級



しょうがいべつ くぶん じゅうじつ げんじょう あわ わり
 障害別にみるとどの区分においても「充実」と「現状」を併せると8割
 いじょう かいとう
 以上の回答でした。



ほうこく しょうがいしゃきほんけいかく こうもく じゅん たず
報告5 障害者基本計画の項目にそつて、順にお尋ねします。

きほんしきく 基本施策	
1-2	そうだんしえんたいせい じゅうじつ 相談支援体制などの充実
	(1) そうだんしえんたいせい じゅうじつ 相談支援体制の充実 (2) しょうがいしゃじりつしえんきょうぎかい きのうきょうか 障害者自立支援協議会の機能強化 (3) げんりようご すいしん 権利擁護の推進 (4) じょうほうていきょう じゅうじつ 情報提供の充実

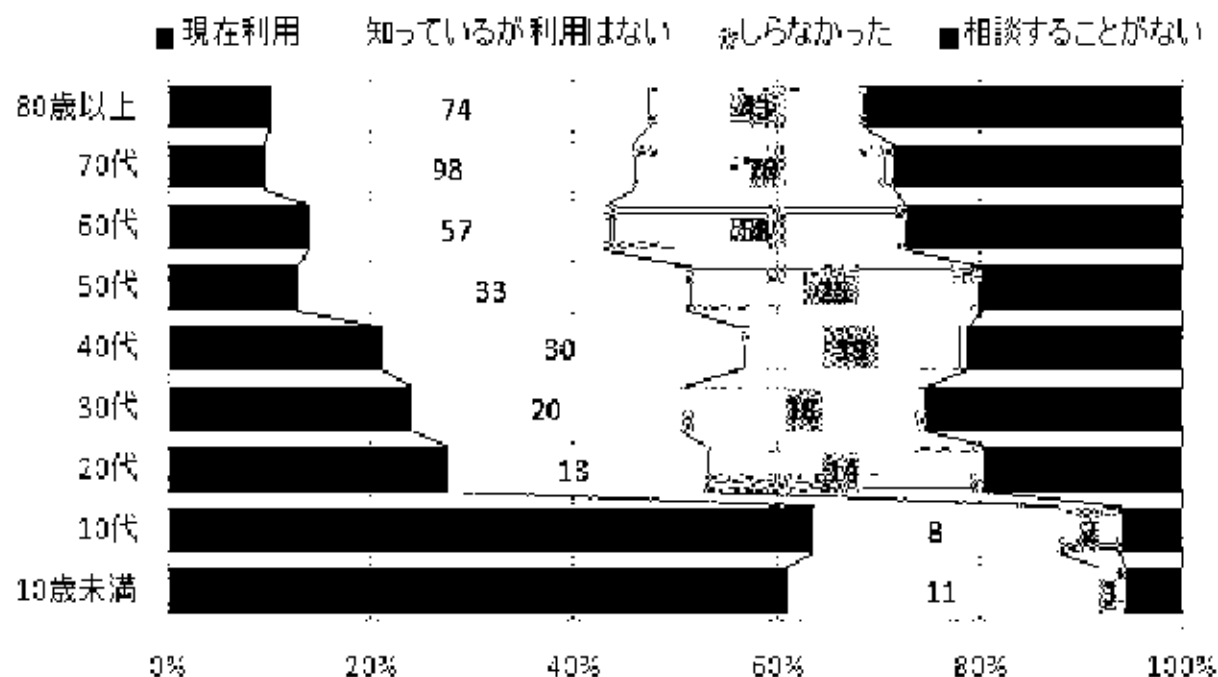
とい し しょうがいしゃそうだんしえん へいせい ねん がつ ちゅうおう
 問16 市の障害者相談支援センター（平成24年3月までは中央
 ふくし ない ねん がつ しょうがいしゃふくし ない いてん
 福祉センター内、24年4月からは障害者福祉センター内に移転）
 りよう でんわそうだんふく
 を利用（電話相談含む）したことがありますか。

問16 障害者相談センター利用

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	利用したことがある現在も利用している	184	15.6	17.3	17.3
	知っているが利用はしたことはない	355	30.1	33.5	50.8
	あることをしらなかった	259	21.9	24.4	75.2
	相談することがない	263	22.3	24.8	100.0
	合計	1,061	89.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	119	10.1		
合計		1,180	100.0		

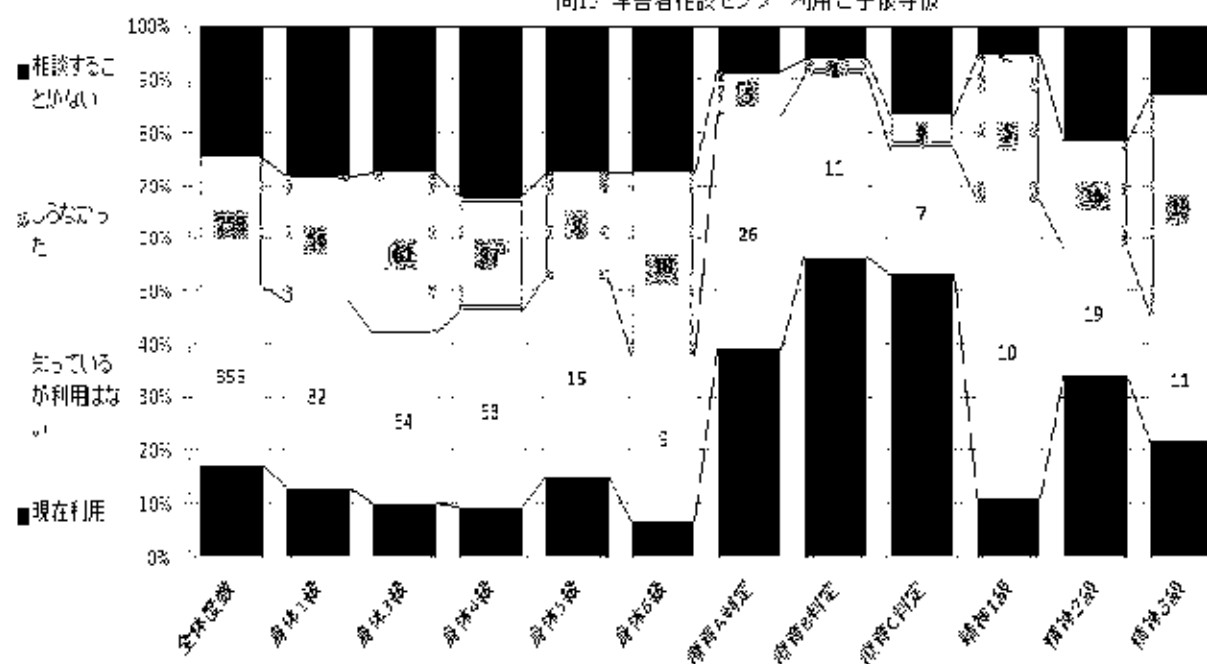


問16 障害者相談センター利用と年齢区分



しょうがいしゃそうだんしえん ねんれいくぶん だい きかい おお にきよくか
 障 害 者 相 談 支 援 センターと年 令 区 分では、10代を境に大きく二極化
 傾向となっています。

問15 障害者相談センター利用と手帳等級



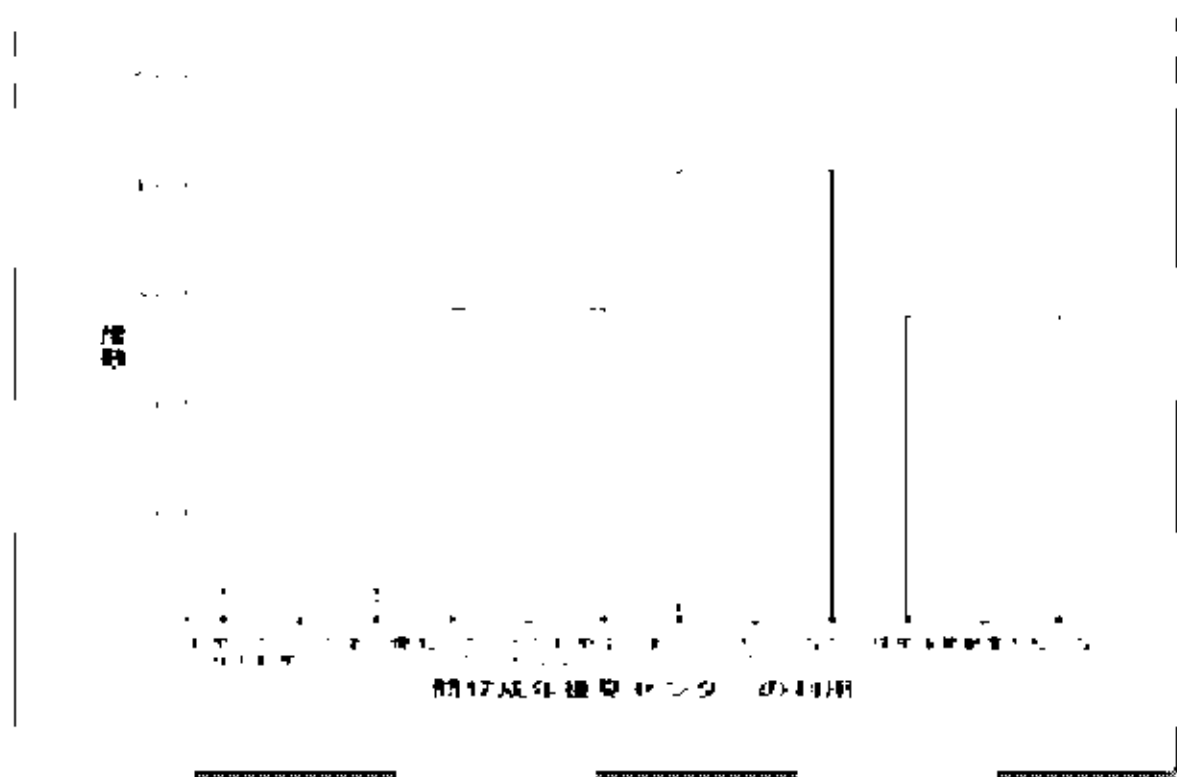
しょうがいべつ ちてきしょうがい こ も かぞく りよう おお
 障 害 別では知的障 害のあるお子さんを持つ家族の利用が多いことがうかがえ
 ます。



とい おわりとうぶせいねんこうけん へいせい ねん がつ ちゅうおうふくし
 問 17 尾張東部成年後見センター（平成24年3月までは中央福祉
 センター内、平成24年4月からは障害者福祉センター内に移転）を
 りよう でんわそうだんふく
 利用（電話相談含む）したことがありますか。

問17 成年後見センターの利用

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	利用したことがある現在も利用している	29	2.5	2.9	2.9
	知っているが利用はしたことはない	286	24.2	28.3	31.2
	あることをしらなかった	413	35.0	40.9	72.2
	成年後見制度を知らない	281	23.8	27.8	100.0
	合計	1,009	85.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	171	14.5		
合計		1,180	100.0		



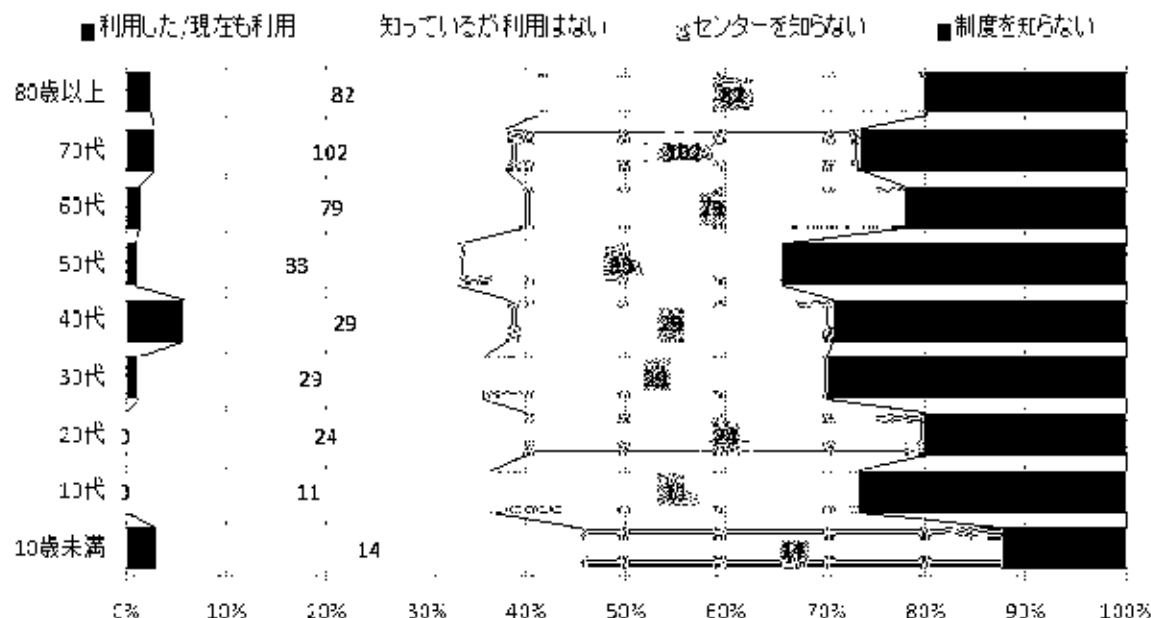
「あることをしなかった」が4割を超え最も高い回答項目となっています。

年齢区分別でもすべての年齢区分で高い割合で成年後見センターの

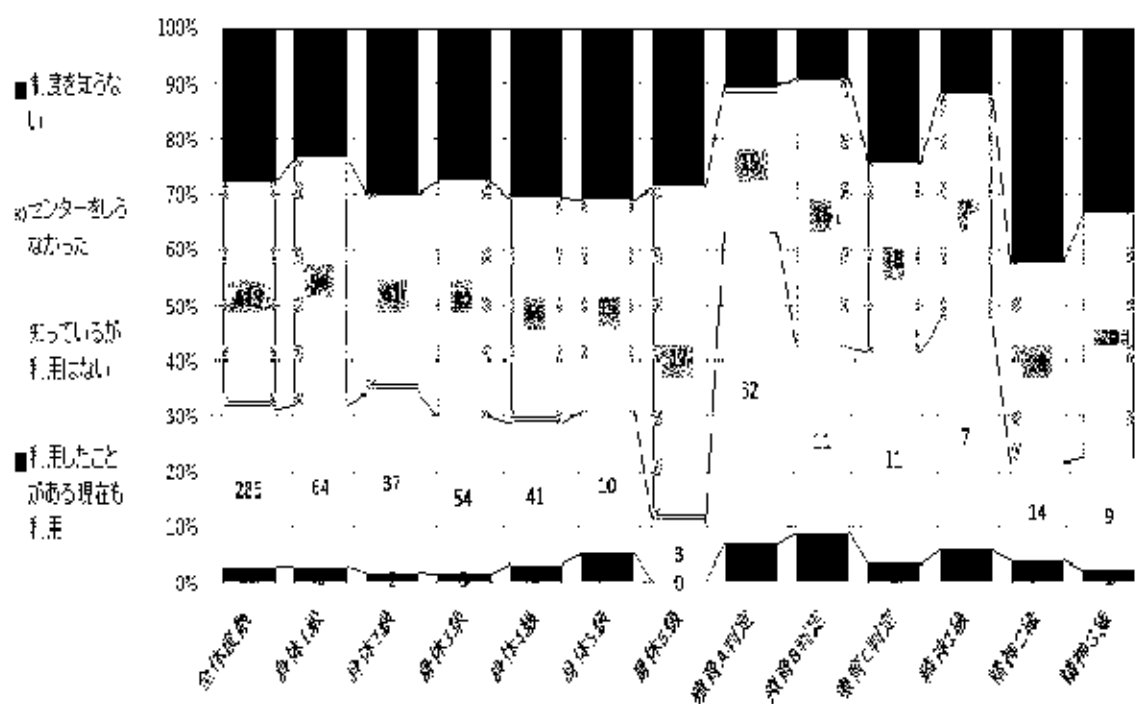
周知がされていないことがわかります。



問7 成年後見センターの利用と年齢区分



問7 成年後見センターの利用と手帳等級



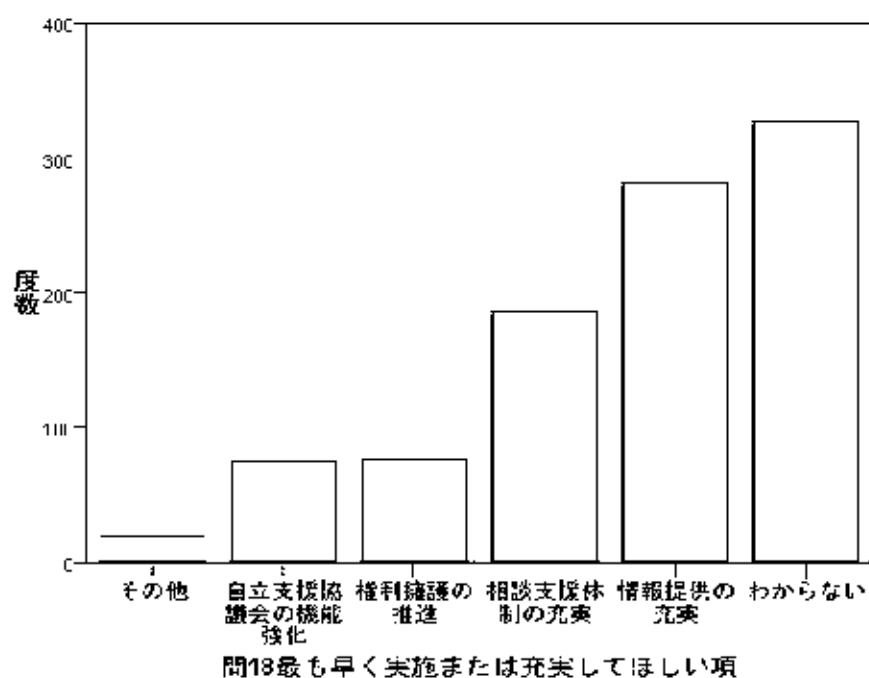
しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと はんてい りよう
障 害 別でみると知的障 害のある人のA判定では「利用」または「センター
し わりあい たか せいねんこうけん もっと りよう かのうせい
を知っている」割合が高くなっています。成年後見を最も利用する可能性の
かた しゅうち わりていど じょよじょ
ある方への周知は6割程度ではあるが徐々にされてきていることがうかがえ

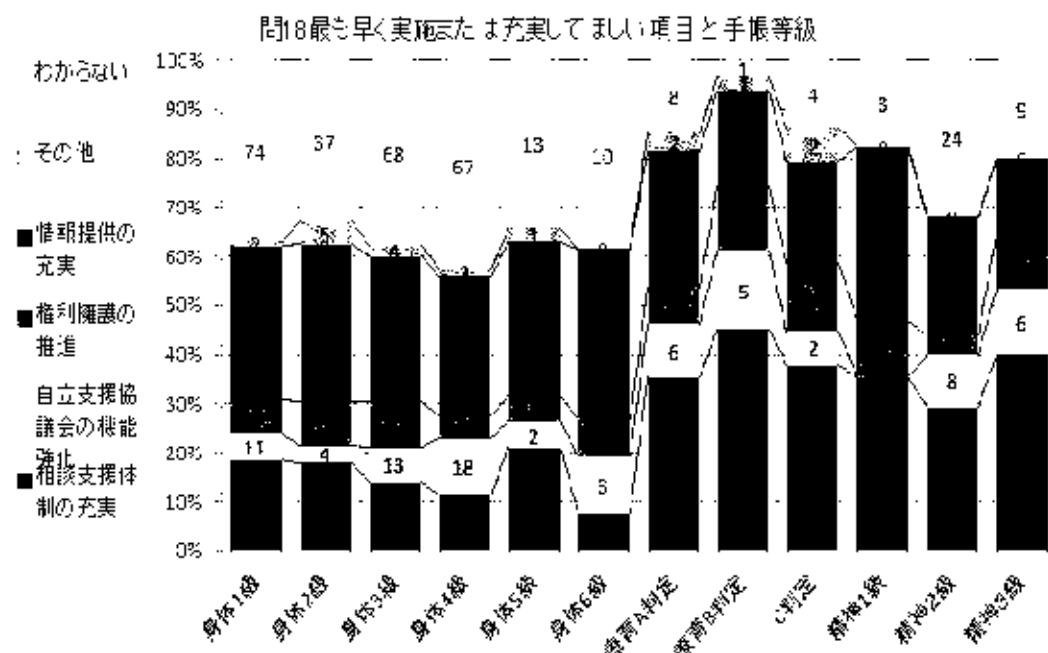
問 18 次の項目のうち、最も早く実施又は充実してほしい項目は何ですか。

問18 最も早く実施または充実してほしい項目

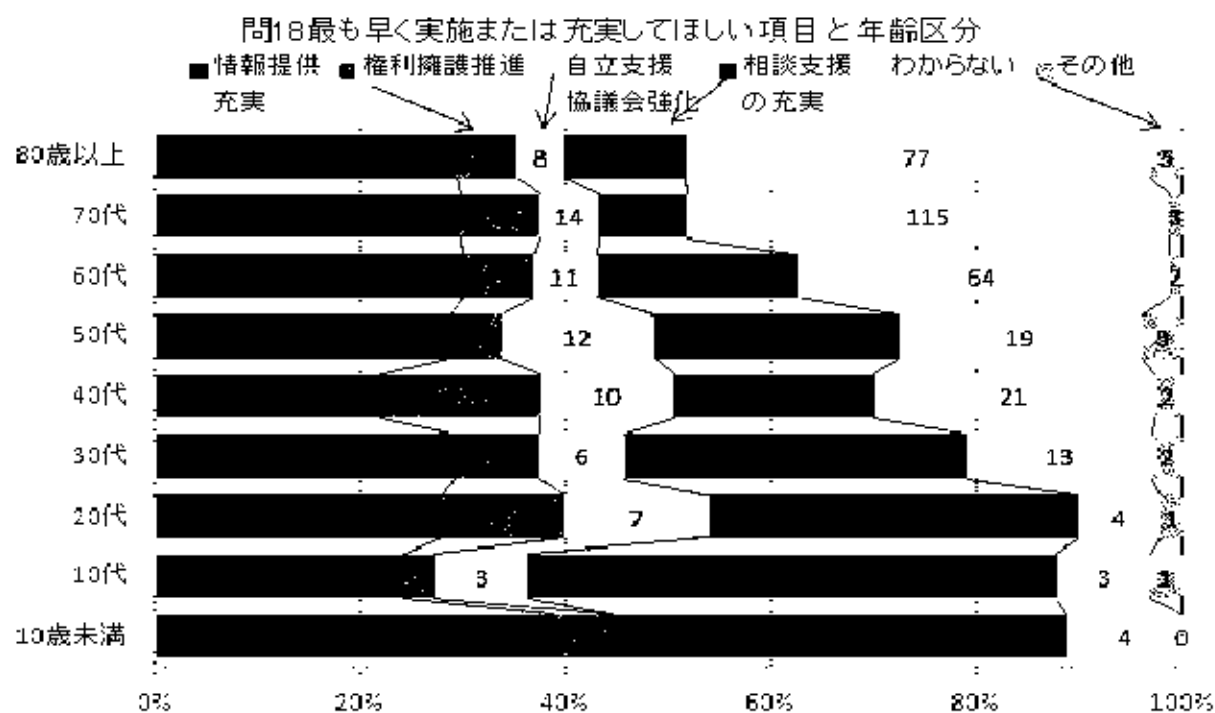
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	相談支援体制の充実	187	15.8	19.3	19.3
	自立支援協議会の機能強化	75	6.4	7.8	27.1
	権利擁護の推進	76	6.4	7.9	35.0
	情報提供の充実	282	23.9	29.2	64.1
	その他	19	1.6	2.0	66.1
	わからない	328	27.8	33.9	100.0
	合計	967	81.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	213	18.1		
合計		1,180	100.0		

「わからない」が33.9%と最も高く、次に「情報提供の充実」が29.2%となっています。その関係もあり「相談支援体制の充実」が19.3%となっており、あわせて48.5%の人が情報保障を最優先課題にしている事がうかがえます。





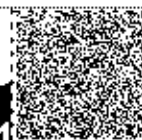
しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと せいしんしょうがい ひと そうだんしえん
 障 害 別では知的 障 害のある人と精神 障 害のある人は「相談支援の
 じゅうじつ つぎ じょうほうていきょう じゅうじつ こうれいしゃ おお
 充実」次に「情報提供の充実」となっています。高齢者が多くを
 し しんたいしょうがい ひと かゐとう おお
 占める身体 障 害のある人の回答の多くは「わからない」となっています。



とい 基本施策 1—2 そうだんしえんたいせい じゅうじつ かんれん じゅう
問 19 基本施策 1—2 相談支援体制などの充実に関連して、自由に

ていあん ようぼう きにゆう
提 案、 要 望 を 記 入 し て く だ さ い。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問19相談支援
家族	男	10歳未満	2			相談内容は一人一人違うので、一人一人に寄り添った支援をしてもらいたい。
家族	男	10歳未満		A		平日だけではなく、土日休日にも相談できるようにしてほしい。
家族	男	10歳未満		B		継続的にPT, ST, OT, 整形外科、小児科、耳鼻科等の受診がセンターで一括できるようにしてほしい。手帳判定もセンターでできるとありがたい。
家族	男	10歳未満		B		市外の幼稚園等通っても小中学校等進学に関する情報がほしい。相談場所・時期等わからない。リハビリ等の訓練が市内で受けられると通院などの負担がへる。
家族	男	10歳未満		B		障害のある人を育てた人に相談や助言をしてもらう機会があればよいとおもう。
家族	女	10歳未満		B		申請しないと対応してくれない。考えられる対象者に役所からいってくれたらありがたい。
家族	女	10歳未満		B		親のケアも必要。情報がほしい。先輩や専門家のアドバイス指導等の体制。
家族	男	10歳未満		C		願います。
家族	男	10歳未満	2	A		保育園に通っていた頃は何の情報も入らなかった。保健センターの担当者は、こちらの病院通いのことなどを質問するばかりで、その聞き取った情報をどう生かしてくれているのかさっぱりわからなかった。
家族	女	10代		A		相談支援センターが困らない様に市内にサービス機関を充実してください、回答ができないような相談支援は意味がない。
家族	女	10代		B		相談しても今の行政のサービスの説明しかなし、個々の障害に応じた柔軟な対応をしようという姿勢はあまり感じられない。他人事を仕事で対応ではなく、困っている住民をどうしたらサポートできるのか、という姿勢を組織として取り組んでほしい。
家族	女	10代		B		支援センターが市役所と離れて不便。センターの中に福祉課支所を作ってほしい。



[illegible]

[illegible]

家族	女	80歳以上	2			娘がALSのボランティアをしています。ALSの方が入院した折、日進市ではヘルパーの付き添いを認めていますか。コミュニケーションが文字盤であった時など認められないと医療者との意思把握が難しいのですが。
本人	女	80歳以上	3			相談場所があってもそこまで行くことがなかなかむずかしいので訪問し相談することができたら大変たすかります。
本人	女	80歳以上	3			手術以後は歩行困難もなく普通に生活できている。走ったり、高所の上下り等しないで転倒を絶対しないように心掛けています。
本人	女	80歳以上	3			地域の民生委員さんに声掛けしてもらいたい。
家族	女	80歳以上	3			バスターがあっても入所できる施設が欲しい。
本人	男	80歳以上	3	3		今の所、普通に〈自分の事〉自分でできますのでうれしい限りです。
本人	男	80歳以上	4			年をとると体に障害がなくても日常生活に不自由をきたすことがある。規則にとられず現実的に対処することを考えてほしい。
		欠損値				就労場所の提供、支援を充実してほしい。
本人	男	欠損値		2		相談してくれる人がいる。
		欠損値		2		精神障害についてもっと支援体制を充実してほしい。
		欠損値	2	2		カウンセリングの充実。専門家をおく。

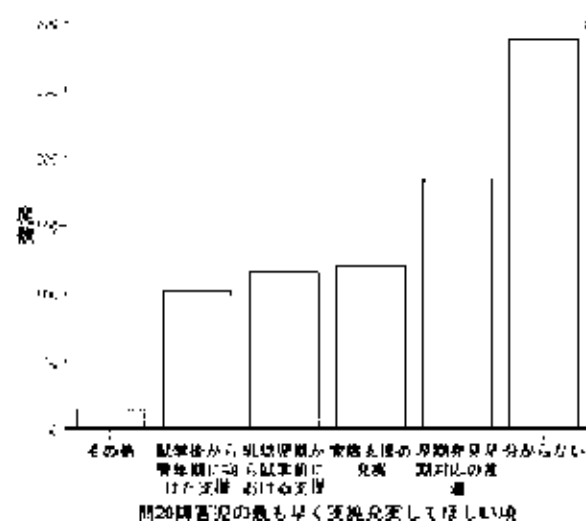


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 20 次の項目の中で、最も早く実施又は充実にしてほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策1-3	しょうがい こ しえん じゅうじつ 障害のある子どもへの支援の充実
	(1) しょうがい そうきはっけん そうきたいおう すいしん 障害の早期発見、早期対応の推進 (2) にゅうようじき しゅうがくまえ しえん 乳幼児期から就学前における支援 (3) しゅうがくご せいねんき む しえん 就学後から青年期に向けた支援 (4) かぞくしえん じゅうじつ 家族支援の充実

問 20 障害児の最も早く実施充実してほしい項目

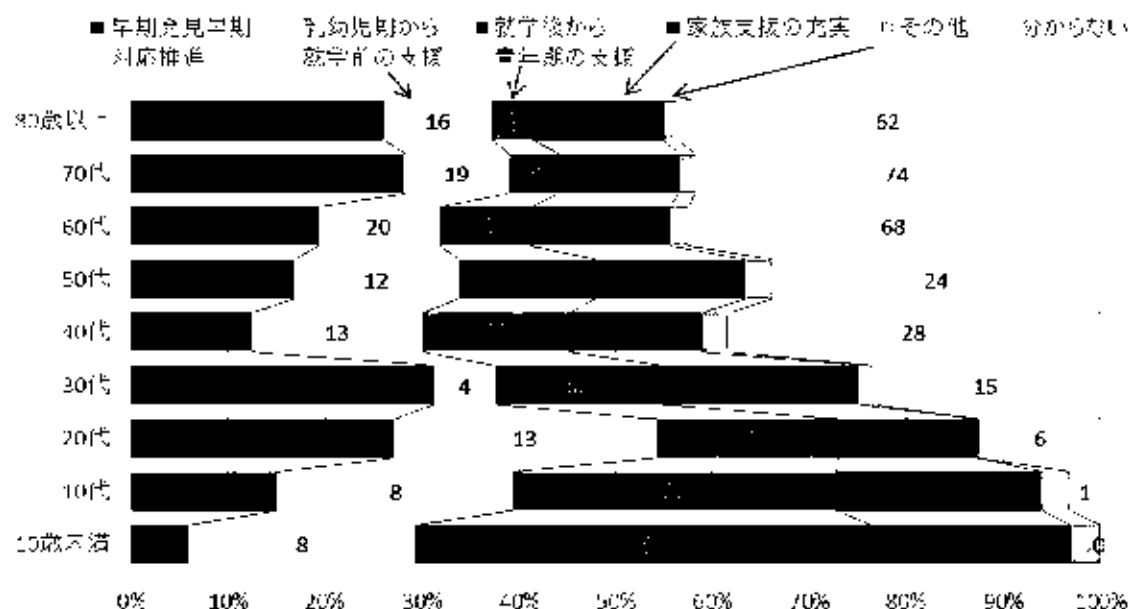
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	早期発見早期対応の推進	184	15.6	22.3	22.3
	乳幼児期から就学前における支援	115	9.7	14.0	36.3
	就学後から青年期に向けた支援	101	8.6	12.3	48.5
	家族支援の充実	121	10.3	14.7	63.2
	その他	15	1.3	1.8	65.0
	分からない	288	24.4	35.0	100.0
合計		824	69.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	356	30.2		
合計		1,180	100.0		



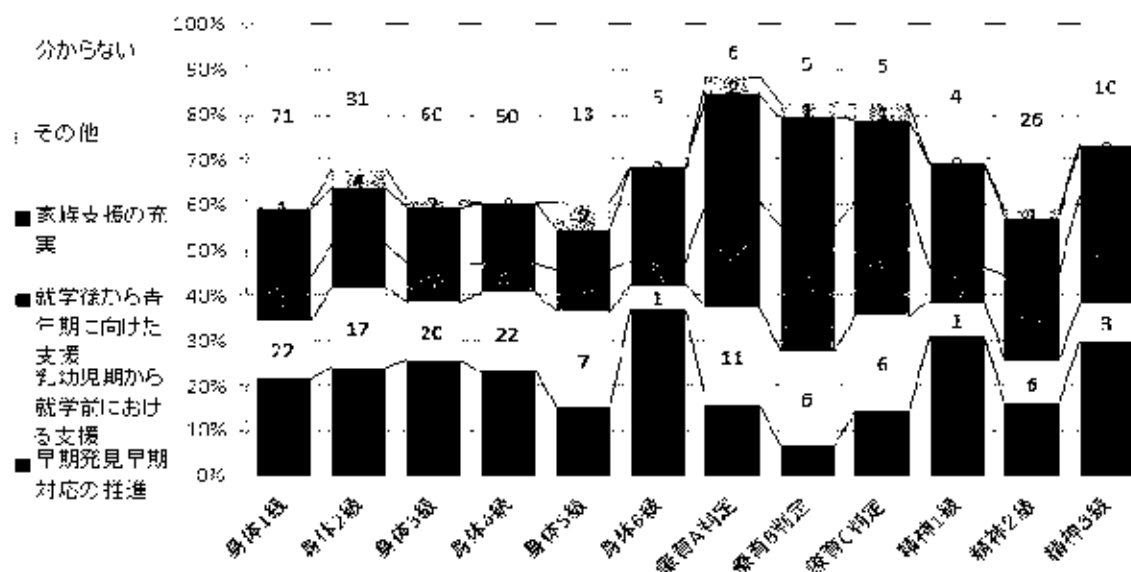
しょうがいじ もっと はや じっし
 障害児の最も早く実施
 じゅうじつ こうもく
 充実にしてほしい項目では「わからない」が35%と最も高く、次に「早期
 もっと たか つぎ そうき
 はっけんそうきたいおう すいしん
 発見早期対応の推進」が22.3%と
 ねんれいくぶんべつ
 なっています。年齢区分別でみると
 ちよくめん かだい たい かいとう
 直面している課題に対しての回答に
 あき よ と
 なっていることが明らかに読み取れます。



問20障害児の最も早く実施充実してほしい項目と問3年齢区分



問20障害児の最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがい係つ しんたいしょうがい そうきはっけんそうきたいおう
障 害 別では身 体 障 害 1級のある人では「早期発 見 早期 対 応 の

すいしん つぎ かぞくしえん じゅうじつ いっぱう ちてきしょうがい はんてい
推 進」次に「家族支援の充 実」となっています。一方、知的障 害 A判 定

しゅうがくご せいねんき む しえん つぎ かぞくしえん じゅうじつ
のある人では「就 学 後から青 年 期に向けた支援」次に「家族支援の充 実」と

にゅうようじき しゅうがくまえ しえん せいしんしょうがい きゅう
「乳 幼 児 期から 就 学 前における支援」となっています。精 神 障 害 1 級 の

ひと そうきはっけんそうきたいおう じゅうじつ つぎ かぞくしえん じゅうじつ
人は「早期発 見 早期 対 応 の充 実」次に「家族支援の充 実」となってい

こうれいしゃ おお し しんたいしょうがい ひと かいとう おお
ます。高 齢 者が多くを占める身 体 障 害 のある人の回 答 の多くは「わからな

い」となっています。



とい きほんしきく しょうがい こ しえん じゅうじつ かんれん
 問 21 基本施策 1-3 障害のある子どもへの支援の充実に関連して、
 じゅう ていあん ようぼう きにゆう
 自由に提案、要望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体 手帳	療育 手帳	精神 手帳	問21 障害児支援記述
家族	男	10 歳未 満	2			統合保育、教育のためのハード面での対応、加齢の必要性などをもっと考えてほしい。子供たちは日々成長しています。いろんなことに早急に対応できる行政であっていただきたい。
家族	男	10 歳未 満			3	学校での対応が何をしているのかよくわからない。児童については教育委員会等ともっと連携してほしい。支援計画の立案力、実行力、検証もない。形だけの計画はやめてほしい。
家族	男	10 歳未 満		A		特別支援学級の充実。人員を増やしてほしい。行事の予算を削減しないでほしい。
家族	男	10 歳未 満		B		障害者の就労している親に対してのサポートが少ない。祖父母がいいる場合、就労することが難しい状況になってしまう。
家族	男	10 歳未 満		B		障害がわかってから成人するまで就労や就学等どこでも受け入れられる体制を作してほしい。受け入れられないとちょっと等といわれると拒絶されているように感じる。問題ないですよと即答できるような理解してほしい。
家族	男	10 歳未 満		B		子供が中学を卒業すると急に支援が薄くなるので、そこに注力してほしい。
家族	男	10 歳未 満		B		早期療育で通えるよう、〇〇〇〇の枠の拡大、先生を増やして赤ちゃんからでも通えるようにしてほしい。子供によって発達も異なるし、〇〇〇〇に通うことで母親の引きこもりをなくしてほしい。発達系の障害の子の枠は多いが、肢体・染色体のほうの枠が少ない。赤ちゃんが来てもベビーマッサージや赤ちゃんのプログラムを作してほしい。
家族	女	10 歳未 満		B		告知を受け、不安な家族に私だけではないんだという共感が得られるための気軽に話ができる場が多くつくられ、またその存在をすぐに伝えられるとよいと思う。



家族	男	10歳未満		B	障害のある子供を持っている親は子供本人も苦労が多いが親もとても苦労しています。ストレスで精神的にも肉体的にもまいっています。日中一時支援や放課後デイなどの利用日数や時間の増加・充実をお願いします。
家族	女	10歳未満		B	高齢者の方への福祉は手厚いと悪評高い日進市。たしかに人数も多いし、有権者だから市もそっちを重点しやすくなるのもわからないでもないが、未来ある子供のためにも税金を使ってほしい。
家族	女	10歳未満		B	他市に比べて施設が小さい。日進はこれから若い人たちが多くなると思うので、もっと大きくても良かったと思う。
家族	男	10歳未満		C	学校の特別支援教室について障がいに関心のある知識のある教師や専門家が足りないと感じる。
家族	男	10歳未満		C	支援学級に在籍しながら、半分以上を交流学級で過ごさせてもらっている息子はいろいろな成長がみられ、ありがたい。子供は大人だけで育てようとしても難しく、まわりの子供たちの力を借りたほうがよく育つのだと実感しています。大人側の運営のしやすさだけで分けられることがないようにすべきだと思う。どの子も半分くらいは交流できるようにチャンスが与えられるように切に願います。それなしで支援の充実をしても子供の幸せにはあまりつながらないと思う。



家族	女	10歳未満		C	障害児枠が一向に実現しない。待機児童と一緒にされても困る。障害児の事を考えているなら大変さはわかるはず。時間・お金もとられ働けない。点数が足りないから入れないなんて困ります。真剣に考えてほしい。
家族	男	10歳未満		C	発達障害の子供に対して学校内でのより手厚いケアが行えるように人員を増やしてほしい。障害があっても学童・児童クラブで見えていただける人員を増やしてほしい。
家族	男	10歳未満	1		普通学級に通うための介助者の増員をお願いしたい。本年度も校長が教育委員会に要望して下さったが、認められなかった。先生方が車いすをおしてくれている。
家族	男	10歳未満	1		普通級に通えるようにしてほしい。適切な支援が受けられるようにしてほしい。設備のバリアフリー、マンパワー。
家族	男	10歳未満	2	A	1～4のどれももっと充実してほしい。サービスを知らないし、知ってもどのサービスが自分に向いていて、どんな利用の仕方をすればメリットがあるのかわからない。先の見通しがたたないので不安。
家族	男	10歳未満	2	A	〇〇〇〇の食事提供について自園調理してください。特区で適用されているようですが、期限はいつまでですか？いつから自園調理へ移行する動きを始めるのでしょうか？
家族	女	10歳未満	2	A	〇〇〇〇〇にかよっています。上記1～4まですべて身近な問題と感じています。青年期はまだ想像すらつかず、どのような問題が待っているかすら思い当りません。1～4までスムーズなモデルケース等示してもらえるとこれからの心がまえができます。



家族	女	10 歳未 満	2	A		どんなに重い障害を持つ子供も差別なく、地域で安心して療育を受けられるようにすすく園の充実(求職の対応や保育士のレベルアップなど)を図ってほしいです。今のままでは重度の子は日進では療育を受けられません。
家族	女	10 代		A		先天性ですぐにわかるもの、成長段階で発見されるものがある。生後すぐ早期療育を含め、家族支援をして寄り添う機関が必要。ボーダーといわれる子供たちの将来を見据えた支援も学内でどうしていくのか早急に体制を作っていくべき。
家族	女	10 代		A		親と同じ目線で子供の発達・将来のために何が必要か、総合的に、かつ継続的に相談できる事が必要。〈療育・サービス・医療など〉特に学校においては専門家が直接毎日の指導にあたるべき。
家族	女	10 代		B		日進中学校へ通っているが、他の生徒は自転車の距離(2KM)長時間の歩行も自転車も難しく、相談しても対処は行政側から出されず、結局親が毎日車で送迎し、大きな負担になっている。
家族	女	10 代		B		サービスを知らなければいけないので、機会を設けて知らせてほしい。
家族	男	10 代		C		保育園や学校への障害への理解を求める。先生への講演やクラスに発達に障害がある子供を持つ担任は特に。学校の中がひどい状態になっている。親以外でふれあう大人として先生が一番身近な存在ではないでしょうか。ここを変えないと社会がかわらない。
本人	男	10 代		C	2	希望する進路に進めるように情報提供や進路指導をしっかりとください。



家族	男	10代		C	3	軽度の知的障害者や発達障害の場合、親でもわかりにくく、人並みだが本人の能力をこえたことを必死にやらせようとして、結局本人のためにならないことがある。酷なようでも状況を保護者に伝え、何ができ、何ができないのか説明し、サポートしていく必要がある。保護者も気後れして自分からは聞きづらい場合もあるので、なかば強制的にでも状況を把握させ、早期から対応していくことが必要。
家族	男	20代			2	早期発見をしてその子に適した教育方法での教育を一時も早く行ってほしい。通常学級での教育ではせっかく良い才能をもっているのに、活かせず、いじめの対象ともなる。適したちょっとした支援で大切なこの芽を伸ばすことができる。
本人	男	20代			3	子供さんはもちろんですが、障害を持たれた子供さんの父母に対するケアも必要かと思います。
本人	女	20代			3	家族も相談窓口をしっかりとってほしい。
家族	男	20代		A		早期発見、乳幼児期、就学、青年、老後の一生における支援計画に対していくつかの基本パターンを作り、個々の人格に合わせてプランを作成できるようにする。
家族	男	20代		A		保護者の育児不安軽減のための相談支援(専門医のカウンセリングや先輩の助言等)。
家族	男	20代		A		早期発見・療育といわれていましたが、小さい時の母子関係をしっかりとつくれるようにしてほしい。
家族	男	20代		B		子供の状況にある程度正確に母親をはじめ両親に伝えることができると思う。具体的なことを保護者が理解することが大切と思う。子供の状況とは、今後の生活を含めた部分を考えています。障害を持つ子供本人が今後の生活設計をできる方とできない方に分かれると思います。できないと思う子供に関しては、保護者に対して心構えを含めた考え方を指導しに行ってもいいのでは？



家族	女	20代		B	保護者が高齢になった障害者への支援を充実してほしい。
本人	男	20代	4		子供が将来こまらないために早めに話を聞いてあげたり、どういった仕事に向いているか一緒に考えいろいろな道をしめしてあげてほしい。
本人	女	30代			現在とても多いと耳にします。もっと支援を広げるべき。又、支援を広げても知らないほうが多いと思います。情報を市役所より、会報を作り、教えるべきだと思う。
本人	男	30代		2	3歳半と6か月の子供がいるため、問20の2の早期実現。
本人	女	30代		3	教職員への専門指導。
家族	男	30代		A	名古屋市の通所施設に3歳から入学までの3年間は親が認識する良い施設だった。
家族	男	30代		A	親なき後の障害者の施策について、ケアホームなどの充実がはかられているが、親からの独立という形ではいったもの勝ちのような親が楽をしたいだけで、ホームに入れてしまっているような気がする。本当に必要な人が必要な時に利用できるような間口の広い入所施設がほしい。親とぎりぎりまで一緒にいて、本当に必要となった時安心して託せる施設であった方が、全体としてお金がかからないのでは。
家族	女	30代		A	障害のある大人も仕事や施設の仕事終了後の夜間サービスがあると保護者の精神的負担が軽減できる。



本人	男	30代	6		親たちへのフォローや情報の共有が必要。
本人	男	40代			障害の原因となる疾病の予防。
本人	男	40代		2	障害児についてはあまり理解がないので具体的な提案ができないが、生活していくうえで困難なことは明白なので出来るだけ援助してもらいたい。
本人	男	40代		2	障害のある子供を預かる場なので指導する人が女性だったり、明るく丁寧なようにしてほしい。
本人	男	40代	1		バリアフリーの強化。
家族	女	40代	1		障害を持つ親のストレスは大変なもの。相談に出かけることができない人もいるので、出向いてほしい。
本人	男	40代	3		出生前診断の助成。
本人	女	50代		3	どの施策も早く少しでも多くやってほしい。
本人	男	50代	1		障害がある子供の家族をどのようにケアするかが大切だと思う。
本人	男	50代	2		障害に応じた対応。近隣の自治体と合同で対応。
本人	女	50代	3		家族への支援 相談を気軽にできる人や場所を提供してほしい。
家族	女	60代		1	他人を気にしなく生活できる事。社会の理解。
本人	男	60代	1		障がいには個性と思える地域全体でフォロー出来る寛容な地域にしたいと思う。家族の方は早い時期からコミュニティーへの参加がよいように思います が！！



家族	女	60代	1		軽度の障害のある子はなかなかまわりから理解されず、手帳も発行してもらえず、高額な機器を自費で購入せざるを得ない。重度の方はもちろんですが、軽度の方々にも目を向けていただけたらうれしい。
本人	男	60代	2		先生が発達障害の知識、教育の虚実、他機関への研修参加の必要性、積極性がほしい。
本人	女	60代	4		技術を身につけさせ、みんなと仕事ができる場所づくり。
本人	女	60代	4		情報がたくさんほしい。
本人	女	60代	4		早期発見で将来の準備ができる。
本人	女	70代	1		道路に段差が多すぎるため、視覚障害者は不安です。
本人	男	70代	1		個々対応するより施設を拡充して一括療育し、家族の手のあく分、仕事をするなど社会進出が好ましい。
家族	男	70代	3		差別のない社会が望ましい。ご家族の要望を充分聞き入れてほしい。
本人	男	80歳以上	1		受診しやすくすること。
家族		80歳以上	2		障害グレーと判明した時点から個々のファイルを作り、管理をすると思う。支援内容、こどもの変化がすぐにわかると思う。



本人	女	80 歳以上	3		日進市の障害福祉は今のままで十分である。福祉のばらまき(お金)ではなくて社会資本の充実をはかるべき。
本人	女	80 歳以上	3		障害者に対する将来の不安を取り除く為にも充実した福祉施設での介護を希望します。
本人	男	80 歳以上	3		家族との連携。
家族	女	80 歳以上	3		卒業後の就労支援の充実。
		欠損値			就学時 乳幼児期は支援が満足ではないが、充実しつつあるが、青年期の支援が不十分だと思う。
		欠損値		2	二か月に一回家族会に参加していますが、精神の患者さんの親御さんはなかなか参加できませんが、少しの時間、いろんな人の経験話や親の癒しの場に参加してほしいと強く思っています。家族会があることを知らない人が多いので広報で案内するのも方法。
		欠損値	2	2	障害のある子供とは何か。普通の学校にいけない子の事だと思います。今までは学制すべてが通年概念。すべて教育の中にあてはめ、人間性さえ否定する何者かにしばられてゆく、矛盾を感じる。今まできた道を開くならよし。

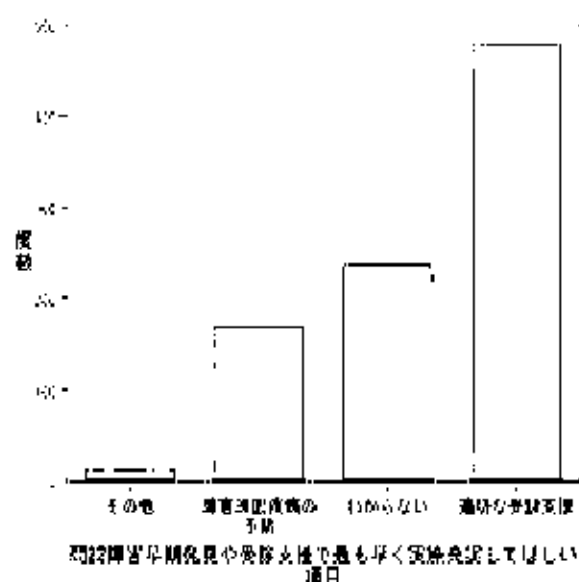


とい つぎ こうもく なか もっと はや じつじまた じゅうじつ こうもく なん
 問 22 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策1-4	しょうがい よぼう そうきはっけん じゅしんしえん 障 害 の予防と早期発見、受 診 支援
	しょうがい げんいん しっぺい よぼう (1) 障 害 の原 因となる疾 病の予防
	しょうがい たい てきせつ じゅしんしえん (2) 障 害に対する適 切な受 診 支援

問22 障害早期発見や受診支援で最も早く実施充実してほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	障害原因疾病の予防	168	14.2	18.8	18.8
	適切な受診支援	479	40.6	53.5	72.3
	その他	12	1.0	1.3	73.6
	わからない	236	20.0	26.4	100.0
	合計	895	75.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	285	24.2		
合計		1,180	100.0		

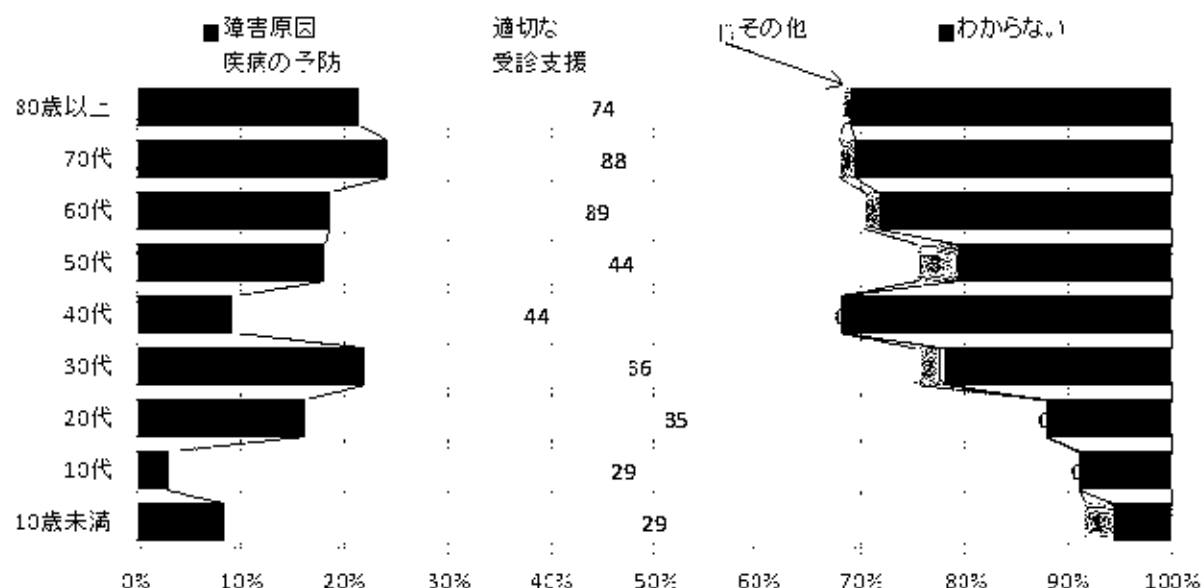


てきせつ じゅしんしえん おり
 「適切な受診支援」が5割を
 こ せんたくこうもく かぎ
 超えています。選択項目が限られて
 いることから「わからない」という回答
 おり し
 も2割を占めています。

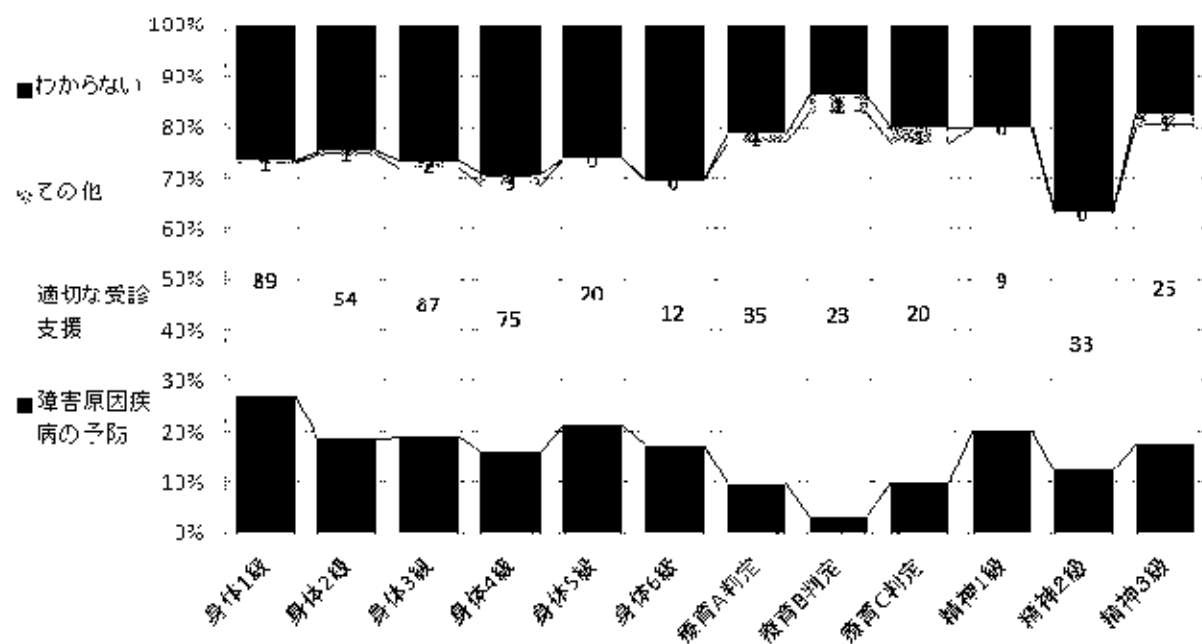
ねんれいくぶんべつ だいいか
 年令区分別でみると、10代以下で
 あつとうてき よぼう てきせつ
 は圧倒的に「予防」より「適切な
 じゅしんしえん のぞ
 受診支援」を望んでいることがわかりま
 す。



問22障害早期発見や受診支援で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



問22障害早期発見や受診支援で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ しんたいしょうがい ひと せいしんしょうがい ひと じゅうど
障 害 別では身 体 障 害のある人と精 神 障 害のある人で重 度になる

しょうがいげんいんしつぺい よぼう わりあい たか
ほど「障 害 原 因 疾 病の予防」の割 合が高くなることわかりました。



とい 23 基本施策 1-4 障害の予防と早期発見、受診支援 に関連し
 じゆう ていあん ようぼう きにゆう
 て、自由に提案、要望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問23 障害予防受診記述
家族	男	10歳未満	2			受診支援には機能訓練なども含まれるべき。遠くの病院へ通っている(しかも週に何度も)のが現状です。
家族	男	10歳未満		A		相談しやすい環境と情報の提供が必要。
家族	男	10歳未満		B		障害児でも丁寧にみてる診療所等の情報がほしい。
家族	男	10歳未満		B		障害のある人は普通の人と同じように診察してもらう事が難しいようです。障害がある人のみの健康診断があればよいと思います。
家族	女	10歳未満		B		22の1)は違う気がする。予防できる障害は数少ない。配慮が足りないのでは。
家族	女	10歳未満		C		お金がかかります。日進市には障害者のための病院もないため、それなりの病院に行く交通費、療育費用。助成していただいても全然足りない。近場で受診できるところがほしい。
家族	男	10歳未満	2	A		発達の遅れが明らかなのに健常児と同時の歯科検診や3歳児検診はつらかった。目・耳の確認は視力や聴力の問題ではなく、知的に判断が無理だった。
家族	女	10歳未満	2	A		1はあまり理解できません。(障害うんぬんというより健康促進の分野では)
家族	女	10代		A		早期発見において、本当に必要なのは障害の種別や程度を数値として示されるだけでなく、その子の将来を見据えて、今これからどんな早期療育・支援をしていくのか(母親支援も含め)ここに応じたコーディネートが必要。
家族	女	10代		B		早期発見しても的確な支援があれば有効だが、障害によってはわかりにくいものもあり、専門知識が求められるので、勉強会などしてほしい。



本人	男	40代				総合的な就労支援体制の確立。
本人	女	40代			2	自助グループが欲しい。自分で立ちあげた場合、宣伝して欲しい。
本人	男	40代			2	精神疾患を就労中に患ったが、自分が病気とは理解できず、家族の者も混乱して家族の者が独自に医療機関に連絡を取って受診したが、このような疾患に対する相談窓口の設置や市民に対して疾患に関する知識の周知などを徹底していたら、自分と家族の苦しみは少しは軽減したと思う。
本人	男	40代	1			いつどこで何をしているのかわからない。知らない。
家族	女	40代	1			医療費助成は助かっている。
家族	男	50代			1	早期発見に必要な人は忙しかったりめんどうかいので、家族の方に問診票を回答させて本人や家族に気づかせた方が受診に対して積極的になると思う。
本人	男	50代	1			病気の情報を知らせてほしい。糖尿病なら血糖値がどれほどあぶないかとか。どんな食事をしてるとそうなるのかとか。予兆とか情報がほしい。
本人	男	50代	1			障害年金の制度があることを報告してほしい。半年間受給できなかった。
本人	男	50代	1			糖尿病の合併症などの伝承をどのように伝えるかが大切。
本人	男	50代	2			くるりんバスを赤池ベースに。便・時間も多く。
本人	女	50代	3			原因をつぶすのが一番。予防医療費の助成はかせないでしょ。
本人	男	50代	3			受診支援については満足している。



[illegible]

本人	女	70代	4			健康診断等年一回連絡がありますが、出かけることは何とかしますが、会場の列で少しの時間立っているとつらいです。腰掛等出してもらえると助かります。別のところへ行った方がよいのか。
		70代	5			病気の後のリハビリとか病院の取り組みとかが違うからもう少し考えてほしい。
本人	男	70代	6			市の検診でバリウムが飲めないのでカメラをやってもらうが、障害者のため助成制度があると助かる。
家族	男	80歳以上				支援に対する提案してほしい。知らないことばかり。
本人	男	80歳以上				最近老々介護、認知介護に耐えられずに悲しい結果を招く事件が起きています。こうした障害の原因となる疾病の予防と早期発見のために、高齢者検診の対象に「頭部の検診」を加えていただけないでしょうか。
本人	女	80歳以上	3			手術を受けた病院の医師によって検査をうけている。
本人	女	80歳以上	3			医療助成はたすかる。
本人	男	欠損値			2	統合失調症。
		欠損値			2	神経を病んだ人の病気だとわかるまでに時間がかかっています。成人になって社会にでてから発症することが多く、周りの人の通報で異変に気づきます。早期発見、そしてすぐに病院で治療すれば治る病気なのです、しかし、心の病気は原因が奥深く、難病なのです。親は子供がどんなに大きくなっても節目をしっかりみてゆくことが大切だと思った。おかしいと思ったら早く病院へ行くこと、良い先生に巡り合うのもうんですが。どうしてもクリニックとか神経内科へいき、精神科へは足が遠のくのが普通ですが、以上が今までと違う事に気が付いたら大きな病院へ。

		欠損値		A	年々医療が障害に対して進んできているので何か役に立つようにしてほしいです。
		欠損値	2	2	精神障害に対する予防については、初期の予防が望まれている。初期の段階で済むなら苦しさはそんなに体をもしばまない。青年期の時だけではなく、人は中年になっても何か不安定な気分になる時があるので、専門的な知識を持つありふれた人の意見を聞いたりして、不安を解消しようとする。また、対人的な問題がトラブルになるときもあるので、そのコミュニティの充実が非常に大切であり、カウンセリングは必要で、精神分析を一つ一つこなしてゆく努力によって解決される。これだけで大変重い病気なので絶望的になる。
		欠損値	3		タクシー料金助成利用券はありがたい。できれば枚数を多く、名古屋市と同じくらいにほしい。
		欠損値	5		近くのクリニックでは発見されなかった。大きい病院に行くようにすすめてほしかった。

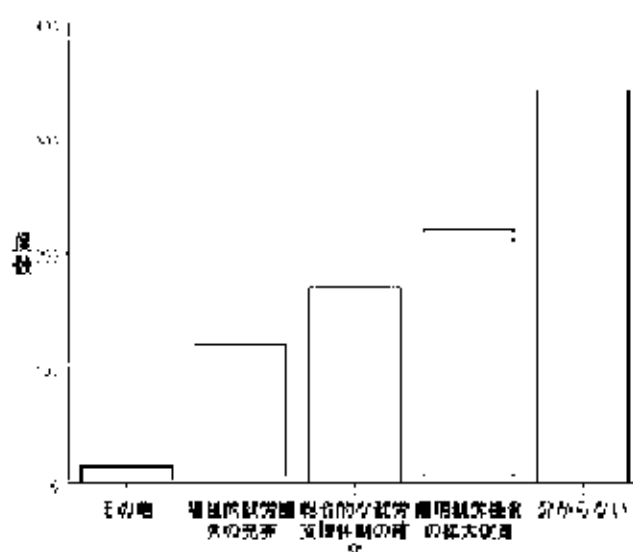


とい づぎ こうもく なか もつと はや じつじまた じゅうじつ こうもく なん
 問 24 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何か。

きほんしきく 基本施策 2-1	こよう しゅうろう そくしん 雇用・就労の促進
	そうごうてき しゅうろうしえんたいせい かくりつ (1) 総合的な就労支援体制の確立 こよう しゅうろうきかい かくだいそくしん (2) 雇用、就労機会の拡大促進 ふくしてき しゅうろうきかい じゅうじつ (3) 福祉的な就労機会の充実

問 24 就労関連で最も早く実施充実してほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	総合的な就労支援体制の確立	171	14.5	19.6	19.6
	雇用就労機会の拡大促進	222	18.8	25.4	45.0
	福祉的就労機会の充実	121	10.3	13.9	58.9
	その他	15	1.3	1.7	60.6
	わからない	344	29.2	39.4	100.0
	合計	873	74.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	307	26.0		
合計		1,180	100.0		

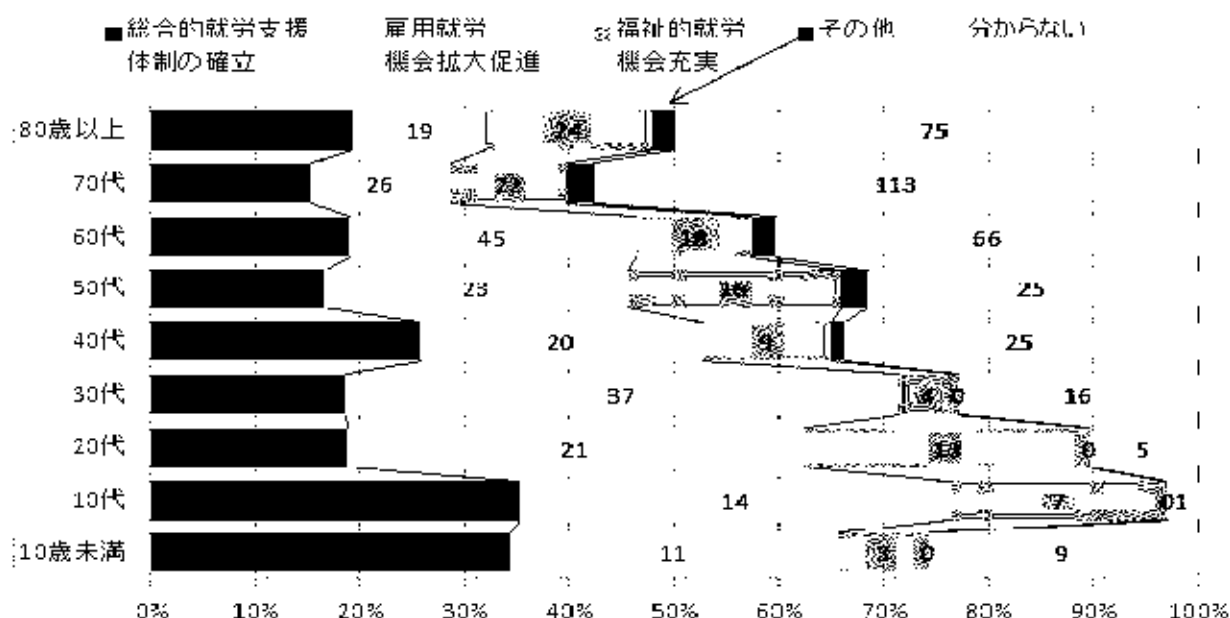


問 24 就労関連で最も早く実施充実してほしい項目

「わからない」が有効割合で
 39.4%となって4割を占めています。
 次の優先項目が25.4%の
 「雇用就労機会の拡大
 促進」となっており、福祉的
 就労機会の充実に上回って
 いることがわかりました。

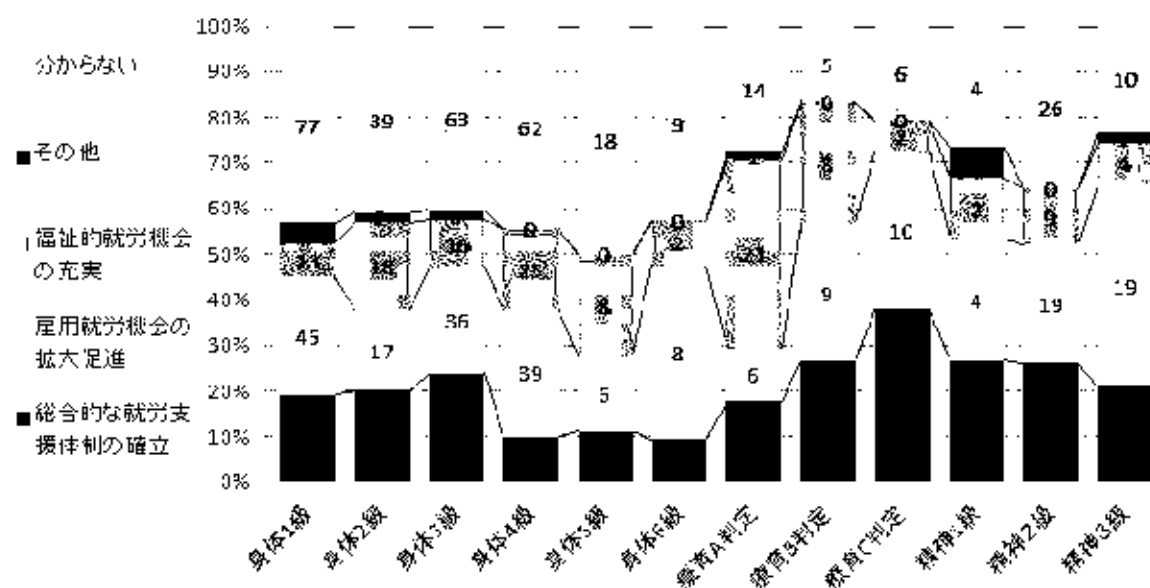


問24 就労関連で最も早く実施充実してほしい項目と問3年齢区分



ねんれいくぶんべつ だいいか せだい そうごうてき しゅうろうしえんたいせい かくりつ
 年令区分別では10代以下の世代で「総合的な就労支援体制の確立」
 ゆうせんじゅんい たか けいこう とく だい だい こよう しゅうろうきかい
 の優先順位が高い傾向となり、特に20代・30代では「雇用、就労機会の
 かくだいそくしん きばう
 拡大促進」を希望していることがわかりました

問24 就労関連で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ しんたいしょうがい ひと きゅう きゅう かた
 障害別では身体障害のある人の4級・5級の方で「わからない」と
 かえりとう わりあい わりちかし
 回答された割合が5割近くを占めていることがわかりました。



問 25 基本施策 2-1 雇用・就労の促進 に関連して、自由に提案、
要望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問25 雇用就労記述
家族	男	10歳未満			3	一般就労できるような訓練を学童期から取り入れるべき。小中高支援学級でのお仕事体験などを充実させてほしい。(工場、商店、事務所など協力企業を募る)
家族	男	10歳未満		A		就労機会の充実と相談の機関の環境を整えることを要望します。
家族	男	10歳未満		B		障害者相談支援センターで当事者向けの就労支援研修等を行ってほしい。
家族	男	10歳未満		C		障害のある方が各々好きな場所で働けるように、工場や会社での採用枠を増やすこと、またその工場や会社で働く方への認知、理解を促してほしい。
家族	男	10歳未満	2	A		先のことが考えられない。
家族	男	10代				高校を出ても働く場所、行くところがない。
家族	女	10代		A		ジョブコーチの充実。個々の能力に合わせた仕事の開拓と定着のための支援。
家族	女	10代		B		3だけでなく2, 1も強化・機会の拡大をしてほしい。深刻な問題。
家族	女	10代		B		就労後の支援の充実。市役所での雇用はあるのか。チャレンジ雇用の後はどうなるのか。
家族	男	10代		C		2年を区切りに解雇する会社が多く、そのほとんどが障害の特性を理解できず問題視した理由での解雇とぎきます。
本人	男	10代		C	2	僕ができる仕事があるか探してください。
家族	男	10代		C	3	地域で安心して暮らすためにも地域での就労機会を増やすべきである。特に知的障害者の就労の場は県内でも少ない。継続支援Bのままでは生活できないから、AB移行支援と商工会等の連携でうまくいかなければ再訓練のルーチンをうまく回していく市独自の体制が欲しい。
本人	女	20代			2	雇用口を広くしてほしい。



家族	男	20代			2	知的、身体的には健常な発達障害で社会性に困難があり、短期記憶で細かな文章を読んだり書いたりできない息子に適した仕事を教えてほしい。
本人	男	20代			3	教育・訓練は手厚くしなければなりません。最後の労働する意義を感じてもらう。
本人	女	20代			3	障害者雇用がどんな形で促進されてるのか不明なので明確にしてください。
本人	女	20代			3	仕事につけなければ充実してもしようがない。実際は仕事がない。
家族	男	20代		A		福祉的でいいので、市から誘致や事業所の育成をいただけるとありがたい。
家族	男	20代		B		民間企業の理解者を増やすということを保護者に対しての心構えの指導。
家族	男	20代		B		就労支援事業所が市内に少ない。就労機会も少ない。選択を増やしてほしい。
本人	男	20代		C		様々な仕事を経験して自分に合った仕事をみつきたい。
家族	男	20代		C		市役所の雇用促進。
本人	男	20代	4			障害のない人たちと同じレベルの給与にしてほしい。
家族	女	20代	4	B		就労場所を障害の特性に合わせて雇用してもらえるよう、配慮ある契約体制がほしい。(できる人だけを取るのではなく)
本人	女	20代	6			障害者となると、なかなか普通のところで雇ってもらうことがむずかしいので市役所等に限らず、様々な職種に就くことができるように事業主にきちんと理解してもらえるとうれしい。



[illegible]

本人	男	50代	1		就労は大切なことだが、これを目的にするとできない人はどのようにするのか。
本人	男	50代	1		できることなら日進市内で働けるような支援等。
本人	女	50代	3		幅広い分野での就労の機会を増やしてほしい。
本人	男	50代	3		もっと公的機関での雇用機会を増やしてほしい。
家族	女	60代		1	障害は何より体を動かす仕事が良いと思います。
本人	男	60代	1		就労支援・雇用拡大しても、その他の方が大多数・元気な高齢者がボランティアに参加出来ないか時間ありの高齢者沢山おられると思うのですがどうか。
本人	男	60代	1		日進市として障害者の就労に対して支援してほしい・市施設への障害者の雇用に積極的に実施してほしい。
本人	女	60代	4		雇用の年齢制限が厳しい。機会を与えることが望ましい。
本人	男	60代	4		専門研究職であり、他に再就労するにも困難。職安に行っても適当なものなかった。
本人	男	70代	2		本人・保護者から就労への適性をチェック・ファイルする事。希望する事業者からもあらかじめ就労可能な職種・内容をファイルアップし、突合せができるよう、準備体制を整えること。



本人	女	70代	4		大企業がどのくらいの人数かわかりませんが、就労支援の義務があると聞いている。その枠をもっと誰にでもわかるようにしていくべき。
家族	男	80歳以上			30～50歳の家族を支える人々に仕事を。
本人	男	80歳以上	1		障害者が自ら働く意欲を増進するような施策が必要。あれもこれもやる支援はなかなかのものか。
本人	男	80歳以上	1		若い人の機会を増やしてあげてほしい。
家族		80歳以上	2		ジョブコーチをおぎ、就労後もフォローする体制が必要。
家族	女	80歳以上	2		働くことを通して生きがいや学びがあるのは全ての人にあってはまります。就労を皆ができれば嬉しいです。
本人	女	80歳以上	3		福祉的就労施設の充実を。
本人	女	80歳以上	3		基本的には日本経済の活性化、景気拡大。
家族	女	80歳以上	3		発達障害・自閉症の雇用主への理解。長く勤められるような環境。
家族	男	80歳以上	4		公務員職場に大胆な障害者雇用の促進。効率が悪くても社会の常識をかえるために。
		欠損値			発達障害の青年達にチャレンジ雇用、就学訓練等をしてほしい。
		欠損値	2	2	雇用に関しては非常に無理のない仕事なら出来ると思うのですが、専門的な知識にたよらずに、ただ肉体を動かし、単純な作業をこなしてゆく、だから作り生み出すという生産的な職場のほうが必要になってぜひ就学の促進をお願いしたい。

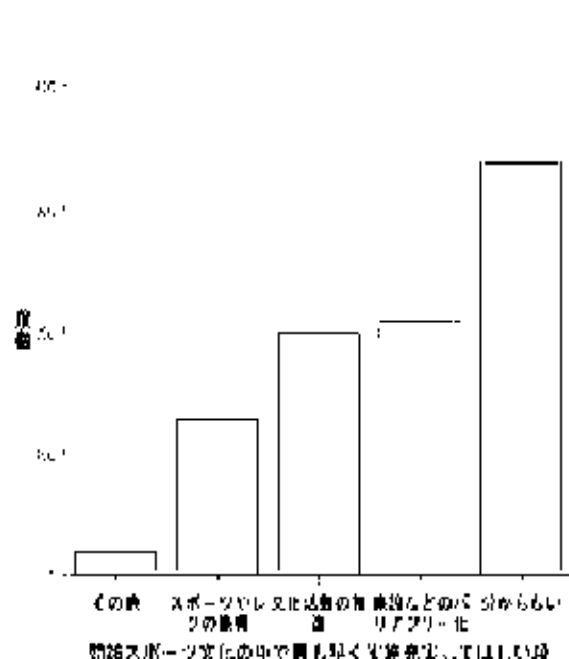


問 26 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何か。

基本施策 2-2	スポーツ・文化活動の支援
	(1) 障害者スポーツ・レクリエーションの振興 (2) 文化活動の推進 (3) スポーツ、文化施設などのバリアフリー化

問 26 スポーツ文化の中で最も早く実施充実してほしい項目

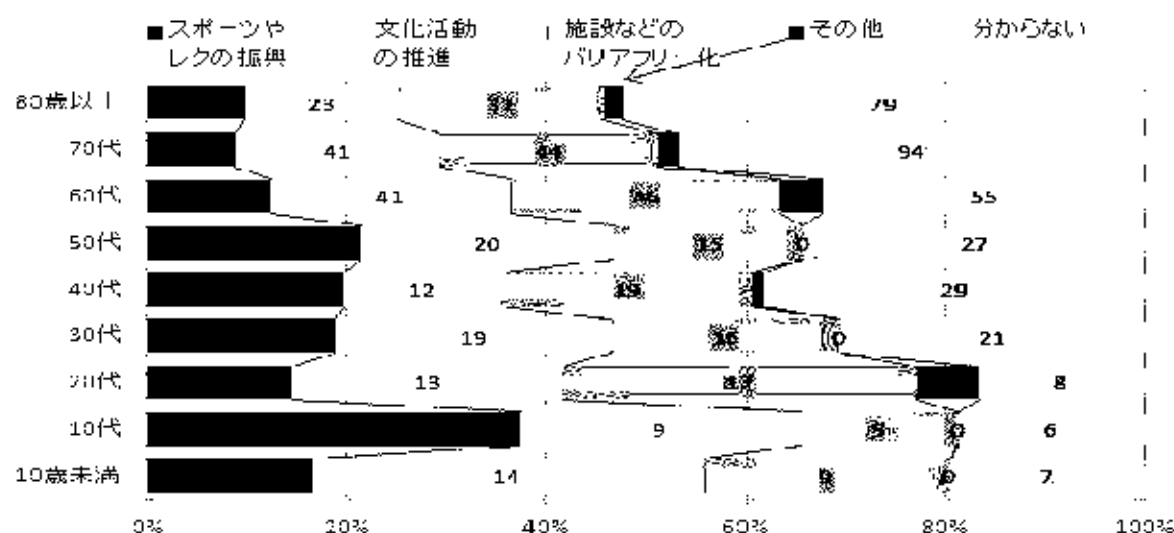
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	スポーツやレクの振興	127	10.8	14.3	14.3
	文化活動の推進	198	16.8	22.3	36.6
	施設などのバリアフリー化	208	17.6	23.4	60.0
	その他	20	1.7	2.2	62.2
	わからない	336	28.5	37.8	100.0
	合計	889	75.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	291	24.7		
合計		1180	100.0		



ここでも「わからない」が最も高い割合となっています。計画の項目自体に優先順位をつけることが難しいと考えられますが、次に高い割合となっている「施設などのバリアフリー化」である事を考えると、スポーツや文化のソフトの充実より、環境整備のハードの課題があることがうかがえます。

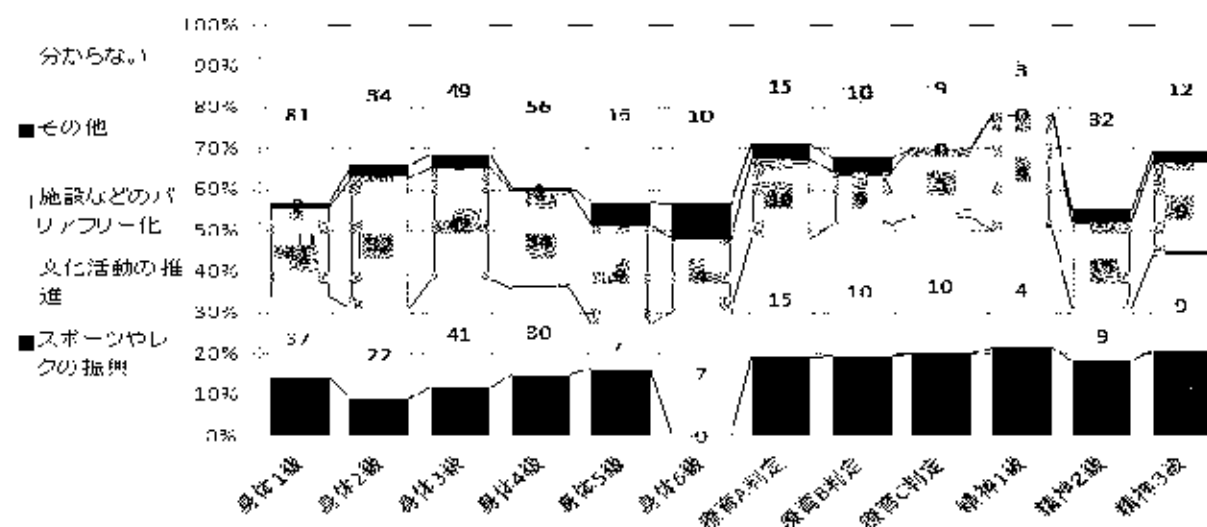


問26スポーツ文化の中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



ねんれいくぶんべつ ぶんか しんこう ぶんかかつどう すいしん だい
 年齢区分別では「文化スポーツやレクの振興」「文化活動の推進」10代
 いか とく たか わりあい いっぽう だい だい だい ぶんか
 以下では特に高い割合となっています。一方、20代・30代・40代で「文化スポー
 ツやレクの振興」と「文化活動の推進」をあわせても4割前後の回答となって
 しんこう ぶんかかつどう すいしん わりぜんご かいとう
 いるのは、教育機関等で積極的にスポーツ文化の推進が実践されている
 きょういくきかんとう せっきよくてき ぶんか すいしん じっせん
 のに対して、20代以上の人に向けての指導者や講師の養成が進んでいないことも
 たい だいいじょう ひと む しどうしゃ こうし ようせい すす
 原因の一つにあるのかもしれない。

問27スポーツ文化の中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ しんたいしょうがい きゅう ひと のぞ おお こうもく ゆうせんど き
 障害別では、身体障害6級の人を除き、大きな項目の優先度の差は
 で
 出ませんでした。

回答者	性別	年代	身体 手帳	療育 手帳	精神 手帳	問27 スポーツ文化記述
家族	男	10歳未満	2			施設のバリアはフリー化を早急にお願いしたい。数年前にスポーツセンターでの大人用におむつがストイレを提案したが、いつできるのか。
家族	男	10歳未満		A		障害のあるなしに関係なく参加できるようにしてほしい。心のバリアフリー化が必要です。
家族	男	10歳未満		B		おむつがはずれていないとプールに入れないので改善してほしい。
家族	男	10歳未満		B		障害のある人のみを対象したスポーツ文化活動の場所を作してほしい。
家族	男	10歳未満		C		わが子は多動があり、本が大好きだが、図書館へ行くと走り回り大声をだしたりしてスタッフの方に注意されたり、周りに迷惑をかけてしまう。障害があっても図書館を利用できる環境があればうれしい。
家族	女	10代		A		参加のチャンスを増やす。親の負担が重くならないようにする。
家族	男	10代		C		肢体の子も参加しやすい音楽活動やルールのわかりやすいスポーツ。親も一緒に参加、交流のできる活動があればよい。枠がせまく参加しなくてもできない時の配慮を先に考えて置いた方がよい。
本人	男	10代		C	2	市の施設の職員が障害のある人をサポートできるようにする。
家族	女	10代	1			視覚障害者の陸上競技大会の際の練習のための伴走してくれる人をおしえてほしい。
本人	男	20代			3	スポーツ大会の創設。
本人	女	20代			3	本人だけではできないのに、充実しても仕方がない。
家族	男	20代		A		障害者だけでやるのではなく、文化活動の市民のやっているところに入っていけるようにしてほしい。
家族	女	20代		B		身体のみでなく、知的や精神の対象者に対しての支援を考えてほしい。
本人	女	20代		C		障害があってもいろいろスポーツの大会に出場できるようにしてほしい。
家族	男	20代		C		スペシャルオリンピックス愛知の紹介・情報提供。



家族	男	80歳以上			これ以上必要ない。
本人	男	80歳以上	1		各人各様 他の自治体並みでよいのではないかな？
本人	男	80歳以上	1		目が見えないとスポーツは難しい。文化の方が参加しやすい。夕方には特に見にくいので参加しにくい。
本人	女	80歳以上	3		図書館で朗読ボランティアがいたり、CDをたくさんおいてほしい。
本人	男	80歳以上	4		県の障害者のスポーツ大会に数回出席したのですが、出席者が少ない。 (同じようなメンバー)
		欠損値		A	子供が小中高の時、本当にスポーツがしたくても親が年を取り動くのが大変なとき、スタッフがいるとうれしい。
本人	女	欠損値	1		視覚の盲人卓球台を設置してほしい。
		欠損値	2	2	スポーツの障害者の参加を希望します。専門家のトレーニングを受けてみたいと思います。文化活動は少人数のサークル的文化活動によって、精神的充実をはかり、明日へのかたとするならばいいと思います。
		欠損値	3		年を重ねると足腰が弱ってくるので、できればリハビリのようなことを希望する。

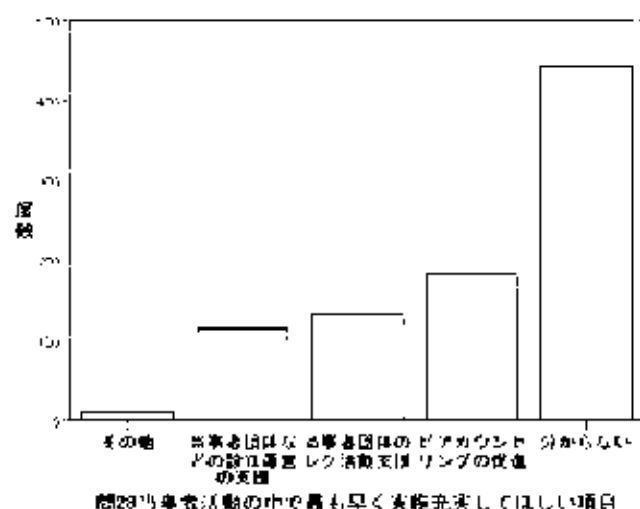


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 28 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何
 ですか。

きほん しきく 基本 施策 2 - 3	とうじしゃだんたい かつどうしえん 当事者団体などの活動支援
	とうじしゃだんたい かつどうしえん (1) 当事者団体などによるレクリエーションなどの活動支援 そくしん (2) ピアカウンセリングの促進 とうじしゃだんたい せつりつ けいぞくてき うんえい たい しえん (3) 当事者団体などの設立や継続的な運営に対する支援

問 28 当事者活動の中で最も早く実施充実してほしい項目

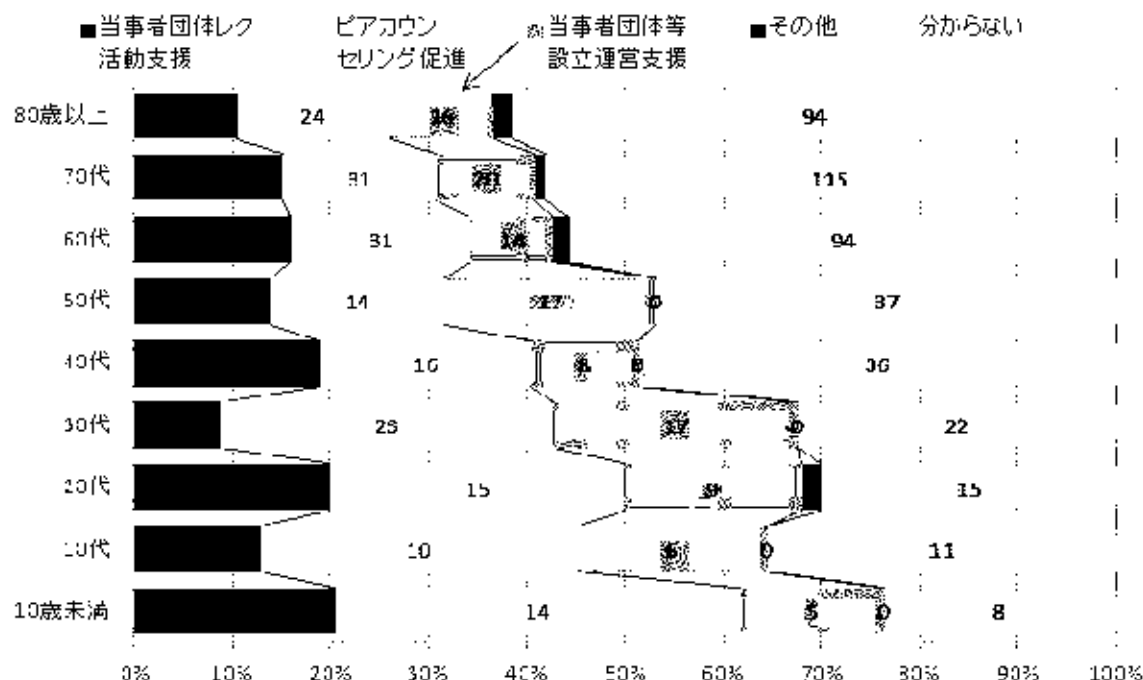
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	当事者団体のレク活動支援	132	11.2	15.0	15.0
	ピアカウンセリングの促進	183	15.5	20.7	35.7
	当事者団体などの設立運営の支援	115	9.7	13.0	48.8
	その他	9	.8	1.0	49.8
	わからない	443	37.5	50.2	100.0
	合計	882	74.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	298	25.3		
合計		1,180	100.0		



「わからない」が半数を超えています。
 「当事者団体のレク活動支援」「ピアカウンセリングの促進」「当事者団体などの設立運営の支援」の項目では大きな優先の差は出ませんでした。

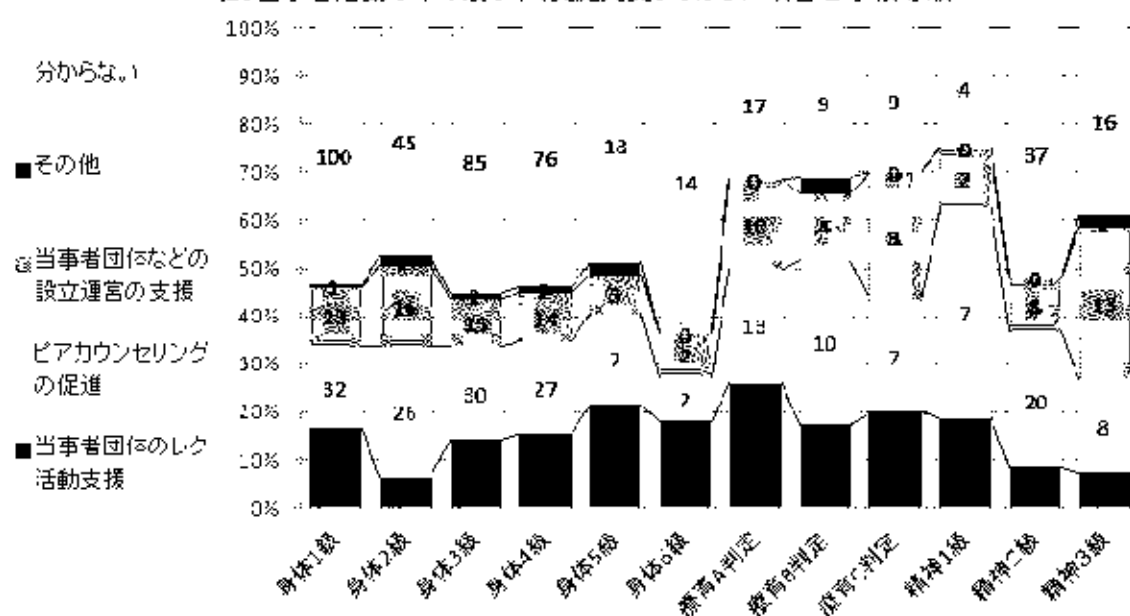


問28 当事者活動の中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区



ねんれいくぶんべつ
 年齢区別では、「ピアカウンセリングの促進」は若い世代になるほど優先
 じゅんい たか
 順位が高くなることわかりました。

問28 当事者活動の中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ
 障害別では精神障害1級の人の「ピアカウンセリングの促進」が
 ひかてきたか
 比較的高い割合であることがうかがえます。





家族	男	50代		1	個人情報もあるが、話しても良い人等考え方をアンケートなどで表明してもらえると聞きたいときに紹介してもらえるとありがたい。
本人	男	50代	2		障害にあった対応。現地現物で困りごとをつかむ必要がある。
本人	男	50代	3		カウンセリングについては、もっと充実してほしい。医師とは違う目線で見 て、相談に乗ってほしい。
本人	女	60代	4		お金もかかるが、住んでいる近くにあることが好ましい。
本人	女	70代	1		同じ境遇の人と情報を共有したい。
本人	男	80歳以上	1		基本計画にカタカナの文言が多すぎないか？日本語で表記できないことは ないと思うが。
本人	男	80歳以上	1		団体の存在を周知してほしい。
家族	女	80歳以上	2		どの団体も資金面では苦労があると思います。交通費位の助成があるとよ いのではと思います。
本人	女	80歳以上	3		アンケートが自分以外に及ぶため回答しづらい。
家族	女	80歳以上	3		家族が孤立したり困らないように支援してほしい。

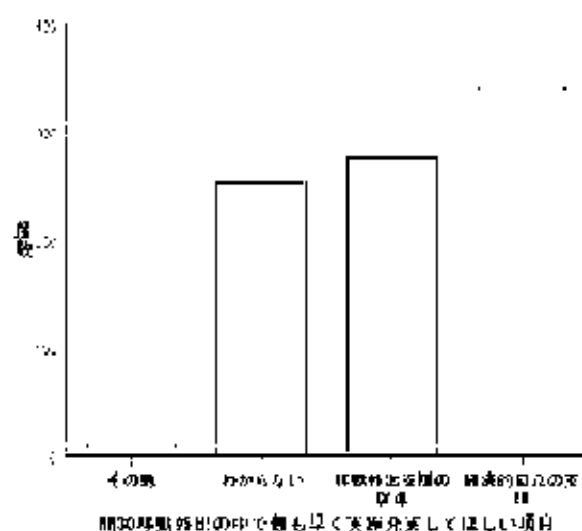


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 30 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 2 - 4	
	いどう がいいしゅつ けいざいてきじりつしえん 移動・外出や経済的自立支援
	いどう がいいしゅつしえん そくしん (1) 移動・外出支援の促進 けいざいてきじりつ しえん (2) 経済的自立の支援

問 30 移動外出の中で最も早く実施充実してほしい項目

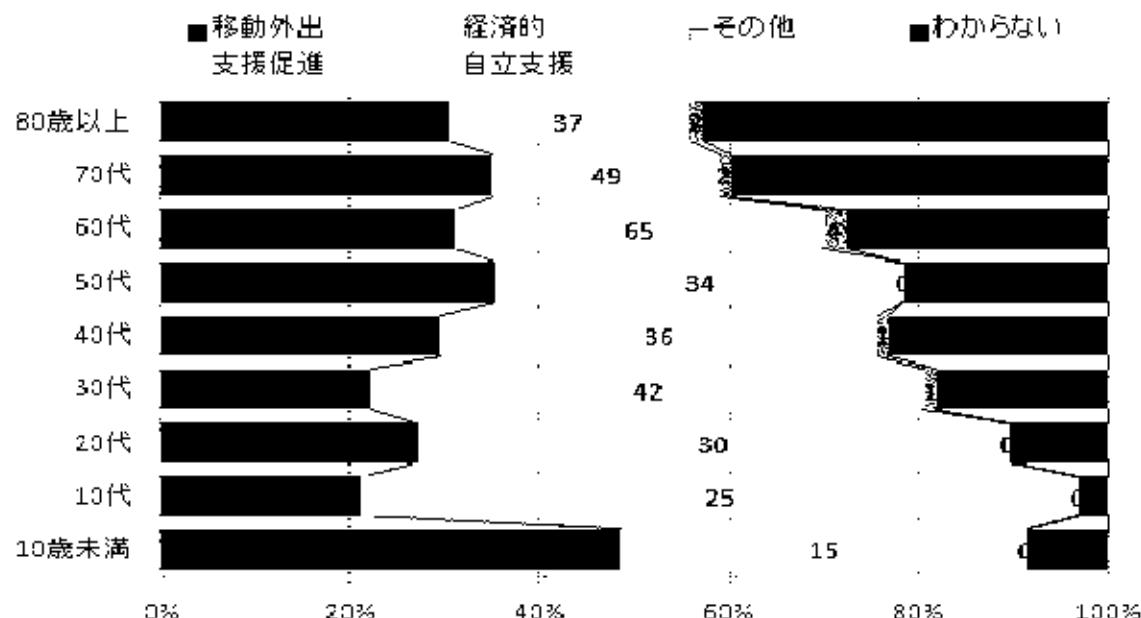
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	移動外出支援の促進	277	23.5	31.3	31.3
	経済的自立の支援	342	29.0	38.7	70.0
	その他	11	0.9	1.2	71.3
	わからない	254	21.5	28.7	100.0
	合計	884	74.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	296	25.1		
合計		1,180	100.0		



いどうがいはしゅつしえん そくしん
 「移動・外出支援の促進」が
 ゆうこうわりあい たい
 有効割合で31.3%に対して
 けいざいてきじりつ しえん
 「経済的自立の支援」は38.7%と
 けいざいてきじりつ ゆうせん かいとう
 経済的自立を優先してほしい回答
 じゃっかんうおまわ
 が若干上回っていました。

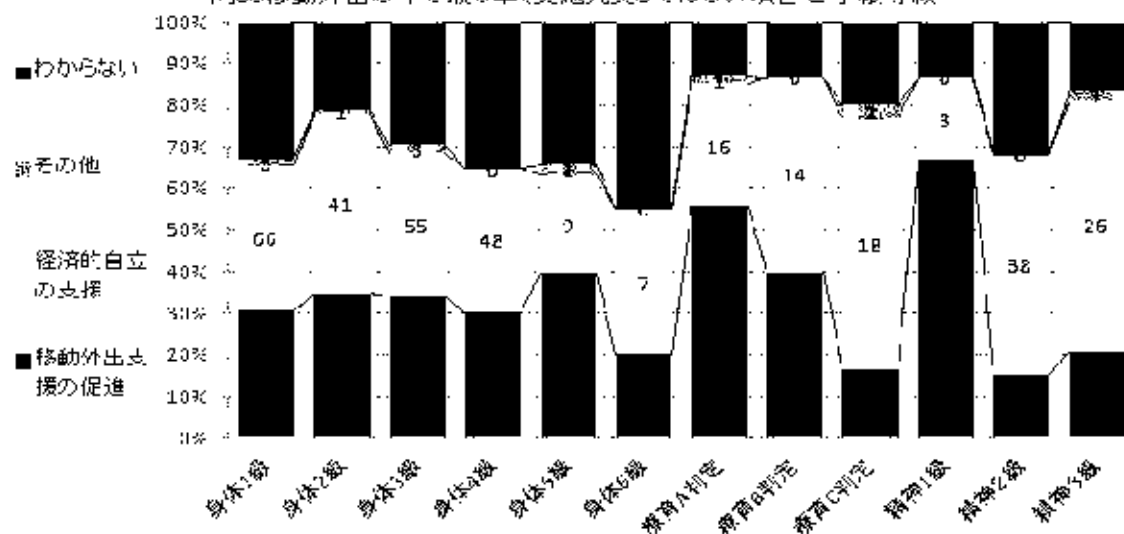


問30 移動外出の中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



ねんれいくぶんべつ さいみまん いどうがいしゅつしえん そくしん けいざいてき
 年齢区分別では、10歳未満では「移動外出支援の促進」と「経済的
 じりつ しえん わりあい ひと ねんだい のぞ ねんだい たか
 自立の支援」の割合が等しくなっています。その年代を除くと年代が高くなるにつ
 いどうがいしゅつしえん そくしん ゆうせん きぼう ねんだい わか
 れ「移動外出支援の促進」の優先を希望され、また年代が若くなるにつれ
 けいざいてきじりつ しえん ゆうせん きぼう みと
 「経済的自立の支援」の優先を希望していることが見て取れます。

問30 移動外出の中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ ちてきしょうがい はんてい ひと せいしんしょうがいしゃ きゅう ひと
 障害別では知的障害A判定の人と精神障害者1級の人は
 いどうがいしゅつしえん そくしん ゆうせん きぼう とくちょうてき
 「移動外出支援の促進」の優先を希望していることが特徴的になっていま
 す。

じゆう ていあん ようぼう きにゆう
自由に提案、要望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問31 移動外出経済自立記述
家族	男	10歳未満	2			肢体不自由児が毎日学校に通うためには親が送迎するのが当たり前なのではないでしょうか。おかしいです。
家族	男	10歳未満			3	もっとボランティア募集などの周知広報が必要。
家族	男	10歳未満		A		誰もが自由に外出できるような街づくり。手当の充実が必要なのではないかと考えます。
家族	男	10歳未満		B		障害のある人が親亡き後に一人でいきていけるような支援は今後絶対に必要だと思います。
家族	女	10歳未満		B		もっと気軽にやってほしい。
家族	男	10歳未満		C		移動支援を利用したことがあるが、障害に関する知識を持ったスタッフを増やしてほしい。
家族	女	10歳未満	2			子が障害を持つものとしては年が経ち、親世代がいなくなった後に、姉などの負担がなるべく少なく、本人が暮らしていけるか今から不安です。
家族	男	10代		C		お金や生活に対する徹底的な支援。自立後犯罪に利用されがちな障害者への支援。生涯にわたって支援が受けられると安心できる。
家族	男	10代		C	3	就労支援については、就労移行事業所を紹介するだけでなく、市内でも就労につながるような施策をお願いできないものではないでしょうか。市でも相談、事業所での相談、ハローワーク等窓口がたくさんあって、ありがたいようである反面一本化されていないようにも感じ不安です。
家族	女	10代	1			点字ブロックも歩行者用の信号も全然ない。区長さんから市へ提案してもらっているはずだが他の場所ばかり信号ができる。

[illegible]

本人	女	70代	4		ボランティアでも支援の意思のある人の発掘。参加への呼びかけを継続して行う。
本人	男	80歳以上	1		身体不自由の者が自由人と共に行動できるはずがない。まずそのことを対象者に自覚させるべきだ。
本人	男	80歳以上	1		長時間や急に必要になった時に移動・外出の支援がほしい。時間数も必要以上に使わないので希望通り支給してほしい。
本人	女	80歳以上	1		実際助けられるのは障害者手当なのでありがたいし、ないとつらい。
家族	女	80歳以上	2		障害の人が街を普通に利用していける努力が望めます。
本人	女	80歳以上	3		就労もできない重度の障害者に対する各種手当の充実を。
本人	女	80歳以上	3		買い物等困っているので早急に支援をお願いします。
本人	女	80歳以上	3		手当支給よりも就労支援を。
家族	男	80歳以上	4		歩行者用の道路が整備されていない所(旧道など)が多い為、車イスなどでの歩行が困難な所が多く、外出(散歩など)が大きく制限されている。道路の整備をやってほしい！



とい つぎ こうもく なか もっと はや じつじまた じゅうじつ こうもく なん
 問 32 次の項目の中で、最も早く実施又は充実にしてほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 3-1	しょうがい たい りかいそくしん しせい さんか 障害に対する理解促進とまちづくりや市政への参加の ほしょう 保障 (1) けいはつ こうほうかつどう すいしん 啓発、広報活動の推進 (2) さんべつへんけん とく 差別偏見をなくすための取り組み (3) まちづくりや市政への参加のほしょう 保障
-----------------------	---

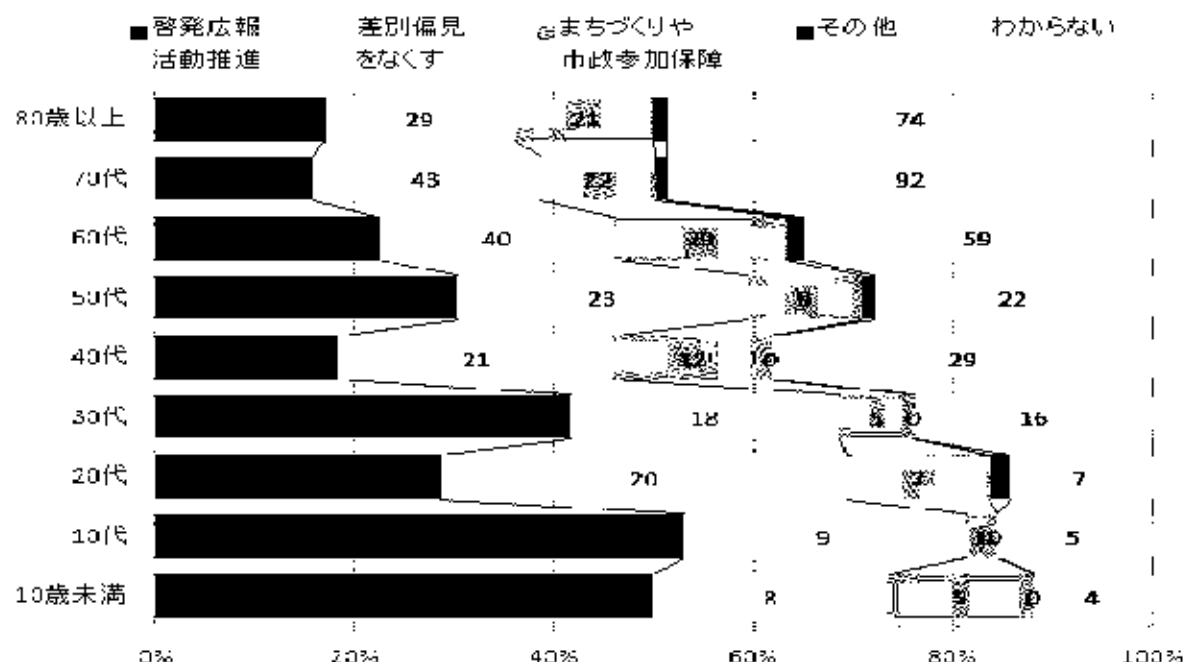
問 32 障害者理解の中で最も早く実施充実にほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	啓発広報活動の推進	214	18.1	24.5	24.5
	差別偏見をなくすとりくみ	218	18.5	24.9	49.4
	まちづくりや市政への参加保障	116	9.8	13.3	62.7
	その他	9	.8	1.0	63.7
	わからない	317	26.9	36.3	100.0
	合計	874	74.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	306	25.9		
合計		1,180	100.0		

と
 この問いにおいても「わからない」が有効割合で36.3%を占めています。「まちづ
 りや市政への参加保障」は13.3%とその他を除き低い優先順位となってい
 ます。

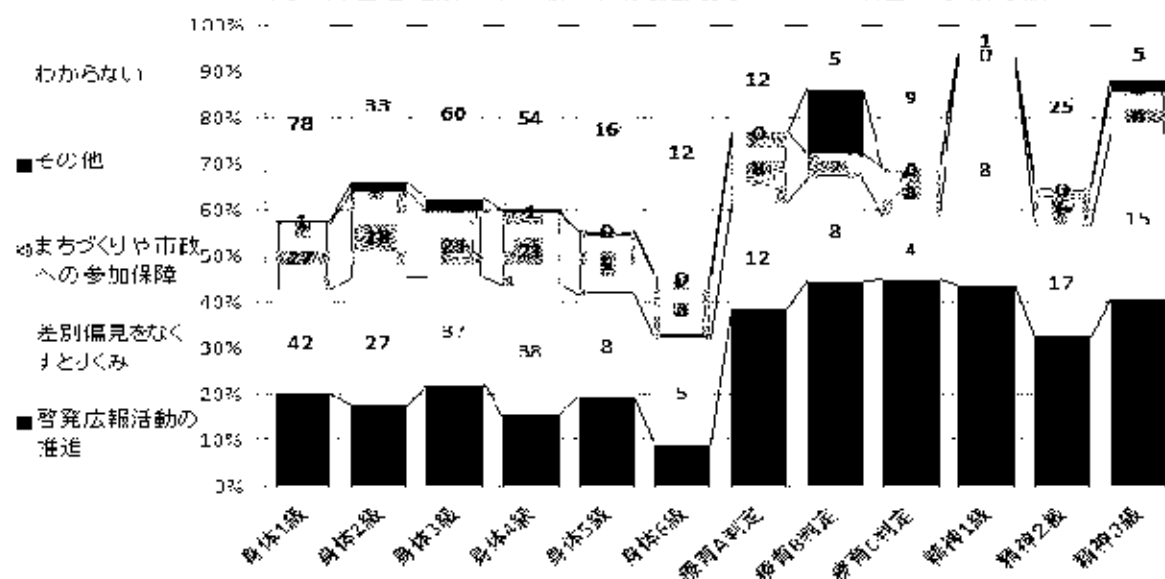


問32障害者理解の中で最も早く実施充実にほしい項目と年齢区分



ねんれいぐんべつ わか せだい げいはつ こうほうかつどう すいしん
 年 齢 区 分 別 で は、若 い 世 代 に な る ほ ど 「啓 発、広 報 活 動 の 推 進」の
 おりあい じゅん たか はんたい おりあい きゅうげき すく
 割 合 が 順 に 高 く な り、反 対 に「わ か ら な い」の 割 合 は 急 激 に 少 な く な っ て い
 ます。世 代 が 高 く な る と 全 く 逆 の 割 合 と な っ て い ます。世 代 間 の 差 が 最 も
 あらわ こうもく ひと
 現 れ た 項 目 の 一 つ で す。

問32障害者理解の中で最も早く実施充実にほしい項目と予帳等級



しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと せいしんしょうがい ひと げいはつ
 障 害 別 で は 知 的 障 害 の あ る 人 と 精 神 障 害 の あ る 人 は 「啓 発、
 こうほうかつどう すいしん ゆうせんてき きばう
 広 報 活 動 の 推 進」を 優 先 的 に 希 望 し て い る こ と が う か が え ます。



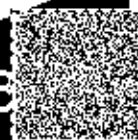
とい 33 きほんしきく しょうがい たい りかいそくしん しせい
 問 33 基本施策 3-1 障害に対する理解促進とまちづくりや市政への

さんか ほしょう かんれん じゅう ていあん ようぼう きにゅう
 参加の保障に関連して、自由に提案、要望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問33 街づくり記述
家族	男	10歳未満	2			市役所・学校・保育園などの職員の理解のなさを常にかけて悲しい思いをすることが多いです。まず行政側の理解促進をお願いしたい。特に現場の先生方。
家族	男	10歳未満		A		障害に関し差別偏見をなくすため、広く学習する機会を設けてほしいです。
家族	男	10歳未満		B		障害者に対する地域の人達の理解が少なく悲しい思いです。障害者に対する偏見が少しでもすくなる様に、啓発・広報活動の推進をお願いします。
家族	男	10歳未満	2	A		ごくあたりまえに、一緒に生活したり、学んだりできるようにしてほしい。
家族	女	10歳未満	2	A		偏見がなくなるとは思いませんが、健常者も幼いうちから障害者と触れ合える機会がもっと増えれば「目がなれる」と思います。幼・保育園・小中学校でそのような機会が増えることを強く望みます。
家族	女	10代		A		障害のある人が社会の中に存在することを当たり前だと自然に学ぶことができるのは小さいころから学校にそういう子供たちが当たり前存在することでともに生活し、成長していくことが大事だと思います。すべて一緒にするという意味でなく、一緒にできないことは支援を受ける、お互いが足りないところを助け合える社会を学校の中で作ってほしい。
家族	男	10代		C		話をし、本当の理解とその声を確実にすいあげてくれる市政。障害者家族や周囲の人たちへ配慮。



本人	男	60代	4		障害者といっても他の人の障害の程度がわからない。自分は軽い方だが実情はわからない。実際にどのような施策があるのかわからないのでわかるようにしたい。
本人	女	60代	4		口ではなんとでもいえる。住民教育を徹底する事。
家族	男	70代			外出を望んでいますが、連れて行くのが大変です。
本人	女	70代	2		中央福祉にもっと参加できるようにしてほしい。年齢が来たら中央福祉への参加が拒否される。
本人	女	70代	4		障害者に対する年金を少しでも上げてほしい。
本人	女	70代	4		内部障害者用マークの普及、配布。
本人	男	80歳以上	1		福祉事業は経済的考慮が必ず裏に伴うものである。市の力に応じたことをすべきだ。
本人	男	80歳以上	1		個々では市政への参加は数居が高い。団体が増え、この意見を団体で集約でき、代表が会議で発言する形がよい。
本人	女	80歳以上	3		一人では何もできない重度障害者に対するケアをもっとしてほしい。
本人	女	80歳以上	3		広範囲な問いに答えるのに無理がある。
家族	女	80歳以上	3		障害者の活躍の場。
		欠損値		2	病院からの訪問介護は病状により、行われていますが、市の福祉センターからも病院へ行かれない人のために訪問介護の必要がいると思う。神経の病気だけに老人介護とは違うため、男女の職員が非常の場合を想定しなければならない事が今後の課題である。
		欠損値		A	今は昔と違って差別はないです。何かのイベントに出かけても本当に皆様やさしくてうれしいです。

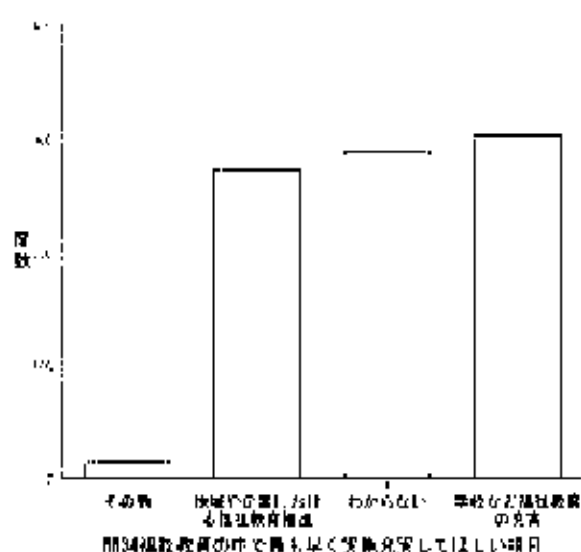


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 34 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 3-2	ふくしきょういく すいしん 福祉教育の推進 がっこう ふくしきょういく じゅうじつ (1) 学校などでの福祉教育の充実 ちいき きぎょう ふくしきょういく すいしん (2) 地域、企業における福祉教育の推進
-----------------------	--

問 34 福祉教育の中で最も早く実施充実してほしい項目

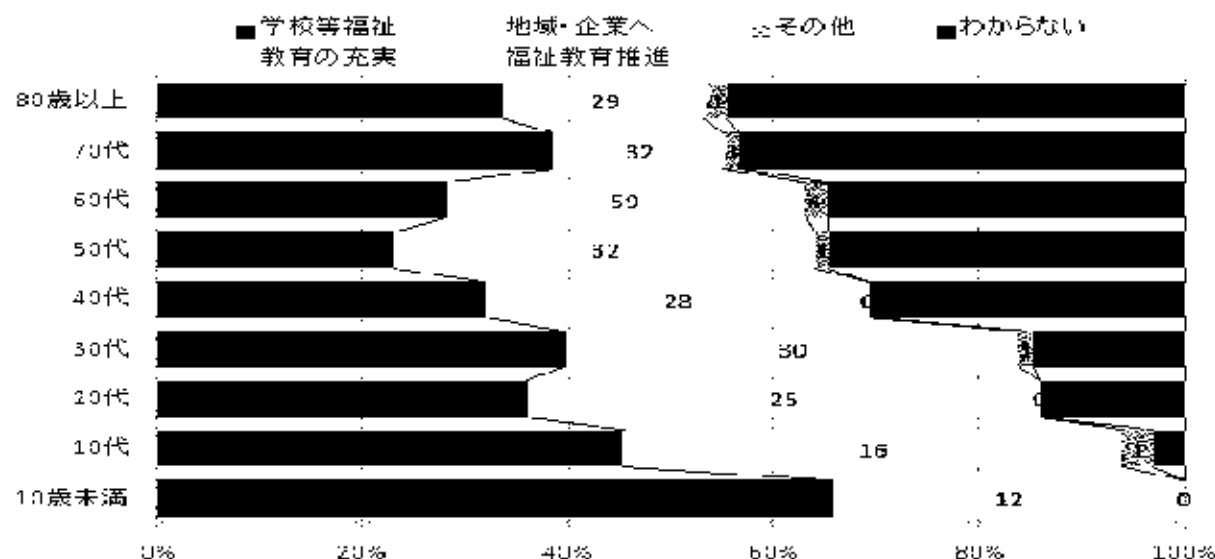
		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	学校など福祉教育の充実	302	25.6	34.6	34.6
	地域や企業における福祉教育推進	272	23.1	31.1	65.7
	その他	13	1.1	1.5	67.2
	わからない	287	24.3	32.8	100.0
	合計	874	74.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	306	25.9		
合計		1,180	100.0		



ほか のぞ がっこう ふくし
 その他を除き「学校など福祉
 教育の充実」「地域や企業にお
 ける福祉教育推進」「わからない」
 の項目に差が出ない結果となりました。



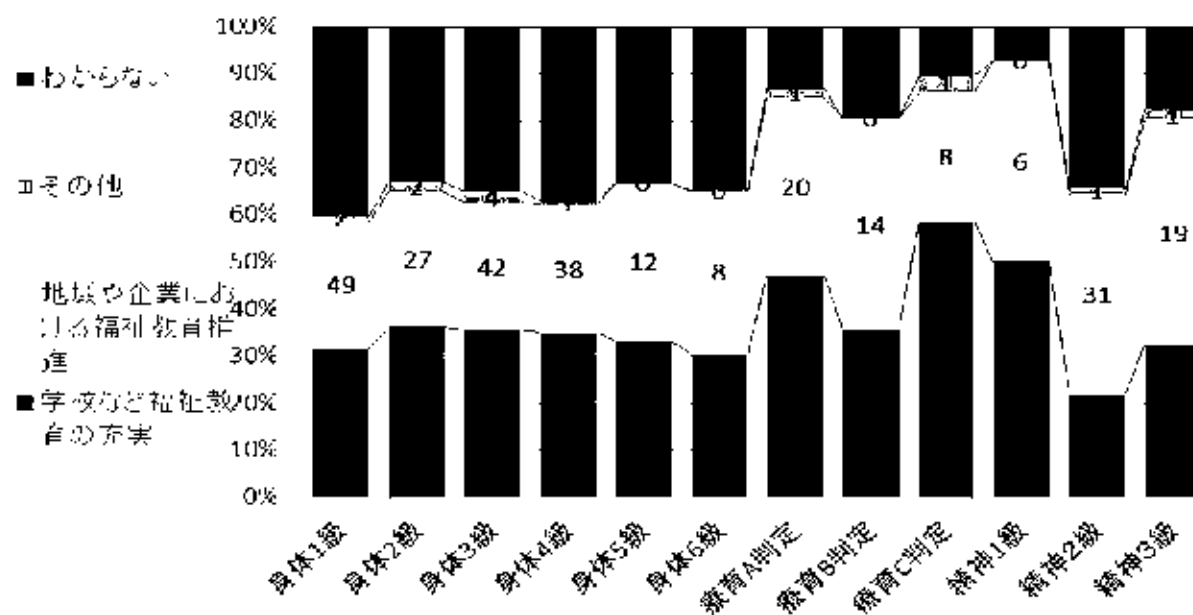
問34 福祉教育の中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



ねんれいくぶんべつ せだい ていどうせんじゅんい ちが あらわ
年齢区分別では、世代によってある程度優先順位の違いが現れています。

わか せだい がっこう ふくしきょういく じゅうじつ ちゅうかんせだい ちいき
若い世代は「学校など福祉教育の充実」となり、中間世代は「地域や
きぎょう ふくしきょういくすいしん こうれいせだい
企業における福祉教育推進」となり、高齢世代は「わからない」となってい
ます。世代間での差が現れた項目内容でした。

問34 福祉教育の中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ りょういくてちょう はんてい ひと はんてい ひと がっこう ふくし
障害別では療育手帳A判定の人とC判定の人に「学校など福祉

きょういく じゅうじつ きぎょう とく つよ
教育の充実」希望が特に強いことがうかがえます。



ぼう きにゆう
望を記入してください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問35 福祉教育推進記述
家族	男	10歳未満	2			福祉施設や制度をアピールするのではなく、実際にこんなことで困っている、こうしてほしいという内容を知ってもらいたい。
家族	男	10歳未満			3	学校の先生の意識が低い。支援学級の子は支援学級の先生だけが担当のようで、学校職員全体で見守るという意識にかける。
家族	男	10歳未満		B		小中学校等子供のころから障害のある人と交流する機会を作って福祉教育を充実してほしい。
家族	女	10歳未満		B		特別支援級を受け持つ教師の勉強・教育をしっかりとしてほしい。レベルが低すぎる。
家族	女	10歳未満		B		子供のうちから健常児とも遊べたらよい。日進の幼稚園は理解が少ない。特に〇〇〇〇は駄目だと聞く。4月から他市の幼稚園に通うので、日進でかよいたい。
家族	男	10歳未満	2	A		障害児の保育・教育専門的な内容にしたいのかもしれないが、集約すぎ、学区内の保育園・学校に通いたい。
家族	女	10歳未満	2	A		交流学級などの機会を増やしてもらいたい。そのためには加配等での人員の拡大も必要ではないのでしょうか。又障害児者の兄弟姉妹なども差別偏見を受けることもあるということも考慮していただきたいです。
家族	男	10歳未満	3	C		福祉実践教室について、身体障害に対する理解は深まりつつあるが、知的障害に対する理解が乏しいので、知的障害をもう少し取り上げてほしい。教員に対しての福祉実践教室をやってほしい。



本人	男	40代				ボランティアの活動支援。
本人	女	40代			2	日進市内にある企業に精神障害者雇用を義務化して欲しい。社員、派遣社員、アルバイト、期間雇用社員など選べると尚良い。
本人	男	40代			2	障害者に対する理解は一般の人に対してより若い時期から障害に対しておきる不自由さなどについてしておいてもらいたいのので、教育の早い段階で授業などで生徒におしえてもらえると障害者に対する誤解が起きにくい。
本人	男	40代			2	地域・企業等の福祉教育に力を入れて欲しい。
家族	男	40代		A		一般の方に体験学習などをしていただき、一般の人々が抵抗なく障害者に接することが出来るようになってほしいと思う。
家族	男	50代			1	差別を受けているのか気づかない場合がある。やさしく接するより、人並みだと思ってやっていることを理解して、手伝っていただければと思う。健常者から見れば逆に優遇されていると思ってつらく当たる人もいる。どうして福祉をしているのか正しく理解させることが必要だと思います。
本人	女	50代	3			障害のある人でも普通の学校に通える支援をしてほしい。
本人	男	50代	3			どのような形でもかまわないが、学校、企業での福祉思想の促進を望む。社会全体における理解がまだまだ不十分。
本人	男	60代	1			対象年齢に合わせた福祉教育はぜひ進めてほしい。
本人	男	60代	1			地域企業への障害者の雇用に拡大するよう、市が積極的に働きかけるように。
本人	女	60代	4			小さい時から教育することは大切なこと。進めてほしい。若い人たちに理解を自然に。
本人	男	70代	1			バス等の障害者への座席優先があまり守られていない。もっと啓発活動をしてほしい。



本人	女	70代	1		店でも店員さんの対応が違って困る。
本人		70代	2		小さなころからともに同じ空間で育つことが大事だと思う。障害が特別なことという意識をなくし、手助けが必要な人、必要な時には自然に助け合える環境の中で育ってほしい。
本人	男	70代	2		地下鉄を時々利用しますが、優先席に座れない場合がままです。特に若い人がそこを占めている場合は絶望的です。小中学校時代に教育を徹底していただくよう切に願います。
本人	女	70代	4		歩けない、おはなしができない、は別として一人で歩行可、話せる、聞き取れる人は普通の教育をうけるとよい。
本人	女	70代	4		施設見学を増やし、その後の感想・意見の集約。それに対する話し合い等全生徒が参加。出席した生徒はまた参加したいという意見をもっている。
		70代	5		福祉教育といってもみていないと子供もわからないから、親の理解も必要。学校でも親切にすることがけているから、動物をいじめるところも見ましたが、私も見ましたが、猫たちが8匹おもちゃやピストル死にました。
本人	男	80歳以上	1		住民・親・先生・友人そして本人が一体となって社会は成り立っている。全部が自覚した行動をとらねば「いじめ」と同じで馬の耳に念仏となる。
本人	男	80歳以上	2		学校自体がバリアーになるのが大きく見えます。それを解決するのが必要。
本人	男	80歳以上	3		働ける場所があれば生きがいになる。
本人	女	80歳以上	3		手厚い障害者への配慮。(人それぞれ環境が違うので)
家族	女	80歳以上	3		生きがいを持って働けるように雇用主に理解してほしい。

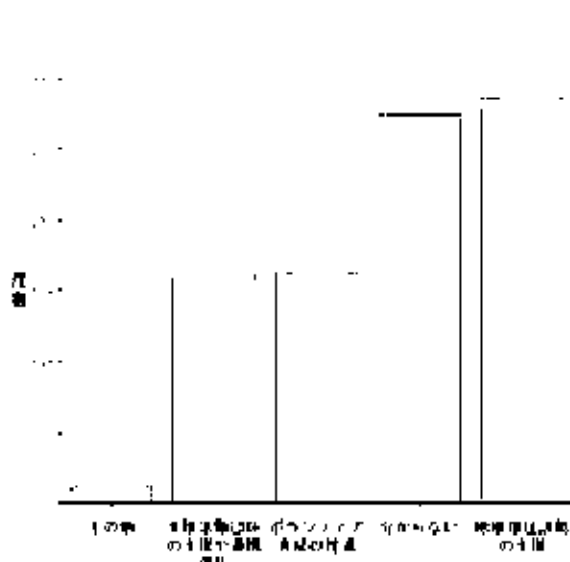


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 36 次の項目の中で、最も早く実施又は充実にしてほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 3-3	かつどう すいしん ボランティア活動などの推進
	(1) ボランティア育成の推進 (2) ボランティアなど福祉活動団体の活動支援、 れんけいきょうか 連携強化 (3) 地域福祉活動の支援

問 36 共生社会の中で最も早く実施充実にしてほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	ボランティア育成の推進	163	13.8	18.2	18.2
	支援活動団体の支援や連携強化	162	13.7	18.1	36.2
	地域福祉活動の支援	286	24.2	31.9	68.1
	その他	12	1.0	1.3	69.5
	分からない	274	23.2	30.5	100.0
	合計	897	76.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	283	24.0		
合計		1,180	100.0		



問 36 共生社会の中で最も早く実施充実にしてほしい項目

た のぞ
 「その他」「わからない」を除き、

ちいきふくしかつどう しえん ゆうこう
 「地域福祉活動の支援」が有効

わりあい もっと たか
 割合 31.9%と最も高くなっています。

いっせい
 全体では「ボランティア育成の

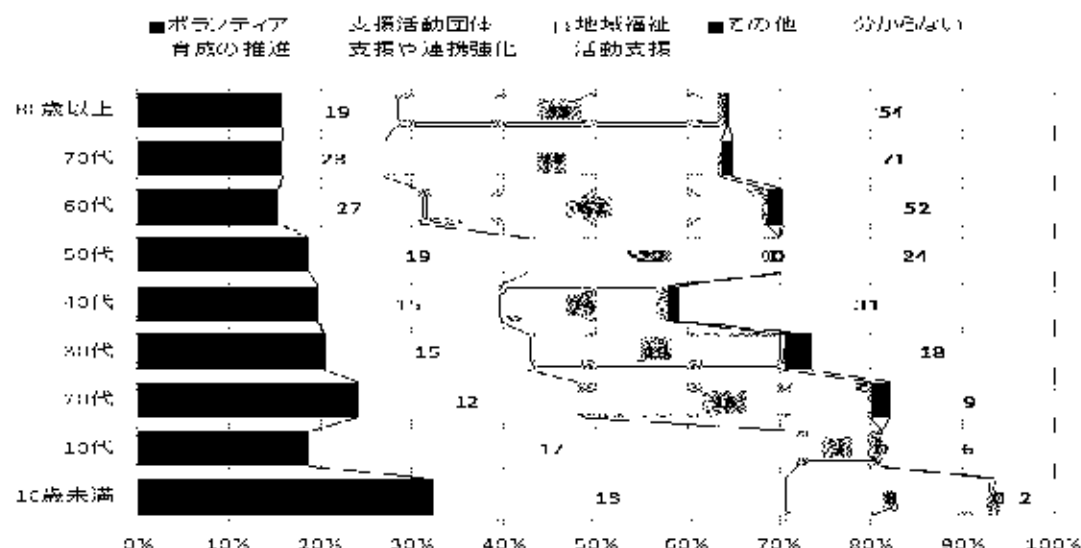
すいしん しえんかつどうだんたい しえん
 推進」と「支援活動団体の支援や

れんけいきょうか こうもく かん
 連携強化」の項目に関してはほとんど

さ で げっか
 差が出ない結果となりました。

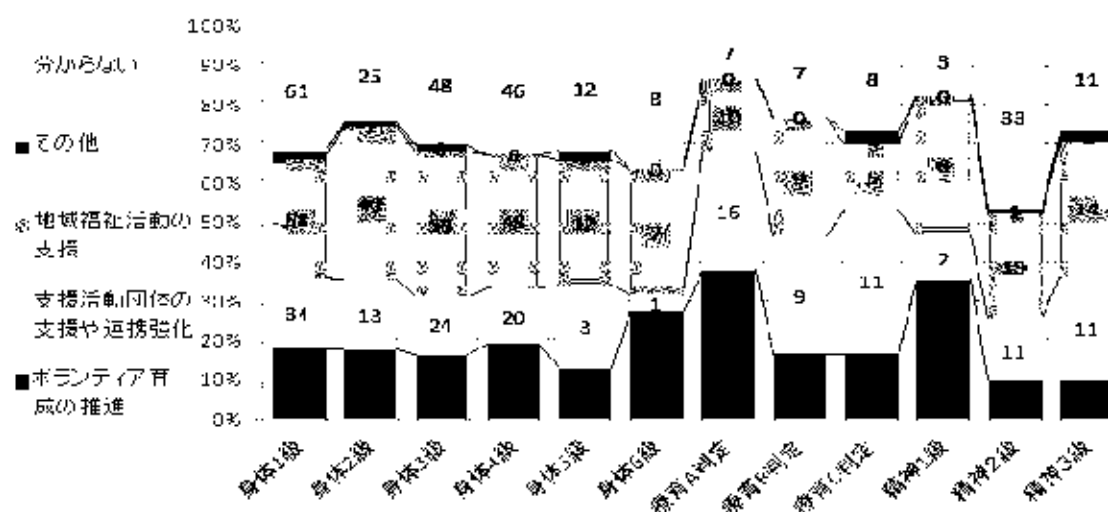


問36 共生社会の中で最も早く実施充実にしたい項目と年齢区分



ねんれいくぶんべつ ねんれい わかせだい しえんかつどうだんたい しえん れんけいきょうか
 年齢区分別では、若い世代で「支援活動団体の支援や連携強化」の
 わりあい たか ねんれい あ ちいきふくしかつどう しえん わりあい たか
 割合が高く、年齢が上がるにつれ「地域福祉活動の支援」の割合が高くなって
 いることがわかります。

問36 共生社会の中で最も早く実施充実にしたい項目と手帳等級



しょうがいべつ しょうがい しんたいしょうがい ひと ちいきふくしかつどう しえん わりあい
 障害別では、身体障害のある人は「地域福祉活動の支援」の割合
 たか ちてきしょうがい ひと しえんかつどうだんたい しえん れんけいきょうか
 が高く、知的障害のある人は「支援活動団体の支援や連携強化」の
 わりあい たか しんたいしょうがい ひと おお こうれいしゃ
 割合が高くなっています。身体障害のある人の多くが高齢者であることから
 たか ねんれいくぶん しんたいしょうがいしゃ かんけい とく ねんだい ていねい はいりよ
 いえは高い年齢区分と身体障害者の関係は特に年代で丁寧に配慮す
 ひつよう おも
 ることが必要と思われます。





家族	男	50代			1	役所の人も人員に限りがあると思うので、退職された元気な高齢者の方たちの経験や対処の仕方等、そういう方がボランティアとして支援していただけるとよい。
本人	男	50代	1			ボランティアとは何か。その人が好きでやっている等思う人がいたら大変なことです。もっと小中学からの教育が必要。
本人	女	50代	3			地域でどんな活動をしているのかまったくわからないので、周知できる広報等を配ってほしい。
本人	男	50代	3			北欧に代表されるような福祉思想育成のために若者、子供に対してボランティア意識の育成がなされるとよいと思う。ボランティアに手当を支給しても良いのでは。周知を優先。
本人	女	50代	4			自治組織のマンション化(隣接居住者とも関係がだんだんなくなって来ている)が気になります。特にお年寄りのいる家庭へのあたたかい目配りは欠かせないと思う。
家族	女	60代			1	私の夕方5時30分～6時頃ボランティアで時々、訪問する男性、20代だと思いますがきます。耳が遠くてよく聞き取れなく断っています。ボランティアといわれるが、金が必要か信用できないのです。
本人	男	60代	1			障害があってもボランティアとして活動できる。個人でもどこかに登録する等、要望があれば活動できる。個人だと仕組みに乗りづらく、活動意欲があってもニーズに結び付きにくく、活動につながりにくい。
本人	男	60代	1			誰でもやれるような環境とか、雰囲気作りが必要と思われる。
家族	男	60代	2			すべてに。



[illegible]

本人	男	70代	3		ボランティアは生活が安定している人しかできません。
家族	女	70代	3		迷惑行為を受け助力を求めても気味悪がられるだけ。しっかりした組織がほしい。
本人	女	70代	4		ボランティア活動したい人はいっぱいいらっしゃると思います。壁がたかくてその人たちへのグループへ入っていけない。誰でもいつでも一緒に動きまじょうの空気がほしい。
本人	女	70代	5		民生委員の中で口のかるい人がいるので・・・
		70代	5		家の子どもボランティア活動で海外に行ったり、タイも何回か学校つくりにいっていましたが、それが今は自分自身におかげをもって得を積んでいます。
家族	女	80歳以上	1		ボランティア活動者の事故時の責任・保障の問題。
本人	男	80歳以上	1		ボランティアセンターが機能していない。障害者に存在を知ってもらい、利用されるような啓発が必要。
本人	女	80歳以上	3		どんな支援が受けられるかしらせてください。民生委員やボランティア学生がいてくれたら助かる。
家族	女	80歳以上	3		定年退職者の意欲がでるような企画。
本人	男	80歳以上	5		手当がないと支援もおろそかになりやすい。
		欠損値			ボランティアに頼るのはいいかなものか。専門家を充実すべきだ。

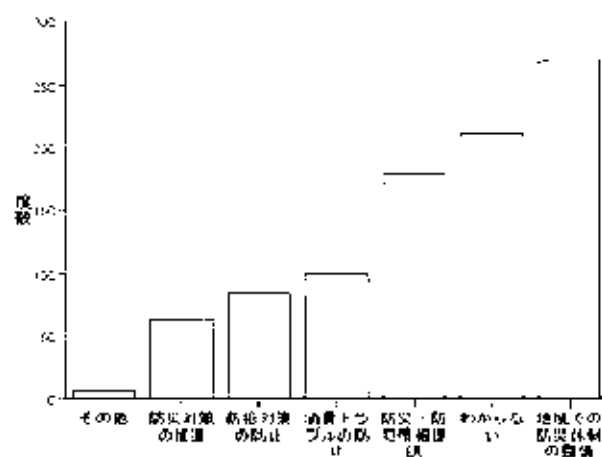


とい 38 つぎ こうもく なか もっと はや じつじまた じゅうじつ こうもく なん
 問 38 次の項目の中で、最も早く実施又は充実にしてほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 3-4	ぼうさい ぼうはんたいさく すいしん 防災・防犯対策の推進
	ちいき ぼうさいたいせい せいび (1) 地域での防災体制の整備 ぼうさい ぼうはん じょうほうていきょう きんきゅうじょうほうはっしん (2) 防災・防犯の情報提供、緊急情報発信 ぼうさいたいさく すいしん (3) 防災対策の推進 ぼうはんたいさく すいしん (4) 防犯対策の推進 しょうひせいかつ ぼうし (5) 消費生活トラブルの防止

問38 防災防犯の中で最も早く実施充実にほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	地域での防災体制の整備	268	22.7	29.4	29.4
	防災・防犯情報提供	179	15.2	19.6	49.0
	防災対策の推進	64	5.4	7.0	56.0
	防犯対策の防止	85	7.2	9.3	65.3
	消費トラブルの防止	100	8.5	11.0	76.2
	その他	6	0.5	0.7	76.9
	わからない	211	17.9	23.1	100.0
	合計	913	77.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	267	22.6		
合計		1,180	100.0		



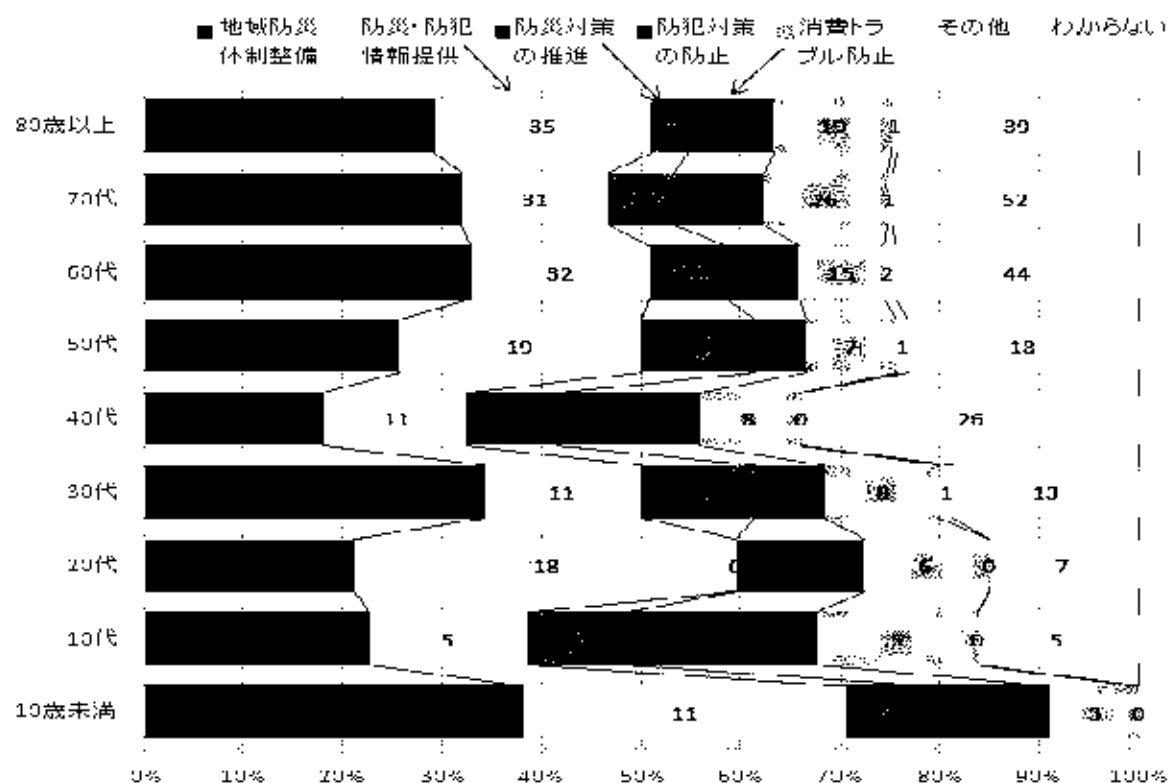
問38 防災防犯の中で最も早く実施充実にほしい項目

ゆうせんじゅんい ひかくてき
 優先順位が比較的わかりやすく
 でています。

もっと ゆうこう わりあい たか
 最も有効割合が高いのは、
 ちいき ぼうさいたいせい せいび
 「地域での防災体制の整備」でした。
 き とうかいじしん
 いつ来てもおかしくない東海地震への
 かんしん たか かんげい
 関心の高さが関係していると
 おも
 思われます。

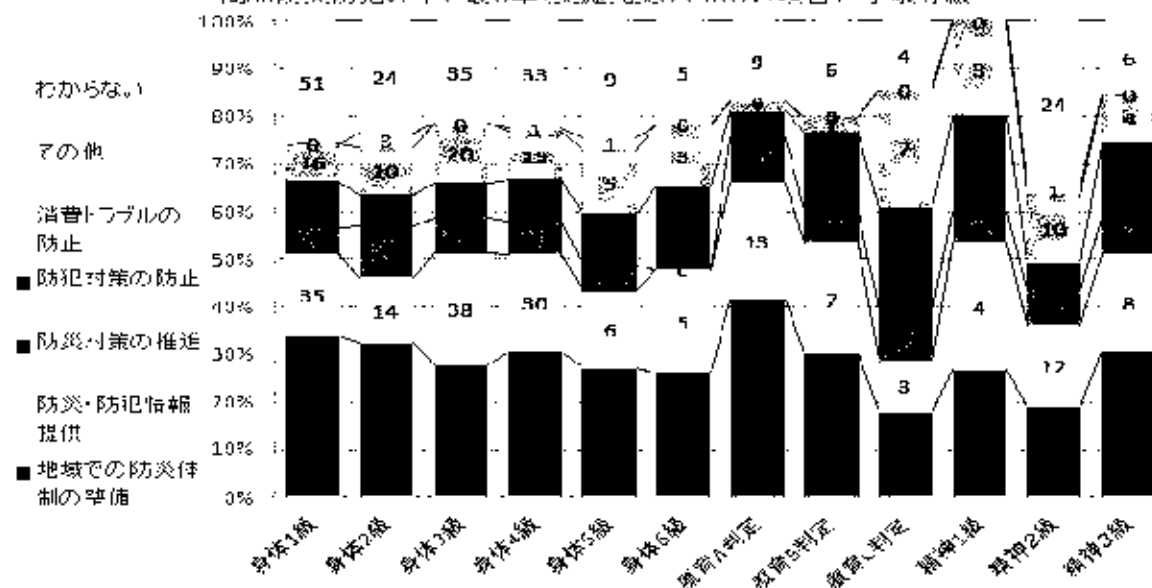


問38防災防犯の中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



ねんれいくぶんべつ とく だい ぼうさい ぼうはん じょうほうていきょう きんきゅう
 年齢区分別では特に20代で「防災・防犯の情報提供、緊急
 じょうほうはっしん たかわりあい とくちょう
 情報発信」が高い割合になっているのが特徴となっています。

問38防災防犯の中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



しょうがいべつ ちてきしょうがい ひと てちょう はんてい ちいき
 障害別では、知的障害のある人で手帳がC判定になるにつれ「地域で
 ぼうさいたいせい せいび ゆうせんど ひく
 の防災体制の整備」の優先度が低くなっています。



とい 基本施策 3-4 ぼうさい ぼうはんたいさく すいしん かんれん じゆう
問 39 基本施策 3-4 防災・防犯対策の推進に関連して、自由に

ていあん ようぼう きにゆう
提 案 要 望 を 記 入 して くだ さい。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問39 防災・防犯施策記述
家族	男	10歳未満	2			カテーテルなどの医療器具のストックをお願いしたい。
家族	男	10歳未満			3	防災時の身体、視覚、聴覚、精神障害のある人、それぞれのポイントマニュアルや理解が必要。
家族	男	10代		C		障害者も参加する訓練で、周囲の学びにつながる。障害者・高齢者・子供・外国人・父子・母子・ホーム・持病を持った人、薬を服用している人、地域で支援が出来る人の把握につながる。まずは対策の推進に関してより多くの市民からの意見と要望・地域からの声を吸い上げることが必要ではないでしょうか。防犯に関しては二通りある。被害と加害。どちらにしても犯罪への認識が必要となってきます。シュミレーション等で学ばないと理解づらい。
本人	女	20代			2	震災で精神障害者の薬の不足が問題になったが対策を練ってほしい。
家族	男	20代			2	テレビラジオ新聞や書類などで自分から情報を得にくいので、直接本人を訪ねてきて口頭で教えてほしい。
本人	男	20代			3	身体障害者はとくに移動に困難をきたすと思うので、尾三消防署や日進市役所防災担当の方々と定期的に身体の具合や場ハザードマップの提示など綿密に行ってほしい。
家族	男	20代		A		障害者の特性確認の方法を早急に確立する必要あり。市民参加でアイデア募集。
家族	男	20代		A		福祉避難所内の充実。障害種別ごとに配慮したマニュアルの見直し作成。(市民にわかりやすく)



本人	男	50代				緊急避難速報が出た場合、早めに対応してください。
家族	男	50代			1	防犯は必要。
本人	男	50代	1			自然災害等に対して障害者はいつも心配している。何かあった時に対策はどうようにするか決めてください。
本人	男	50代	3			予想以上の災害については備蓄品の保管、場所などを市内の多数力所に設置する等必要。
家族	女	60代			1	障害者の集団でできる人ができない人をみていく。移動でもできる人ができない人を見るという組織だったらいい。障害者同士の共同生活。
本人	男	60代	1			災害に遭った時の薬が心配。
本人	男	60代	1			障害者に対してわかりやすい情報発信をしてほしい。インターネット、公共施設での掲示は駄目。わかりやすい方法で。
家族	男	60代	2			すべてに。
本人	女	60代	4			災害時の避難場所、順路が遠すぎる。避難したくない。合理的な方法はないものか。
本人	女	60代	4			民間の防犯対策会社でもいいので障害者特典枠を設けていただくと安心して一人生活ができるようになると思う。
本人	男	60代	4			避難訓練に障害者も参加させ、ニーズにあった支援体制作り。
本人	男	60代	4			防災時の医療方法・ストマの交換施設管理を検討して頂きたい。
本人	女	60代	4			防犯訓練でも障害のある人の参加はすごく少ない。何か表面的になっている。
本人		70代				ほとんど毎日のように何かわからない電話(特に投資、先物、又儒教勧誘その他)電話が鳴ると不快。
本人	男	70代	1			防犯カメラを整備。
本人	女	70代	1			地域の防災訓練に行きたいが、遠回しに来るなど断られる。



本人	男	70代	2		身体障害にとって防災の問題は即命にかかわる問題です。自分なりに対応策を考えてはいますが、遭遇した場合、まともに避難できるなどということはありませんと思います。個人情報の問題などは枝葉末節の事と考えます。
本人	男	70代	2		私の団地では、両隣、向かいの家と4~5軒が訪問者にはそれとなくチェックしている。いかかわしい訪問販売は来ない。月に4回程度友人と麻雀し、親しい人に会いに月に2から3回は金沢までかけ、食事をして帰ってくる。
家族	女	70代	3		悪徳商法に引っかかった時、深味の相談、アフターケアがない。関わらない様になさいで終り。
本人	男	70代	4		防犯・防災対策を統合した体制づくり。
本人	女	70代	5		災害はいつ発生するのかわかりません。家族が留守の時の事を考えてほしいです。
本人	男	80歳以上	2		施設にお世話になっているので回答に戸惑う。わからないので答えられない。
本人	男	80歳以上	3		特にお年寄りの虎の子の老後資金を取られたら、一番困るので、強力な取り組みを希望します。
本人	女	80歳以上	3		障害者のいる住宅の把握という早い情報提供及び支援体制。
本人	女	80歳以上	3		障害を持つ人間として人に頼り切ることのないように、自分で身を守り生活する事の大切さを考えて行動していくべきだと思います。重度の障害者には目を向けていくことが大切だと思います。
本人	女	80歳以上	3		もし災害が起きたら、まず聴覚障害者がどこにいるのか確認が必要です。
		欠損値		2	簡単にだまされやすい。

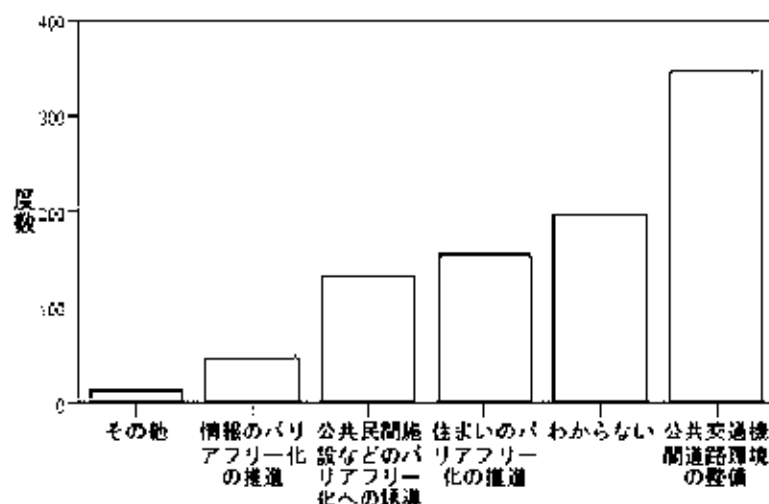


とい つぎ こうもく なか もっと はや じっしまた じゅうじつ こうもく なん
 問 40 次の項目の中で、最も早く実施又は充実してほしい項目は何
 ですか。

きほんしきく 基本施策 3-5	
	すいしん バリアフリーの推進
	こうきょうしせつ みんかんけんちくぶつ か ゆうどう (1) 公共施設・民間建築物などのバリアフリー化の誘導
	こうきょうこうつうきかん どうろこうつうかんきょう せいび (2) 公共交通機関、道路交通環境の整備など
	す か すいしん (3) 住まいのバリアフリー化の推進
	じょうほう か すいしん (4) 情報のバリアフリー化の推進

問 40 施設等のバリアフリーの中で最も早く実施充実してほしい項目

		度数	割合 (%)	有効割合 (%)	累積割合 (%)
有効	公共民間施設などのバリアフリー化への誘導	133	11.3	14.9	14.9
	公共交通機関道路環境の整備	347	29.4	38.9	53.8
	住まいのバリアフリー化の推進	155	13.1	17.4	71.1
	情報のバリアフリー化の推進	48	4.1	5.4	76.5
	その他	13	1.1	1.5	77.9
	わからない	197	16.7	22.1	100.0
	合計	893	75.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	287	24.3		
合計		1,180	100.0		

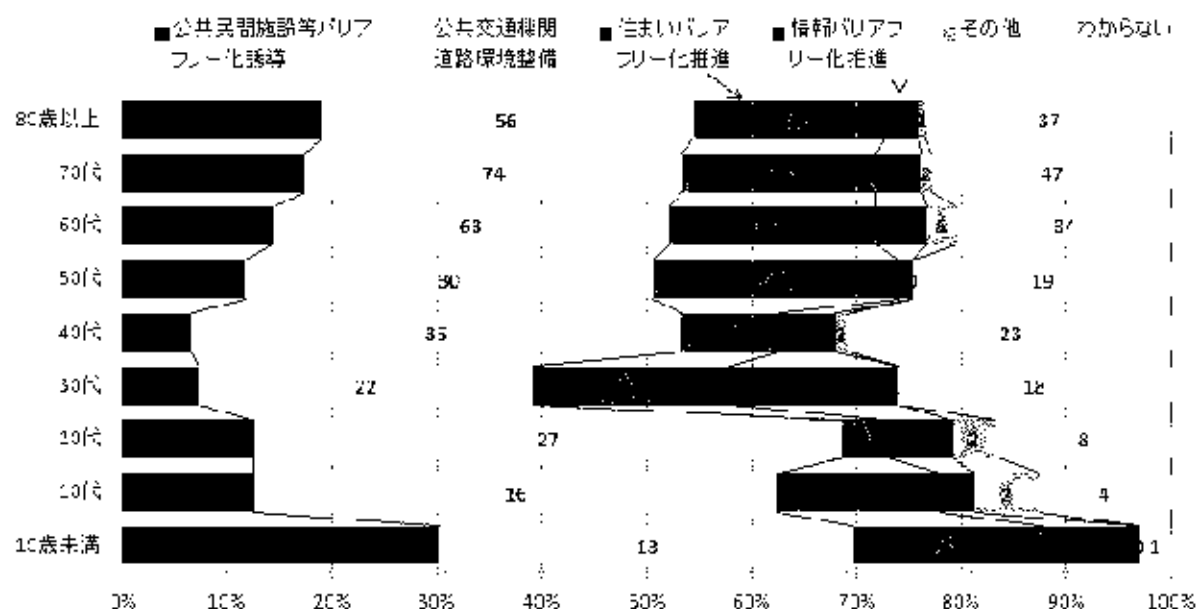


問40施設等のバリアフリーの中で最も早く実施充実してほしい項目

こうきょう こうつう きかん
 「公共交通機関
 どうろかんきょう せいび
 道路環境の整備」が
 やく おり かと
 38.9%と約4割の方が
 ゆうせん こうもく
 優先すべき項目として
 あげています

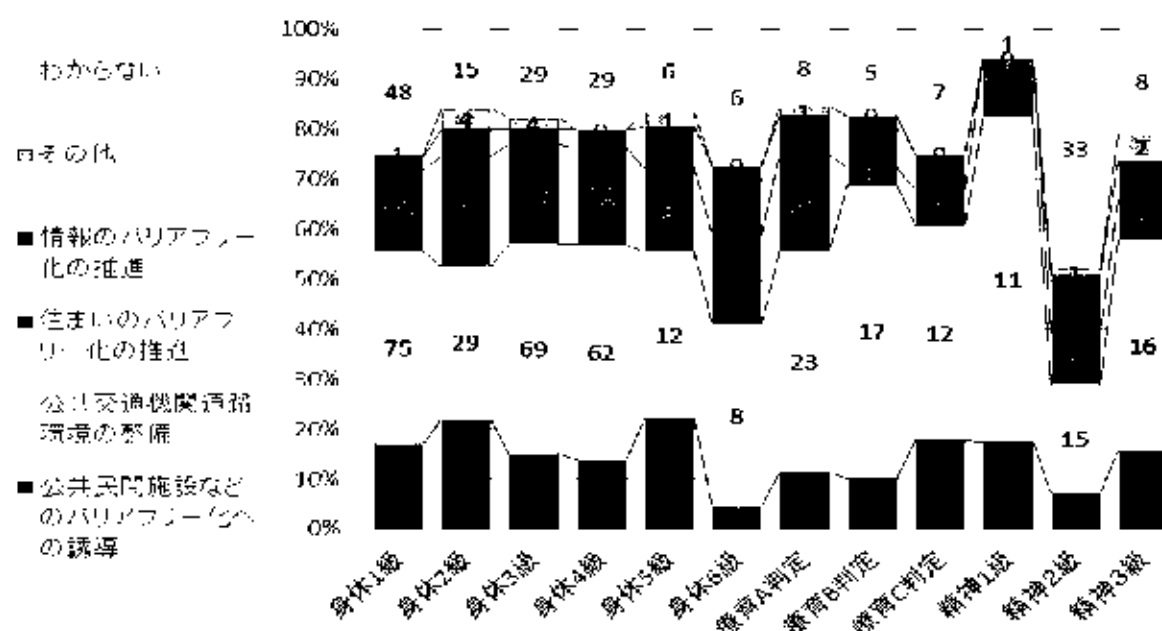


問40施設等のバリアフリーの中で最も早く実施充実してほしい項目と年齢区分



年齢区分別では、30代に「情報のバリアフリー化推進」の割合が高く出ています。また子育て世代と高齢世代には「公共民間施設などのバリアフリー化への誘導」が高い割合傾向が見取れます。

問40施設等のバリアフリーの中で最も早く実施充実してほしい項目と手帳等級



障害別では特に知的障害のある人と精神障害のある人で「公共交通機関道路環境の整備」で高い割合になっていることがうかがえます。



家族		20代	3	A		車いすを利用している人はすべてバリアフリーが必要かもしれませんが、障害者は個々違うので段差を覚えさせることも大事。安全に歩行ができるところがよい。
家族	女	20代	4	B		車いすの人でも安心して公共交通機関を利用して外出できるように必要な援助を兼ねせずに必要な時に得られるよう、従事している人々のみならず、民間の人々にも理解と協力をお願いしたい。
本人	女	20代	6			くるりんバスの本数をもっと多くしてほしい。路線ももう少しあるといいとおもう。
本人	女	30代				市だけではだめだと思う。県自体もっとおこなってください。特に市バス、電車の改善を名古屋市はなぜしないのでしょうか。
本人	男	30代			2	精神障害なのでわからない。
家族	男	30代		A		個人へのお金の支拂はやめて、皆が公平に利用できる施設の建設をお願いしたい。百万単位の寄付、毎月の協力金、重度の障害がある者には施設を選ばせん。親の先が長く、残す子供の最期の心配のない施策をお願いします。
家族	女	30代	1	A		老人施設が多い。空きのある老人施設を利用させてもらえないものか。
本人	男	30代	6			段差の整備を車いす目線で。
本人	男	40代			2	身体に障害のある人々には移動が難しいので、こういった人々に対して交通局機関等のバリアフリー化は早期に実現してもらいたい。
本人	男	40代			2	駅を歩きやすくしてほしい。
本人	女	40代			3	今の中学生の自転車の乗り方が悪すぎる。
家族	男	40代		A		自転車の通行(学校の登下校の際等)について指導してほしい。日進では歩道を自転車が通行していますが、歩行者が危険な思いをする場合があります。理想は自転車道があればよいのですが。



家族	女	40代	1		安全性の整備。
本人	男	40代	3		様々な障害があるので難しいが、障害によって情報弱者になることがないように配慮頂きたい。
本人	女	40代	4		バスなどにのりやすくしてほしい。
家族	男	50代		1	行動に十分な空間とトイレの整備。異性の介助で思わぬトラブルがあると一般のトイレで対処できない。
本人	男	50代		2	公共交通機関の各駅へのエレベーター設置や乗り換え時の階段などをなくす対策。
本人	男	50代	1		公共交通機関のバリアフリーはいまさら当然であり、各住居への助成をもっと考える必要がある。
	女	50代	2		住まいのバリアフリーの費用、住宅改修は上限を決めず最低限必要な改修は一度実施してほしい。
本人	男	50代	2		歩道のでこぼこが多すぎる。街路樹の根が盛り上がってくるのだからうけれど、大阪市内では見かけない光景である。障害者だけでなく老人にとっても危険だと思う。
本人	男	50代	2		日進はおくれている。
本人	男	50代	3		住宅改修に対する補助金の充実。
本人	男	50代	3		障害者に確認が必要。健常者の考えるバリアフリーとずれがある。
家族	女	60代	1		市民会館の車イス席をとると、介助者はパイプいすです。他の方と同席なので納得できません。本人から離れることができず仕方なくパイプいすに座ります。半額とはいいいませんが、500円引き等ならないでしょうか。



本人	男	60代	1		市役所東側の玄関の階段に手すりをつけてほしい。平子南のバス停は縁石があって乗り降りにくい。古い団地には縁石が多く、歩行時に危険。
家族	男	60代	2		選挙のための投票所に車いす用の駐車場を作してほしいです。
本人	女	60代	3		公共交通機関により料金の割引が違うため通勤に不便。市としても呼びかけをしてほしい。
本人	女	60代	4		家の前ごとの歩道が斜めに削れてあってあるところはでこぼこな感じでとても歩きにくい。雨水の関係かもしれないが、足の悪い人、歩行車を使う人にはとても危険だと思う。
本人	男	60代	4		道路のバリアフリー。
本人	女	60代	4		日進市は他市より、住宅改修助成が多く感謝しています。多額の費用が必要なので障害に合わせプラスしていただけるように期待しています。
本人	女	60代	4		1)は徹底的にしたほうがよい。常時いるところでは程々という考えもある。いろいろな案で、画一的ではだめ。
本人	女	60代	4		足に障害があるので、学校などのバリアフリーを推進してほしい。
本人	女	60代	5		バリアフリー以前に、歩道を確保してほしい。
本人	女	60代	6		今は電動車いすを利用して見える方を時々見ます。歩道の整備をお願いしたい。
本人		70代			高齢者の居る世帯でのバリアフリーに関する市としての推進は早くしてほしい。
	男	70代		1	狭い屋敷で階段のある家では車いすが通れずにスロープに作り直すスペースがなく困っている。駐車から何かの機械を使って上の敷地まで上下できる方法と費用がほしい。

[illegible]

本人	男	80歳以上	1		赤池駅のエレベーターが止まった時に階段を利用しなければならないので、スロープをつけてほしい。歩道と車道の境目の段差を改善。歩道の整備。赤池駅の信号は車用が長く、歩行者用が短い。障害者用の信号延長機をつけてもらわないとわたりきれない。歩道と車道の境目の段差を緩やかにしてほしい。歩道が少ないので整備してほしい。歩道が側溝だったりする。
本人	男	80歳以上	3		優先順位が大切。細かいことはわかりませんが、安心・安全に生きていくためにはどうしたらという考えでお願いいたします。
本人	女	80歳以上	3		住宅改修費用の助成を。
本人	女	80歳以上	3		以前の住民健診を受けていた頃、保健センターに行って受けていた。尿検査の時に和式しかなかったため困った。
家族	女	80歳以上	3		歩道の整備。
本人	女	80歳以上	4		電柱や標識が歩道を妨げるように設置しており、景観も美しくないのです。電柱を地下にしたい。
		欠損値		A	障害者だけでなく年齢が過ぎれば必要になると思います。
本人	女	欠損値	3		障害者だけでなく年齢が過ぎれば本当に必要です。



問 4 2 計画全体に関して、ご意見などがありましたらご記入ください。

回答者	性別	年代	身体手帳	療育手帳	精神手帳	問42 計画全体の意見
家族	男	10歳未満	2			障害は個々それぞれ千差万別です。偏った計画ではなく、いろんな声を聴いて、寄り添っていただきたい。よろしくお願いします。
家族	男	10歳未満			3	全体的に漠然としていて良くわからなかった。
家族	男	10歳未満		A		予算を削減することはやめてほしい。弱い者いじめをしないでください。
家族	男	10歳未満		B		冊子等障害に関する情報を送ってほしい。障害の等級や就園、就学等の節目など「こういうところがある」「ここに相談できる」等役所や支援センターに行かなくても年齢・障害の種別によって係る情報提供を積極的にしてほしい。
家族	女	10歳未満		B		知的障害の母です。現在三好養護に進学するのがほとんどだと聞いている。三好養護も人数増加のため通学バスがいっぱいだったり、問題がでてきているようです。新設案や増改築案がでているのか不安です。
家族	男	10歳未満		B		日進市は障害者福祉の制度や施策の充実にとっても力を入れていることはよくわかっており、素晴らしいと思う。ですが、内容に不備やおかしいなと思うところもあります。もっともっと制度や施策の充実に力を入れていただき、内容を見直していけばきっと愛知県や全国に障害者福祉先進都市としてアピールできると思います。頑張ってください。
家族	女	10歳未満		B		これから人口がふえるので障害児も安心して暮らすことができ、生涯日進で暮らしてほしい。すくすく園ばかりを受け皿にせず、幼稚園も協力してくれたらと思う。

家族	女	10 歳未満		C	アンケートをとった以上、この情報をちゃんとまとめて届けて下さい。そのうえで計画が進められているか知りたい。どうかこの子たちが住みやすく幸せな環境を作ってください。お願いします。
家族	男	10 歳未満	1		移動支援について市外の病院や施設へ通うためのガソリン代がほしい。通学に使えるような事業にしてほしい。結果を知らせてほしい。
家族		10 歳未満	2		居宅介護している障害児にも配慮ある計画をしてほしい。保育園や学校が中心なのに、居宅や施設以外の支援ができないのでは、福祉制度が利用できず、結局は家族の負担が増える。
家族	男	10 歳未満	2	A	障害者に関わっていない市民にも、このような取り組みを知らせてほしい。特に小中学校の子供たち。年齢が下であるほど偏見なく受け入れてくれる。
家族	男	10 歳未満	3	A	障害種別にわければ人数の多少があるが、声の多いものからだといつまでたっても何もかなわない。障害別に希望を取り入れ、各障害が落ち込む分野なく全体の向上を望む。
家族	男	10 歳未満	3	C	他市町村を参考にしたいよい例をどんどん取り入れてほしい。
家族		10 代		A	日進市にはたくさんの障害者・障害児がいますが、支援する事業所やヘルパーの数が少ないと思います。
家族	男	10 代		C	アンケートは時々いただきますが、その結果や方向性は知らされませんが、一度広報やHPを見ない方が悪いといわれたことがありますが、見る暇も無い程の毎日と時間ができたときには疲れきっています。結果などをアンケートのように送っていただくにはお金がかかってしまうかもしれませんがお願いしたい。



本人	男	10代		C	2	計画の内容が難しすぎて意味が分かりません。
家族	男	10代		C	3	障害者の求人はパートアルバイトが多い。ハンディがあるから一日の就労は大変だからという気遣いのようにも見えるが、正規社員ではなく、非常に不安定な立場である。富裕である必要はないが、不安なく生活できる環境を整備してほしい。福祉というどうしても介護の方に目が行きがちだが、障害者も人材と考え活用していくくみを考えてほしい。特に求人の少ない知的障害者にも配慮してほしい。
家族	女	10代	1			視覚障がい者でも一人で行動できるような安全な街にしてほしい。
家族	女	10代	1			日祝預かりの事業所。老人のお風呂を利用させてほしい。年一回でも一泊であずかってほしい。
家族	男	10代	2			計画とは関係ありませんが、「福祉課 障害福祉係」と書かれた封筒で息子あてに郵便物が届けられることに少し抵抗があります。手帳をいただいてまだ日も浅く、いつか手帳をお返するという気持ちで日々頑張っています。
本人	女	20代				計画といわれても障害者になりたくてなっているのではないので、気分がよくない。看護している人や家族に聞いた方がよい。障害者目線などというが、本当にそのような立場にならないとわからないのでそういう言い方は失礼。
本人	女	20代			2	障害者にやさしい計画を求めます。



本人	女	20代		2	できればアンケートは手帳の種類ごとに作ってほしいです。それぞれの障害によって必要な支援が違うので…今のアンケートだと質問が多すぎてワケがわからなくなってしまいます。
家族	男	20代		2	親亡き後の事を思うと心配。制度のような難しいことがよくわかりません。暮らしていけるだけのお金と食事服薬通院、話し相手、身の回りの衛生、災害時などの最低限でよいので助けてください。シンプルで安全で幸せに暮らせるようになってほしいです。
本人	男	20代		3	民間団体や個人の意見・要望などもくみとり、それをまとめたうえで行政に反映してくださるとうれしい。
家族	男	20代	A		さまざまな充実すべき項目に対して、どのようにプライオリティをつけるか。市民に理解を求めてほしい。結果が行政に対する信頼につながる事ができる。
家族	男	20代	A		自由に記入するところが多く、どんなことを書いたらいいのか難しかった。
家族	男	20代	A		年代によって背負っている問題が違う。記入は大変。年代があがると市のHPもみていないのでは。
家族	男	20代	B		基本計画の作成上、アンケートを利用するしかないと思いますが、仕事の関係で市の会合等あまり出席できませんが、意味は在る程度明確なものもありますので、税金の使い方について意見のある方は基本計画を作成する前に一度日曜日等に会議を開いてみてはどうかと思います。



家族	男	20代		B	障害別の内容で発送していただければアンケートの記入がしやすいです。
家族	男	20代		C	相談支援センター・成年後見センターができ安心した。情報提供を広報で知るしかないのが残念。学校を卒業すると情報が得にくい。
本人	男	20代	1	C	このアンケートだけでなく、本当に何が必要か今一度検討するためにも当事者・家族の意見として聞く機会を作ってください。後期計画の案ができたなら、私達にも教えてください。私たちの声はどうやったらきちんと届くのか不安です。案ができてからまだ検討することもあると思いますので、よろしくお願いします。計画について、だれでもホームページを見てやれるわけではないので、参考にできません。何か方法を教えてください。パソコンを使えない人はどうすればよいですか。教えてください。
本人	男	20代	3		問の数が多すぎる気がします。読むだけで大変疲れてしまいました。もう少し短く聞くことはできないでしょうか。
本人	女	30代			計画されている事自体知りませんでした。現在の制度も知らないのに、どうすればよいのでしょうか？どこで知れるのでしょうか？
家族	女	30代			計画は立派だけに計画で終わらないでほしい。障害者が安心して堂々と生きることのできる社会を目指してほしい。市役所の職員の上から目線はやめてほしい。



家族	男	30代		2	新しくできた福祉センターですが、もっと幅広く専門的な医師に常勤してもらったらどうでしょうか。家族、友人、知人、親戚にも安心していただけたと思います。
本人	女	30代		2	現在親と同居していますが、親なき後兄弟親戚に迷惑かけなくとも生活できるようにするにはどのような事をしていったら良いのか、講座を開いていただきたい。障害の程度が良く理解できている方に相談センター配備して下さい。
本人	男	30代		2	このようなとりくみが大変ありがたいです。
本人	男	30代		2	アンケートが非常にわかりづらい。知的障害の人もアンケートに答えるのだから、もう少し配慮してほしい。ルビを振る問題ではない。三障害別でアンケートを作成してほしい。
本人	男	30代		2	名古屋市のバス地下鉄の無料バスがほしい。
本人	女	30代		2	精神障害に対する知識が他の障害に比べて広まっていないように感じる。今回の計画もそのあたりを考慮して進めてほしい。
本人	女	30代		3	障害認定をうけ、様々な面において助けていただいております。感謝している。



家族	男	30代		A	短期入所の充実(特に緊急時)現在では予約をしておかないとお願いできない。緊急時に困っている。親亡き後の事を思うとやっぱり入所施設は必要と思いますが、どうしても無理なことなのでしょうか？
本人	男	30代		B	障害・年代別アンケートの方がよいのでは。自分の事以外答えられない。
本人	男	30代		C	父母亡き後障害者が餓死することがないようにしてほしい。低所得者でも人並みの生活ができるようにしてほしい。
本人	女	30代		C	障害による差別が消えていない。障害別にバリアフリーを推進するのはもっともなことです。すべて平等に行ってほしい。
家族	女	30代	1	A	日進の他の地域の利用施設やサービス業者の制限があると苦。利用費が高い。
本人	女	30代	2	B	このアンケートの内容がよくわからない。
本人	男	30代	5		スーパー等の駐車場では障害者優先スペースが少なすぎる。健常者の方には交通誘導等に対応してほしい。
本人	男	30代	6		全ての人が意欲的に人生を全うできる街に。モデルとなるような街になったらよいとおもう。
本人	男	40代		2	アンケートがわかりにくい。
本人	女	40代		2	各省庁などの縦型予算を横型にして、年内予算の余っている部分に補充してバランス良く福祉にも手が届く日進市で有名になって欲しい。



本人	男	40代		2	私的な意見にはなりますが、精神障害者に対する誤解(なにをするかわかならい。といったような人々の思い込み)がまだいまだにあると思われるので、私のような精神障害者と地域の人々に障害の性質などを理解していただいて、障害を隠すことなく生活していけるように広く情報を発信してもらいたいと思っています。
本人	男	40代		3	日進市内だけでなく県全体で同等のサービスが受けられるようにしてほしい。障害者+高齢者も市だけでなく自由に隣の市町へも通じる、利用できるものを構築してほしい。
本人	女	40代		3	自転車が車に突っ込んでいた。マナーの悪さを直して欲しい。
家族	男	40代		A	アンケートの答えだけでは把握できない所もあるかと思います。私どももこのアンケートに答えることが難しかったです。
家族	男	40代		B	障害の区分ごとのアンケートをしてほしい。
家族	女	40代	1		アンケートだけに終わらず実行に移してほしい。
本人	男	40代	2		何が行われているのか障害者本人はまったくわからない。周知徹底がない。
本人	男	40代	3		アンケートが記載しにくく不親切。図書館の障害者専用駐車場のスペースが少ない。雨どいをもう少し大きくしてほしい。図書館のPCの利用料が高すぎる。障害者割引を作してほしい。
本人	女	40代	5		現在手帳を持っているものの、何の制度も利用していないので、不明なことが多く申し訳ありません。



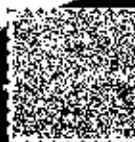
家族	男	50代		1	行政に甘えすぎないように、家族もがんばってしまう。そのための新しいサービスなり、困ったときのお願いの仕方がわからなくなる。周知に力をいれてほしい。
本人	女	50代		2	質問が難しすぎて理解しづらい。答えにくいのもう少しわかりやすくしてほしい。
本人	女	50代		2	働く場 収入をふやしたい。今は不況だから働く場が無い。
本人	男	50代	1		アンケートが多くて大変。
家族	女	50代	1		障害者・その家族にこのアンケートをとって意味があるのでしょうか？毎日の生活が大変なのに他のあれこれを聞かなくてもわかりません。対象を変えて一般の方にアンケートをとったらいかがでしょうか？
本人	男	50代	2		日進は遅れている。障害に応じた対応を考える時期。ウォーキングコースは歩道になっていますが、堤防コースを整備してほしい。
本人	女	50代	3		アンケート結果が知りたい。皆さんちゃんと答えているのか知りたい。
本人	男	50代	3		優先順位について疑問を感じる。助成金の削減はもってのほかだった。図書館のデザインがある。シンプルなデザインにすれば建築費は削れたはず。それを助成金の方にまわせたはずである。



家族	女	50代	3	A	各基本施設はあてはまる障害者のためには有難い計画と思います。しかし、本人・家族ともに加齢によって認知の症状が出て日常生活が出来なくなったら如何したものか一番の心配です。アンケートもわかることを書きましたが迷惑をかける答の入れかたと思います。お許し下さい。
家族	女	60代		1	日進は市道・公園・公安の不備が多い。公園トイレはない。市道のバリアフリーの前に歩道がない。ポリボックスはない。幼稚園バス・病院送迎用バス・デイサービスバス・自動車学校のバスを一方通行にしてほしい。裏道を元々よく通行しすぎです。
本人	男	60代	1		障害者の特別扱いする必要はあまりなく、いわゆる一般人と同等に近い。生活ができるよう、市民全体で援助するシステムの完成が待ち遠しい。未だ真の支援を必要としていない身として他人を頼らず頑張る！
本人	男	60代	1		自分の障害の事以外情報がない為、ほとんど回答できず申し訳ありません。自分の障害に対する市の対応に特に不満はありません。ただ高齢者介護面からグループホームの数がまだまだ不足と思いますが、ホームに親を預けてほとんど見にも来ない単位には何らかのペナルティー(例:補助金の減等)が必要ではないかと思う。



家族	女	60代	1		市民会館のコンサートに行きました。車いすの外出は困難ですが、楽しみにしている催しです。駐車場に車いす用に駐車場が一つ空いており、車いすがおろせ、本人が乗りやすいように助手席側を広くとめました。本人を車いすに乗せ、車から離れるとそのすきまに停車させる車。どうして車いす専用が広いスペースになっているかがわかっていない様子。帰りにはその車が邪魔で車に乗り込むこともできませんでした。スーパーでもありますが、一目で専用とわかるように青いペンキを塗るなどしてもらえたらありがたいです。止められた方はこちらが悪いような言い方をされとても不愉快な気分となり、悲しい気持ちになりました。
家族	男	60代	1		障害といえば、個々種々あり、その人にあった親身な対応ができる計画を。公共施設まだまだバリアフリーを。住宅改修費用助成大幅増。
本人	男	60代	2		実施中のすべての計画に対し、定期的に利用度チェックを行う必要があり、利用度の低いものは、経費(人件費)の無駄使いなので、即中止すべきである。障害者全員の満足度を追求せず、相談にきた人それぞれに適切に対応するほうが大事。
家族	男	60代	2		日進市が国として、障害者支援の手本となるように活動してください。



本人	男	60代	2		市役所の障害者駐車スペースが雨降りの時困る。屋根がほしい。
本人	女	60代	3		今は家の掃除をお金を払って業者にしてもらっていて、主人がお金を出してくれているが、一人になった時、経済的に困ったとき、役所で相談して適切な援助が得られるように誰かが対応してくれるとありがたいです。
本人	男	60代	4		身体障害ですが、このアンケートの質問項目には該当するところがほとんどなく、設問に対する回答が(わからない)が多くてすみません。障害者といってもいろいろな方がいて、その障害にもう少しそったアンケートにしていきたいと思います。
本人	男	60代	4		障害は等級や種類だけで決まらず、本人でなければわからない不便さやつらさが多い。これらをできるだけ調査し、各障害者にあった対策ができればよい。努力をしてほしい。一括に障害者といってもひとまとめにはできない。きめこまやかな対策を望む。
本人	女	60代	4		介護保険同様、障害者が10パーセント負担すれば金銭援助がいただける方向で多種計画していただけると幸せです。
本人	女	60代	4		障害ごとに個性があるのでその種類ごとにきめ細かなサービスを策定してほしい。
本人	男	60代	4		他の自治体、海外での取り組みを当市も参考にし先進的な計画を策定していただきたい。



本人	男	60代	4		日本一住みやすい(特に障害者に)市にしましょう。
本人	女	60代	4		超高齢化社会、全体システム、方向性を決め、着実に進めてください。お金もかかり、体力的には大変なこと。頑張ってください。期待しています。
本人	男	60代	4		自分は障害が軽いので、重度の方へのサポートをお願いしたい。
本人		70代			私は75歳です。現在大腸がんの手術を1年4か月前に人工肛門です。毎日慣れない手で取替へも大変で好きな旅行にも行けない状況です。旅行先でも簡単に取替の出来る事、又用具又方法があればいいなと思います。日進市は、よくやってくれています。
家族	女	70代			障害者支援センターがあるのも知らず、そういった情報を自宅に来て相談にのってほしい。役所にもセンターにもこちらから出かけなければそのままなので、机上でのことばかりでなく、外に足を向けてください。ポストに投函とありますが、一步も外に出られない人はできないです。よろしくお願いします。

家族	男	70代		3	アンケートは高齢者には難しすぎる。本人に関する事だけにするとよい。
本人	女	70代	1		アンケートが難しすぎて回答困難。実際かかわっていないことばかりでわかりません。
本人	女	70代	1		障害者ではありますが、幸い何の不自由もなく過ごしているのでわからないことがおおくすみません。
本人	男	70代	1		飲食店のバリアフリーの推進。車イスでも飲食店へ気軽に行ける事を希望します。
本人	女	70代	1		現在どうしてもといった希望もなくすごしているので〈今、元気〉計画に対しての意見を述べることはむずかしい。自分がその立場になったとき、さてどうしてほしいのかわかりません。問いただせば返事がかえってくるようにしてほしい。
本人	男	70代	1		特定の人たちの委員会等でなく、直接意見を述べる場を設定してほしい。
本人	女	70代	1		計画の内容がわからないため、アンケートに対する答えがだせない。
本人	男	70代	1		施策を知らないし、知るすべもわからない。
本人	女	70代	1		障害に応じた対応を望む。
家族	男	70代	1	1	障害者の立場に立った計画をわかりやすくする方法で広報してほしい。(ITは一部の人のみ)



家族	男	70代	2		ヘルパー・訪問介護・在宅医師・活用させて貰っております。特にヘルパー等は時間制限等があり、あまり密着出来ない事があります。又人に寄りますが納得した仕事がやって貰えない事もあり、なやみますが助かっております。
本人	男	70代	2		高齢化社会に向かい老老介護も増えていく中増々福祉関連の予算もふくらみ続けることと思います。今の若い人達の将来を考えてます時、障害者は常に要望出す受け身ではなく小さな事でも何か社会に役立つ事を考えて行動する意識を持つ事が出来ればと思います。
本人	男	70代	2		同一または近所の障害者の集会をできるだけ多く。
本人	男	70代	2		障害者にとっても住みよい街となるよう具体的な施策を推進していたくことを願っています。
本人	男	70代	2		障害者が何人程、年齢別に症状別にいらっしゃるのか全く情報が無く、ただアンケートに答えてくださいというのはいかがなものでしょうか。精一杯答えさせていただきました。今後役に立ててください。
本人	男	70代	2		回答に苦慮した。基本施策が理解できていない。自分にかかわらないことは回答できない。
家族	女	70代	3		バリアフリー化のための公的資金援助はどこまで受けられるのか。
本人	女	70代	3		この先介護が必要になった場合、どこに相談したらいいか又、電話番号をお知らせ下さったら、ありがたいのですが。よろしくお願い致します。



本人	女	70代	3		アンケートに関して介護を必要とする方やヘルパー等必要な方等がみうけられるので、身体障害の者にとってはあまりきょうりょくできない。
本人	女	70代	3		1つに〇は難しい。よくわからない。
本人	男	70代	3		身障者に対する経済的支援の更なる充実をお願いします。
本人	女	70代	3		計画がどこまで実現されているか報告が同封されていればわかりやすい。アンケートのフィードバックがほしい。高齢者サービスつき住宅も重要になる。施設への行政の指導も望まれる。
本人	女	70代	4		質問を簡素化してください。もっと簡単に高齢者でもわかりやすく質問が重複している。項目が多すぎる。理解できない。
本人	女	70代	4		障害児者がこのアンケートに記入できるでしょうか。アンケートを作られ、プリントし、配布するエネルギーをもっと直接支援にできないものかと思う。
本人	女	70代	4		自立しつつ暮らしていこうとは思っている。いつかはお世話になる身。行政がいろいろ考えてくださるのはありがたいと思う。
本人	男	70代	4		自分は左手のみが不自由なので、その他の障害への理解が十分でないので回答できない。
本人	女	70代	5		専門語で一般の私には答えることができません。もっとわかりやすい言葉で質問してください。
家族	男	80歳以上			防災防犯のためには路上駐車をなくすこと。



本人	男	80 歳以上				市は詳細の企画は立案するが、実施できないのが現状。できるところから手をつけてほしい。
家族	男	80 歳以上	1			今現在在宅介護・在宅医療のおかげで安定した生活です。基本施策についてはあまりわかりません。
本人	男	80 歳以上	1			現在施設ですが、外に出て四季を感じたり、植物、動物、魚等じかに触れたり、聞いたりというのが障害が重いゆえできないのがさみしい。緑を味わえる公園がもっとあったらよいと思う。
本人	男	80 歳以上	1			アンケートをポストに入れる作業が障害、高齢者には大変なこともあります。郵便集配人が集める方法はないでしょうか？
家族	女	80 歳以上	1			高齢者の障害者と若い方の障害者(就労、就学に該当する方)では施策の分野が異なるので、アンケートとしてお答えするのが難しいものがありました。(別々にされた方が良いのではないのでしょうか？)
本人	男	80 歳以上	1			とにかく市役所が遠い。人がもっと近くに来てほしい。自分たちが動くのではなく足を運んでほしい。
本人	男	80 歳以上	1			自身の環境から各項目の体験というか実態が十分理解できないので、質問に対して適切な回答ができずに想像的な判断しかできなかった。



職員	女	80 歳以上	2		市外在住のためほとんど未記入で提出させていただきました。
本人	男	80 歳以上	3		障害者の為に種々と配慮されていますが、私個人としては家族が世話をしてくれてますので、安心しております。
本人	女	80 歳以上	3		平成25年度より援助金が大分減額になりますが普段あまり公共に迷惑かけず自力で生活しています者には痛手です。又、良い方法考えてください。お願い致します。
本人	女	80 歳以上	3		就労もスポーツもできない重度障害者に対するきめ細やかな支援助成をお願いします。
本人	女	80 歳以上	3		勉強不足で期待に添える回答ができない。
本人	女	80 歳以上	3		公共施設のトイレが場所によっては不便。
本人	女	80 歳以上	3		障害者認定を受けて半年なので、経験不足もあり、不明な点も多く、記入できなかった。
本人	男	80 歳以上	3		多数の問題をだしており、頭の中が混乱して正しい回答が不可でした。
本人	男	80 歳以上	4		通勤の定期券購入しようとする際、内部障害のためいつも呼び止められめんどくさく、赤面する。地下鉄バス名鉄意見をかいても改善されない。
家族	男	80 歳以上	4		アンケートは障害の区別によってわからないことが多い。障害によって要素が違う。高齢者と子供でも違う。どのようにまとめる時に関連させるのか難しいアンケートだと思う。憶測で記入するしかない。



本人	男	80 歳以上	4		私の信念は体は障害者でも心まで障害者になるな。健康の方でも心の障害者は大勢います。
本人	男	80 歳以上	6		基礎。目標すべてが立派で申し分ないです。よろしくお願い致します。
本人	男	欠損値		2	日進市は住みやすい。
		欠損値		A	日進に住んで 10 年、生まれてすぐ障害者とわかり、何もわからないが、地域・人・先生方に助けられ今に来ています。地域もいい方に恵まれ安心して生活しています。
本人	女	欠損値	3		新しくできた福祉センターの件ですが、もっと幅広く専門的な医師を常勤してもらったらどうでしょうか。家族や友人、知人、親戚の方も安心していただけたと思います。又、患者も同じです。よろしくお願いします。
本人	男	欠損値	3		この質問は自分の障害に関すること以外の質問は一般論としてしかこたえられない。質問が基本施策別になっているが、非常に理解しづらい。



ほうこく しょうがいふくし こうきけいかく なか
報告 6 障害福祉サービスにおいて後期計画の中でどれを
 ゆうせんてき じっし
優先的に実施するとよいのか

1) 報告 4 日進の障害者福祉施策について、問 13「日進市の
 しょうがいふくし せいど しきく まんぞく たいへんまんぞく
 障害者福祉の制度や施策に、満足していますか。」への「大変満足してい
 る」「満足している」の比率（満足度）と、基本施策1-1「障害福祉サービスの
 まんぞく ひりつ まんぞくど きほんしきく しょうがいふくし
 充実」であげる自立支援給付事業等への「問 14 充実してほしい
 しょうがいふくし なん ひつようどあい たんそうかんけいすう あらわ
 障害福祉サービスは、何ですか。」の必要度合は単相関係数で表すことが
 ひつようどあい じゅうようど ていぎ まんぞくど
 できます。ここでは必要度合を重要度と定義しておきます。それぞれ満足度と
 じゅうようど さんしゅつ ひょう
 重要度を算出しました（表 1）。

ひょう
【表 1】

評価項目満足度

問14 評価項目充実度	満足度	重要度
1 居宅介護	31.19	-0.1635
2 重度訪問介護	27.29	-0.1381
3 同行援護	24.07	-0.2024
4 行動援護	25.08	-0.1883
5 重度包括支援	27.12	-0.1283
6 短期入所	31.10	-0.1394
7 療養介護	28.14	-0.1291
8 生活介護	28.31	-0.1653
9 施設入所支援	30.93	-0.1378
10 ケアホーム	24.66	-0.1530
11 自立訓練	29.32	-0.1415
12 就労移行支援	26.69	-0.1614
13 就労継続支援	24.92	-0.1436
14 グループホーム	23.56	-0.1552
15 児童発達支援	22.71	-0.1558
16 放課後等デイサービス	21.86	-0.1577
17 保育所等訪問支援	21.19	-0.1373



それをもとに、「後期計画の中でどれを優先的に実施するとよいのか」を検討するために問14の17種類の障害福祉サービスとの改善度を分析しました。「問14 評価項目改善度」の数値の結果を優先順位に並び替えたのが（表2）です。

【表2】

問14 評価項目改善度

	満足度	相関係数	改善度
17 保育所等訪問支援	21.2	-0.1373	14.54
13 就労継続支援	24.9	-0.1436	6.61
16 放課後等デイサービス	21.9	-0.1577	5.72
15 児童発達支援	22.7	-0.1558	4.93
5 重度包括支援	27.1	-0.1283	4.90
14 グループホーム	23.6	-0.1552	3.77
7 療養介護	28.1	-0.1291	3.01
10 ケアホーム	24.7	-0.1530	2.69
2 重度訪問介護	27.3	-0.1381	2.15
11 自立訓練	29.3	-0.1415	-1.68
12 就労移行支援	26.7	-0.1614	-2.97
9 施設入所支援	30.9	-0.1378	-3.17
6 短期入所	31.1	-0.1394	-3.83
4 行動援護	25.1	-0.1883	-6.79
3 同行援護	24.1	-0.2024	-8.59
8 生活介護	28.3	-0.1653	-8.91
1 居宅介護	31.2	-0.1635	-11.85

数値ですとわかりにくいので数値を点で表したものが以下のグラフ（図1）です。

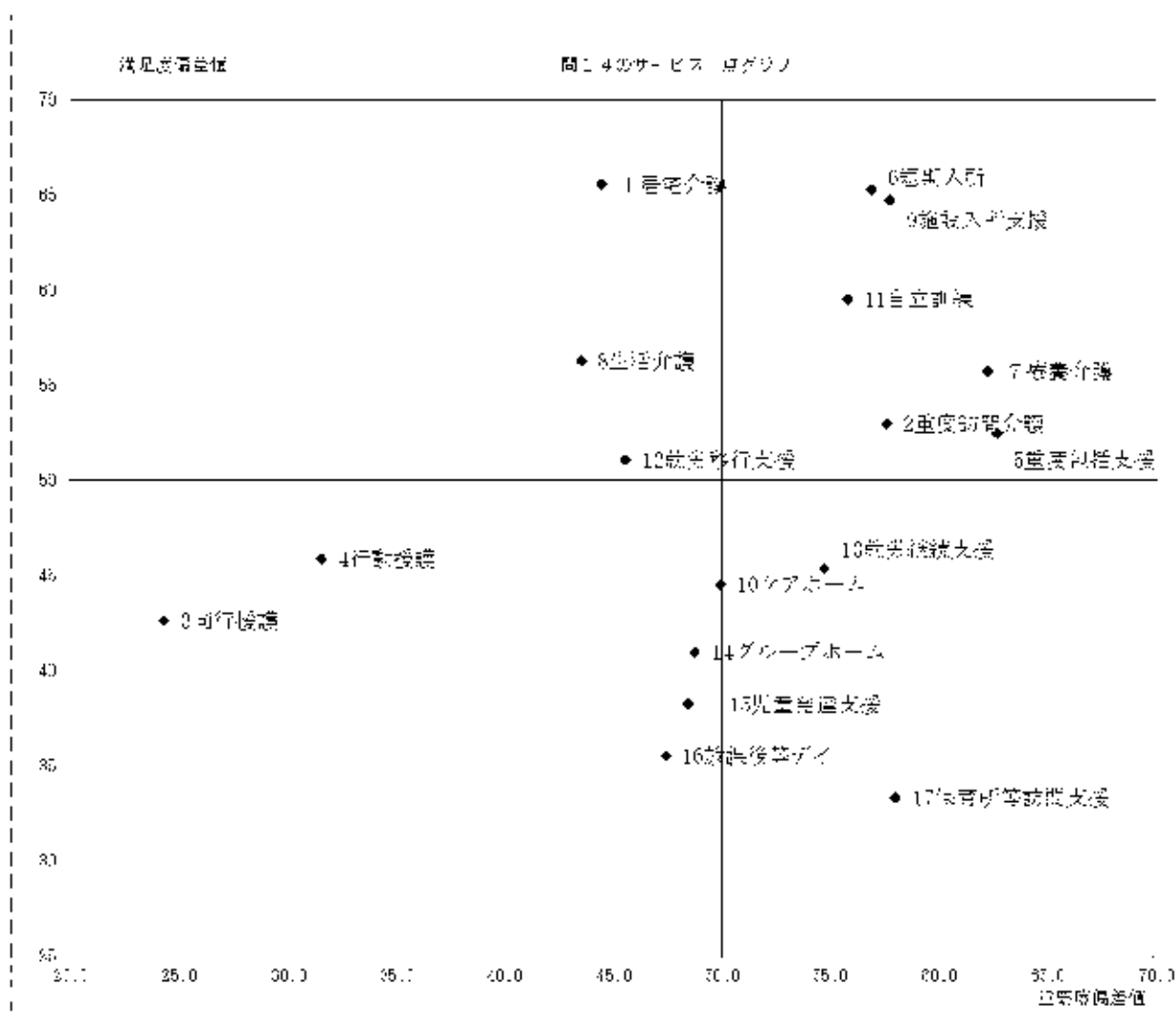
このグラフにより重要偏差値が高いにもかかわらず満足度偏差値が低い「17

保育所等訪問支援」や「13 就労継続支援」「16放課後等デイサービス」が

改善の優先されるサービスではないかと推測できます。



【図1】



2) 報告4 日進の障害者福祉施策について、問13「日進市の

障害者福祉の制度や施策に、満足していますか。」への「大変満足している」「満足している」の比率（満足度）と、基本施策1-1「障害福祉サービスの充実」であげる「問15 市の制度である地域生活支援事業への充実してほしい障害福祉サービスは、何ですか。」の必要度合は短相関係数で表すことができます。ここでも必要度合を重要度と定義します。それぞれ満足度と重要度を算出しました（表3）。

【表 3】

評価項目満足度等

	満足度	重要度
1相談支援事業	37.12	-0.2023
2成年後見制度利用援助事業	26.86	-0.1326
3コミュニケーション支援事業	21.95	-0.0676
4日常生活用具給付等事業	28.39	-0.1603
5移動支援	29.41	-0.2059
6地域活動支援センター	26.44	-0.1913
7訪問入浴サービス事業	23.81	-0.1007
8日中一時支援	28.47	-0.1454
平均	27.81	-0.1508

それをもとに、「後期計画の中でどれを優先的に実施するとよいのか」を検討するために問15の8種類の地域生活支援事業サービスとの改善度を分析しました。「問15評価項目改善度」の数値の結果を優先順位に並び替えたのが（表4）です。

【表 4】

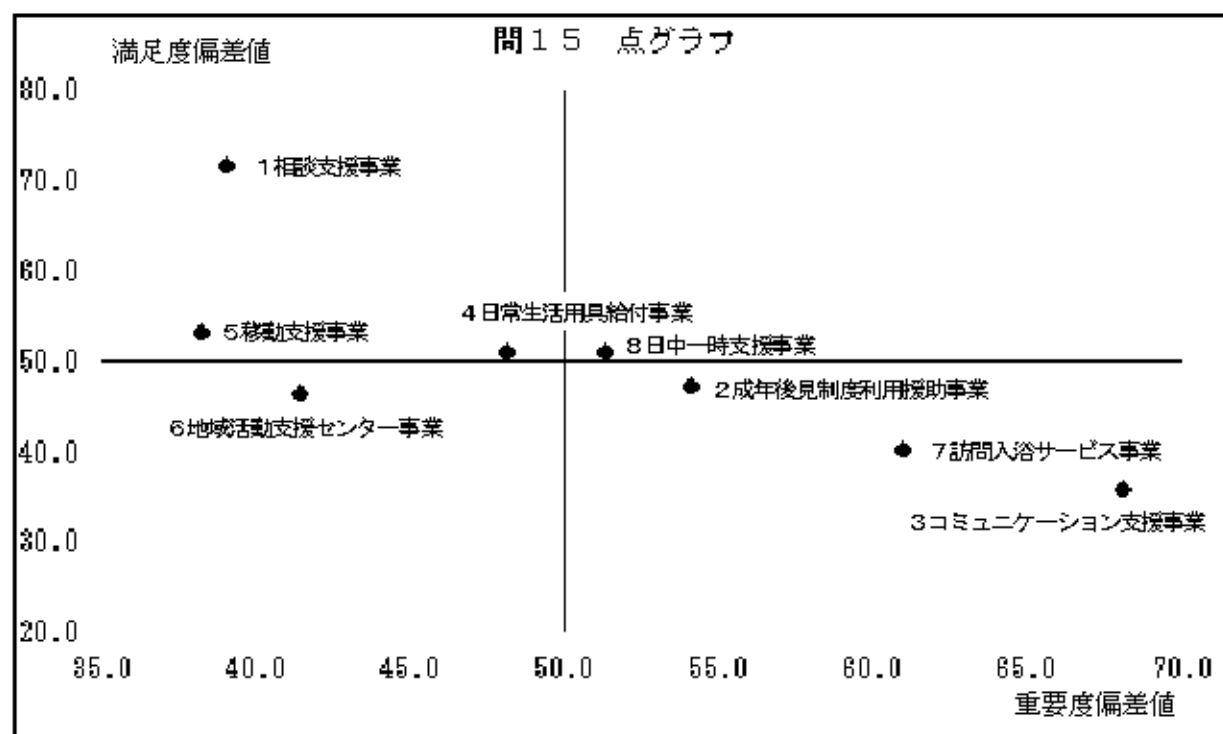
評価項目改善度

	満足度	相関係数	改善度
8日中一時支援	28.5	-0.1454	-0.19
4日常生活用具給付等事業	28.4	-0.1603	-2.17
6地域活動支援センター	26.4	-0.1913	-2.56
5移動支援	29.4	-0.2059	-8.68
1相談支援事業	37.1	-0.2023	-19.68



すうち
数値ですとわかりにくいいため数値を点で表したものが以下のグラフ（図2）です。

ず
【図2】



じゅうようへんさち たか
このグラフにより 重要偏差値が高いにもかかわらず満足度偏差値が低い「3 コ

ミュニケーション支援事業」や「7 訪問入浴サービス事業」「2

成年後見制度利用援助事業」が改善の優先されるサービスではないかと

推測 できます。





にっしんししょうがいしゃきほんけいかく こうきけいかく ちょうき
日進市障害者基本計画（後期計画）のためのアンケート調査

ほうこくしょ
報告書

へいせい ねん がつ
平成25年3月

はっ こう 【発行】 にっしんし 日進市 ふくしふくしか 福祉部福祉課	[郵便番号] 470-0192 [住所] 愛知県日進市蟹甲町池下268番地 電話: [0561-73-7111] FAX: [0561-72-4554] 電子メール: [fukushi@city.nisshin.lg.jp] Web: [http://www.city.nisshin.lg.jp]
--	--

【制作】 椋山女学園大学 人間関係学部 准教授 手嶋雅史

